# A390

ALPINE

# お車をお買い上げいただきありがとうございます。

**この取扱説明書**には、次のことに必要な情報が含まれています。

- 機能や先進技術を最大限に活用し、最適な状態で利用できるようにするために、**車両についてよりよく理解する**。
- メンテナンスのアドバイスを正確に守ることで、**正しく動作させる**。
- 時間を無駄にすることなく、**効率的に作業を実施する（技術者が行う必要のない場合のみ）**。

この取扱説明書をお読みいただき、走行体験をより豊かにするための有用な情報、機能、最新の技術情報をご確認ください。特定の点についてまだ不明な点がある場合は、当社のネットワーク技術者が追加の情報を提供いたします。

取扱いに役立つ指針については、次の記号の付いた記載をご覧ください。

車両に および が記されている場合、車両の装置について、詳細な情報または操作の制限を確認するために、取扱説明書を参照してください。

➔ 、取扱説明書全体に存在 – ドキュメント内の別のセクションへのリンクを提供。

**は、取扱説明書全体を通じて、リスクや危険、安全上の注意を示します。**

この注意事項におけるさまざまなモデルの説明は、本書の構想の際に分かっていた技術仕様に基づいて作成されました。この文書にはデジタル版の訂正や補足は含まれていないため、デジタル版は引き続き参照マニュアルとして扱う必要があります。そのため、最新情報については、デジタル版を定期的にご確認いただくことをおすすめします。

**この説明書には、これらのモデルで使用できるすべての装備（標準またはオプション）が含まれます。装備が車両に取り付けられているかどうかは、モデル、選択されたオプション、車両が販売されている国によって異なります。**

**同様に、同年内に導入が予定される新装備につきましても記載される場合がありますのでご了承ください。**

**また、この取扱説明書に記載の機能は、更新、規制または技術的な制約により、将来的には変更されることもあります。**

**取扱説明書の図は、例として提供されているものです。**

新車での走行を心行くまでお楽しみください。

この文書の一部分またはすべてを車両メーカーの承諾なくコピーまたは翻訳することは固く禁じられています。

フランス語からの翻訳。

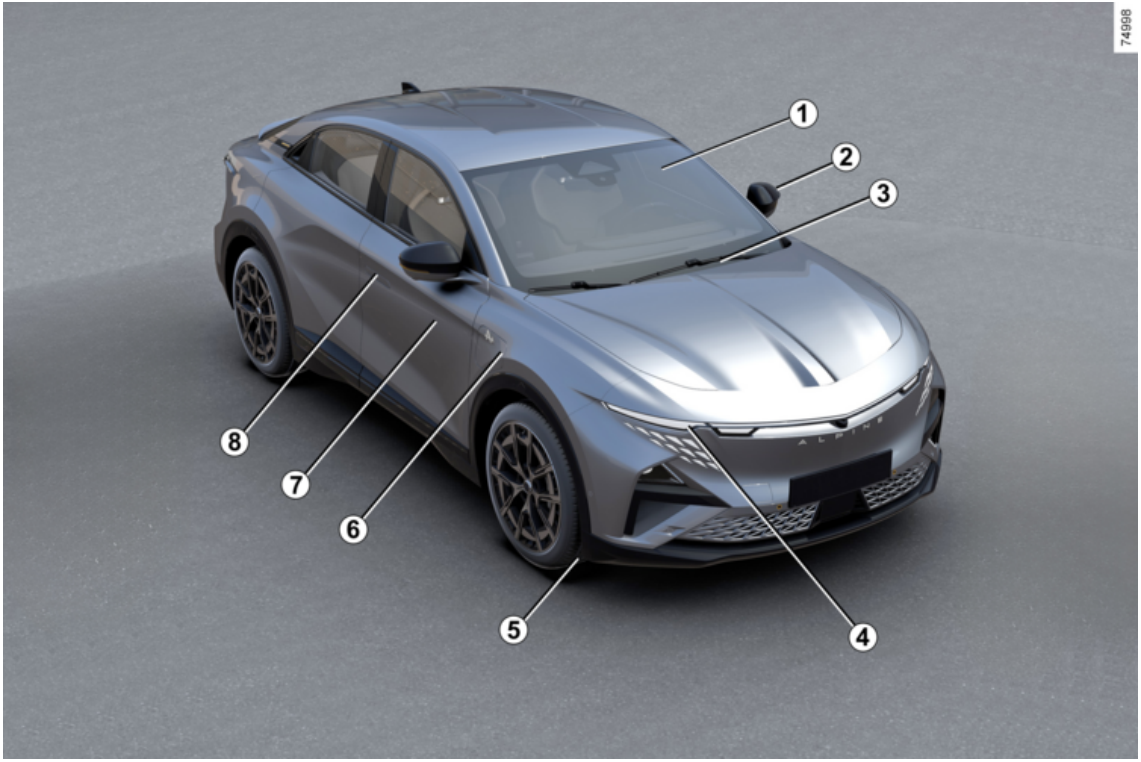
# 要約

**電気自動車をお買い上げいただきありがとうございます。 ....4**
外側 ....4
室内コントロールユニット ....6
ドライビングポジション ....8
運転支援 ....10
セーフティオンボード ....12
車両の識別 - ラベル ....14
エンジンルーム（日常のメンテナンス） ....16
車両故障時の対処の仕方 ....18
**あなたのお車について知っておきましょう ....20**
電気自動車 ....20
カードキー ....48
ドアと開閉部 ....56
顔認識 ....65
フロントシート ....67
後席 ....73
シートベルト ....75
補助の安全装置 ....80
子供を乗車させるとき ....89
チャイルドシート ....96
お子様の安全: 助手席エアバッグの作動解除／作動 ....111
ドライビングポジション ....118
オンボードコンピューター ....122
警告灯 ....135
ステアリング ....139
リアビュー ....141
ランプ類 ....143
ホーン／パッシングランプ／ハザードランプ／方向指示灯 ....148
ワイパー ....149
**発進する ....153**
エンジン始動と停止 ....153
ドライブモード ....155
"Overtake" function ....157
スタンディングスタートの手順 ....159
シフトコントロール ....161
回生ブレーキシステム ....163
パーキングブレーキ故障 ....167
地球にやさしい車づくり ....172
ドライビングアドバイス、エコドライブ ....173
タイヤ空気圧モニターシステム ....178
ドライビングアシストと補正装置 ....184
運転時の補助機能 ....189
スピードリミッター ....231
適応クルーズコントロール ....234
Active driver assist ....249
緊急停止アシスト ....264
パーキングアシスト ....274
緊急サービスコール ....299
**快適装備 ....302**
エアベンチレータ、ヒーター、エアコン ....302
マルチメディア装備 ....313
室内装備 ....315
各部の収納スペース ....319
荷物を積み込む ....323
**点検整備 ....328**
エンジンへのアクセス、レベル ....328
バッテリー： ....333
クリーニング ....335
**使用上のアドバイス ....339**
タイヤ ....339

# 要約

車両故障時の対処の仕方 ..... 347
ヘッドライト、ランプ: 電球の交換 ..... 349
ワイパーブレード: 交換 ..... 352
ヒューズ ..... 354
アクセサリの取付けと使用 ..... 358
作動異常 ..... 359
**テクニカルスペック ..... 363**
車両に関する情報 ..... 363
Replacement parts and repairs ..... 369
整備証明 ..... 370
防錆点検 ..... 376

# 外側



# 外側

*1.* パワーウインドウ ➔ 315

*2.* ルームミラー ➔ 141

*3.* ウィンドウワイパ／ウォッシャー ➔ 149
デミスター ➔ 307

*4.* 照明: 操作 ➔ 143
照明: 交換 ➔ 349

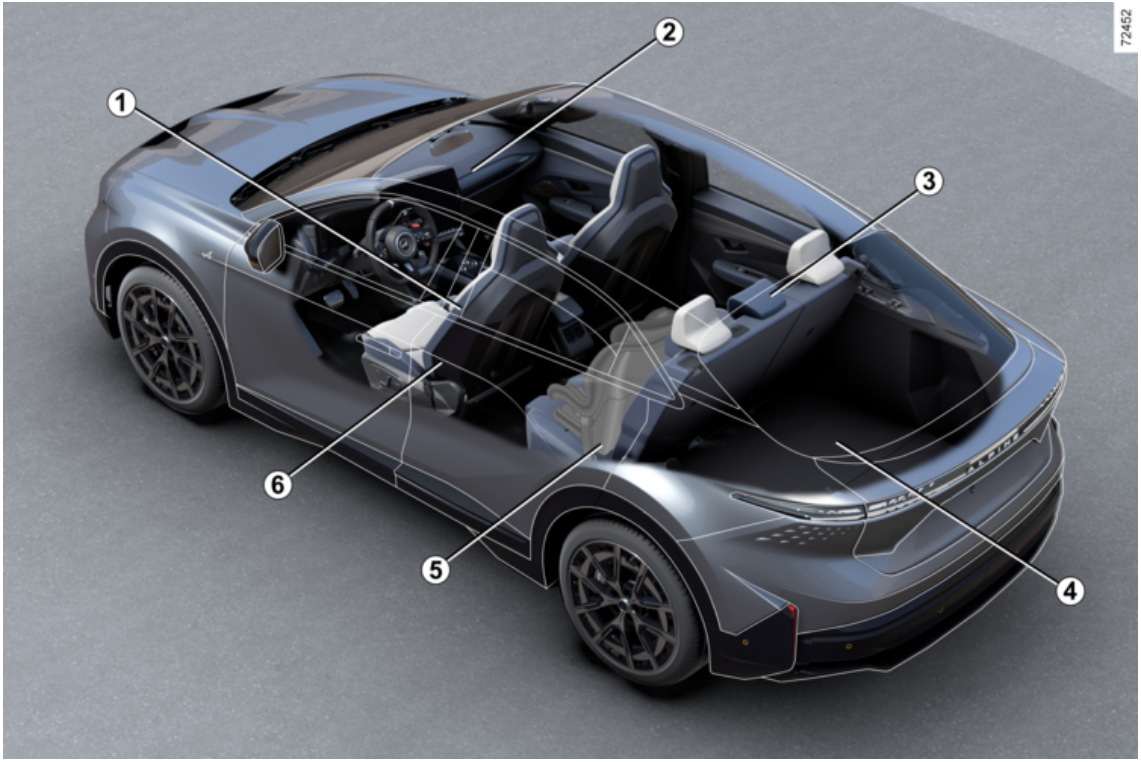
*5.* タイヤ ➔ 339

*6.* 積荷 ➔ 26

*7.* 車体保守整備 ➔ 335

*8.* カード ➔ 48
ドアのロック、ロック解除 ➔ 58

# 室内コントロールユニット



# 室内コントロールユニット

*1.* 運転位置の調整 ➔ 75

*2.* 車内の収納／装備品➔ 319

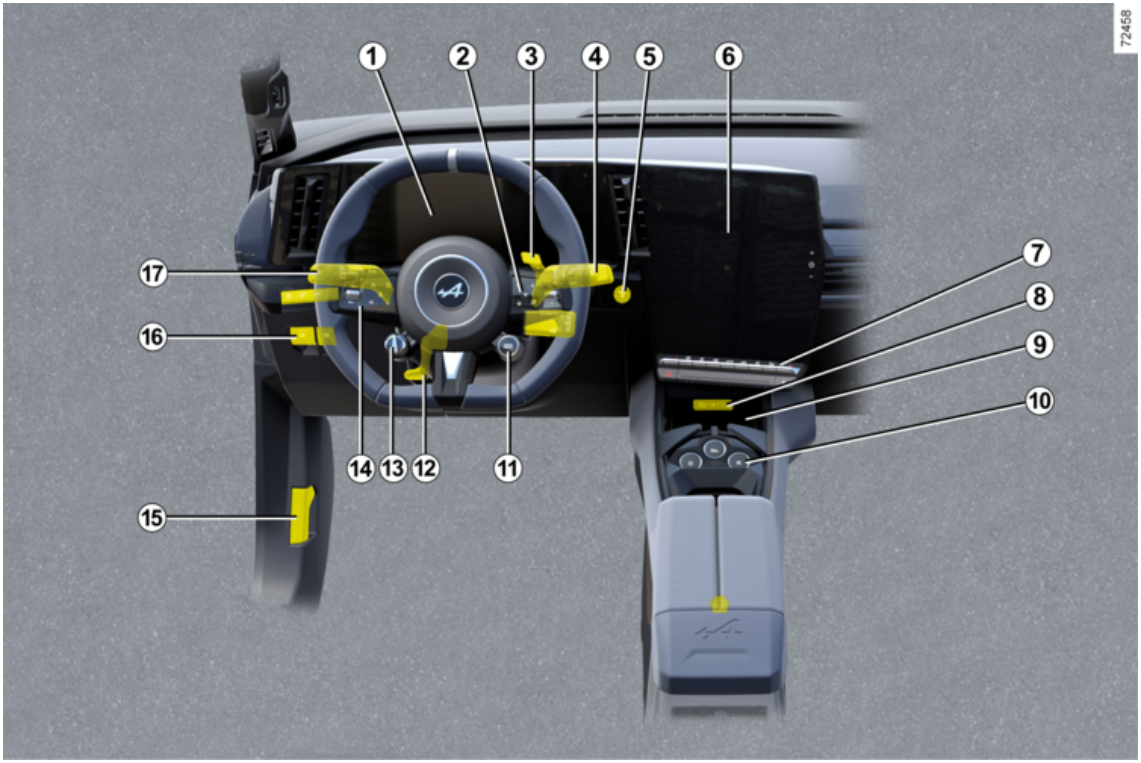
*3.* リアシートヘッドレスト ➔ 73
リアベンチシート➔ 73

*4.* 運搬物 ➔ 323

*5.* お子様の安全確保 ➔ 89

*6.* 電動制御装置付きフロントシート ➔ 68

# ドライビングポジション



# ドライビングポジション



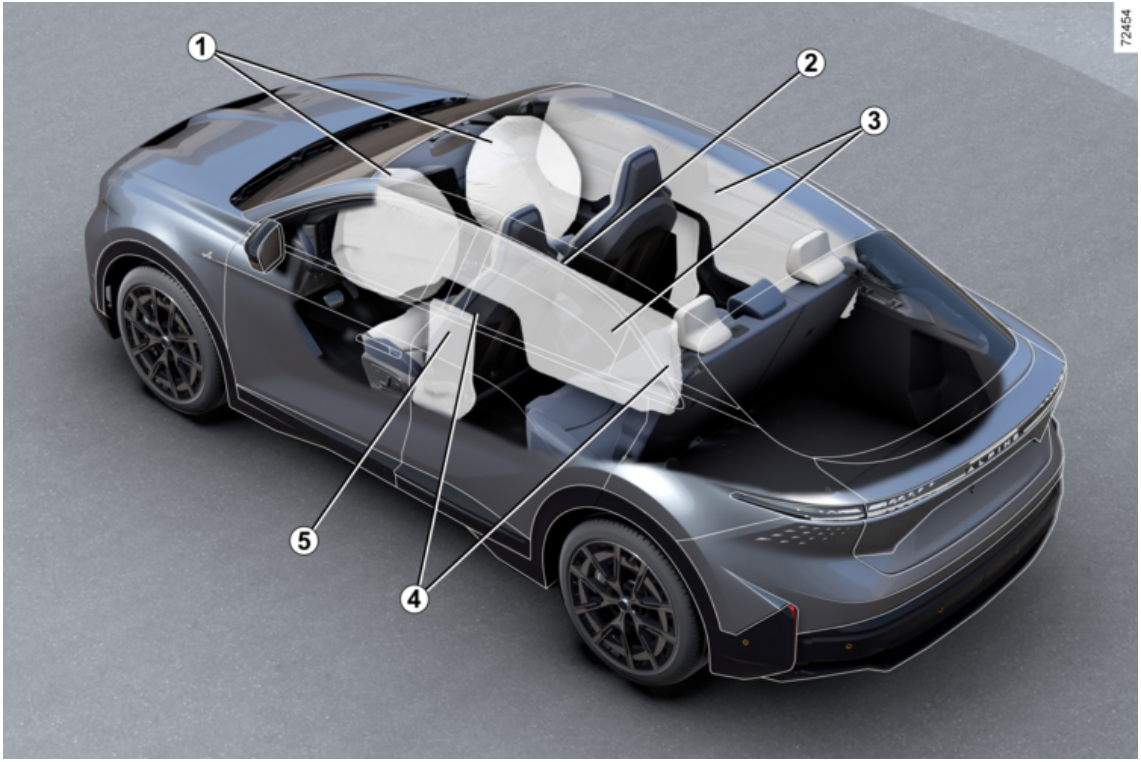
*1.* インストルメントパネル➔ 135
*2.* トリップメーター制御 ➔ 122
*3.* 追い越し（OV）制御 ➔ 159 ➔ 157
*4.* ウインドウワイパ／ウォッシャ制御装置 ➔ 149
*5.* エンジン始動／停止ボタン ➔ 153
*6.* マルチメディア画面 ➔ 313
*6.* ヒータ付きシート➔ 67／ヒータ付きステアリングホイール ➔ 139
*7.* ヒーターシステム／エアコン ➔ 305
*8.* センターコンソール内の USB-C ポート➔ 318
*9.* センターコンソールの後部収納引出し / 誘導充電ゾーン➔ 319
*10.* シフトレバー ➔ 161
*11.* 走行モード制御 ➔ 155
*12.* ステアリングホイール ➔ 139
*13.* 回生ブレーキ制御 ➔ 163
*14.* 速度リミッター ➔ 231
➔ 234アダプティブクルーズコントロール
*15.* ボンネットオープナー ➔ 328
*16.* パワーアシストパーキングブレーキ ➔ 167
*17.* エクステリアランプ ➔ 143

72455

# 運転支援


– 運転補正装置や運転支援 ➔ 184
– My Safety ➔ 189
– 車線離脱防止 ➔ 190
– 緊急車線離脱防止 ➔ 197
– エマージェンシーブレーキアシスト ➔ 212
– シフトレバーが「後進」位置の場合に作動するエマージェンシーブレーキアシスト ➔ 228
– 死角警告 ➔ 204
– 駐車可能時間終了警告 ➔ 293
– タイヤ空気圧監視システム ➔ 178
– 安全車間距離警告 ➔ 208
– ドライバーに対する注意喚起のための警告➔ 219
– ドライバーに対する疲労警告:➔ 221
– 速度リミッター ➔ 231
– ➔ 234アダプティブクルーズコントロール
– 道路標識検出 ➔ 224
– パーキングアシスト➔ 282
– 360°カメラ（車両装備により異なります）➔ 274
– 「ハンズフリー駐車」➔ 288
– 降車時安全確保 ➔ 296

# セーフティオンボード



# セーフティオンボード

*1.* フロントエアバッグ ➔ 80
助手席エアバッグの無効化 ➔ 111

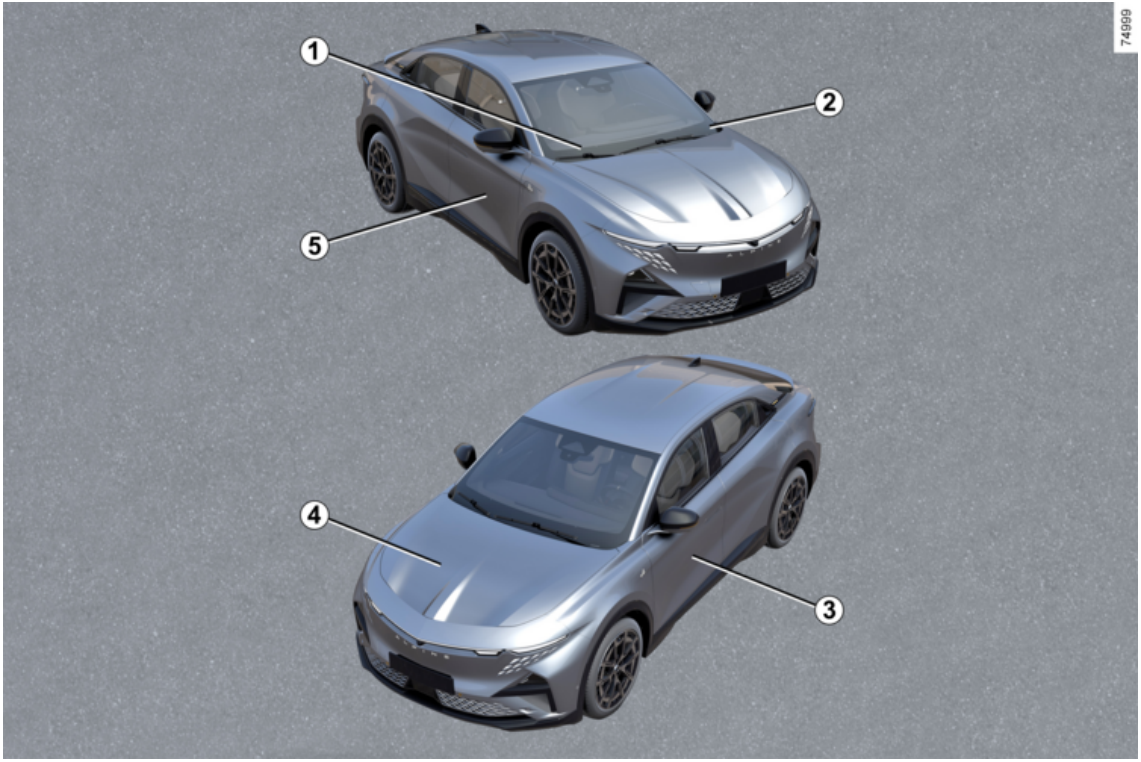
*2.* センターエアバッグ ➔ 86

*3.* カーテンエアバッグ➔ 86

*4.* シートベルト ➔ 75

*5.* サイドエアバッグ ➔ 86

# 車両の識別 - ラベル

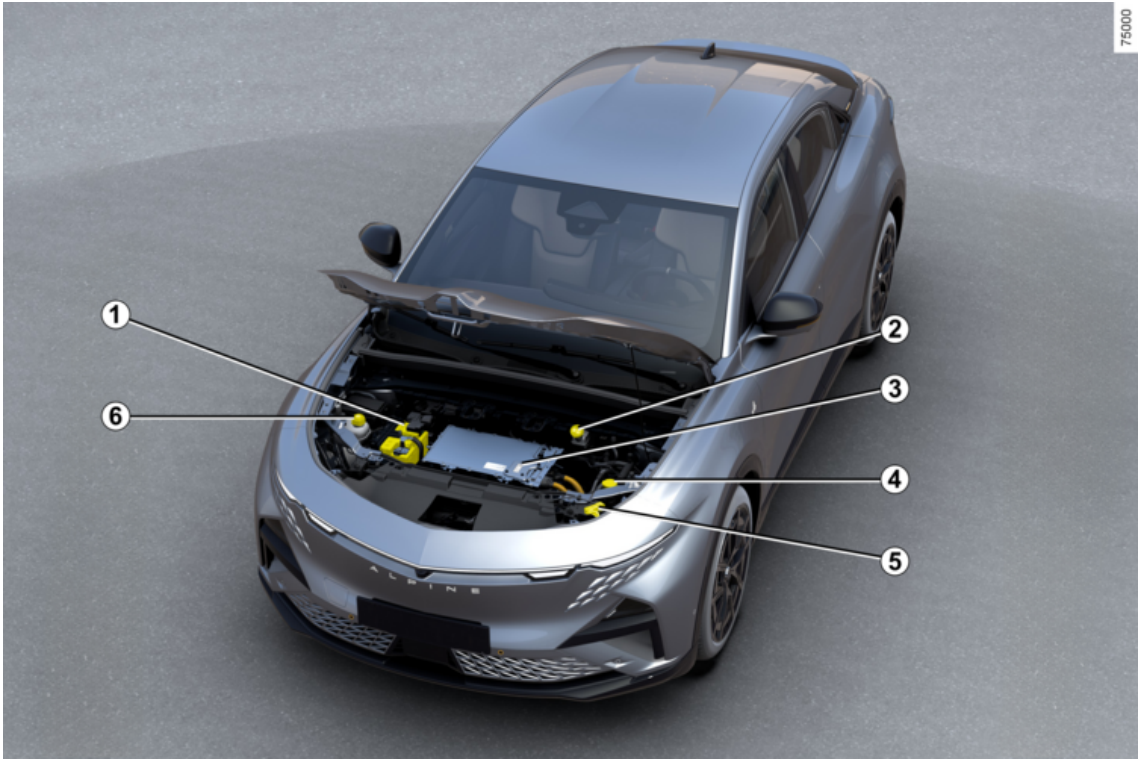


# 車両の識別 - ラベル



*1.* 緊急時対応サービスに関する技術情報 ➔ 363
*2.* 車両識別番号確認 ➔ 363
*3.* タイヤ空気圧ラベル ➔ 341
*4.* エンジン識別情報 ➔ 364
*5.* メーカープレート ➔ 363

# エンジンルーム（日常のメンテナンス）

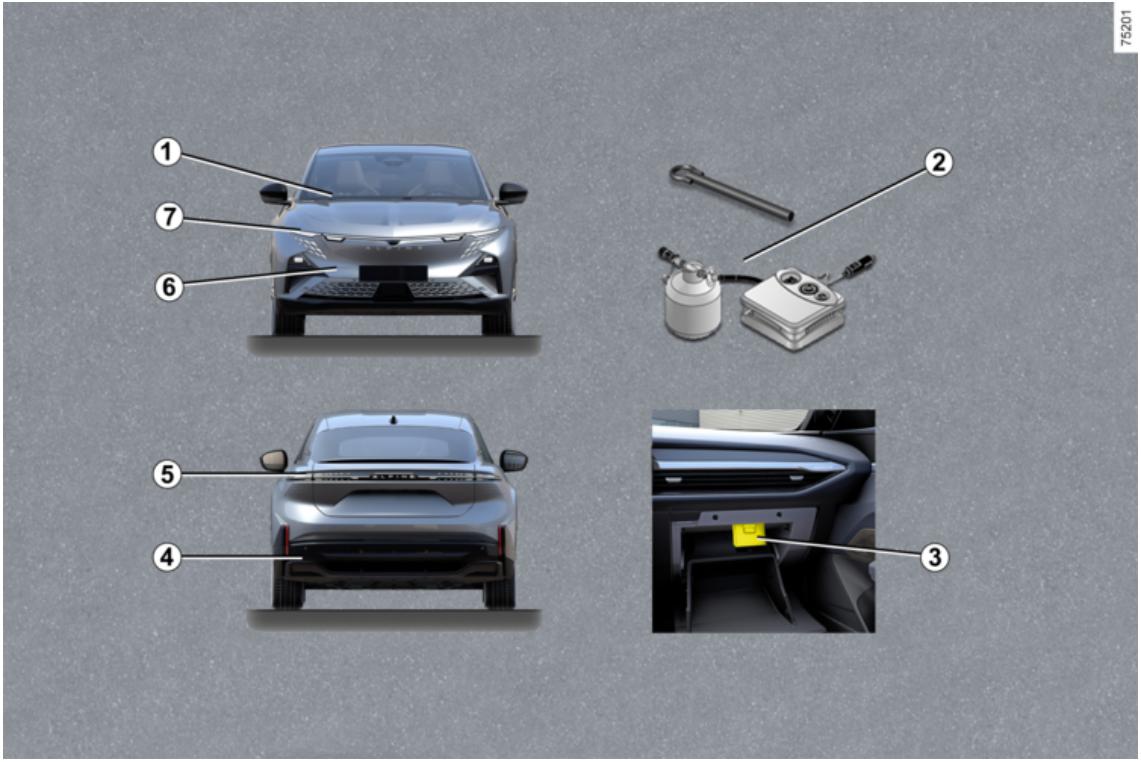


# エンジンルーム（日常のメンテナンス）



*1.* 12 V バッテリ➔ 333
*2.* ブレーキ液 ➔ 330
*3.* 「高電圧」電気回路➔ 20
*4.* ウインドウウォッシャー液 ➔ 330
*5.* ボンネット開放 ➔ 328
*6.* 冷却水 ➔ 330

# 車両故障時の対処の仕方



# 車両故障時の対処の仕方



*1.* フロントワイパーブレードの交換 ➔ 352

*2.* パンク ➔ 342
ツール ➔ 346

*3.* ヒューズ ➔ 354

*4.* リア牽引ポイント ➔ 347

*5.* テールランプバルブの交換 ➔ 349

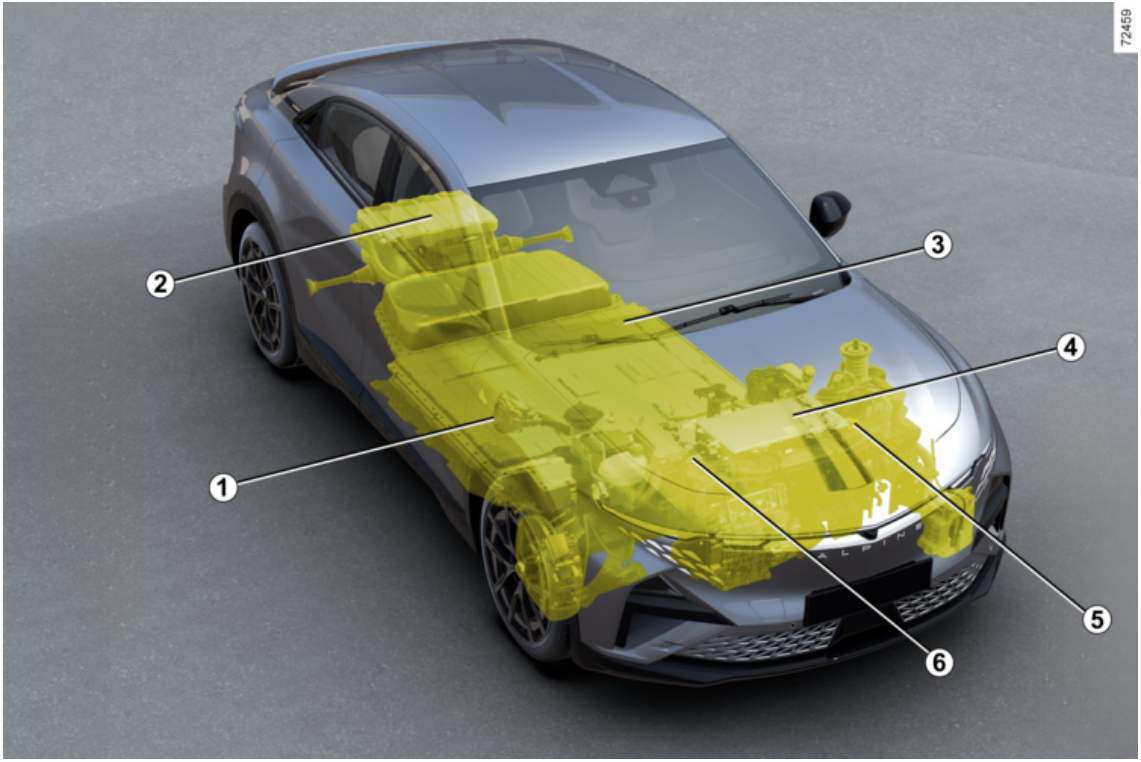
*6.* フロント牽引ポイント ➔ 347

*7.* ヘッドランプバルブの交換 ➔ 349

# 電気自動車

## はじめに





# 電気自動車

***1.*** 充電接続

***2.*** リア電動モーター群

***3.*** 「高電圧」トラクションバッテリ

***4.*** フロント電動モーター

***5.*** オレンジ色の電力配線

***6.*** 12 V バッテリ

電気自動車には特別な機能がありますが、従来の自動車と同じように動作します。

電気自動車の主な違いは、従来の自動車で使用されているように、燃料ではなく電気エネルギーを専用として使用することです。

したがって、電気自動車について説明しているこれらの指示を注意深く読むことをお勧めします。

## 接続サービス

### はじめに

電気自動車には、情報や制御を提供する接続サービスがあります。

– バッテリ残量低下警告付きの車両の充電状態。
– 提供されているオプションに応じたトラクションバッテリの充電プログラム。
– 車両の残りの走行可能距離。
– ...

次の方法を使用してこれらのサービスにアクセスできます。

– 外付けデジタルデバイス（携帯電話 ***7***、タブレット ***8*** など）
– 車両のマルチメディア画面。

詳細については、マルチメディア機器の説明書を参照するか、正規サービス工場に問い合わせてください。

> ⓘ 正規サービス工場にご相談いただくことで、コネクテッドサービスのご契約や延長をいつでも行うことができます。

### バッテリ

電気自動車用バッテリーには次の 2 種類があります。

– 「高電圧」トラクションバッテリ。
– 「12 V」バッテリ。

**「高電圧」トラクションバッテリ**

このバッテリは、電気自動車のモータを適切に動作させるために必要なエネルギーを蓄えます。他のバッテリーと同様に、使用すると放電します。定期的に充電する必要があります➔ **26**。

トラクションバッテリを充電するために、トラクションバッテリがリザーブレベルに達するまで待つ必要はありません。

充電時間は、接続する特定の壁ユニットソケットまたは公共端末の種類によって異なります。

お客様の車両の航続距離は、トラクションバッテリの充電レベルおよびお

# 電気自動車

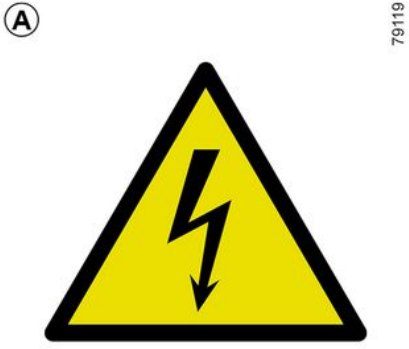
客様の走行スタイルに左右されます ➔ 175。

トラクションバッテリの冷却には車両の空調システムが使用されます。

トラクションバッテリの寿命を延ばすには、適格な資格のある専門作業者に空調システムの点検を依頼します。特に、空調性能が低下している場合に点検が必要です。

**12 V バッテリ**

車両の補助バッテリは12 Vバッテリで、ライト、ワイパー、ABS システムなど車両の装備を作動させるために必要な電源を供給します。




***A*** 記号は、お使いの車両内にあり、危険の原因となり得る電気構成部品を示しています。

**「高電圧」電気回路**

「高電圧」電気回路は、オレンジ色のケーブル***9***と⚠記号付き部品により識別できます。

電気自動車の駆動システムは高電圧電流を使用します。

このシステムは、イグニッションのオフ中およびオフ後に熱くなることがあります。車両のラベルに表示される警告メッセージを尊重します。

車両の「高電圧」電気システム（構成部品、ケーブル、コネクタ、トラクションバッテリ）における一切の作業または改造は、安全上のリスクのため固く禁止されています。正規サービス工場にご連絡ください。

**重度の火傷や感電のリスクは、死に至る可能性があります。**

## 発進する

オートマチックギアボックス付きの車と同様に、左足を使わず、左足を使ってブレーキをかけないことに慣れる必要があります。

運転中にアクセルペダルから足を離したり、ブレーキペダルを踏んだりすると、減速中にモーターが電流を発生させ、この電流が、車両の制動やトラクションバッテリーの充電に使われます ➔ 173。

悪天候、浸水した道路：

# 電気自動車

道路上の水溜りの深さがホイールリムにまで達するようでしたら走行を見合わせてください。

エンジンブレーキは、ブレーキペダルの代用として使用しないでください。

## ノイズ

電気自動車は特に静かです。あなたはまだそれに慣れていないでしょうし、他の道路利用者も慣れていません。移動中の車両の音を聞くことは困難です。

モータは静かであるため、聞き慣れていないノイズ（空気力学的ノイズ、タイヤノイズなど）が聞こえます。

イグニッションスイッチをオフにした場合、約 10 秒後に換気がオフになります。

**運転の妨げになるもの**
運転席側は、車両に適合したフロアマットのみを必ず使用し、あらかじめ装備されたパーツにしっかりと固定されているか定期的に確認してください。複数のマットを余分においてはいけません。
**ペダルの動きを妨げる危険があります。**

## 歩行者ホーン

歩行者ホーンを使用すると、他の人、特に歩行者や自転車に警告することができます。

エンジンを始動すると、歩行者ホーンが自動的に作動します。この音は、車速が約 1 ～ 30 km/h の場合に発せられます。

歩行者ホーンの詳細については、マルチメディアの取扱説明書を参照してください。

歩行者警告ホーンに不具合が生じると、 警告灯がインストルメントパネル上に表示され、「外部音不具合」というメッセージも表示されます。

メーカーにお 問い合わせください。

電気自動車は無音です。離れる前に、足をブレーキにかけた状態でエンジンを停止します。
**重傷を負う危険があります。**

## 重要な推奨事項



これらの手順をよくお読みください。これらの指示に従わないと、**火災、重傷、感電のリスクが発生し、死亡する可能性があります。**

**事故や衝撃が発生した場合**

操作時にサブフレームに事故または衝撃があった場合は（縁石、歩道またはその他の市街地設備との接触など）、車両（後アクスルの変形など）、電気回路、トラクションバッテーリーを損傷した恐れがあります。
正規ディーラーに車両を点検してもらいます。
車内外の露出部分にある「高電圧」の構成部品やオレンジ色のケーブルには絶対に触れないでください。
トラクションバッテリに重大な損傷が発生した場合、漏れが発生する可能性があります。

– トラクションバッテリが源泉の液体（フルードなど）には絶対に触れないでください。
– 身体と接触した場合は、患部を十分な水で洗い、できるだけ早く医師に相談してください。

衝突した場合は、充電フリップやバルブに軽く当たっただけであっても、できるだけ早く正規サービス工場でボンネットロックの点検を受けてください。

**火災が発生した場合**

火災が発生した場合は、直ちに全員に車両を離れ避難させて、緊急サービスに連絡し、これが電気自動車であることを知らせます。
消火する場合は、電気系統火災の消火に適した ABC または BC 消火剤のみご使用ください。水や消火剤は使用しないでください。
電気回路が破損した場合は、正規ディーラーにお問い合わせください。

**すべての牽引操作**

➔ 347.

**車両の洗浄**

エンジンルーム、充電接続部、トラクションバッテリを高圧ジェットで絶対に洗わないでください。

**電気回路を損傷する危険があります。**

充電中は車両を絶対に洗わないでください。車両の充電中は、充電ケーブルを絶対に洗わないでください。充電ピンの腐食を防ぐため、ケーブルが接続されていない間は、充電ケーブルと充電ケーブルプラグを絶対に洗浄しないでください。

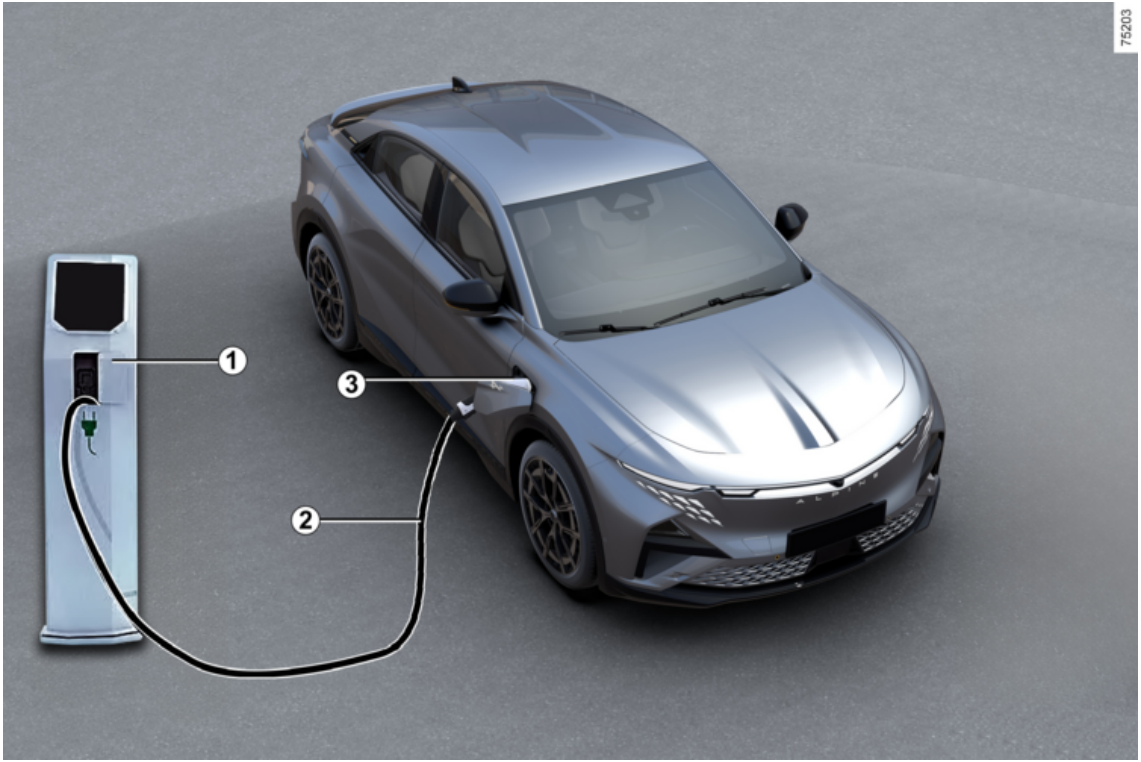
**感電や生命へのリスクがあります。**

# 電気自動車

## 充電

2

### 回路配線図



## 電気自動車

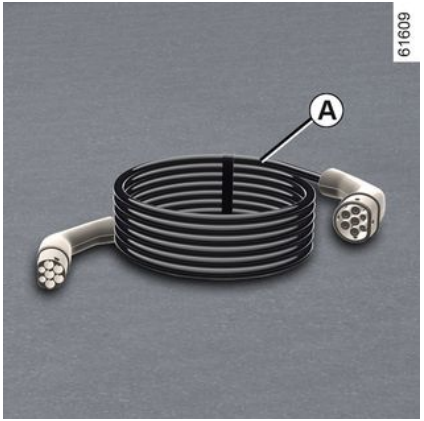
***1.*** 特定の壁ソケットまたは充電端子
***2.*** 充電ケーブル
***3.*** 充電接続



充電に必要な機器についてご質問がある場合は、認定ディーラーにお問い合わせください。

**車両の充電に関する重要な推奨事項**
これらの指示をよくお読みください。これらの指示に従わないと、**火災、重傷、感電のリスクが発生し、死亡する可能性があります。**
**充電**
充電中は車両に何もしないでください（洗浄、エンジンルームでの作業など）。
充電ケーブルコネクタまたは車両の充電ソケットに、水分、腐食の兆候または異物が存在する場合は、車両を充電しないでください。火災の危険。
ケーブルの接点、家庭用コンセントまたは車両の充電ソケットに触れたり、異物を挿入したりするのはお止めください。
充電ケーブルをアダプタ、複数のソケットまたは延長リードに挿入するのは絶対にお止めください。
発電機の使用は禁止されています。
車両充電ソケットや充電ケーブルを取り外したり、改造したりしないでください。火災の危険。
充電中にインストール構成を変更したり、操作を実行したりしないでください。
衝突した場合は、充電口のフラップまたはバルブに軽く当たっただけであっても、できるだけ早く認定ディーラで点検を受けてください。
ケーブルの取り扱いに注意:踏んだり、水に浸したり、引っ張ったり、衝突を与えたりしないでください。
充電ケーブルが良好な状態か定期的に確認します。
充電ケーブルに損傷（腐食、変色、切断など）がある場合は、ユニットや車両の充電ソケットへの接続用として使用しないでください。認定ディーラに交換をご依頼ください。
充電口フラップのロック機構が作動しない場合や、車両の充電ソケットのロックが解除された場合は、認定ディーラにご連絡ください。

## 充電ケーブル A

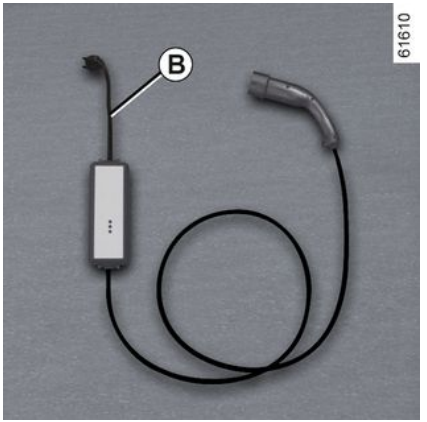



充電ケーブル***A***は、お客様の車両に合わせて設計され、専用の壁掛けユニットや公共充電ターミナルでの使用を想定しており、トラクションバッテリの標準充電（最大32Aまで）を可能にします。

ⓘ 充電ケーブルは、ソケットから切り離されているか確認してから清掃してください。
充電コードは、少し湿らせた布を用いて拭き上げます。
清掃の際には、腐食を避けるため、ケーブルの端部（コネクタ、充電ピン）に濡れた布が接触しないよう注意してください。

ⓘ 各充電ケーブルは、車両のトランクに収納されています➔ **323**。

## 充電コードB

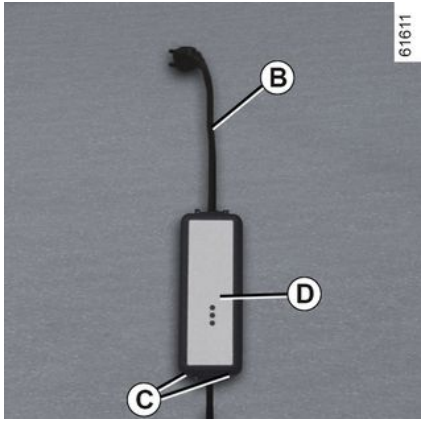



車両を充電するには、ケーブル***B***を以下のように使用します:

– 電気車両の充電専用強化コンセント（14A/16Aで充電）を使用した標準充電
– 自宅以外の場所などで、家庭用コンセントを使用した一時的な充電の場合（8 Aで充電）。

いずれの場合も、付属説明書に記載の方法でソケットを充電ケーブル ***B*** に取り付けてください。

## 電気自動車




いかなる場合でも、充電コード***B***の取扱説明書を**よく**お読みください。

> ⓘ 配線を用いたユニットの吊下げは絶対にお止めください。コードは必ずフック***C***を使用して引っ掛けてください。

> ⓘ 充電中に不具合が生じた場合（ユニット ***D*** に赤色警告灯が表示された場合）は、ただちに充電を停止してください。ケーブルの取扱説明書を参照してください。

# 電気自動車

## 重要な推奨事項

2

**車両の充電に関する重要な推奨事項**
これらの手順をよくお読みください。これらの指示に従わないと、**火災、重傷、感電のリスクが発生し、死亡する可能性があります。**

**充電ケーブルの選択**
付属の標準充電ケーブルド、この車専用です。これは、死亡または火災につながる可能性のある感電のリスクからあなたを保護するように設計されています。前車両の充電ケーブルは、この車両に不適合なため、使用しないでください。
安全上の理由から、メーカーが推奨しない充電コードの使用は厳禁です。この指示に従わないと、火災または感電の危険があり、致命的な事態を招く可能性があります。車両に適した充電コードについては、正規サービス工場にお問い合わせください。

**充電コード *B* の使用**
製品使用時に従うべき注意事項や、ソケット取付け時に従うべき技術仕様については、充電ケーブルに付属の説明書をよくお読みください。

**基本的な装着方法**

**壁コンセント**
資格のある専門スタッフが設置した特別な壁コンセントを用意してください。

**家庭充電の場合**
充電ケーブル接続先の各ソケットが、お住まいの国で施行されている規格や規制に適合しており、「電源システム」に関する情報に記載の仕様にも適合しているかについて、適格専門家の確認を受けてください。

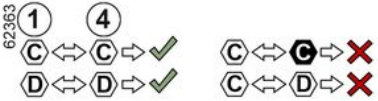
**電源システム**
IEC 61851-1 規格に準拠した充電ターミナルと、次の方法で保護された接続部のみを使用してください。

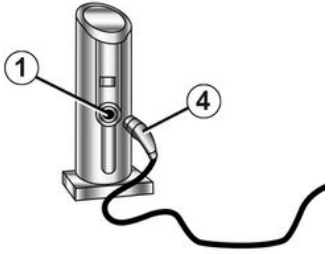
- 使用するソケットに固有のタイプ A 30 mA 地絡遮断器
- 過電流保護装置
- 露出領域における被雷に伴う過電圧に対する保護（IEC 62305-4）。
- 該当国の規格に適合するアース接続。

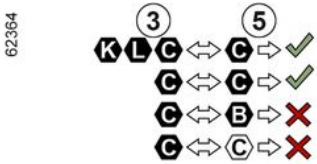
## 欧州規格に適合する充電タイプ

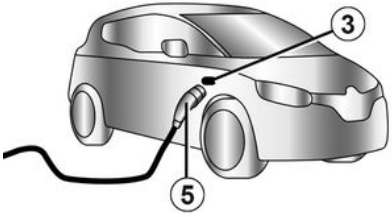
2

### 交流電流（AC）




車両の充電フラップに情報が表示されている場合は、以下の指示に従ってください。

充電リードを接続する前に、次のことを確認します。

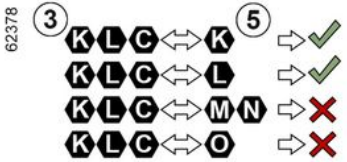
– 入力ソケット ***1*** の色と 1 文字は、ケーブル端部 ***4*** にある色と 1 文字に対応しています。
– 入力ソケット ***3*** の色と 1 文字は、ケーブル端部 ***5*** にある色と 1 文字に対応しています。

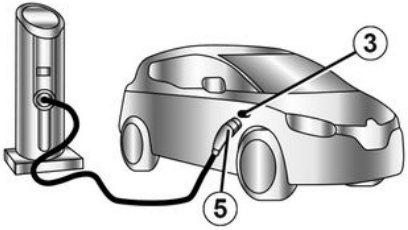
# 電気自動車

## ラベル

| **充電タイプ** | **交流電流（AC）** | | | |
|---|---|---|---|---|
| **接続** | **充電端子 *1*／充電ケーブル *4*** | | **車両 *3*／充電ケーブル *5*** | |
| **欧州規格**に適合する充電タイプ（その他の場合は、指定サービス工場にご相談ください）。 | C | D | B | C |

### 直流（DC）




車両の充電フラップに情報が表示されている場合は、以下の指示に従ってください。

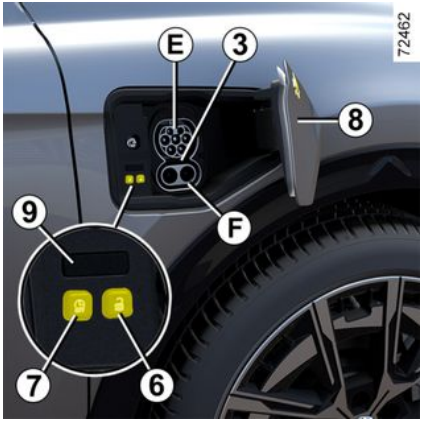
充電ケーブルは、インレットソケット ***3*** の色と１文字が、充電ケーブル端部 ***5*** にある色と１文字に対応しているか確認してから接続してください。

車両を急速充電する場合（DC）、車両と充電ターミナル間で充電ケーブルの長さが**30メートル**以下であることが必要です。
ケーブルの長さについて懸念がある場合、充電ターミナル（DC）の所有者にご相談ください。

ラベル

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **充電タイプ** | **直流（DC）** | | | | |
| **接続** | **車両 *3*／充電ケーブル *5*** | | | | |
| **欧州規格**に適合する充電タイプ（その他の場合は、指定サービス工場にご相談ください）。 | K | L | M | N | O |

## 充電ソケット 3




**注意:** 車両に雪が積もっている場合は、接続または取り外しを行う前に、フロント助手席側にある車両充電ソケット周辺の雪を取り除いてください。

ソケットに雪が入り込むと、充電ケーブルプラグの挿入が妨げられることがあります。

車両には、車両の前部助手席側に2つの充電接続部が装備されています。

– 22 kW までの充電に対応したソケット ***E***
– ソケット***F***：車両に応じて最大190 kWの急速充電用

充電フラップの内側には、次の2つのボタンもあります。

– ***6*** ボタンを押すと、充電ケーブルのロックが解除されます。

– ボタン ***7*** は、充電プログラムを停止（構成済みの場合）して車両への充電を即時に開始する場合に使用できます。

**注意**

– トラクションバッテリを充電するために、トラクションバッテリがリザーブレベルに達するまで待つ必要はありません。
– 充電時間は、接続する特定の壁ユニットソケットまたは公共端末の種類によって異なります。
– 充電は、降雨時や降雪時にも実行できます。
– エアコンを作動させると、充電時間が長くなります。
– 使用可能電力の量は、バッテリの温度に応じて変動します。このため使用可能電力の量は、車両を停止してから再始動するまでの時間と、バッテリ所在環境の気温が低いか高いかに応じて変動します。
– ほぼゼロの充電状態で車両を3か月以上駐車すると、バッテリの充電が不可能になることがあります。

**極端な天候条件**

– 高温の場合は、日陰で覆われた場所に車両を駐車して充電してください。
– 寒い時期には、充電開始時に充電時間を長く見積もりすぎてしまうことがあります。
– 極端な温度（高温または低温）下で車両を充電して駐車しないでください。
– 極端な条件下では、充電が開始するまでに数分かかることがあります（トラクションバッテリが冷却またはウォームアップするまでの時間）。
– 充電残量が少なく（25% 未満）、気温が氷点下である場合は、運転後に車両を再充電することをおすすめします。
– 約 - 25 °C 未満の環境で車両を 7 日を超えて駐車すると、トラクションバッテリーを充電できなくなる恐れがあります。

**アドバイス**

– トラクションバッテリの寿命を保つために、以下を実施します。
  – 毎日の行程では最大80%の充電を選択してください。
  – 特に高温の時期には、約50%以上の高充電レベルで1か月以上車を駐車しないでください。
– 走行後および / または温和な環境でのトラクションバッテリの充電を優先してください。それ以外の場合は、充電に時間がかかるか、または不可能になる場合があります。

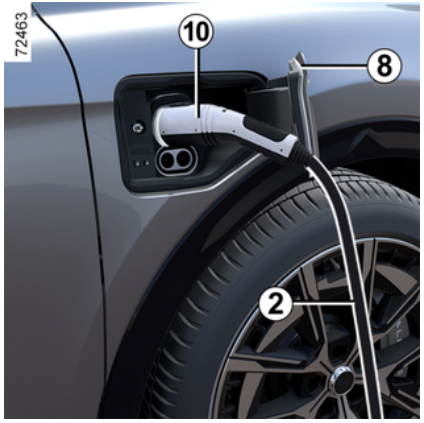
## トラクションバッテリの充電

**車両停止、イグニッションオフ:**

– 車両のトランク内に設置されている収納トレイの中から充電ケーブル ***2*** を取り出します。
– 充電フラップ ***8*** を押してロックを解除します。警告灯 ***9*** が白色表示されます。

車両によっては、充電口フラップが開いているか正しく閉まっていない場合、「充電フラップ オープン」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

車両を急速充電する場合（DC）、車両と充電ターミナル間で充電ケーブルの長さが**30メートル**以下であることが必要です。
ケーブルの長さについて懸念がある場合、充電ターミナル（DC）の所有者にご相談ください。




– ケーブルの端を電源に差し込みます。
– ハンドル ***10*** をつかみます。
– 車両コードを差し込みます。警告灯 ***9*** が白色点滅します。

車両の再充電中に充電ケーブル ***2*** を充電フラップ ***8*** に引っ掛けるのはお止めください。

マルチメディアシステムを使用してシステムの更新を受け入れただけであれば、トラクションバッテリの充電が遅延またはキャンセルされます。
充電リードを車両に接続する前に、更新が完了するまで待ちます。システム更新の詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

– カチッというロック音が聞こえたら、充電ケーブルが正しく接続されているか確認します。ロックを確認するには、ハンドル ***10*** を軽く引きます。
– 計画充電の設定中にすぐに充電を開始したい場合は、充電開始ボタン ***7*** を押します➔ **309**。

充電コードは車両に自動的に固定されます。これにより、車両からコードを抜くことができなくなります。

加熱を制限するために、充電コードを完全にほどいてください。

拡張リード、複数のソケット、またはアダプタは使用しないでください。
**火災の恐れがあります。**

充電中は警告灯 ***9*** が青色点滅します。

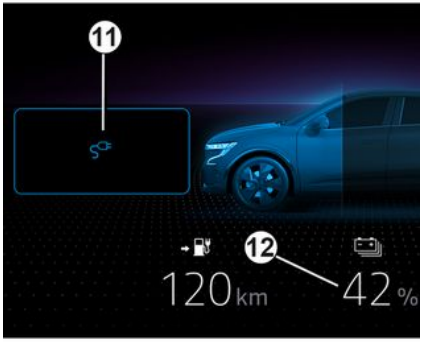
充電が開始されると、インストルメントパネルに次の情報が表示されます。

– バッテリー警告灯上に表示されるエネルギー残量 ***12***。

トラクションバッテリの充電時間は、充電端子によって供給されるエネルギーの残量と電力量によって異なります。情報は充電中にインストルメントパネル上に表示されます
➔ 129。
**注:** 特定の条件下では、実際の充電時間がインストルメントパネルに表示される充電時間よりも長くなる場合があります。これは次の条件に依存します:

– 電気ネットワークの品質、
– 初期充電レベル
– 外気温が低すぎる
– ...

充電ケーブルに問題がある場合は、元のケーブルと同一のケーブルに交換することをお勧めします。メーカーにお 問い合わせください。




– バッテリーの充電率
– 残りの充電時間の推定値（充電率が約 95% に達するとこの情報は表示されなくなります）。
– 警告灯 ***11*** は、車両が電源に接続されていることを示します。
– 車両の範囲は、充電レベルによって異なります。

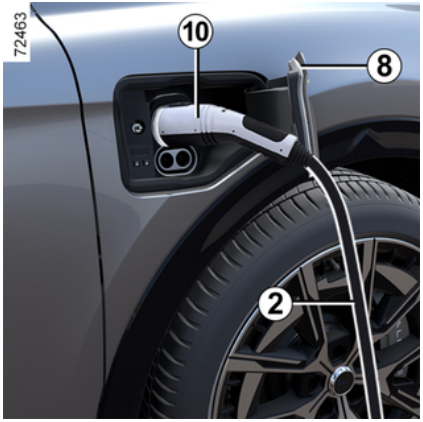
インストルメントパネルの表示が数秒後に消えます。ドアが開くと、インストルメントパネルに再び表示されます。

充電が完了すると、警告灯 ***9*** が緑色で連続表示されます。

車両を充電するために充電がリザーブレベルになるまで待つ必要はありません。

## 作動異常

警告灯 ***9*** が赤色常時点灯する場合は、正規ディーラーにお問い合わせください。




**ソケットから取り外す際の注意点**

– 車両充電ケーブルの接続を解除するには、ボタン ***6*** を押すか、カード上のドアロック解除ボタンを**押し続け**ます。
– ハンドル ***10*** をつかみます。

> ⓘ プラグを抜く手順を順番に実行することが不可欠です。

– 充電ケーブル ***2*** を車両から抜きます。
– 充電口フラップ ***8*** を閉じ、押してロックしてください。
– ケーブル ***2*** を電源 ***1*** から切り離します。
– ケーブル ***2*** をトランクルームの収納ボックスに内に保管します。

**注:** トラクションバッテリーを長時間充電した直後は、ケーブルが熱くなっている可能性があります。ハンドルをご利用ください。

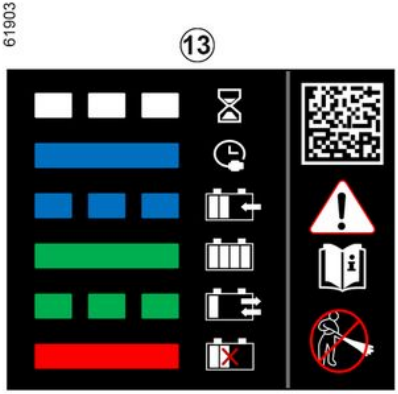
> ⓘ 充電ケーブルのリリースボタンを押した後、もう一度ロックする前に、約 30 秒待つ必要があります。

## ラベル 13

充電口フラップ ***8*** に貼付されているラベル ***13*** には、次のような充電の状態を示す警告灯 ***9*** に関する情報が記載されています。

– この警告灯が白色点滅の場合、ケーブルが車両に差し込まれ、システムが必要な確認を実施している状態です。
– 警告灯が青色常時点灯の場合、充電プログラミングが有効化されている状態です。
– 青色で点滅:充電が進行中であるか、車両がその操作に主電源を使用しています(たとえば、客室のエアコン用)。
– 警告灯が緑色常時点灯の場合、車両の充電が完了している状態です。
– 緑色点滅の場合: 車両から送配電網への（V2G）給電 ➔ **46** または車両か

ら家電等への（V2L）給電 ➔ **40** が有効化されています。
– この警告灯が赤色常時点灯の場合、作動不良が生じている状態です。




右側のラベル ***13*** は、次のことについてドライバーに注意喚起するためのものです。

– 高圧ウォータージェットを使用して充電フラップを洗浄しないでください。
– バルブと充電口フラップは、車両が静止した状態でのみ開くことができます。
– 車両の走行中は、バルブと充電フラップを閉じてください。
– フラップを開けて充電リードを接続します。
– 外したら、フラップを再度閉じます。
– 内部ソケット、交流電圧充電端子または急速充電端子に接続します。
– 充電の詳細については、車両の取扱説明書を参照してください。

## Vehicle to Load（V2L）機能

車両を静止させ、パーキングブレーキをかけると、「Vehicle to Load」（V2L）給電機能により、電気機器を直接車両に接続できます。

このシステムは、車両のトラクションバッテリ ➔ **26** に蓄えられた電気エネルギーを使用して、AC 電力（最大で 16 A/3.7 kW）を供給します。

V2Lコネクタを使用すると、車両前方の充電ソケットを使用してさまざまな電気機器を接続および操作できます。

## 重要な推奨事項

これらの手順をよくお読みください。これらの指示に従わないと、**火災、重傷、感電のリスクが発生し、死亡する可能性があります。**

**V2L 給電機能を使う場合に注意すべき点。**

損傷や感電につながり得るため、自宅への給電はお止めください。

V2L 給電機能使用中の洗車やエンジンルームでの作業はお止ください。

次の場合には、V2L 給電機能を使用しないでください。

– V2L 給電コネクタまたは車両の充電ソケット内に水分がある場合。

– 車両の V2L 給電コネクタまたは充電入力ソケットに損傷（破損、腐食の兆候、変色など）がある場合。この場合は、認定ディーラにご連絡のうえ、交換をご依頼ください。

– 屋外使用の状況で天気が悪い場合（降雨時や落雷危険がある場合など）。

V2L 給電コネクタ上に金属の物を置くのはお止めください。

V2L 給電機能の使用中にV2L 給電コネクタを改造したり、コネクタへの干渉を行ったりするのはお止めください。

V2L 給電コネクタにアダプタを接続するのは絶対にお止めください。

**V2L 給電コネクタを取り扱うおよび使う場合に注意すべき点。**

必ず車両に付属の V2L 給電コネクタをお使いください。車両に付属の V2L 給電コネクタはその車両専用です。お客様の安全を確保するため、メーカー非推奨 V2L 給電コネクタの使用は固く禁じられています。お使いの車両に適した V2L 給電コネクタの詳細については、認定ディーラーにお問い合わせください。

V2L 給電コネクタに他のものを接触させたり、V2L 給電コネクタの AC 出力ソケットから延びている電源ケーブルを用いて機器を吊るしたりするのはお止めください。**損傷のおそれがあります。**

V2L 給電コネクタの取扱いにはご注意ください。接続中にコネクタを分解する、水に浸すまたは引っ張ることや、コネクタに他のものをぶつけることはお止めください。コネクタは、定期的にその状態を点検しながらお使いください。

**電気／電子機器を使う場合に注意すべき点。**

機器（延長ケーブル、マルチプラグなど）は、取扱説明書を参照し使用上の注意事項を確認してから差込みおよび使用してください。

次のものは差し込まないでください。

– 医療機器に代表される、直流電流が必要な機器。車両の稼働状況によっては給電が中断されることがあります。

– 消費電流が 16 A 超の機器。

– 国の規制や基準に反する機器。
– 損傷のある機器（ユニット、ケーブルなど）。
– 当初の段階では使用推奨機器であったが、使用環境の変化（粉塵や水に触れる危険のある環境に変わったなど）により環境に適合しなくなった機器。
– 複数のマルチプラグ。使用中は、消費電流が 8 A 超の製品を接続しないでください。
– 長さが 20 m超の延長コード。使用する場合は、必ず完全に伸ばしてお使いください。

### 車両から家電等への（VLC）給電コネクタ *A*

***1.*** 充電ソケット。
***2.*** 作動警告灯。
***3.*** ON／OFFスイッチ。
***4.*** 保護カバー。
***5.*** AC 出力ソケット。

V2L 給電コネクタの保守整備は、コネクタが切り離されているか確認してから実施してください。
コネクタは、少し濡らした布で清掃します。
清掃の際には、腐食を避けるため、コネクタの端部（コネクタ、充電ピン）に濡れた布が接触しないよう注意してください。

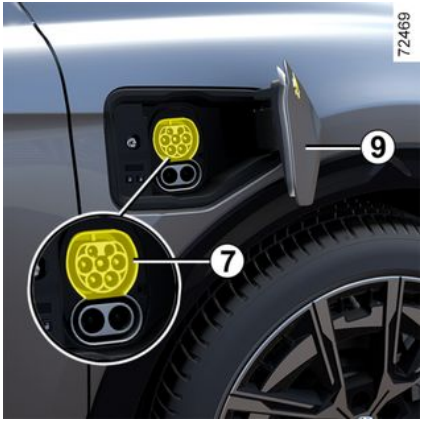
### 作動

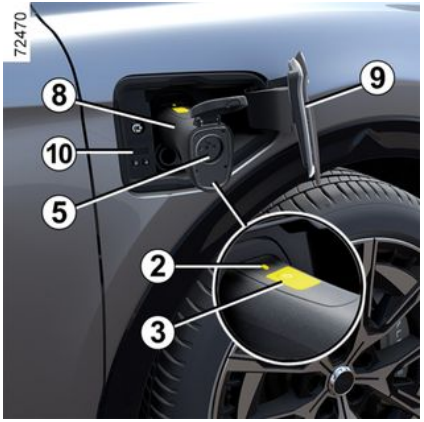
V2L 給電機能の使用中は、パーキングブレーキをかけた状態に保ってください。

V2L 給電コネクタは、必ず所定の順序で接続／切離ししてください。

デバイスは、V2L 給電コネクタ表示灯 ***2*** の消灯を確認してから接続または切離ししてください。

### V2L 給電コネクタを接続するには

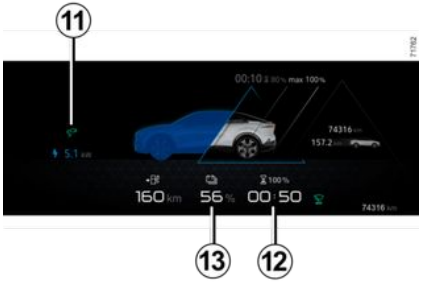





次のように、車両を静止させた状態で、開閉部のロックを解除し、イグニッションスイッチを OFF にします。

– 充電口フラップ ***9*** を押し、ロックを解除します。
– コネクタ ***8*** のハンドルを持ち、その端部 ***1*** を、車両の充電ソケット ***7*** に接続します。
– ハンドル ***8*** を軽く引く方法で、V2L 給電コネクタが正しく接続されているか点検します。給電は、ソケットロックが有効化されると開始されます。
V2L 給電コネクタは、車両に対し自動的にロックされます。これにより、コネクタは車両から外れない状態になります。
– 電気機器を V2L 給電コネクタ AC 出力ソケット ***5*** に接続します。
– V2L 給電コネクタスイッチ ***3*** を、表示灯 ***2*** が緑色点灯するまで 3 秒以上押します。V2L 給電機能が有効化され、充電ソケット ***10*** 上の表示灯が緑色点滅し、該当電気機器に給電されます。

**注:** V2L 給電コネクタが車両にロックされている状態ではハンドル ***2*** を引かないでください。




使用中は、インストルメントパネル上に次の情報が表示されます。

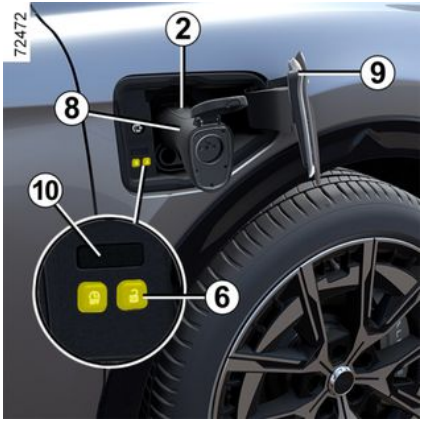
– 車両が V2L 給電コネクタに接続されていることを示す表示灯 ***11***。
– バッテリ充電残量の下限値に達するまでの概算時間 ***12***。
– バッテリ充電残量 ***13***。

**注:** 次の場合には自動的に電源が OFF になります。

– V2L 給電機能の未使用状態（電気機器が V2L 給電コネクタの AC ソケット ***5*** に接続されていない状態、または電力消費がない状態）が約 1 時間に達した場合。
– 上限電力容量を超える電気機器が接続された場合。
– 開閉部はロック済みの状態で運転席ドアのロックが解除された場合。
– トラクションバッテリについて、マルチメディアディスプレイから設定したバッテリ充電残量の下限値に達した場合。

給電が遮断されると、その旨をドライバーに知らせるためのメッセージがインストルメントパネルに表示されます。

### V2L 給電コネクタを切り離すには



カードを所持した状態か、車両開閉部のロックを解除した状態で次のように作業します。

– 充電ソケットの横にある給電停止ボタン***6*** を押します。表示灯 ***2*** と、充電ソケット ***10*** 上の表示灯が消灯し、V2L 給電機能が無効化されます。
– V2L 給電コネクタの車両へのロックは自動的に解除されます。これにより、コネクタを車両から切り離すことができます。
– 電気機器を切り離し、V2L 給電コネクタのハンドル ***8*** は持ったまま**約 15 秒以内**にコネクタを車両から切り離します。この時間内に切り離さないと、充電ソケット ***7*** は自動的に再ロックされます。
– 充電口フラップ ***9*** を閉じ、押してロックします。
– V2L 給電コネクタを保管場所に収納します。

> ⓘ 充電口フラップ ***9*** を開けたまま車両を運転するのはお止めください。V2L 給電コネクタを車両から切り離したら、充電口フラップ ***9*** が正しく閉まっているか確認します。

## 設定

トラクションバッテリの充電残量下限値は、マルチメディア画面 ***14*** から設定できます。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

## 作動異常

作動不良に陥ると、V2L 給電コネクタ上の表示灯 ***2*** が消灯し、V2L 給電の電源が自動的に切れます。ドライバーにその旨を知らせるメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

**V2L 給電機能の内部で不具合が生じると、**「V2L 給電不可 V2L 要確認」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。この場合は、電気機器と V2L 給電コネクタを切り離します。メーカーにお 問い合わせください。

**V2L コネクタの AC ソケットに接続されている機器が原因で V2L 給電機能に不具合が生じると、**「V2L 給電不可 通信機器故障」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されるため、次のように対応します。

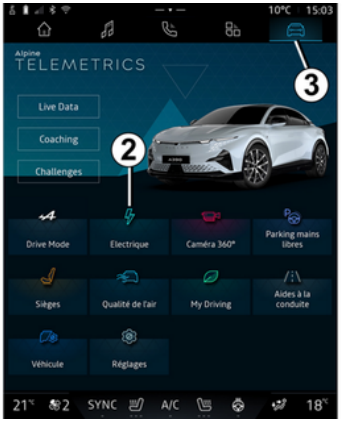
– 電気機器と V2L 給電コネクタを切り離します。
– 機器や V2L 給電コネクタに損傷がなく、電源プラグに破損または腐食がないか確認します。
– 電気機器が必要としている電力が、車両から給電可能な上限を超えていないか確認します。

不具合が直らない場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。

## 充電プログラミング



### 作動




車両の充電や快適性をプログラムするには、車両を静止させ、エンジンを作動させた状態で、マルチメディア画面***1***の「車両」領域***2***から、「エレクトリック」メニュー***3***を押します。

「プログラム」タブでは、次の操作を実行できます。

– 新しい充電プログラムを追加する。

または

– 保存済みの充電プログラムにアクセスする。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

> ⚠ 安全のために、この操作は 必ず停止時に行ってください。

プログラミングが確認されると、インストルメントパネルに インジケータが点灯します。

**注:** エンジンスイッチを OFF にすると、車両が電源に接続されており、電源の利用が認められている場合に限り充電が開始されます。

> ⓘ マルチメディアシステムを使用してシステムの更新を受け入れただけであれば、トラクションバッテリの充電が遅延またはキャンセルされます。
> 充電リードを車両に接続する前に、更新が完了するまで待ちます。
> システム更新の詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

## 車両から送配電網への（V2G）給電

車両によっては、車両を静止させ、車両の充電ケーブルを使用して接続すると、車両から送配電網への（V2G）給電機能により、車両のバッテリーに蓄えられたエネルギーを自宅や送配電網に再分配できます。

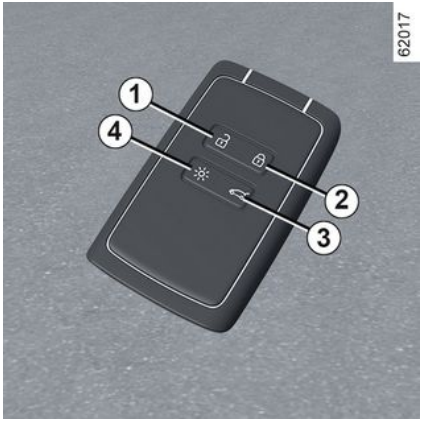
この機能を使うには、互換性のある双方向 AC 充電端子と、V2G 給電サービスのご契約が必要です。詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

## 電気自動車

電気設備を対象とする作業や改造は、車両を切り離してから実施してください。

V2G 給電の設定方法は、マルチメディア取扱説明書でご確認ください。

## 「概要」の項を参照してください




***1.*** すべてのドア／テールゲートのロック解除

***2.*** すべてのドア／テールゲートのロック。

***3.*** ラゲッジルームのロック／ロック解除。

***4.*** リモート操作によるライトの点灯

## カードで次のことができます:

– 開閉部（ドア、トランクドア）のロック／ロック解除や、フロントドアハンドルの展開または折り畳み
– 充電口フラップのロック解除 ➔ 26。
– 車両灯火類の遠隔点灯。
– パワーウインドウの遠隔自動開閉 ➔ 58。

## 交換時期

電池の状態、タイプ、プラス/マ イナスが正常かを確認してくだ さい。バッテリーの寿命は約 2 年ですので、「カードキー バッテリー低下」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されたら交換してください ➔ 48。

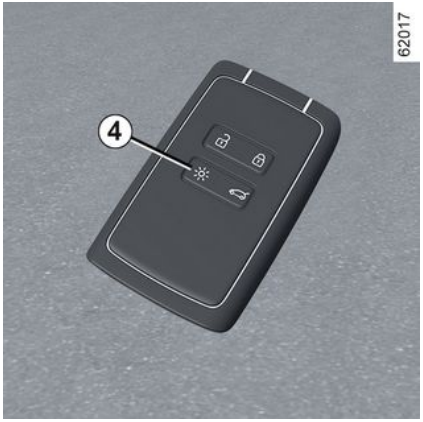
## カードキーの作動範囲

周囲の状況に応じて変化します。誤ったカードボタン操作により車両が突然ロック／ロック解除されないよう、リモコンの取り扱いには注意してください。

**注:** ドアまたはテールゲートが開いているか適切に閉まっていないと、車両はロックされません。音声シグナルも、ハザードランプ / サイドリピータの点滅もありません。

> ⓘ バッテリー残量がゼロになっても、車両のロック／ロック解除は可能です
> ➔ 153 ➔ 58 ➔ 48。

## 「灯火類リモコン」機能




ボタン ***4*** を 1 回押すと、ロービームと灯火類が約 20 秒間点灯します。この機能は、広い駐車場の中などで自分の車を遠くから見分けるときに便利です。ボタン ***4*** を約2秒間押し続けると、灯火類が点灯し、音が鳴ります。

**注:** ***4*** ボタン をもう 1 回押すと消灯します。

# カードキー

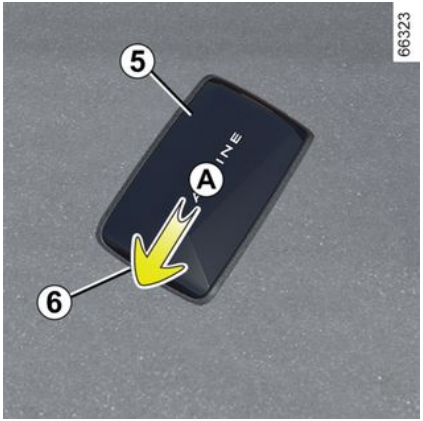
**アドバイス**
カードを熱気、冷気および湿気に さらさないでください。
カードを曲がったり、誤って損傷したりする恐れのある場所に入れておかないでください。衣服の後ろポケットなどに入れると、そのまま座ってしまうことがあります。

**カードの作り替え: 追加カードが必要**
カードを紛失したり、カード交換が必要となったりした場合には、認定ディーラにご連絡ください。
カードを作り替える場合は設定を入れ替えますので、**お持ちのすべてのカード**と車両を正規サービス工場へお持ちください。
1 台につきカードは最大 4 枚までご使用いただけます。

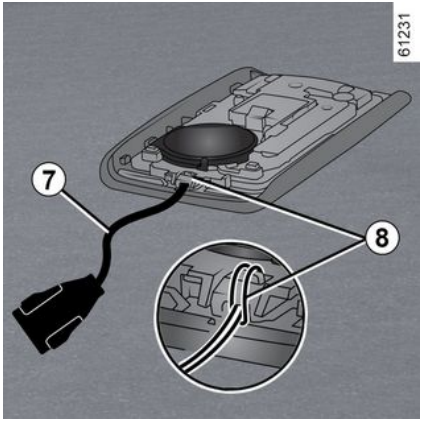
**障害物**
近くにリモコンと同周波数を使用する機器がある場合、リモコンは作動しないことがあります。

**駐車または停車時のドライバーの責任**
お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。
実際、彼らがエンジンを始動したり、パワーウインドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険であり、他人にまで危害が及ぶ恐れがあります。
その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。
**死亡または重傷のおそれ。**

## ハンドストラップ 7 の取付け




領域 ***A*** を押しながらリアケース ***5*** を下にスライドさせます。



# カードキー

ハンドストラップを部品 ***8*** に挿入し、バックルを通してストラップの端を通します。

ストラップを開閉部 ***6*** に配置し、ケースを閉じます。

**注:** ハンドストラップコード ***7*** の直径が開口部 ***6*** に合っているかご確認ください。

## 使用方法

車両をロック解除／ロックするには次の 2 つの方法があります：

– 「ハンズフリー」モードで車両に近づいたり、車両から離れたりする方法。
– リモコンモードでカードを使う方法。

> ⓘ カードを携帯する時、他の電子機器（コンピュータ、電話など…）に接触しないようにして下さい。故障の原因となります。

### 「ハンズフリー」モードを無効 / 有効にするには

車種によっては、車両に近づくときにロック解除を有効 / 無効にし、車両から離れるときにロックできます。

また、車両から離れる際のロック時に発せられる警告音を無効化／有効化することもできます➔ 132。

> ⚠ カードキーを車内に置いたまま、決して車両から離れないでください。

> ⚠ **駐車または停車時のドライバーの責任**
> お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。実際、彼らがエンジンを始動したり、パワーウインドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険であり、他人にまで危害が及ぶ恐れがあります。
> その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。
> **死亡または重傷のおそれ。**

### 車両に近づくと「ハンズフリー」でロック解除できる機能

72474

カードを持って乗員検出ゾーン ***1*** 内に移動すると車両のロックが解除されます。

ドアが解錠されたことを示すために、フロントハンドルが展開し、ハザードランプとサイドリピータが**1回点滅**します。また、車両に応じて、ドアミラーが自動的に折りたたまれます。

## 車両から離れる際の「ハンズフリー」ロック

カードを持って車両とトランクのドアを閉め、車両から離れると、ロック解除ゾーン ***1*** 外に出るとすぐに、車両が自動的にロックされます。ドアがロックされたことを示すため、フロントハンドルが折り畳まれ、ハザードランプが**2回点滅した後、約4秒間点灯し**、ビープ音が鳴ります。車両に応じて、ドアミラーもが自動的に折り畳まれます。

**注意:** ロックが作動する地点と車と の距離は環境によって異なります。

カードが検出ゾーン ***1*** 内に約 15 分間存在すると、遠隔ロック機能は無効化されます。車両をロックするには、カードキーのボタン ***3*** を押します。

カードがゾーン ***2*** 内にあると、車両を遠隔ロックできません。

## トランクを開くと、「ハンズフリー」によりロックが解除します

車両のすべてのロックを解除するには、カードをゾーン ***1*** 内に置き、車両がロックされている状態でボタン ***4*** を押します。

ドアのロックが解除されたことを示すために、フロントハンドルが展開し、ハザードランプとサイドマーカーが**1回**点滅します。

## 解錠システムの専用機能

特定の状況下では、次の場合に車両に近づくとロック解除が無効化されます。

– 車両が 8 日間使用されていない場合。

# カードキー

– カードが、**車両のロックから**約 5 分間経過しても車両の検出ゾーン ***1*** 付近にある場合。
– **ドアロックが解除されていない状況で**ゾーン ***1*** 付近を複数回通過した場合。

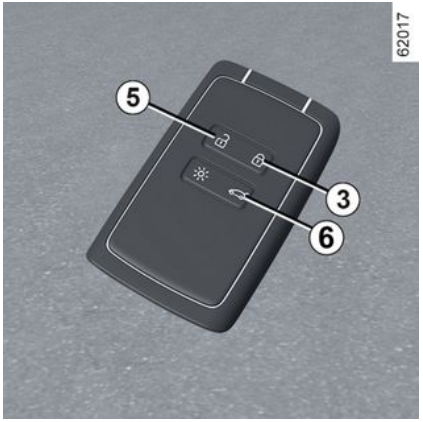
車両のロックを解除し、「ハンズフリー」モードを再び有効化するには、テールゲート開ボタン ***4*** を押すか、カードのリモコンを使用します。

## 「ハンズフリー」ロックに関する特殊機能

「ハンズフリー」モードで施錠した後で、車両をもう一度解錠するには、約 3 秒間待つ必要があります。この 3 秒間にドアハンドルに触って、車両が正しく施錠されているか確認することができます。

**注:** ドアまたはテールゲートが開いているか適切に閉まっていないと、車両はロックされません。音声シグナルも、ハザードランプ / サイドリピータの点滅もありません。

## カードをリモコンとして使用する




**カード を使用した解錠**

ボタン ***5*** を押します。

ドアのロックが解除されたことを示すために、フロントハンドルが展開し、ハザードランプとサイドマーカーが**1回**点滅します。

> ⓘ エンジンが作動していると、カー ドのボタンは非作動になります。

**カードキーを使用して車両を施錠する**

ドアとテールゲートを閉じ、ボタン ***3*** を押すと、車両がロックされます。

ドアが解錠されたことを示すために、フロントハンドルが折りたたまれ、ハザードランプとサイドリピータが**2回点滅**します。また、車両に応じて、ドアミラーが自動的に折りたたまれます。

車両によっては、ボタン ***3*** を 2 回押すと車両がロックされます。フロント／リアウィンドウを閉じるにはボタン ***3*** を押し続けてます。

**注：**

– 車両の施錠が可能な範囲（車 両からの距離）は周辺環境によって異 なります。
– ドアまたはトランクが開いているか、正しく閉まっていない場合、施錠されません。音声シグナルも、ハザードランプ / サイドリピータの点滅もありません。

**エンジン回転中**のドア開閉後にカードがゾーン ***2*** 内に存在しなくなると、車内にカードがないことを示す「カードキー 検出なし」メッセージが表示されます。これにより、たとえば乗員がカードを持ったまま途中下車するといった偶発的な事故が防止されます。

カードが再び検知されると音声アラームは停止します。

## ラゲッジルームのみのロック／ロック解除

ボタン***6***を押すと、トランクだけをロック / ロック解除できます。

**注:** ボタン***6***を用いてトランクのみロックを解除した後にその他開閉部のロックを解除するには、次の操作を行う必要があります。

– ボタン ***5*** を押します。

または

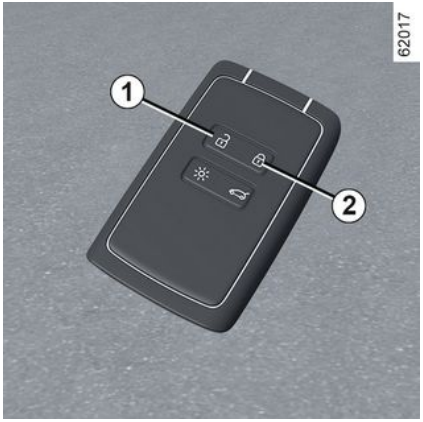
– 車両から離れる際の自動ロックを作動させるためには、車両から離れる動作。この場合、車両に近づくと再びロックが解除されます。

> **駐車または停車時のドライバーの責任**
> お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。実際、彼らがエンジンを始動したり、パワーウインドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険であり、他人にまで危害が及ぶ恐れがあります。
> その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。
> **死亡または重傷のおそれ。**

## 充電ケーブルのロック解除

車両の充電ケーブルのロックを解除するには、ボタン ***5*** を押します。

## スーパーロック機能




スーパーロック装備車の場合、スーパーロック機能で開閉部をロックし、車内からドアを開けられないようにすることができます（ウインドーを割って内側からロック解除を試みる場合などに備えて）。

> 車内に人が乗っているときは、スーパーロック機能は絶対に作動させないでください。

## スーパーロック機能を作動させるには

ボタン ***2*** を 2 回続けて押します。

# カードキー

ロックされると、ハザードランプとサイドマーカーが**ゆっくり 2 回点滅し、素早く 3 回点滅**します。

車両によっては、車両のロックと同時にドアミラーが自動的に折り畳まれることがあります➔ 141。

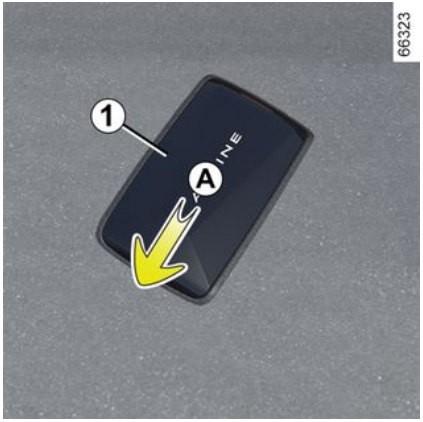
## スーパーロック機能を作動解除するには

ボタン ***1*** を一回押します。

アンロックされるとハザードランプが**1 回だけ**点滅します。

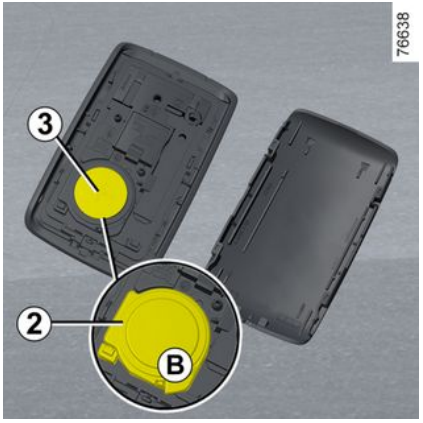
## 「ハンズフリー」カード: バッテリ

### 電池の交換




「カードキー バッテリー低下」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されたら、次の手順でカードの電池を交換してください。

– エリア***A***を押しながら、リアケース***1***を下にスライドさせます。
– エリア ***B*** で、カバー ***2*** を上方に持ち上げてバッテリー ***3*** から取り外します。
– バッテリーの片側を押して他方を持ち上げて、取り外します。
– カバー内の指示とテンプレートに従って、バッテリーを交換します。




取り付けは、取り外しと逆の手順で行い、車両付近でカードのボタンを4回押して下さい。次にエンジンを始動させたときに、警告メッセージは消えます。

カバーが確実にはまっているか確認してください。

**注:** 電池交換の際は、カードの電子回路や端子に触れないようにしてください。

> ⓘ 電池は指定サービス工場でお求めください。電池の寿命は約 2 年です。電池の液漏れがないか確認します。液漏れが生じていると接触不良となる恐れがあります。

> ⚠ 交換が必要な場合は、同じタイプまたは同等のタイプのバッテリを使用してください（指定サービス工場にお問い合わせください）。

交換時:

– バッテリーが正しく挿入されていることを確認してください。

**爆発の危険があります。**

– フラップが正しく閉まらない場合は、カードキー使用しないで子供の手の届かないところに置いてください。

## 作動異常

電池が消耗しすぎてカードが作動しない場合でも、エンジンを始動したり、車両を施錠 / 解錠したりできます
➔ 58。

使用済みのバッテリをゴミとして捨てないでください。認定ディーラに持ち込むか、適切なリサイクル施設に関する情報をお住まいの地方自治体にお問い合わせください。

**バッテリに関する注意事項**

– バッテリ（新品または中古）は子供の手の届かないところに保管してください。
– バッテリを飲み込まないようにしてください。

**死に至る可能性のある化学的なやけどの危険性があります。**

– 身体のいずれかの部分に摂取したり挿入した場合は、できるだけ早く医師に相談してください。

## ドアの開閉

2

### 車外からドアを開く

#### フロントドア

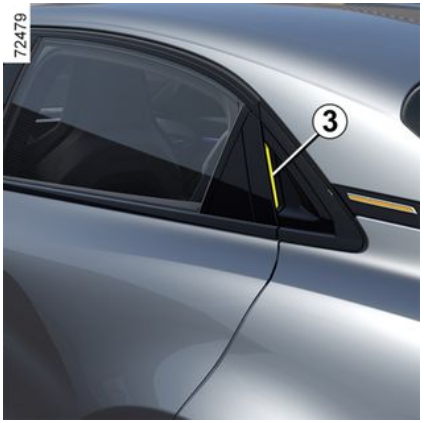
フロントドアには、車両の状態に応じて自動的に折りたたまれたハンドルが装備されています。

– 車両のロックを解除すると、ハンドルが展開され、車両にアクセスできる状態になります。
– 車両をロックするとハンドルは折り畳まれます。
– 5 km/h 以上では、ハンドルが折りたたまれた状態。
– リバース時にハンドルが折りたたまれた状態。

展開すると、開閉部に何も操作がない場合、約 3 分後にハンドルが自動的に折りたたまれます。

ハンドルは、手動でも電動でも展開できます。展開するには、ロックカバー ***2*** を動かし、ハンドル ***1*** の端部 ***A*** を手で握ります。

#### リアドア




ドアのロックが解除されたら、ハンドル ***3*** を持って手前に引きます。

安全のために、ドアやラゲッジルームの開閉は必ず停車した状態で行ってください。

## 車内からドアを開けるとき

ドアハンドル ***4*** を引きます。

次の方法で、車両内からフロント外部ハンドルを折りたたむことができます。

– ドアを開ける
– 車両がロックされているときに中央ロックボタンを 1 回、またはロック解除時に 2 回押す。

運転中には、次の場合にハンドルが自動的に折り畳まれます。

– 車速が約 5 km/h を超えた直後。
– 後退時

## ライト消し忘れ警告アラーム音

運転席側ドアを開けると警告ブザーが鳴り、ランプが点灯していることを知らせます。

## ドアまたはテールゲートの締め忘れ警告ブザー

停止時に、インストルメントパネルで

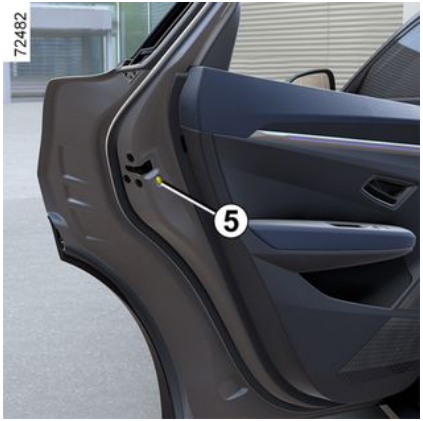
警告灯と、ドア／トランクが開いているか半ドアになっていることを知らせる警告灯が点灯します。

車速が約 20 km/h に達すると、ドアまたはトランクが開いているか正しく閉まっていない場合に警告灯が点灯し、「トランク開」または「ドア開」というメッセージが表示され、ドアまたはトランクを閉めるまでビープ音が約 40 秒間鳴ります。

**特徴**

エンジンを OFF にした後も、運転席ドアが開くまでランプとアクセサリ（ラジオなど）は作動し続けます。

## 子供を乗車させるとき




リアドアを内側から開けられないようするには、レバー ***5*** を下げ、車内からドアが確実にロックされたことを確認します。

**駐車または停車時のドライバーの責任**
お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。彼らがエンジンを始動したり、パワーウインドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険です。
その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。
**死亡または重傷のおそれがあります。**

## 開閉部およびドアのロック、ロック解除

### カードが作動しない場合:

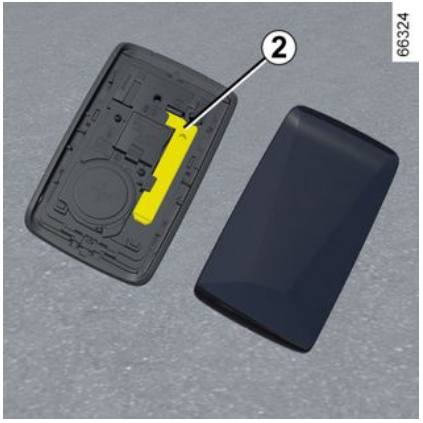
**次のような場合には**、カードキーが作動しないことがあります:

– カードのバッテリー残量が低下しているかゼロの場合。
– リモコンの近くで電子機器（携帯電話など）を使用したことが原因です。
– 強い電磁波の影響内に車両がある時。

このような場合は次のようにします：

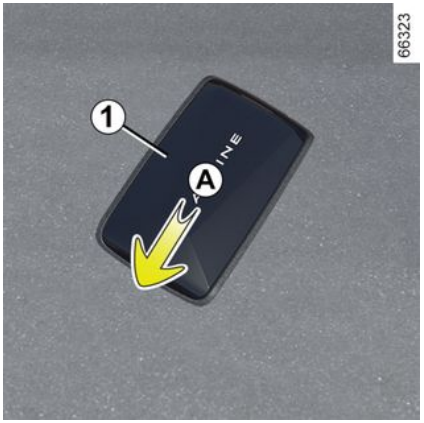
– カードに内蔵されているキーの使用方法。
– 各ドアを手動でロックする
– ドア内側のロック／ロック解除制御装置を使うこと。

### カードの内蔵キー




内蔵キー ***2*** は、カードが機能しない場合にフロント左側ドアをロックまたはロック解除するのに使用できます。

### キー 2 によるアクセス

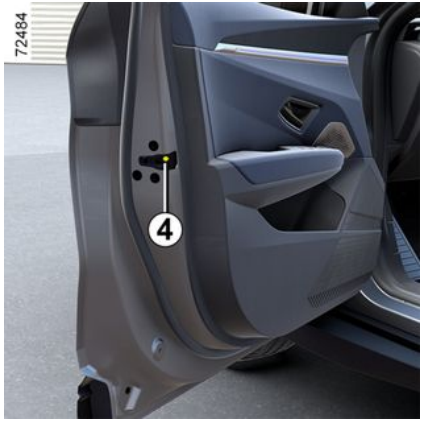



領域 ***A*** を押しながらリアケース ***1*** を下にスライドさせます。

## カード内蔵キーの使用法

左側を押してロックカバー ***3*** を動かし、キー ***2*** をロックに差し込むと、運転席のドアをロックまたはロック解除できます。

## 手動によるドアのロック




ドアを開けた状態で、ねじ ***4*** を（キーの先端で）回し、てドアを閉めます。

これでドアを車外からロックできます。

この場合、ドアは車内から開けるか、左フロントドアをスペアキーによってのみ開けることができます。

## 車内のロック／ロック解除スイッチ

スイッチ ***5*** を使うと、ドアとテールゲートを同時に制御できます。

ドア（またはテールゲート）がひとつでも開いていると、ドアのロック／ロック解除がすばやく 1 回行われます。

テールゲートを開けたまま荷物を運ぶ場合にも、他の開閉部はいずれもロックしたままにできます。これを行うには、**イグニッションスイッチを OFF にした状態で**スイッチ ***5*** を 5 秒間以上長押ししてください。

# ドアと開閉部

## ドアのロック状態を告げる警告灯

**イグニッションスイッチを ON にすると**、スイッチ ***5*** に内蔵された警告灯により、開閉部のロック状況を次のように把握できます。

– 警告灯が点灯している場合は、ドアとテールゲートがロックされています。
– 表示灯が消えているとき、ドアはロック解除されています。

**イグニッションがオフの場合に**ドアをロックすると、警告灯がしばらく点灯してから消灯します。

カードのボタンを押して車両のロック／ロック解除を行うと、リモートロック機能と「ハンズフリー」モードによるロック解除機能が無効化されます。
「ハンズフリー」機能を復旧するには、車両を再発進させます。

## カードを使わずにドアをロックする

電池が消耗したり、カードが一時的に作動しなくなったなどの場合。

**イグニッションスイッチを OFF にし、ドア またはテールゲートを開けた状態で、**スイッチ ***5*** を 5 秒間以上長押しします。

次にドアを閉めると、全ての開口部がロックされます。

**注:** カードが車両の乗員検出ゾーン内にあるか、カード内蔵キーを使用する場合には、車両の外からのみロックを解除できます。

カードキーを車内に置いたまま、決して車両から離れないでください。

**ドライバーの責務**
ロックしたままの走行は、緊急の場合に乗 員の救出が困難になる恐れがあります。

## 車速感応式オートドアロック

### 作動原理

車両の始動後に速度が約 10 km/h になると、ドアは自動的にロックされます。

ロックの解除：

– ドアロック／ロック解除スイッチ ***1*** を押す方法。
– 停止時に、社内からフロントドアを開ける。

**注:** ドア開閉後も、車速が約 10 km/h 以上になると、ドアは自動的に再ロックされます。

### 機能の起動／作動解除

**有効化するには、**車両を静止させてエンジンを回転させ、ビープ音が聴こえるまで少なくとも 5 秒間はスイッチ ***1*** を押します。

**無効化するには、**車両を静止させてエンジンを回転させ、ビープ音が 2 回聴こえるまで少なくとも 5 秒間はスイッチ ***1*** を押します。

（車両によっては）この機能を、マルチメディア画面 ➔ **132** を通じて有効化または無効化することもできます。

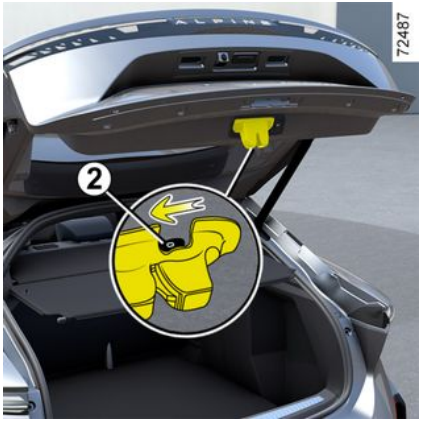
### 作動異常

作動不良が生じている（集中ロックできない、ドアやテールゲートはロックされているのにスイッチの表示灯 ***1*** が点灯しないなど）場合は、集中ロックが誤って無効化されていないことと、すべての開閉部が完全に閉まっていることを確認してください。ドアがしかっりと閉まっているのにオートドアロックが作動しない場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。

**ドライバーの責務**
ロックしたままの走行は、緊急の場合に乗 員の救出が困難になる恐れがあります。

## Luggage compartment

### 車内から手動で開けるとき




トランクのロックを解除できない場合、ロックは内側から手動で解除できます。

– リアシートの背もたれを倒すとトランクにアクセスできます。
– 図に示すように、マイナスドライバーなどのツールを緊急開レバー***2***に差し込み、左にスライドさせます。
– テールゲートを押して開きます。

テールゲート上へのルーフキャリア（バイクラック、ラゲッジボックスなど）は禁じられています。お使いの車両に運搬装置を取り付けたい場合は、認定ディーラにご相談ください。

## 自動テールゲート

### 使用条件

– 車両が動かない状態にします。
– 凍結や積雪でテールゲートが開かない場合は、凍結や積雪を除去してからテールゲートを開けてください。
– バッテリーの放電または交換後には、テールゲートを（必要であれば手で）閉じて、テールゲートモータを再始動してください。

**駐車または停車時のドライバーの責任**
たとえ短い時間であっても、お子様、支援が必要な大人またはペットが車内またはテールゲート後部に残したままお車から離れることはお止めください。
残された方やペットが誤ってエンジンを始動したり、パワーウインドウ、自動テールゲート、ドア施錠といった装置を作動させると大変危険です。
**死亡または重傷のおそれがあります。**

運搬装置（自転車運搬用ラック、運搬ボックスなど）をテールゲートに取り付けることは禁じられています。
お使いの車両に運搬装置を取り付けたい場合は、認定ディーラにご相談ください。

## 開閉

電動テールゲートの開閉は、**3 つの音声信号**で通知されます。

テールゲート開閉時には、付近に人がいないか確認してください。
**場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。**

装備によっては、テールゲートとドアが同時に施錠および解錠されます。

テールゲートは次の方法で操作できます。

– カードをリモコンとして使用する。
– バンパとテールゲートのコントロールを使用します。
– ダッシュボードのスイッチを使用する。

安全のために、ドアやラゲッジルームの開閉は必ず停車した状態で行ってください。
**場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。**

テールゲートシステムの損傷を避けるため、テールゲート作動中に手でテールゲートを強制開閉するのはお止めください。

## リモコンカードを使う方法。

エンジンを停止し、トランク付近でカードのスイッチ***1***を押したままにします。

## テールゲートの外にある開閉コントロールを使う方法

コントロール***2***を押します。

## テールゲートの中にある開閉コントロールを使う方法

コントロール***3***を押します。

## ダッシュボード上のコントロールを使用する方法

**テールゲートを開くには**、スイッチ ***4*** を、信号音が聴こえるまで長押しし、聴こえたらすぐに解放します。

**注:** ビープ音が聴こえたらすぐに（約 1 秒以内に）スイッチから手を離さないと、テールゲートは開きません。開かなかった場合は、上記の手順を繰り返します。

**テールゲートを閉じるには**、テールゲートが完全に閉じるまでスイッチ ***4*** を長押しします。この操作中にはビープ音が鳴ります。

**注記:** テールゲートが完全に閉じる前にスイッチ ***4*** を離すと、閉鎖操作が中断されます。

# ドアと開閉部

## テールゲートの作動停止

電動テールゲートの動きは、開閉制御装置のいずれか 1 つを短押しすることでいつでも停止できます。

テールゲートを中間位置で静止させた状態でもう 1 度押すと、静止直前とは逆の方向に動きます。

## 手動コールモード

テールゲート停止後は、お好みに応じて手で操作できます。

コントロールの 1 つを押すと、いつでも自動操作に切り替えられます。

## 障害物の検出

テールゲートは、作動中に障害物を検出すると停止します。この場合ゲートは、反対方向に少し動いて障害物から離れた状態で完全停止します。

障害物を取り除いてテールゲート開閉コントロールを押すと、再び作動します。

障害物検出機能は、テールゲート開閉の支援機能であり、ユーザーが払うべき注意や責任に代わるものではありません。
テールゲート開閉時には次のことに気を付けます。

– 可動部分の近くに誰もいないことを確認してください。
– 小さな障害物は検出されないことがあります。テールゲートの可動部付近には（腕、手、指などで）触れないでください。

この障害物検出機能は、テールゲートが完全に閉じる前の、可動域の終端に到達すると無効化されます。作動の障害物に気付いた場合は、開閉制御装置のいずれか 1 つを短押しして作動を止めます。
**大ケガを負う危険があります。**

## テールゲート開角度の制限

テールゲートの最大開高さを調整し、その位置で常に停止するよう設定できます。

– テールゲートを中間位置まで開きます。
– テールゲートをお好みの位置まで手で動かします。
– この位置を記憶させるには、電動テールゲート制御装置 ***3*** を 3 秒超押します。

設定が保存されると**ビープ音が2 回**鳴ります。

## 使用時の注意

– テールゲートは、周囲にテールゲート作動に十分なスペースがあるか確認してから開閉してください。
– テールゲートの自動作動中に複数回にわたって手で動きを停めるのはお止めください（テールゲートシステムに損傷が及ぶ危険があります）。

## 作動異常

自動テールゲートを約 1 分間連続操作（一連の開閉操作）すると、過熱を防ぐためにロックされます。システムは約 1 分後に再作動可能になります。

バッテリーの充電残量が少なくなると自動テールゲートは作動しなくなります。この場合は、エンジンを回転させ、自動テールゲートを作動させてください。

**注：**極寒冷の天候条件化では、テールゲートのシールが凍結している場合、自動開放が機能しない場合があります。

# 顔認識

## 作動

マルチメディアシステム ***1*** からプロフィールを保存しておくと、乗車後に、顔認識機能を用いて「ユーザー」設定（運転位置など）を呼び出すことができます。

運転席ドアが閉まると、室内カメラ ***2*** が顔を検出し、保存したユーザープロファイルにリンクされた顔画像と関連付けるとすぐに、事前に記録された設定がアクティブになります（運転位置、携帯電話、カレンダーなどへの接続）。

**注意：**リアビューカメラに汚れや泥、雪などが付着して遮られていないか、または覆われていないか点検してください。

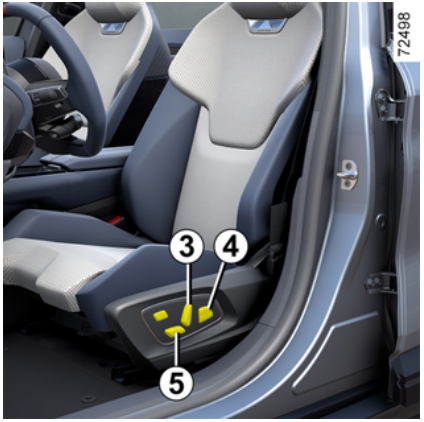
## ユーザープロファイルの管理

安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

ユーザープロファイルを作成するか、顔画像を更新した後、ドアを閉めてからマルチメディアシステムが新しい情報を考慮に入れるまで約 30 秒待ってください。

**注意：** 複数のプロファイルに同じ顔を登録することはできません。

顔認証システムを使用したーザープロファイルの管理とプロファイルの保存に関する詳細については、マルチメディア取扱説明書をご覧ください。




「ユーザー」プロファイルから運転位置の呼び出しを有効にしていた場合、顔が認識されるとすぐにシートが自動的に動き始め、記憶された位置に移動します。

シートが所定の位置まで動く途中、シート調整ボタン***3***、***4***または***5***のいずれかを押すことでシートの移動を中断できます。**警戒心を持って行います。**

## システム作動時間の制限

次のような特定の条件により、システムの動作が妨げられる場合があります。

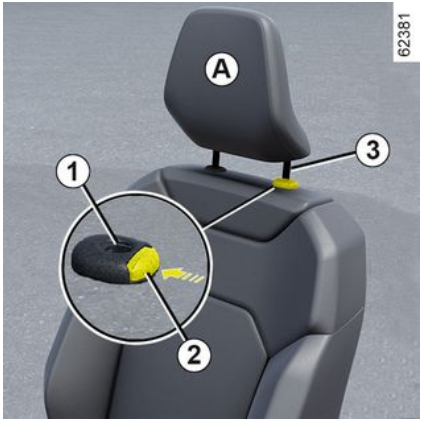
– 特定の種類のメガネを着用しているとき。
– カメラが部分的にでも遮られている場合。
– ドライバーの顔の一部が隠されている場合（髪の毛、サージカルマスク、スカーフなどによって）。
– カメラが顔を適切に分析できない可能性のある不適切な運転位置（座り心が低すぎる、後ろに傾くなど）。
– 反射服を着ている場合。
– ...

このような場合、認識中に顔画像がカメラ ***2*** で認識されなかった場合、デフォルトでシステムは最後に使用されたプロファイルを提案します。

## フロントシートのヘッドレスト

### ヘッドレストの取外し

(車種によります)




ヘッドレストを上方へ引き上げて好みの高さに調節します。確実にロックされていることを確認してください。

### ヘッドレストを下げる

ボタン ***2*** を押してヘッドレストをお好みの高さまで誘導します。確実にロックされていることを確認してください。

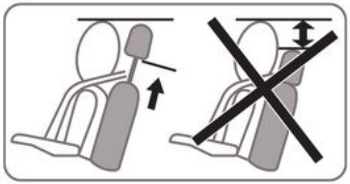
### ヘッドレストの取り外し

ヘッドレストを最高位置まで上げます（背もたれを後方へ倒します）。解放するにはボタン ***2*** を押してヘッドレストを持ち上げます。

### ヘッドレストの取り付け

ヘッドレスト ***3*** がきれいか点検します。

ヘッドレストロッドを穴 ***1*** に差し込みます（背もたれを後方へ倒します）。ロックされるまでヘッドレストを差し込み、ボタン ***2*** を押して希望の高さに調整します。各ロッド ***3*** が背もたれに確実にロックされているか確認します。




> ヘッドレストはセーフティ 部品ですから必ず装着し正 しい位置で使用してくださ い。ヘッドレストの高さはできるだけ頭のてっぺんに 合わせるようにしてください。ご自身の頭とセクション ***A*** の間の距離はできる限り小さくしてください。

## フロントシート

### マニュアル調節式フロントシート

#### シートを前後に動かすには

# フロントシート

ロックを解除するにはハンドル ***1*** を持ち上げます。ハンドルをお好みの位置で離し、しっかりラッチされていることを確認してください。

### 運転席の腰部の調節

（車種によります）

ランバーパッドを調整するにはスイッチ ***2*** を前後に押します。

### シートクッションの上下調節

レバー ***3*** を必要な回数だけ上げ下げします。

### 背もたれを傾ける

ハンドル ***4*** を可能な限り持ち上げ、背もたれを希望の位置まで傾けます。ハンドルをお好みの位置で離し、しっかりラッチされていることを確認してください。

> ⚠ 背もたれが調節後に正しくロックされることを確認します。

> ⚠ 安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。
> 背もたれを後方に傾けすぎると、シートベルトの効果がなくなるおそれがありますのでご注意ください。
> フロア（ドライバーの前）には物を置かないでください。急ブレーキング時、物がペダルの下にスライドして使用を妨げる恐れがあります。

### 「お気に入り」機能

車両によっては、ステアリングホイールの制御装置 ***6*** を押すことで、コントロールを押すことで、あらかじめ定義し記憶させたユーザー設定に従ってヒーター付き座席のヒーターを有効化できます。

この機能のプログラムについては、マルチメディアの指示を参照してください。

## 電動フロントシート

運転席シートに装備されています。

マルチメディア画面上の「座席」メニューにアクセスするには、スイッチ ***1*** を使用します。

### 背もたれの調節

**背もたれを傾けるには、**スイッチ ***2*** の上部を前後に動かします。

### 運転席の腰部の調節

スイッチ ***3*** を前後上下に動かします。

# フロントシート

## シートの位置の調節

**前後方向の調節**

スイッチ ***4*** を前方または後方に動かします。

**シートクッションの上下調節**

スイッチ ***4*** の後部を上または下に動かします。

**シートクッションの前部を傾けたり持ち上げたりする方法**（車両によります）

スイッチ***4***の前部を下または上に動かします。

安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

背もたれを後方に傾けすぎると、シートベルトの効果がなくなるおそれがありますのでご注意ください。

床の上（運転席の前）には 物を置かないようにしてください。急ブレーキが必要なときに、ペダルの下に物が滑り込んで急ブレーキを踏む妨げになる危険があります。

## ヒーティングシート

車両によっては、イグニッションスイッチを ON にした状態で、次の方法により、マルチメディア画面 ***5*** からヒーター付き座席のヒーターを有効化できます。

– 必要なシートの の絵文字を初めて押すと、ヒーターシステムが最大出力で作動します。警告灯に内蔵されている 3 つのスイッチが点灯します。
– 2回目に押すと、ヒーターシステムが中程度の出力になります。2 つの一体型警告灯が点灯します。
– 3回目に押すと、ヒーターシステムが最小出力になります。1 つの一体型警告灯が点灯します。
– 4回目に押すと、ヒーターがオフになります。

また、無駄なエネルギー消費を防ぐため、乗員がいないときは助手席のシートヒータを自動的に停止させることができます。

# フロントシート

## 「お気に入り」機能

車両によっては、ステアリングホイールの制御装置 ***6*** を押すことで、コントロールを押すことで、あらかじめ定義し記憶させたユーザー設定に従ってヒーター付き座席のヒーターを有効化できます。

この機能のプログラムについては、マルチメディアの指示を参照してください。

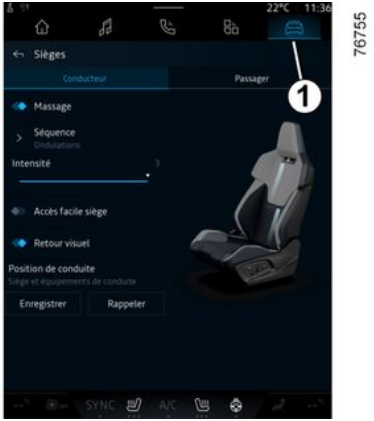
## フロントシート: 機能

車両によっては、マルチファンクション画面から多数のシート機能を利用できます。

該当する座席のスイッチ***A***を短く押すと、マルチメディア画面の「ｼｰﾄ」メニューに直接アクセスできます。

### マッサージシート

(車種によります)




運転席（車両によっては助手席）の「マッサージ」機能を有効化できます。

イグニッションスイッチを ON にした状態で、マルチメディア画面から、「車両」ワールド ***1*** を選択し、「座席」>「マッサージ」の順に選択します。

「ドライバー」メニューを参照:

– 5つの選択肢からマッサージモードを選択します。
– 強度を3段階（1、2、3）で調整します。
– マッサージシートをオン / オフにできます。

該当する座席のスイッチ***A***を押し続けて、前のマッサージサイクルを再起動します。

# フロントシート

## 設定

この設定にアクセスする方法については、マルチメディア装置の取扱説明書を参照してください。

次の要素を有効または無効にできます：

– 運転席 / 助手席への簡単なアクセス。
– 現在の動きの視覚的なフィードバック。

**注:** ユーザープロファイルが「ゲスト」の場合、自動調整機能は使用できません。

## イージーアクセス

この機能が有効な場合は次のようになります。

– 車両を静止した状態の場合、運転席は次のように動きます。
  – ドアを開ける（エンジンスイッチが OFF の場合）かエンジンスイッチを OFF にする（ドアが開いている場合）と後ろに動きます。
  – エンジンを始動させる（ドアが閉じている場合）かドアを閉じる（エンジンが作動している場合）と前に動きます。
– 助手席は、ドアを開けると後ろに動き、ドアを閉めると前に動きます。

シートは自動で動きます。シート調整ボタン ***3***、***4***、***5*** のいずれかを押すと、移動を中断できます。

助手席／リアシートにチャイルドシートを取り付ける際には、「イージーアクセス」機能を無効化してから取り付けてください。
**場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。**

## 位置




運転席 / 助手席のドライビングポジションの位置も保存できます。

ドライビングポジションには、シートクッションとシートバックと外部リアビューミラーの設定が含まれています。

運転位置は、マルチメディアシステムにおいてボタン ***3***、***4***、***5*** （➔ 68）を押し次のように操作することで、記憶したり呼び出したりできます。

– ユーザープロファイルを変更する。
– 運転席シートの「記憶位置へ」ボタンを押す。

## ドライビングポジションのメモリー

– ボタン ***3***、***4***、***5*** を使用して運転席を調整します ➔ 68。
– ドアミラー ➔ 141 を調整できます。

記憶したドライビングポジションにアクセスする方法については、マルチメディア装置の取扱説明書を参照してください。

前進時、後退時のドアミラーの位置と、運転席の位置が記憶されます。

## ドライビングポジションを呼び出す

ドライビングポジションを記憶する方法については、マルチメディア装置の取扱説明書を参照してください。

シート調整ボタン ***3***、***4***、***5*** のいずれかを押すと、記憶されたドライビングポジションリマインダーを中断できます。

# フロントシート

## « Relax 姿勢 »

車両の静止中には、くつろぎやすいシート位置で休憩できるよう、運転席を後ろに下げて倒すことができます。これを行うには、「有効にする」を押します。

移動の進行を中断するには、シート調整ボタン ***3***、***4***、***5*** のいずれかを押すか、マルチメディア画面で「運転位置に戻す」を押します。

**注:** 車両の充電時は、位置を有効にするかどうかを確認するメッセージがマルチメディア画面に自動的に表示されます。有効化時に、「Relax 姿勢」設定にアクセスすることができます。

「Relax 姿勢」の詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

「Relax 姿勢」を使用したり、運転位置（位置メモリー、プロファイルの変更）を呼び出したりする前に、可動部分（特にリアシート付近）に誰もいないことを確認してください。
**場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。**

## リアシートのヘッドレスト

### ヘッドレストの取り外し

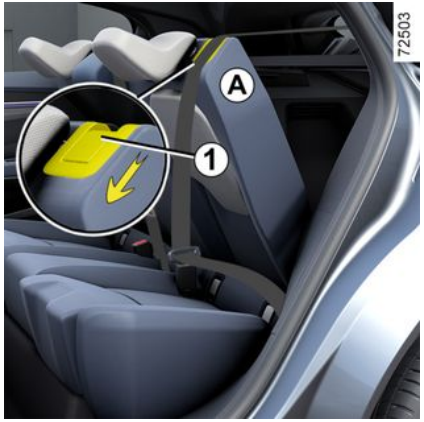
ベンチシートを前方に傾け、ボタン ***1*** を押してヘッドレスト ***2*** を取り外します。

### ヘッドレストの取り付け

ベンチシートを前方に傾けて、ロッドを穴に差し込み、ロックするまでヘッドレストを押し込みます。確実にロックされていることを確認してください。

## リアシート: 機能

### 機能




**背もたれの畳み方**

フロントシートは十分に前に出しておいてください。

背もたれを折りたたむ前に、センターヘッドレストを最後まで下ろします。

リアシートを折りたたむ前に、該当シートの**シートベルトバックル**を対応するキャッチに固定します。

そうすることで、使用の際、背もたれがその位置に戻ったときに、シートベルトがはさみ込まれることを防ぎます。

すべての場合で、シートベルトが正常に作動することを確認してください。

パドル***1***を引き、シートバック***A***を下げます。

**背もたれを取付ける際には、**取外しと逆の手順で行います。

シートバックのロックジョイントに達するまで、シートバックをもう一度上げます。

シートバックとパーセルシェルフの間にシートベルトが詰まらないように注意してください。

シートベルトの操作を確認します。

> ⚠ リアシートを操作する際は、シートの固定を妨げる異物が挟まっていないことを確認してから行ってください（体の一部、ペットや動物、小石、布、おもちゃなど）。

## 後席

**背もたれを元の位置に戻す ときは**、背もたれがしっか りとロックされていること を確かめてください。
**シートカバーを使用する場合は**、背もたれのロックが妨げられないように気をつけてください。
シートベルトが正しい位置にあるか確かめてください。
ヘッドレストを元の位置に戻します。

# シートベルト

## はじめに

安全のため走行時には必ずシートベルトを着用してください。また各国の安全規格に従ってベルトの着用義務を果たしてください。

**エンジンを始動させる前にまずはドライビングポジションの調整を行い、次に最大限の安全を確保するべく全乗員のシートベルト位置を調整します。**

## シートベルト

### ドライビングポジションの調節

– **シートに深く腰掛けます**（コートやジャケットなど脱ぐこと）。必ず、背中が正しい位置になるようにお座りください。
– **シートベルトとペダルの位置を調節します。**ペダルを深く踏み込める位置を確認し、それより後方にスライドしないようにしてください。背もたれは、ハンドルを握って肘を軽く曲げた状態を保てる角度に調節します。
– **ヘッドレストの位置を調節します。**安全効果を高めるため、ヘッドレストと頭部はできるだけ近づけてください；
– **シートの高さを調節します。**この調節を行うことで、運転中の視界が良好に確保できます。
– **ステアリングポジションを調節します。**

ⓘ リアシートベルトが正しく作動するよう、リアベンチシート ➔ **73** が定位置に正しくロック定されているか確認します。

⚠ シートベルトの調節が正しく行われていなかったり捩れたりしていると、事故などが起こった場合に負傷を最小限に抑えられない危険があります。
シートベルトは１人（大人でも子供でも）につき１つご使用ください。
妊娠中の方も必ずシートベルトを着用してください。この場合には、ラップベルトの余分な遊びをなくし下腹部に圧力がかかり過ぎないように注意します。

### シートベルトの調節

どの座席のシートベルトについても調整と位置決めを正しく行うには、次のように対応してください。

– シートを調整します（使用可能な場合、シートの位置とシートバック角度）。
– 背もたれに背中が密着するように深く座ります
– 肩ベルト ***1*** を、首の付け根に限りなく近く、首には触れない位置まで動かし（必要であればシートベルトの高さも調整し）、肩ベルト ***1*** が肩に当たっているか確認します。
– 腰ベルト ***2*** が腰骨に当たり、腿の上に平らに配置されるようにします。

シートベルトはできるだけ体に密着するように着用する必要があります。

# シートベルト

## ロック

ベルトを**ゆっくりと、勢いをつけずに**引き出し、バックル ***3*** をシートベルトキャッチャー ***5*** 内にロックします（バックル ***3*** を引っ張ってロックを確認します）。

ベルトが引っかかった場合は、いったんベルトを大きく戻し、再度引き出してください。

ベルトが完全に動かない場合は、ゆっくり強く引いて、約 3 cm 引き出します。ひとりでに巻き戻されるままにし、次に再び引き出します。

不具合が直らない場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。

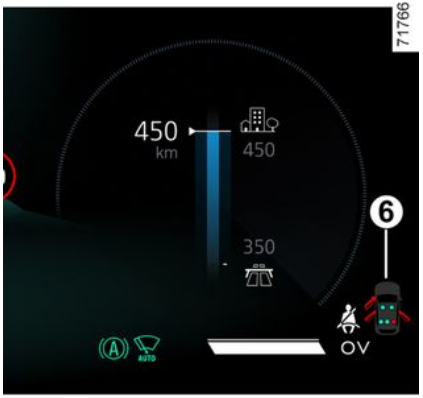
## ロック解除方法

ボタン ***4*** を押すと、シートベルトは慣性リールにより巻き取られます。手を添えてください。

## シートベルト締め忘れ警告灯

この警告灯は、運転席シートベルト（助手席に乗員が存在する場合は助手席シートベルトも）が着用されていない状態で車両のイグニッションスイッチが ON にされると、センターディスプレイ ***A*** 上に表示されます。

## フロントおよびリアシートベルト締め忘れ警告灯




ドア閉後に車両のイグニッションスイッチを ON にすると、図 ***6*** がインストルメントパネル上に約 60 秒間表示されます。これにより、次の場合に、その都度、各シートベルトの着用状態がドライバーに通知されます。

– 走行中に（車速がゼロ超の状態で）ドアが開いた場合。
– シートベルトが着用された／外された場合。

**図 *6* の説明:**

– 緑色記号: シートベルト着用状態です。
– 赤色記号: 座席使用者がおりシートベルト未着用の状態です。
– 灰色記号: 座席使用者がいない状態です。

ドア閉後も運転席／助手席のシートベルトが（乗員は存在するにもかかわらず）未着用の場合、車両のイグニッションスイッチを ON にすると 警告灯がセンターディスプレイ上に表示されます。

車速が約 20 km/h未満の状況で、シートにシートベルト未着用の乗員がいると、警告灯 がセンターディスプレイ上に表示されます。

この場合には、シートベルトのいずれかが着用または未着用の状態になるたびに図 ***6*** が約 60 秒間表示されます。

# シートベルト

車速が約 20 km/h を超えたときに、シートベルトのいずれかが非着用状態になると、次のようになります。

– センターディスプレイで 警告灯が点滅します。

と

– ビープ音が約 120 秒にわたって鳴ります。

と

– 図 ***6*** が約 180 秒間表示され、関連シートの記号が赤色に変わります。

フロントシートの乗員がシートベルトを正しく着用しているかについては常に確認してください。また、着用シートベルト数とシートにいる乗員の数は常に一致していなければなりません。

**注:** 状況によっては、シートのいずれかに物を置いた場合に警告が行われることもあります。

## フロントシートベルトの高さ調節

ボタン ***7*** を押してシートベルトの高さを調整し、胸部ベルトを上図の位置にします。シートベルトを上げ下げするには、ボタン ***7*** を押します。高さ調節後は、ベルト取付け部がしっ かりロックされているか確認してくだ さい。

## リアシートベルト

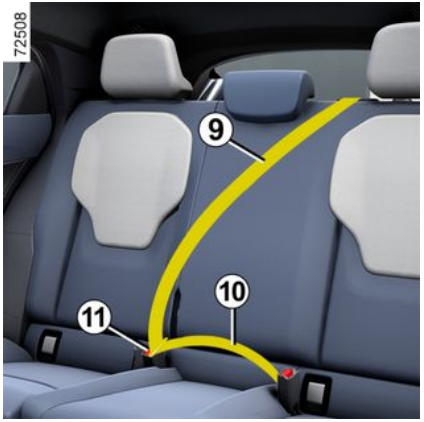
### リア両サイドのシートベルト 8

シートベルトの装着、取外し、調節は、フロントシートベルトと同様に行います。

> リアシートを操作した場合 は、その都度シートベルト の位置と正しく機能するか を確認します。

# シートベルト

## リアセンターシートベルト 9




シートベルト ***9*** をゆっくり引き出します。

バックル ***10*** を赤色のキャッチャー ***11*** 内に挿入します。

## 警告

**フロント／リアシートベルトに関する注意事項**



– 初めから車両に取り付けられている拘束システム部品（シートベルト、座席、固定具）は絶対に改造しないでください。特別な場合には（たとえば、チャイルドシートの取り付けなど）、指定サービス工場にご相談ください。
– シートベルトをたるませるためにキャッチの中にピンやクリップなどを突っ込んだり取り付けないでください。緩すぎるシートベルトは万一の事故の際に大変危険です。
– 絶対に胸部ベルトを腕の下や背中に回さないでください。
– 同じシートベルトを複数の人間で使わないでください。乳幼児やお子様を膝の上に乗せてシートベルトを装着しないでください。
– シートベルトを着用するときは、ねじれのないように注意してください。
– 車両が事故にあった後は、シートベルトの交換が必要かどうかを指定サービス工場で必ず確認してください。また、明ら かに損傷がある場合はシートベルトを交換してください。
– リアベンチシートを元通りにするときは、シートベルトとバックルを挟み込まないように注意して、正しい位置にもどしてください。
– シートベルトのタングプレートは対応するバックルに差し込んでください。
– シートベルトのロック部分に異物が挟まっていないか確認してください。ベルトの機能を妨げる可能性があります。
– 固定ブロックが適切な位置にあることを確認してください。（人や物によって隠れたり、つぶされたり、押さえられたりしてはいけません。）

## フロントシートベルト補助拘束装置

### はじめに

この装置は次のもので構成されています。

– **シートベルトリトラクタプリテンショナー、**
– **腹部シートベルトプリテンショナー。**
– **胸部フォースリミッター、**
– airbags **運転席および助手席フロント。**

これらのシステムは正面から衝撃があった際に、独立または連動して作動します。

衝撃の強さに応じて、システムは次のように作動します。

– シートベルトをロックする。
– 慣性リールシートベルトプリテンショナーを作動させ、シートベルトのたるみをなくす。
– 腹部シートベルトプリテンショナーを作動させ、乗員を座席に固定する。
– フロントairbag。

### シートベルトプリテンショナー

プリテンショナーには、シートベルトを体に密着させることで乗員をシートに固定し、シートベルトの効果を高める 働きがあります。

この装置はイグニッションスイッチがON のときのみ作動します。車両前面から衝撃を受けると、その衝撃の大きさに応じて、システムが作動します：

– シートベルトを瞬間的に巻き込む慣性リールシートベルトプリテンショナー ***1***。
– フロントシートに装備されている慣性リール腹部シートベルトプリテンショナー ***2***。

– 万一車両が事故にあった場 合は、指定サービス工場で 全拘束装置の点検を受けて ください。
– プリテンショナ、airbags、電子部品、配線には絶対に触れないでください。また、それらの部品を他の車両（たとえ同じモデルであっても）に付け替えたりは絶対にしないでください。
– 突然作動してケガをする恐れがありますので、airbags の修理点検は必ず正規サービス工場で行ってください。
– プリテンショナーの起動装置の電 気系統に関する点検修理は、特別 にトレーニングを受け、専用の機 器を用意している指定サービス工 場にお任せください。
– 車両を廃棄処分にする場合、プリテンショナーおよびairbagsガス発生器を処理する必要があります。指定サービス工場にご相談ください。

### ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターは、衝撃が一定以上加わると、限度内においてベ

ルトを伸ばし、体に加わる衝撃を緩和します。

## 運転席および助手席フロントエアバッグ。

運転席と助手席の正面に設置されています。

フロントウィンドウの下部にある記号は、この装置が存在するかどうかを示しています（車両によって異なります）。

airbag システムは次のコンポーネントで構成されています：

– airbagおよびガス発生器は、運転席のステアリングホイール、助手席のダッシュボードに取り付けられています。
– ガスジェネレーターの電動イグナイター制御システムを制御する電子制御ユニット
– リモートセンサー。
– 次の場合にルーフコンソール ***3*** 上に表示される制御警告灯。

  – が点灯している場合、助手席 airbag は有効化されています。

  – が点灯している場合、助手席 airbag は無効化されています。

airbagシステムは着火の原理で作動します。このため、エアバッグが膨らむと加熱して発煙し（火災が起こるわけではありません）、起爆のような音が鳴ります。airbagの展開が必要な状況下では、瞬時に膨張するため、これにより肌の軽い擦りむきなどが生じることがあります。

### 作動

このシステムは、イグニッションスイッチ が ON のときのみ作動します。

airbags は、正面から激しい衝撃を受けるとは瞬時に膨張し、ドライバーおよび助手席乗員の頭部および胸部がステアリングおよびダッシュボードにぶつかるときの衝撃を緩和します。また、膨張したエアバッグは衝撃後にすぐに収縮するため、車両から脱出する際の妨げになりません。

### 作動異常

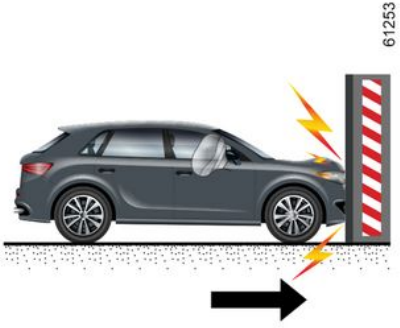
エンジンの起動時に、この警告灯がセンターディスプレイに点灯して約65秒後に消灯します。

# 補助の安全装置

イグニッションスイッチを ON にしても点灯しない、または点灯し続ける場合は、エアバッグシステムに何らかの異常があります。

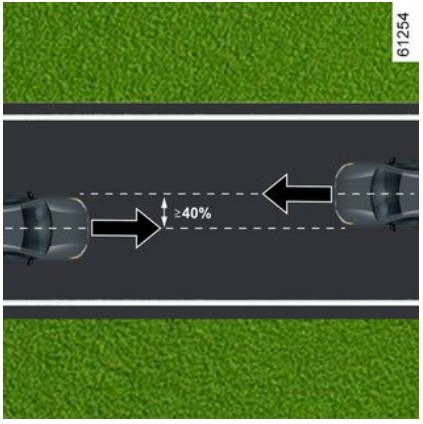
できるだけ早くルノー正規サービス工場で点検をお受けください。

点検整備が遅れると、万一の事故の際に十分な乗員保護効果が得られない恐れがあります。

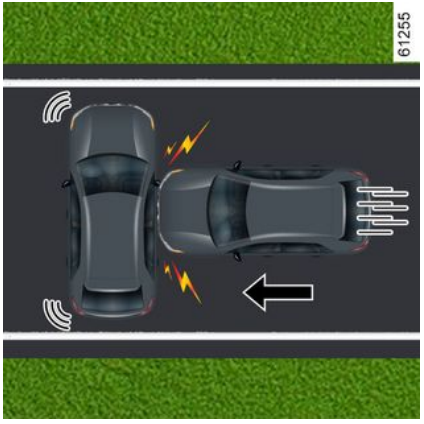



**プリテンショナまたは Airbags は、次の場合に作動します。**

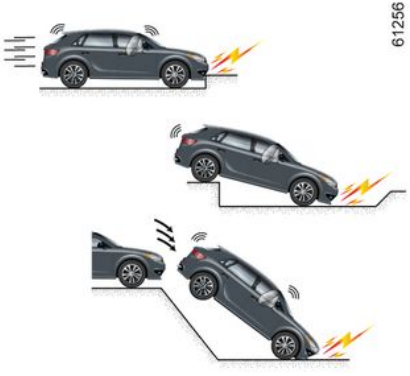
**25 km/h 以上の衝撃速度での硬質表面（変形していない）に対する正面衝突。**




**自車両の同等以上のカテゴリーに属する他車両と正面衝突した場合に、衝突面積が 40% 以上で、両車両の速度が 40 km/h を超えている場合。**




**同等またはそれ以上のカテゴリーの他の車両との側面衝突時に、衝突速度が 50 km/h を超える。**



# 補助の安全装置

**プリテンショナまたは Airbags は、次の場合に作動することがあります。**

– （舗装縁石に乗り上げたなどにより）車両底部に衝撃が及んだ場合。
– 穴
– 車両が落下または硬着陸した場合。
– 石
– ...

**次の場合、プリテンショナまたは Airbags は作動しないことがあります。**

– 車両後方からの激しい衝突の場合。
– 車両の転倒

– 車両の前方または後方で側面から衝突された場合。
– ローリーのテール下で前方から衝撃を受けた場合。
– 鋭い角度の障害物に対する前部衝突
– ...

**airbag の作動が妨げられぬようにし、作動時の衝撃による負傷を防止するため、次の注意事項は必ず守ってください。**

## 警告



**運転席のフロントに関連する警告airbag**

– ステアリングホイールやボスを絶対に改造しないでください。
– どんな状況においてもステアリングホイールボスに物を被せないでください。
– ステアリングホイールボスには異物（ステッカー、ロゴマーク、時計、スマホホルダーなど）を着けないでください。
– ステアリングホイールを絶対に取り外さないでください（指定サービス工場の技術者以外は絶対に行わないでください）。
– ステアリングには近づき過ぎないようにし、腕を少し曲げた状態になるよう運転席を調整します（詳しくは「運転位置調整」をご覧ください➔ **75**）。こうすることで、エアバッグが展開するのに十分な空間 が確保され、エアバッグの効果が正しく発揮されます。

**助手席に関連する警告airbag**

– ダッシュボードのairbag収納部分にステッカーやエンブレムを貼ったり、時計、電話台などのアクセサリーを取り付けたりしないでください。
– ダッシュボードと乗員の間には何も（ペット、傘、杖、缶、箱など）置かないでください。
– ダッシュボードの上またはシートの上に足を置かないでください。不安定な姿勢をとっていると、万一の事故の際、大ケガをするおそれがあります。ま た、乗車中はダッシュボードから頭や膝、腕などをできるだけ離してくださ い。

## リアシートベルト補助拘束装置

この装置は次のもので構成されています。

– **シートベルトリトラクタプリテンショナー**
– **胸部フォースリミッター**

これらのシステムは正面から衝撃があった際に、独立または連動して作動します。

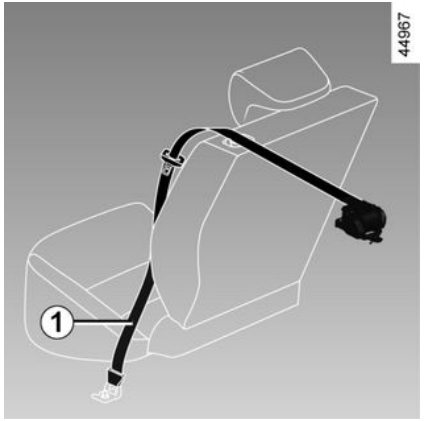
衝撃の強さに応じて、システムは次のように作動します。

– シートベルトをロックする。
– シートベルトリトラクタプリテンショナー（作動するとシートベルトのたるみがなくなります）。

## ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターは、衝撃が一定以上加わると、限度内においてベルトを伸ばし、体に加わる衝撃を緩和します。

## リアシートベルトプリテンショナー




プリテンショナーには、シートベルトを体に密着させることで乗員をシートに固定し、シートベルトの効果を高める 働きがあります。

イグニッションスイッチが ON の状態で前方から強い衝撃を受けると、衝撃の強さに応じて、システムは、慣性リールシートベルトプリテンショナー ***1*** を作動させ、即座にシートベルトを巻き込みます。

– 万一車両が事故にあった場 合は、指定サービス工場で 全拘束装置の点検を受けて ください。
– システムの一切の部品（プリテンショナ、airbags、コントロールユニット、配線）に手を加えないでください。システムの構成部品は同じモデルであるとしても絶対に別の車両で再利用しないでください。
– システムが誤って作動してケガをする恐れがありますので、プリテンショナとairbagsの修理点検は必ず資格のある作業員が行うようにしてください。
– プリテンショナーの起動装置の電 気系統に関する点検修理は、特別 にトレーニングを受け、専用の機 器を用意している指定サービス工 場にお任せください。
– 車両を廃車にする場合は、プリテンショナのガス発生器およびairbagsの廃棄について指定ディーラーにご連絡ください。

# 補助の安全装置

## サイドプロテクションシステム

2

### サイドエアバッグ

サイド airbag は運転席および助手席用にひとつずつ装着されており、側面から強い衝撃があった場合にシート側面（ドア側）からエアバッグが展開して乗員を保護します。

### カーテンエアバッグ

これは、車両の上部側面に(車種によります）装着されるairbagです。激しい側面衝突が生じると、フロントおよびリアドアの左右のウィンドウに沿って膨らみ、乗員を保護します。

### センターエアバッグ

このairbagは運転席に取り付けられ、深刻な側面衝撃が発生した場合に運転者と乗員を保護するために運転席と助手席の間に配置されます。

また、深刻な側面衝撃が発生した場合、ドライバーを保護するために展開します。

## 警告



**サイドairbagと中央airbag**に関する警告

– **再度**airbag **と中央 airbagの作動の妨げとなるため、フロントシートにシートカバーを取り付けることは禁じられています。**

– アクセサリーや物やペットなどを、背もたれ、ドア、インテリアトリムの間 に置かないでください。また 背もたれには衣類などを掛けないでください。これは、airbag の正しい作動を妨げ、エアバック作動時に乗員を負傷させる恐れがあります。

– 中央のアームレストを開位置の状態で運転しないでください。airbagの適切な動作に影響し、および / または作動時に負傷に至る恐れがあります。

– セントラルアームレストの収納スペースのカバー上に物があると、airbagの作動の妨げとなったり、作動時の怪我につながったりする恐れがあるため、物は置かないでください。

– セントラルアームレストの収納スペースに物があると、airbagの作動の妨げとなったり、作動時の怪我につながったりする恐れがあるため、物をぶら下げないでください。

– シートや内装品の手入れや改造は、正規整備工場の有資格作業員に限り実施できます。

– フロント背もたれにあるスロット（ドアサイドとセンターコンソール）は airbags 展開ゾーン上にあるため、これらのスロットには物を挿入しないでください。

## 警告

**airbag 作動の妨げを防止し、作動時の物体飛散による重傷を防ぐため、下記の注意事項は必ず守ってください。**

airbagはシートベルトの機能を補完するためのものです。airbagとシートベルトはどちらも同じ乗員保護システムにおいて不可欠な構成部品です。従って、シートベルトは必ず常時着用してください。シートベルトを着用しないと、事故の際に乗員が重傷を負う恐れがあります。airbagが展開する際には皮膚表面に軽い負傷が生じる危険を高めるものではありますが、このような軽い負傷はエアバッグに常に伴うリスクです。

転倒や後面衝突の際は、激しくても必ずプリテンショナーや airbags が作動するわけではありません。歩道への乗りあげ、車道の穴、石などによる車両の 下からの衝撃によってエアバッグが展開してしまうことがあります。

– airbagのすべての部位（airbags、プリテンショナ、コントロールユニット、配線ハーネスなど）の修理や変更は**固く禁じられています**（ネットワークの有資格者を除き）。
– システムを正常な状態に保ち誤作動を避けるためにも、ネットワークからの有資格者以外はairbagシステムでの修理を行わないでください。
– 安全のため、事故や盗難にあった場合には、airbagシステムの点検を受けてください。
– 車両を販売または貸出する際には、この車両ユーザーマニュアルを引き渡す際に、これらの条件を新しい購入者に知らせてください。
– 廃車の際には、ガス発生器の処分が必要なため、認定ディーラにご連絡ください。

## 「概要」の項を参照してください

### お子様を乗車させるとき

各国の法規を確実に遵守してください。

走行中は（たとえ短距離走行でも）、子供も、大人と同様に正しく着座し、身体を固定する必要があります。お子様を乗車させるときは、お子様の安全が確保されるように気をつけてください。

子供は大人の小型版ではありません。子供の筋肉や骨は成長期にあるため、特殊なケガをする危険にさらされています。お子様を乗車させるときは、シートベルトだけでは十分ではありません。適切なチャイルドシートを正しくご使用ください。

ドアが開かないようにするには、「チャイルドロック」機能を使用します➔ 56。

通常車速 50 km/h で衝突した場合、乗員は 10 m の高さから落ちたとき と同じくらいの衝撃を受けます。
したがって、子供をチャイルドシートに着座させないで走行することは、地上 4 階の手摺のないベラン ダでお子様を遊ばせているようなものなのです 。
絶対にお子様を抱いて乗車しないでください。
事故の場合、たとえお客様がシートベルトを締めていてもお子様を保護することはできません。
走行中にお車が事故に巻き込まれた場合は、チャイルドシートを交換し、シートベルトと ISOFIX アンカーの点検を受けてください。

**駐車または停車時のドライバーの責任**
お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。
彼らがエンジンを始動したり、パワーウインドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険です。
その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。
**死亡または重傷のおそれがあります。**

### チャイルドシートの使い方

チャイルドシートが提供する保護レベルはチャイルドシートがお子様を支える容量と取付け方によって異なります。取付け方が悪いと、急ブレーキをかけたときや衝突時にお子様を保護することができません。

チャイルドシートを購入する前に、国の法規に適合していること、またお車に取付けられることを確認してください。お車に合ったチャイルドシートをお探しの場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。

お子様の移動に関する規則は、各国に固有です。移動中のチャイルドシート

# 子供を乗車させるとき

の使用は、お子様の年数および / または はサイズおよび / または体重によって異なります。

チャイルドシートで移動する必要のないお子さまの場合、シートベルトが正しく調整され、締められていることを確認してください。

あらゆるケースで、各国の安全規格に従ってベルトの着用義務を果たしてください。

チャイルドシートは、取扱説明書を読み、その内容に従って取り付けてください。取付け中に問題が発生した場合は、機器のメーカーまでお問い合わせください。取扱 説明書はチャイルドシートと一緒に保 管してください。

シートベルトを締めるところをお 子様に見せて、お子様に次のこと を教えてください：

– 正しく取り付けること。
– 必ず、車道とは反対の歩道側から乗降すること。

中古のチャイルドシートや取扱説明書がない場合には使用しないでください。
チャイルドシートの中や近くに取付けの邪魔になるものがないか気をつけてください。

お子様を乗車させるときは、絶対にお子様から目を 離さないでください。

お子様の身体が常にしっか り固定されていること、またハー ネスやベルトが正しく調整されて いることを確認してください。 衣服が厚すぎるとベルトがたるんでしまいます。ベルトが緩む恐れのある厚手の衣服の着用はお控えください➔ 75。
お子様が窓から頭や手を出さないように気をつけてください。
走行中は、お子さまがチャイルドシートに正しく着座していることを常にご確認ください（とくにお子さまが眠っているとき）。

リアシートのいずれかにチャイルドシートを取り付ける際には、運転席／助手席 ➔ 67 の「イージーアクセスシート」機能が無効化されているか確認してから取り付けてください。
**負傷の恐れあり。**

## チャイルドシートの選択

### 後ろ向きに取り付けるチャイルドシート

乳児の頭は大人に比べて身体の割に重く、首はとても弱いです。お子様を乗車させるとき は、できるだけ長い期間（少なくとも 2 歳まで）チャイルドシートを後ろ向 きに取り付けてください。この向きだと頭部と首が保護されます。

より良い側面保護のため、包み込むタイプのシートをお選びください。また、お子様の頭がシートからはみ出さないうちに交換してください。

# 子供を乗車させるとき

## 前向きに取り付けるチャイルドシート

体重18 kgまたは4歳までは、お子様を前向きチャイルドシートに乗せることができます。お子様のサイズに合わせてシートを選択してください。お子様の頭部と腹部は一番保護しなければならない部分です。前向きに取り付けるチャイルドシートを車両にしっかり固定すれば、頭部への衝突の危険性が減ります。お子様を乗車させるときは、身長が使用可能な範囲内である限り、ハーネス付きの前向きに取付けるチャイルドシートに座らせてください。

側部の保護を確実にするため、バケットタイプシートをお選びください。

## ブースタークッション

体重が15 kg（または4歳）になったら、シートベルトを身体に合わせることのできるブースターシートが使用できます。シートベルトがお子様の腹部ではなく腿の上にくるように位置決めするガイド付きのシートブースタークッションを使用してください。高さ調整可能でガイド付きのシートバックを使用し、シートベルトが肩の中央に位置決めされるようにしてください。シートベルトは絶対に首や腕にかからないようにしてください。

側部の保護を確実にするため、バケットタイプシートをお選びください。

## 推奨される児童用拘束装置一覧

| 年齢 | 身長 | 重量 | 推奨されるチャイルドシート* |
|---|---|---|---|
| 0〜4歳 | 40〜105 cm | 0〜17.5 kg | マキシコシ パール360 ＋ ファミリーフィックス360ベース |
| | | 0〜19 kg | Joie i-Spin 360 |
| 3.5〜12歳 | 100〜150 cm | 15〜36 kg | Britax Römer KIDFIX PRO M* |

*詳細情報およびシートの空き状況については、メーカーのウェブサイトをご参照ください。
チャイルドシートは、製造業者が提供する説明書に従って取り付け、使用しなければなりません。
利用可能なスペースがある場合は、ISOFIX ファスナーを使用してください。

## チャイルドシートの取付け方法の選択

チャイルドシート固定具には、2つの方式があります。シートベルトまたはISOFIXシステム。

### シートベルトによる取付け

シートベルトは、急ブレーキをかけたときや衝突時に正常に作動するように、正しく調整してください。

チャイルドシートメーカーが示しているストラップの取り回し方法を必ず守ってください。

チャイルドシートを押しながら、まずシートベルトの上部を引き、次にシートベルトをできるだけぴんと張ってシートベルトがしっかり締まっていることを必ず確認してください。

シートを左右および前後に動かして、しっかり固定されているか点検してください。シートはしっかりと固定された状態を保っていなければなりません。

チャイルドシートが斜めに 取り付けられていないか、またウインドウに当たっていないか確認してください。

**死亡または重傷のおそれ：**サポートバランサ付きのチャイルドシートは、シートベルトによって固定するシートには決して取り付けてはいけません。

シートベルトを外してしまうおそれのあるチャイルドシートは使用しないでください。シートのベース部をシートベルトの舌片やバックルに乗せてはなりません。

シートベルトは絶対に緩め たりねじったりしないでく ださい。
シートベルトは絶 対に腕の下や背中の後ろを 通さないでください。
シートベルトが鋭角部によって損傷していないか確認してください。
シートベルトが正常に機能しないと、お子様を保護することができません。
正規サービス工場にご連絡ください。
シートベルトを修理する までは、この座席は使用しないで ください。

### ISOFIX システムによる取付け

現行の規制に準ずる認定チャイルドシート ISOFIX には次の 4 種類があります。

- 汎用 ISOFIX 3 点式前向きチャイルドシート。
- 準汎用 ISOFIX 2 点式チャイルドシート。
- 車両限定型チャイルドシート。
- i-Size の構成：
  - シートの 3 つ目のリングに取り付けられているベルト

# 子供を乗車させるとき

– または車両のフロアにあるステー、認可されているシート i-Size、衝突の際にチャイルドシートが動くことを防ぐ役割。

後者の 3 種類の場合は、適合する車両のリストを参照して、お手持ちのチャイルドシートがお車に取付けられるか確認してください。

元の状態で取り付けられているシステムコンポーネントには、一切変更を加えてはなりません。
シートベルト、ISOFIXおよびシートならびにそれらの固定具

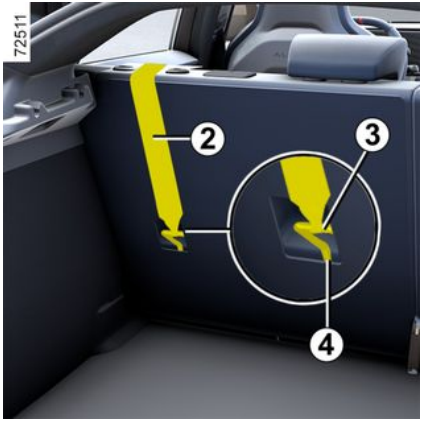
ISOFIX ロックが装備されている場合には、チャイルドシートをそれで固定してください。ISOFIX システムは簡単、迅速で確実な取付けを保証します。

ISOFIX システムは 2 個のリング（3 個の場合もあります）から構成されます。

ISOFIX アンカーは ISOFIX システム付きチャイルドシート専用です。
絶対に他のチャイルドシートやシートベルトなどをこのアンカーに取り付けないでください。
アンカーポイントに邪魔なものがないか確認してください。
走行中にお車が事故に巻き込まれた場合は、ISOFIX アンカーの点検を受け、チ ャイルドシートを交換してください。

他の車両用に購入した ISOFIX 対応チャイルドシ ートを使用する場合は、事 前にお車への取付けが許可 されているか確認してください。ISOFIX 対応チャイルドシートの取 付けが可能な車両のリストについ ては、チャイルドシートのメーカ ーにお問い合わせください。

2 個のリング ***1*** は、シートの背もたれとクッションの間にあり、 マークで識別できます。




3 つ目のリング ***4*** は、一部チャイルドシートのアッパストラップ ***2*** 固定に使用します。

**後席**

上部のストラップ ***2*** は、背もたれとリアパーセルシェルフ間に通してください。これを行うには、リアパーセルシェルフを取り外します➔ 61。

フック ***3*** を、 記号のあるいずれかのリング ***4*** に取り付けます。

> チャイルドシートのベルトは、対応するリングに取り付ける**必要があります**。

## チャイルドシートの取り付け、一般情報

一部の座席にはチャイルドシートを取り付けることができません。

チャイルドシートの取付け方法は、図 ➔ 96 でご確認ください。

お好みのチャイルドシートを後部座席に取り付けてください。

チャイルドシートやお子様の足が、フロントシートの正しいロックを妨げていないかご確認ください➔ 67。

チャイルドシートがしっかり車両に取り付けられており、外れるおそれがないことを確認してください。

ヘッドレストを取り外す必要がある場合は、正しい位置に収納されていることを確認してください。そうでないと急ブレーキをかけたときや衝突時に飛び出すおそれがあり危険です。

チャイルドシートは、使用しないときでも必ず車両に取り付けてください。固定されていないと、急ブレーキをかけたときや衝突時に飛び出すおそれがあり危険です。

言及されたタイプのチャイルドシートはお求めになれません。他のチャイルドシートを使用する場合は、お車に取り付けられるかどうか事前にメーカーに問い合わせてください。

### フロント

子供を助手席に座らせる場合の規定は、国によって異なります。関連法を確認し、図にある説明に従ってください。

チャイルドシートを 助手席に取付ける前に（認可されてい る場合）：

– シートベルトを一番下まで下げます。
– シートを一番後ろまで引きます。
– 背もたれを垂直位置から少し（約 25°）傾けます。
– シートクッションの高さを一番高くします（高さ調整機能装備車の場合）。

シートのヘッドレストは、チャイルドシートに干渉しないよう、常に一番上まで持ち上げます➔ 67。

チャイルドシートを取り付けた後、可能であれば、必要に応じて、車両のシートを前に出すことができます（後部座席の乗員や他のチャイルドシートに十分なスペースを与えるために）。後ろ向きのチャイルドシートについては、ダッシュボードに接触したりシートを最も前に出した位置にしないで下さい。

チャイルドシートを取り付けた後で、上記の調整を変更しないでください。

**死亡または重傷の恐れあり:** 後ろ向きチャイルドシートを助手席に取り付ける場合は、その前に、助手席airbagが無効化されているか必ずご確認ください➔ 111。

## 左右の後部座席に取り付ける場合

ベービーシートは車両に対して横向きに少なくとも 2 席を使用して置きます。お子様の頭が車両中央側に向くように装着します。

後ろ向きチャイルドシートは、フロントシートをできるだけ前に動かしてから取り付け、チャイルドシートを取り付けたら、チャイルドシートには触れないようフロントシートをできるだけ後ろに動かします。

前向きのチャイルドシートの安全性:

– お子様の座席は可能な限り後ろまで移動してください。
– お子様をシートの正面に移動させて、背もたれを前方に移動してシートとお子様の足が接触しないように配置します。

チャイルドシートやお子様の足が、フロントシートの正しいロックを妨げていないかご確認ください➔ 67。

どのような場合でも、チャイルドシート設置先後部座席のヘッドレストは取り外してください➔ 73。必要に応じて、リアシートを最大限後方に引きます。これはチャイルドシートを取り付ける前に行う必要があります。チャイルドシートが車両リアシートの背もたれに押し当てられているか確認します。

**ブースタシートの取り付け（グループ2またはグループ3）**

シートベルト ➔ 75 が正しく作動する（巻き取られる）かご確認ください。
次のようになるようシートベルトを調整します:

– 肩部ベルトの位置は、お子様の肩付近の、首には触れない位置にしてください。
– 腰ベルトが腰骨に当たり、腿の上に平らに配置されるようにします。

必要に応じてシートベルトの位置を調整してください。

お好みのチャイルドシートを後部座席に取り付けてください。

左側後部座席にチャイルドシート ISOFIX を取り付けるには、センターシートベルトを緩めてからロックします。

# チャイルドシート

## リアセンターシート

シートベルトがチャイルドシートの取り付けに対応しているか確認します。メーカーにお 問い合わせください。

2

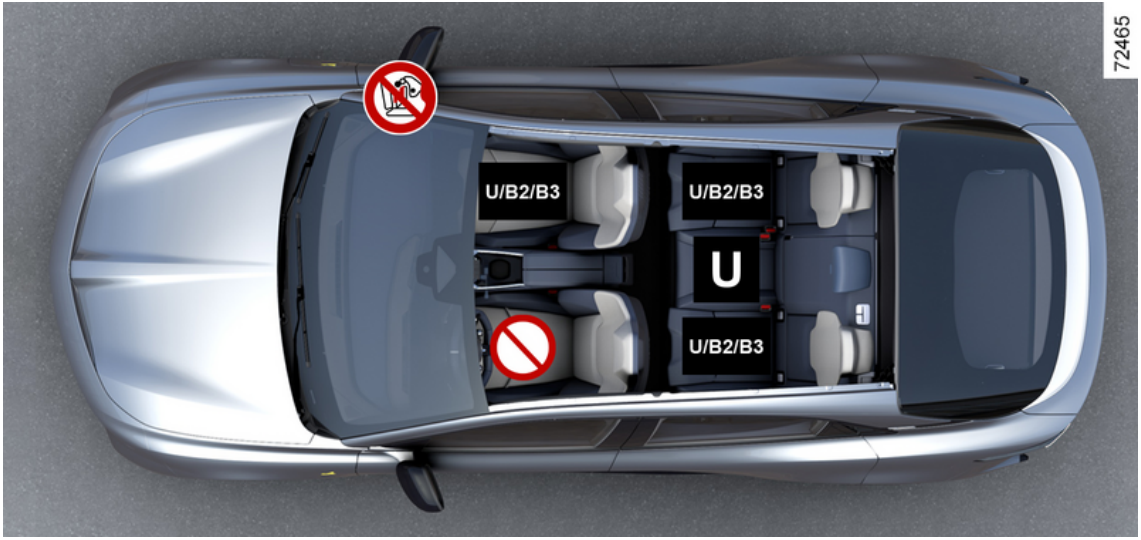
フロアサポート付きのチャイルドシートは、後部中央座席には設置しないでください。

**死亡または重傷のおそれ。**

## シートベルトによる取付け

2

### 取付け図



**死亡または重傷のおそれ：**サポートバランサ付きのチャイルドシートは、シートベルトによって固定するシートには決して取り付けてはいけません。

**死亡または重傷のおそれ:**後ろ向きチャイルドシートは、必ず airbag が無効化 ➔ **111** されているか確認してから助手席に取り付けてください。

乗員が着座する前またはチャイルドシートを取り付ける前にairbagの状態を確認してください。

チャイルドシートの取り付けが禁止されているシート。

**ベルトを使用して取り付けられたチャイルドシート**

U シートベルトを用いて「汎用」認定チャイルドシートを取り付けられるシート。

B2 「B2」認定取得チャイルドシートをシートベルトで取り付けられる座席。

B3 「B3」認定取得チャイルドシートをシートベルトで取り付けることができるシート。

この車両に適合しないチャイルドセーフティデバイスを使用した場合には、赤ちゃんや子供を正しく保護することができません。このような場合には、重傷または死亡の危険があります。

## チャイルドシート

お子さまがしっかりシートに固定されていること、ベルトや安全ハーネスが正しく設定・調整されていることを常に点検してください。
必要に応じて、シートの位置を調整してください。

大型の背もたれを折り畳んで他のシート上に配置した状態で、隣接するシートにチャイルドシートを装着することは禁じられています➔ 73。

## 取付け情報表

**下表は、現行の規制に従うために必要な、図上の情報をまとめたものです。**

| チャイルドシートのタイプ | 子供の体重 | フロントシート助手席 | | リアシート 両サイド | 後部中央シート |
|---|---|---|---|---|---|
| | | airbag が無効化されている状態 | airbagが有効化されている状態 | | |
| **車両横置きの乳児用シート**<br>グループ 0 | 10 kg 未満 | X | X | U (2) | U (2) |
| **後ろ向きの乳児用シート**<br>グループ 0 または0 + | ＜10 kg まで、および ＜13 kgまで | U (1) (5) (6) | X | U (3) (6) | U (3) (6) |
| **後ろ向きチャイルドシート/シェル型シート**<br>グループ 0 + および 1 | 13 kg 未満および 9～ 18 kg | U (1) (5) (6) | X | U (3) (6) | U (3) (6) |
| **前向きシート**<br>グループ 1 | 9 ～ 18 kg | X | U (5) (6) | U (4) (6) | U (4) (6) |
| **ブースターシート**<br>グループ 2 および 3 | 15 ～ 25 kg および 22 ～ 36 kg | X | U / B2 / B3 (5) (6) | U / B2 / B3 (4) (6) | U (4) (6) |

**（1）死亡または重傷のおそれがあります：**後ろ向きチャイルドシートは、必ず airbag が無効化 ➔ **111** されているか確認してから助手席に取り付けてください。

**X** = このシートにこのタイプのチャイルドシートを取付けることは許可されていません。
**U** = 「汎用」認定チャイルドシートをシートベルトで取り付けられるシート。取り付け可能かどうか点検してください。
**B2** = グループ2のブースターシート（15 kg～25 kg）。

## チャイルドシート

**B3** = グループ3（22〜36 kg）のブースターシート。

**(2)** キャリコットは、少なくとも 2 席を使用し、車両に対して横向きにすることで取り付けることができます。子どもの頭をドアと反対側に位置させてください。

**(3)** 必要であれば、車両のシートを最後部に配置します。後ろ向きチャイルドシートは、前シートをできるだけ前に動かしてから取り付け、チャイルドシートを取り付けたら、チャイルドシートには触れないよう前シートをできるだけ後ろに動かします。

**(4)** どのような場合でも、チャイルドシートを設置するリアシートのヘッドレストは取り外してください。これはチャイルドシートを取り付ける前に行う必要があります。お子様の前のシートを前方に移動し、シートバックを直立した位置に調整して、シートとお子様の脚が接触しないようにしてください。

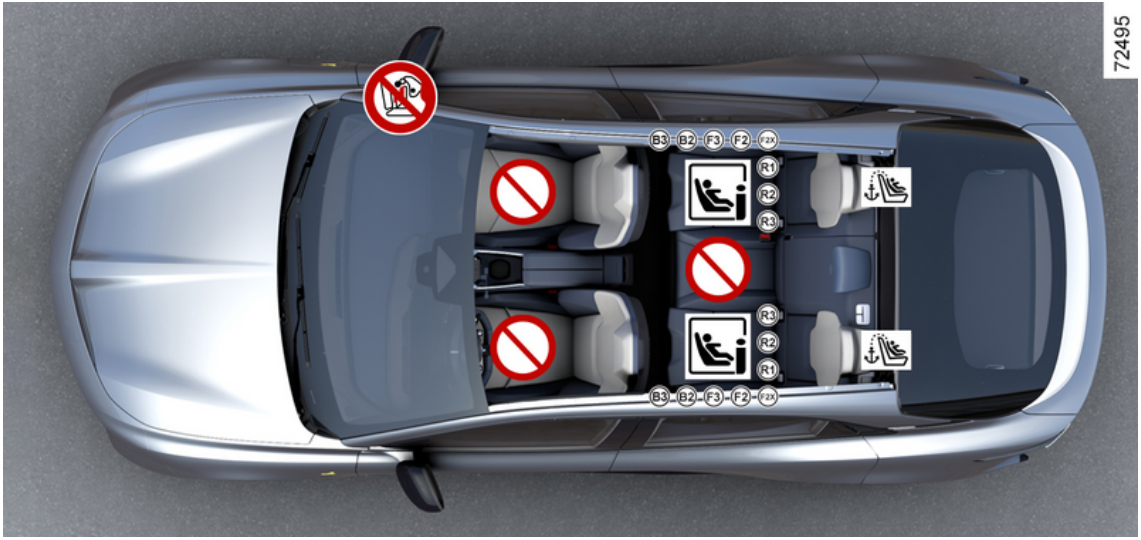
**(5)**車両のシートを後ろいっぱいに下げて座面を最高位置にし、シートバックを若干倒します（25 °程度）。

**（6）死亡または重傷のおそれがあります：**絶対にサポートストラット付きのチャイルドシートを取り付けないでください。

## ISOFIX システムによる取付け

2

### 取付け図



お車に適合しない子供用セーフティーシステムを使用した場合には、 お子様（または赤ちゃん）を正しく保護することができません。このような場合には、死傷や重傷を負う危険があります。

右リアサイドシートにシートISOFIXを取り付けると、中央シートの使用ができなくなります。センターベルトには、アクセスまたは使用できなくなります。

このタイプのチャイルドシートを取付けることが禁止されている座席。

**固定具を用いて取り付けるタイプのチャイルドシートISOFIX**

ISOFIX または i-Size チャイルドシートを取り付けることができる機能を備えた座席。

リアシートには、汎用対応前向き ISOFIX チャイルドシート取付け用アンカーが装備されています。積載フックはベンチシートバックに設置されています。

お子様の身体が常にしっか り固定されていること、またハー ネスやベルトが正しく調整されて いることを確認してください。 衣 服が厚すぎるとベルトがたるんで しまいます。
必要に応じて、シートの位置を調整します。

大型の背もたれを折り畳んで他のシート上に配置した状態で、隣接するシートにチャイルドシートを装着することは禁じられています➔ 73。

リアシートにISOFIXシートを取り付けるには、ボルトを締める前に、シートベルトを外してください。

## 取付け情報表

**下表は、現行の規制に従うために必要な、図上の情報をまとめたものです。**

| チャイルドシートのタイプ | 子供の体重 | シートのサイズ［固定具］ | フロントシート助手席 | | リアシート 両サイド | 後部中央シート |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | airbag が無効化されている状態 | airbagが有効化されている状態 | | |
| **車両横置きの乳児用シート**<br>グループ 0 | 10 kg 未満 | L1 [F]<br>L2 [G] | X | X | X | X |
| **後ろ向きの乳児用シート**<br>グループ 0 または0 + | 13 kg 未満 | R1 [E] | X | X | IL (4) | X |
| **後ろ向きのチャイルドシート**<br>グループ 0 + および 1 | 13 kg 未満および 9～ 18 kg | R3 [C]<br>R2 [D] | X | X | IL (4) | X |
| **前向きシート**<br>グループ 1 | 9 ～ 18 kg | F3 [A]<br>F2 [B]<br>F2X [B1] | X | X | IUF-IL<br>(5) | X |
| **ブースターシート**<br>グループ 2 および 3 | 15 ～ 25 kg および 22 ～ 36 kg | B3<br>B2 | X | X | IUF-IL<br>(5) | X |
| **シート i-Size** | 後ろ向きのチャイルドシート | | X | X | i-U (4) | X |
| | 前向きシート | | X | X | i-UF (5) | X |
| | ブースターシート | | X | X | i-UF (5) | U(4) |

**X** = チャイルドシートの取付けに適さない座席。

# チャイルドシート

**IUF-IL** = 「汎用／準汎用または車両限定型」認可のチャイルドシートをISOFIXで取り付け可能なシート（装備車両の場合）:取り付け可能かどうか点検してください。

2

**（1）死亡または重傷のおそれがあります：**後ろ向きチャイルドシートは、必ず airbag が無効化 ➔ **111** されているか確認してから助手席に取り付けてください。

**(4)** 必要であれば、車両のシートを最後部に配置します。後ろ向きチャイルドシートは、前シートをできるだけ前に動かしてから取り付け、チャイルドシートを取り付けたら、チャイルドシートには触れないよう前シートをできるだけ後ろに動かします。

**(5)** どのような場合でも、チャイルドシートを設置するリアシートのヘッドレストは取り外してください。これはチャイルドシートを取り付ける前に行う必要があります。お子様の前のシートを前方に移動し、シートバックを直立した位置に調整して、シートとお子様の脚が接触しないようにしてください。

ISOFIX 対応チャイルドシートのサイズはアルファベット 1 文字で示されます：

- F3, F2, F2X [A, B, B1] :グループ 1（9 ～ 18 kg）の前向きチャイルドシート用。
- B3 ; B2 :グループ 2 および 3 のリフタ（15～25 kg、22～36 kg）。
- R3, R2 [C, D] :グループ0+（13 kg未満）またはグループ1（9～18 kg）の後ろ向きシェル型チャイルドシート；
- R1 [E] :グループ 0（10 kg 未満）またはグループ 0+（13 kg 未満）の後ろ向きシェル型チャイルドシート。
- L1, L2 [F, G] :グループ 0（10 kg 未満）のキャリーコット。

**i-U** = 「汎用」前向きおよび後向きi-Size拘束装置に適合します。

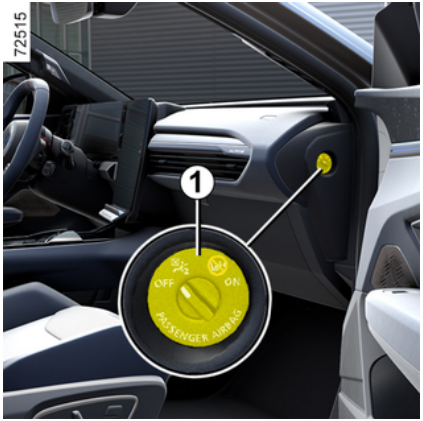
**i-UF**=「汎用」前向き拘束装置i-Sizeにのみ適しています。

## お子様の安全: 助手席エアバッグの作動解除／作動

### 注意

助手席airbagの作動解除や作動は、**車を停車してイグニッションをオフにしてから行ってください**。

### 助手席エアバッグ作動解除



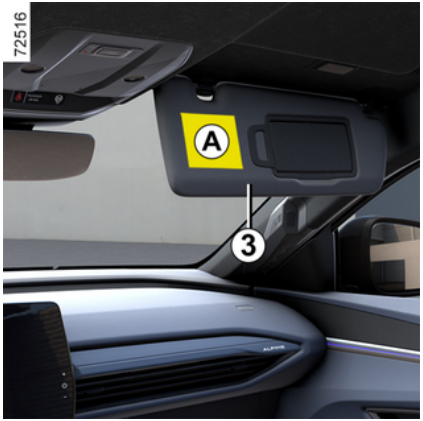

チャイルドシートを助手席に取り付けるときは、以下のことに注意してください。

– 該当するシートにチャイルドシートを取り付け可能であることを確認します。
– 後向きチャイルドシートでは、必ずairbagを**無効**にする必要があります。

**無効化するには、airbag車両を静止させ、イグニッションスイッチをOFFにした状態で、**ロック ***1*** をOFF位置まで押し回します。

イグニッションスイッチをオンにしてから、ディスプレイ***2***に警告灯が点灯することを**必ず**確認します。

**この警告灯は点灯したままとなり、助手席へのチャイルドシートの装着が可能であることをドライバに知らせます。**



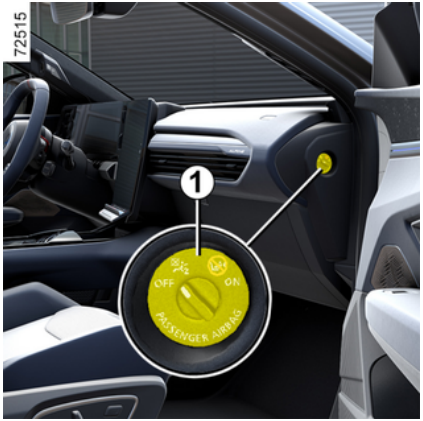
**危険**
後ろ向きチャイルドシートは助手席airbagに設置できないため、**有効化されているフロントairbagにより保護されている座席には後ろ向きチャイルドシートを取り付けないでください。このことによりお子様が死亡または重傷を負う恐れがあります。**

# お子様の安全: 助手席エアバッグの作動解除／作動

ダッシュボード上にある各マークや、助手席サンバイザー ***3*** の各サイドにあるラベル ***A***（詳しくは上記ラベルをご覧ください）は、これらの指示についてお知らせするためのものです。

# お子様の安全: 助手席エアバッグの作動解除／作動

## 助手席エアバッグを作動させる




チャイルドシートを助手席から取り外したら、万一前方から衝撃を受けた際の助手席乗員の安全のため、すぐに助手席 airbag を作動可能にしてください。

**を再有効化するにはairbag、車両を静止させ、イグニッションスイッチをOFF にした状態で、**ロック ***1*** を ON 位置まで押し回します。

イグニッションスイッチを ON にした状態で、**必ず**、 警告灯が消え、 に警告灯がディスプレイ ***2*** 上に点灯し、各始動後約 1 分間点灯することを確認してください。

助手席airbag が作動します。

# お子様の安全: 助手席エアバッグの作動解除／作動

## 作動異常

助手席airbag作動 / 解除システムに故障が発生した場合、インストルメントパネルに 警告灯および 警告灯が表示されます。

イグニッションをオフにし、ロック*1*の位置を確認します。

イグニッションを再びオンにします: 警告灯が消灯します。

問題が解決しない場合は、システム障害を通知します。この場合、助手席に後ろ向きのチャイルドシートを装着したり、他の乗客が座席を占有したりすることは禁止されています。

できるだけ早くルノー正規サービス工場で点検をお受けください。

## 乗員検出システム

### 作動

車両によっては、乗客検知システムは、助手席が占有されているかどうかに応じて、助手席 airbag のアクティブ化と非アクティブ化を自動的に管理します。

チャイルドシートが装着されている場合、または座席が占有されていない場合、助手席 airbag は自動的に無効になります。

チャイルドシートは、チャイルドシートの種類 ➔ 89 や取付け方法 ➔ 111 について確認してから助手席に取り付けてください。

助手席に取り付けることができる種類のチャイルドシートを探すには、➔ 96。

### 作動

約 5 秒の初期化段階後に警告灯 *1* および *2* が点灯し、以下のどちらの状態かを確認する方法で助手席 airbag が有効化されているか確認するよう促します。

– 警告灯 *1* が点灯している場合、助手席 airbag は無効化されています。この場合、警告灯は連続して点灯したままになります。

– 警告灯 *2* が点灯している場合、助手席 airbag は有効化されています。この場合、警告灯は約 65 秒間点灯したままになります。

初期化フェーズの後、システムがステータスの変化を検出した場合（たとえば、警告灯がオンになってから占有されていないときに、助手席が占有される）、次のメッセージがインストルメントパネルに表示されます。

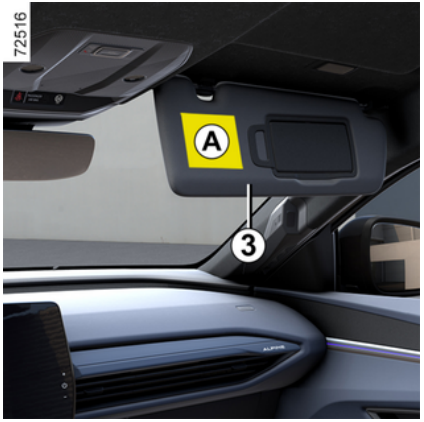
– 「助手席エアバッグが有効化されています」。この場合、 警告灯も併せて点灯します。

または

– 「助手席エアバッグが無効化されています」。この場合、 警告灯も併せて点灯します。

**危険**
後ろ向きチャイルドシートを装着したら、airbag が無効化されているか（警告灯 *1* が点灯しているか）確認します。

# お子様の安全: 助手席エアバッグの作動解除／作動




ダッシュボード上の標示と助手席サンバイザ ***3*** 両側のラベル ***A*** にも記載されているとおり、助手席 airbag の有効化中に後ろ向きチャイルドシートにお子様を座らせることは禁じられていますのでご留意ください。

後ろ向きのチャイルドシートが装着されているときにアクティベーション警告灯 **が点灯している場合:**

– イグニッションスイッチをオフにします
– 助手席からチャイルドシートを取り外す。
– チャイルドシートと助手席の間に位置する追加要素を取り外す。
– チャイルドシートメーカーの指示に従ってチャイルドシートを改造する。
– エンジンを再始動します。

問題が解決しない場合は、チャイルドシートを後方に配置し、認定販売店に連絡してください。

車両が完全に停止するまでは絶対 にイグニッションキーを OFF にしないでください。エンジンを停止すると、ブレーキサーボ、パワーステアリングなどやパッシブセーフティ装置（airbagsやプリテンショナなど）が無効になります。

**大人の 乗客が助手席に座っている間に**

非アクティブ化警告灯**が点灯している場合は、正しく装着されていない可能性があります。**

以下のアクションを実行して、乗員を検出できるようにします。

– ビーチタオル、シートカバーに代表される追加要素をシートベースから取り外します。
– 背もたれが後ろに傾きすぎていないか確認します。
– 座席にまっすぐ腰掛け、シートクッションの真ん中で足を自然な感じで伸ばして座るよう乗員に対し指示します。
– 起動警告灯が点灯した後、乗員はこの位置に 2 ～ 3 分間座ったままにします。

# お子様の安全: 助手席エアバッグの作動解除／作動

問題が解決しない場合は、乗員を後方に座らせて、認定販売店に連絡してください。

**危険**
後ろ向きチャイルドシートを装着したら、airbag が無効化されているか（警告灯 ***1*** が点灯しているか）確認します。

## システムの動作に影響を与える追加要素

シートベルトは、車両の操縦やブレーキング中に乗員をシート上の所定の位置に保つのに役立ちます。これは乗員検出システムが助手席 airbag の状態を維持するのに役立ちます。

追加の材料の厚い層（厚いコート、クッション、乗員の後部ポケットに置かれた大きな物体、暖房またはマッサージ装置）は、乗員検出システムの正しい動作を妨げる可能性があります。

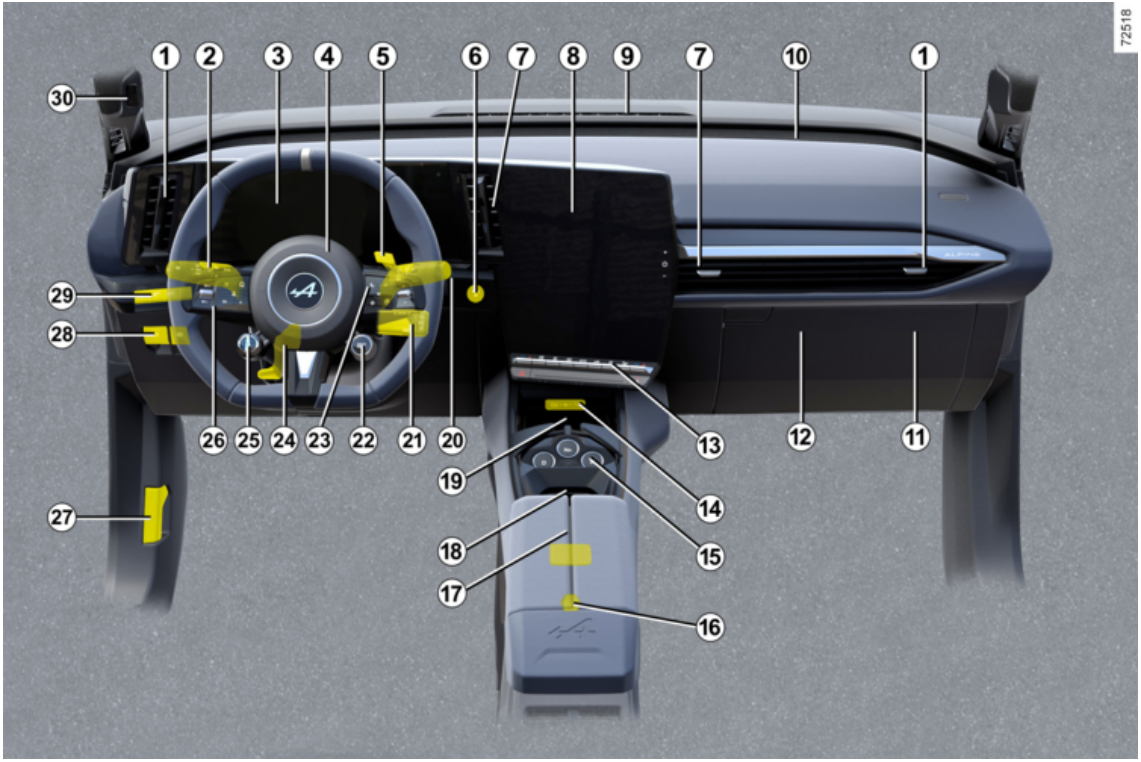
**注:** 助手席のシートクッション上に荷物などが置かれている と、警告灯が点灯する恐れがあります。

**乗員に関する警告**
airbag **: 座席カバーの装着は前部座席では禁止されています。**

座席が濡れると乗員検出システムの有効性に影響を与える可能性があります。助手席が濡れている場合は、直ちに乾かします。

## 左ハンドル仕様の運転席





# ドライビングポジション

**下記の車両装備は、車両のバージョンや使用国に応じて異なります。**

***1.*** サイドエア吹出し口。

***2.*** 操作レバー:

– 方向指示灯。
– 外部灯火。
– リアフォグランプ類。

***3.*** インストルメントパネル。

***4.*** 運転席エアバッグ収納部airbag、ホーン。

***5.*** 追い越し（OV）制御。

***6.*** エンジン始動 / 停止ボタン

***7.*** センタエア吹出し口。

***8.*** マルチメディア画面。

***9.*** デフォッガー吹き出し口。

***10.*** 乗員airbagの位置。

***11.*** ヒューズボックス

***12.*** グローブボックス

***13.*** 操作部（以下の機能用）:

– ヒーター／エアコンディショナー。
– ハザードフラッシャ。
– 集中ドアロック。
– ...

***14.*** センターコンソールの USB-C ポート。

***15.*** ギア制御。

***16.*** アクセサリーソケット。

***17.*** 「ハンズフリー」カードホルダー。

***18.*** カップホルダー。

***19.*** 誘導充電ゾーン / センターコンソールの後部収納引出し。

***20.*** フロントウィンドウ / ウォッシャストーク。

***21.*** ラジオリモコン。

***22.*** 走行モード制御。

***23.*** 操作部（以下の機能用）:

– オンボードコンピュータのスクロールスイッチと車両調節のカスタマイズメニュー
– リモートラジオおよびナビゲーションシステム。

***24.*** ステアリングホイールの高さと奥行きを調整するコントロール。

***25.*** 回生ブレーキ制御。

***26.*** スピードリミッタ／アダプティブクルーズコントロール、および車両によってはアクティブドライバーアシスト用のメインスイッチとコントロール。

***27.*** ボンネットアンロックスイッチ。

***28.*** 操作部（以下の機能用）:

– アシストパーキングブレーキの有効化／無効化。
– AUTOHOLD機能の作動 / 作動解除。
– ...

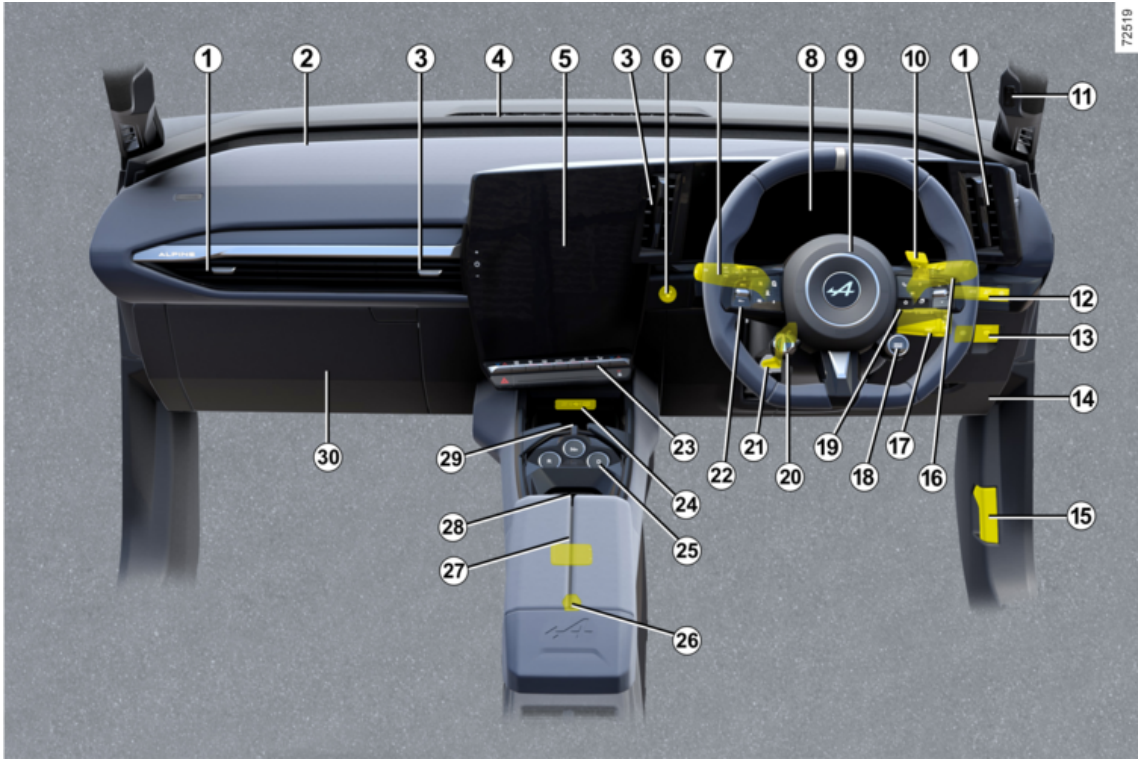
***29.*** 操作部（以下の機能用）:

– 計器類用ライトレオスタット。
– 「My Safety」機能
– 」の、「車線維持支援」機能（車線離脱警告、車線離脱防止、レーンセンタリング）の有効化／無効化。
– ...

***30.*** 顔認識カメラ。

# ドライビングポジション

## 右ハンドル車運転席レイアウト



# ドライビングポジション

**下記の車両装備は、車両のバージョンや使用国に応じて異なります。**

***1.*** サイドエア吹出し口。

***2.*** 乗員airbagの位置。

***3.*** センタエア吹出し口。

***4.*** デフォッガー吹き出し口。

***5.*** マルチメディア画面。

***6.*** エンジン始動 / 停止ボタン

***7.*** 操作レバー:

– 方向指示灯。
– 外部灯火。
– リアフォグランプ類。

***8.*** インストルメントパネル。

***9.*** 運転席エアバッグ収納部airbag、ホーン。

***10.*** 追い越し（OV）制御。

***11.*** 顔認識カメラ。

***12.*** 操作部（以下の機能用）:

– 計器類用ライトレオスタット。
– 「My Safety」機能
– 」の、「車線維持支援」機能（車線離脱警告、車線離脱防止、レーンセンタリング）の有効化／無効化。
– ...

***13.*** 操作部（以下の機能用）:

– アシストパーキングブレーキの有効化／無効化。
– AUTOHOLD機能の作動 / 作動解除。
– ...

***14.*** ヒューズボックス

***15.*** ボンネットアンロックスイッチ。

***16.*** フロントウィンドウ / ウォッシャストーク。

***17.*** ラジオリモコン。

***18.*** 走行モード制御。

***19.*** 操作部（以下の機能用）:

– オンボードコンピュータのスクロールスイッチと車両調節のカスタマイズメニュー
– リモートラジオおよびナビゲーションシステム。

***20.*** 回生ブレーキ制御。

***21.*** ステアリングホイールの高さと奥行きを調整するコントロール。

***22.*** クルーズコントロール／スピードリミッタ／アダプティブクルーズコントロールおよび、車両によってはアクティブドライバーアシスト用のメインスイッチと各種コントロール。

***23.*** 操作部（以下の機能用）:

– ヒーター／エアコンディショナー。
– ハザードフラッシャ。
– 集中ドアロック。
– ...

***24.*** センターコンソールの USB-C ポート。

***25.*** ギア制御。

***26.*** アクセサリーソケット。

***27.*** 「ハンズフリー」カードホルダー。

***28.*** カップホルダー。

***29.*** 誘導充電ゾーン / センターコンソールの後部収納引出し。

***30.*** グローブボックス

## 「概要」の項を参照してください

### オンボードコンピュータA

車種によっては、次の機能が装備されています：

- 走行距離。
- オンボードコンピューター設定。
- 情報メッセージ
- 作動異常メッセージ（関連する警告灯 が点灯します）；
- 警告メッセージ（関連する警告灯 STOP）。

これらの機能については、いずれも車両の取扱説明書に詳しく記載されています。

これらの機能の選択を変更するには、スイッチ ***1*** を上下に繰り返し押します。

**インストルメントパネル *A* から:**

a）トリップメーターに関する設定。

- 前回のリセット以降の平均エネルギー消費量と現在のエネルギー消費量。
- 最後にリセットされてからの走行距離。

b）タイヤ空気圧のリセット。

c）整備間隔。

d）車両設定カスタマイズメニュー。

e）ログブック、インフォメーションとシステムの故障をスクロール表示。

### 走行パラメーターのリセット（トップスタート）

トリップメーターのいずれかのパラメーターをリセットするには、いずれかのパラメーターを選んで表示させ、スイッチ ***1*** を下に長押しします。

### 走行パラメーターの自動リセット

各種走行パラメーターのいずれかが容量を超えた場合は、自動的にリセットされます。

### エネルギー消費値の提示

一部の車両装備品は電力を消費します。したがって、車両が消費するエネルギーは、電子カウンタに示される消費エネルギーとは異なる場合があります。

### リセット後の表示値について

平均燃費、航続距離、平均時速の数値は、リセット後の走行距離が伸びるほど正確に算出されます。

リセットボタンを押してから最初の数キロメートルの間は、表示数値が走行につれて増加することがあります。これは、前回のリセット以降の平均的なエネルギー消費量が考慮されるためです。ただし、次の場合に平均エネルギー消費量が下がる場合があります。

- 車両が加速を終えたとき
- 市街地から郊外の幹線道路へ移ったとき

> ⓘ 一部のオンボードコントロールユニットの情報がナビゲーションシステムのディスプレイに表示されます。
> 走行パラメーターの距離計は、オンボードコントロールユニットとナビゲーションシステムで同時にリセットされます。

# オンボードコンピューター

## 予想航続可能距離のリセット

トラクションバッテリーのフル充電後に実行すべきリセットについては、手動または自動のいずれかを選択できます。

### 手動リセット

航続距離をリセットするには、リセットするトリップメーターを選択し、スイッチ ***1*** を長押しします。

### 自動リセット

航続距離は、トラクションバッテリを満充電すると自動的にリセットされます。計算値は、外気温と平均的な走行距離を踏まえて算出されます。特に、エコ運転に相当するパターンが特定された場合は、再計算により航続距離が延長されます。

## 行程に関する設定



**上述の情報のディスプレイは、車両の装備と国によって異なります。**

| メニューの選択 | 選択された表示内容の説明 |
|---|---|
| | **a）トリップメーターに関する設定。** |
| <br>+ 13,4<br>kWh | **瞬間燃料消費。** |
| <br>12,8<br>kWh/100 km | **平均エネルギー消費量。**<br>値はリセット後少なくとも 400 m 走行した後で表示されます。 |
| トリップ<br>1284,7<br>km | 最後にリセットされてからの**走行距離**。 |
| タイヤ空気圧設定 長押し | **b）タイヤの空気圧**<br>➔ 178 |

| メニューの選択 | 選択された表示内容の説明 |
|---|---|
| 点検 /<br>1,936 Km<br>または 3 か月 | **c）整備間隔。**<br>次回整備までの残存距離（km で表示）が表示されるほか、整備時期が近づくと、次のように表示されます。<br>– 整備まで残り **1,500 km または 1 か月**未満となった場合: 「まもなく整備時期」というメッセージが、残りの距離または時間とともに表示されます。<br>– 整備時期が到来すると、「要整備」というメッセージが、初回の制限（距離または時間）とともに表示されます。 |

| メニューの選択 | 選択された表示内容の説明 |
|---|---|
| | – **航続距離が 0 km に達するか整備日が到来すると、**メッセージ「点検が 必要です」が、 警告灯とともに表示されます。<br>車両のオイル交換を出来るだけ早く実行しなければなりません。 |
| **保守プログラムに沿った点検整備後のディスプレイリセット。**<br>点検整備間隔のリセットは、保守プログラム内の推奨事項に沿った点検整備後に限り必要です。<br>**特記事項:** 整備間隔データをリセットするには、ディスプレイに、整備時期までの範囲が表示されるまでディスプレイのリセットボタンを約 10 秒間押し続けます。 | |

| メニューの選択 | 選択された表示内容の説明 |
|---|---|
| 設定 (OK) | **d）車両設定カスタマイズメニュー。**<br>➔ 132 |
| テールゲート 開 | **e）走行距離ログ。**<br>次のものが順に表示されます：<br>– 情報メッセージ<br>– 故障メッセージ。 |

## 情報メッセージ



車両始動をサポートし、選択や走行状態に関する情報を提供します。
情報メッセージの例は以下のとおりです。

| メッセージの例 | 選択された表示内容の説明 |
|---|---|
| **「車両を始動するにはケーブルを切り離してください」** | 充電ケーブルが車両に接続されたままであることを示します。<br>プラグを抜いてから車両に差し込みます。 |
| **「要接続確認」** | それでもメッセージが表示される場合は、外部充電条件またはホームインストールが原因である可能性があります。 |
| **「要充電端子確認」** | 考えられる電気的障害または充電ケーブルの欠陥を示します: 充電端子または場所を変更するか、ケーブルを確認してください。 |
| **「充電中に電源切れ」** | 充電中の電気的障害を示します。充電を再開します。<br>これが機能しない場合は、電気設備を確認してください。 |

## 故障メッセージ

**これらのメッセージが警告灯 とともに表示されたら慎重に運転し、出来るだけ速やかに指定サービス工場で点検をお受け下さい。このような推奨事項を遵守されない 場合は、車両が損傷する恐れあります。**

この種のメッセージは、ディスプレイ の選択ボタンを押すか、または数秒間 すると消え、ログブックにメモリーさ れます。警告灯 は点灯したままになります。システムの故障メッセージの例を以下に示します。

| メッセージの例 | 選択された表示内容の説明 |
|---|---|
| **« 警告: エアバッグの点検 »** | 乗員補助拘束システムに故障があることを示しています。事故の場合に正しく作動しない恐れがあります。 |
| **« 車両 点検 »** | ペダルまたは12 Vバッテリ管理システムのセンサのいずれかが故障していることを示しています。 |
| **« ブレーキシステム を点検 »** | ブレーキシステムを確認する必要性を示します。 |
| **« チェック ポストコリジョン »** | 多重衝突ブレーキに問題があることを示します。 |
| **« 車両充電プラグ要確認 »** | 車両側充電ソケットの過熱を示します。約 20 分待ってから、もう一度やり直してください。それでも解決しない場合は、正規サービス工場にご連絡ください。 |
| **« 電気系統を 点検 »** | トラクション装置の故障を知らせます。 |
| **« バッテリー充電不可 »** | トラクションバッテリ再充電システムの故障を示します。 |

## 警告のメッセージ



**これらのメッセージが警告灯 STOP と共に表示されたら急ブレーキは避けて周囲の交通状況に注意しながら、なるべく早く車両を停止してください。エンジンを停止し再始動させないでください。正規サービス工場にご連絡ください。**

警告メッセージには以下のものがあります。**注意：**メッセージはディスプレイ上に単独で現われるか、または交互に現われます（複数のメッセージがある場合）。警告灯 や警報音を伴う場合もあります。

| メッセージの例 | 選択された表示内容の説明 |
|---|---|
| **「ブレーキシステムの不具合」** | ブレーキシステムの故障を知らせます。 |
| **「ステアリングの不具合」** | ステアリング装置の故障を知らせます。 |
| **「電気エンジンの不具合」** | 車両の電力が失われていることを示します。 |
| **「電気系統の不具合」** | 電気システムの故障を知らせます。 |
| **「パンク」** | 少なくとも1本のタイヤがパンクしているか空気圧が著しく不足していることを示します。 |

道路の脇に車を駐車するときは、三角停止表示板や国の法規で定められた機器を使用して他の車に駐車中であることを知らせる必要があります。

## ディスプレイとメーター類

### インストルメントパネル A

運転席ドアを開けたときに点灯します。一部の警告灯の点灯と同時にメッセー ジが表示されることがあります。

### ビューの選択

車両によっては、インストルメントパネル上のビューを複数の候補の中から選択できます。ビューを選択するには、お好みのビューに達するまで必要な回数だけ制御ボタン ***1*** を押す方法で、インストルメントパネル ***A*** 上のビューをスクロールします。

選択できるどのビューを選んでも、以下に示す重要な情報はインストルメントパネル上に表示されます。

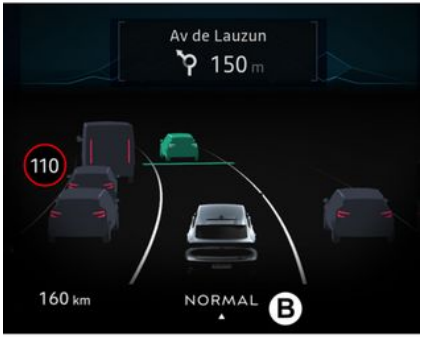
– 速度計。
– 作動中の運転補助機能に関する情報。
– 情報表示領域。

車両の充電時にのみ、インストルメントパネルの**「充電」ビュー**に、走行可能距離、バッテリ充電率、残り充電時間が表示されます。

**「クラシック」ビュー**を選択すると、運転に欠かせない情報（車両によっては電力計）がインストルメントパネル上に表示されます。

**「ナビゲーション」**ビューを選択すると、運転に欠かせない必須の情報と、マルチメディアシステムからコピーされた道路地図がインストルメントパネル上に全画面表示されます。

**「リアル」ビュー *B***



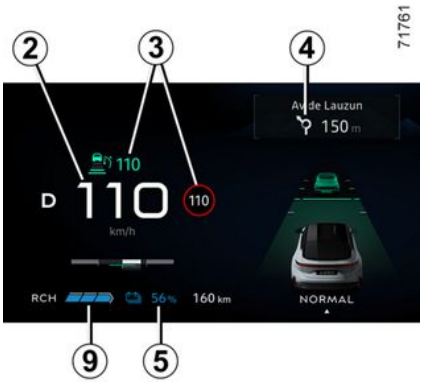

ビュー ***B*** を選ぶと、運転に欠かせない情報が、自車両の情報や走行環境（車線、同一方向に走行中の他車両など）情報とともに、インストルメントパネル上に表示されます。

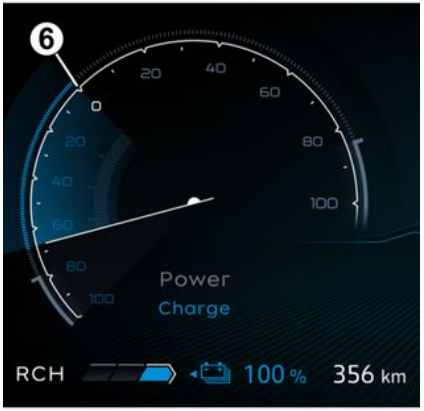
**注:** システムが認識できるのは、乗用車カテゴリ、大型トラックカテゴリ、自動二輪カテゴリに属する車両のみです。

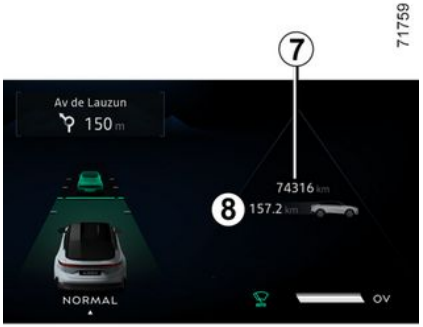
**「最小限」表示**を選ぶと、必要不可欠な情報のみインストルメントパネルに表示されます。

# オンボードコンピューター

## 情報ディスプレイ




**速度計 *2*。**

**速度超過警告音**

車両と国によっては、 警告ランプが表示され、警告音が鳴ります。この警告音は、車両が 120 km/h 以上で走行するとただちに鳴ります。

この警告灯は、車速が 120 km/h を超えている限り点灯したままになります。

**運転支援に関する情報 *3*。**

**進行中のナビゲーションに関する情報 *4*。**

**バッテリー情報 *5*（トラクションバッテリー充電率、推定航続距離）。**

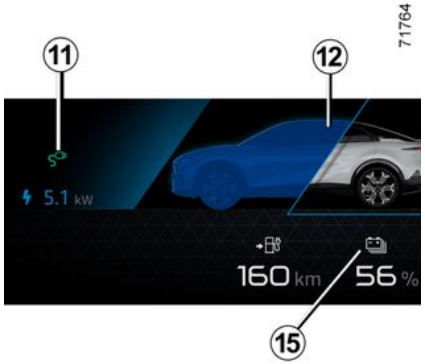
**電力計 *6*。**

**オドメータ *7*。**

**回生ブレーキレベル警告灯 *9*。**

**情報エリア *8*。**制御装置 ***10*** を使うことで、インストルメントパネル ***A*** 上で使用できる次のようなさまざまなウィジェットを選択できます。

– トリップメーター（走行距離記録計、消費量情報など）。
– 電話やマルチメディア（現在再生中の音源など）に関する情報。
– 車両情報（警告メッセージなど）。
– …



**充電ケーブル「接続」警告灯 *11***

これは、充電ケーブルが車両に差し込まれるとに点灯します。

**充電残量 *12***

ゲージは、残存エネルギーのレベルを示します。

**残りの充電時間 *13***

**トラクションバッテリー充電率 *14***

**予約しきい値**

車両によっては、トラクションバッテリが約15%に達すると、インストルメントパネルのトラクションバッテリ残量***14***および警告灯***15*** が黄色で表示され、車両によってはビープ音が鳴ります。

航続距離を最適化するには➔ **175**。

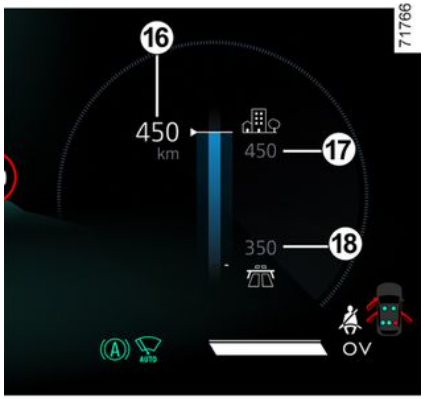
**ブレーキング喪失しきい値に迫っている**

車両によっては、充電量が約5%に達するとビープ音が鳴ります。警告灯***15***は黄色で点滅し、トラクションバッテリ残量***14***は赤色で表示されます。

**注:** 充電量が約5%、または車両によっては0%に達すると、残りの航続距離値はインストルメントパネルに表示されなくなるか、車両によっては約30秒の遅延後に表示されません。

車両が停止するまでエンジン出力が徐々に低下します➔ **347**。

**概算航続距離 *16***




リアルタイム概算航続距離は、車両使用環境、車両装備、運転スタイル、気候といったさまざまな要素を踏まえて算出されます。

この概算は、直近数 km の走行における実績を踏まえて行われます。走行中に要因（道路の種類、運転スタイルなど）が変化した場合、自動的に修正されます。

さらに、推定範囲を理解するために、インジケーター ***17*** および ***18*** を参照できます。トラクションバッテリの充電レベルに応じて:

– インジケーターランプ ***17***: **「高」範囲の推定** 最適な運転条件（たとえば、エアコンの使用を最小限に抑えた温暖な気候下での A 道路または高速道路での運転）に基づいて算出されます。

# オンボードコンピューター

– インジケーターライト ***18***: **「低」範囲の推定** 好ましくない運転条件(たとえば、冬季の高速道路での運転や暖房システムを集中的に使用する交通渋滞での運転)に従って計算されます。

航続距離を最適化するには➔ **175**。

## マイル表示のインストルメントパネル

（km/h 表示に切り替え可能）

車両を静止させ、エンジンを作動させた状態で、マルチメディア画面***19***から「車両」領域を選択し、「設定」メニューを押し、「システム」および「単位」を押します。

Km/h または mph を選択します。

この設定を変更すると、インストルメントパネルに表示される速度計の表示単位と走行距離情報の一部が変換されます。

前のモードに戻りたいときは,同じ作業を行ってください。

**注:** スイッチを OFF にすると、車載コントロールユニットの測定単位は自動的に既定の単位に戻ります。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

速度単位が異なる国で運転する場合、適切な情報を得て安全性補助機能の一部を利用するために、インストルメントパネルの単位を変更する必要があります。

安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

## 車両調整のパーソナリゼーションメニュー

### はじめに

車両の装備に応じて、この機能は車両のいくつかの機能の作動と作動解除および調整を行います。

### 設定メニューへのアクセス

各種設定にアクセスするには、車両を静止させ、エンジンスイッチを ON にした状態で、マルチメディア画面 ***1*** から「車両」ワールドを選択し、「車両」メニュー >「外部」タブの順に押します。

## 調整の選択

タブを選択し、次に変更する機能を選択します（この表示は、車両装置および国に応じて異なります）：

a）「ｱｸｾｽ」：

– « オートドアロック »；
– « ハンズフリーロック/ロック解除 »；
– « スマートフォンキー »；
– ...

b）「ようこそ」：

– « 外部ライトシーケンス »；
– « 室内音声シーケンス »；
– « オートドアミラーOFF »；
– « 室内ランプ機能 »；
– ...

c）「ドライビングライト」：

– « アダプティブビジョン »；
– « 走行車線選択 »；
– ...

d）「ワイパー」：

– « ｵｰﾄﾜｲﾊﾟ »；
– ...

機能に応じて、次を選択します:

– 「ON」または「OFF」をオンまたはオフにできます。

または

– ヘッドランプ点灯時間を調整するための時間（「自動ﾌｫﾛﾐｰﾎｰﾑ機能」機能など）。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

## 「お気に入り」機能

車両によっては、制御装置 ***2*** を押すことで、次の機能を、過去に定義し記憶させたユーザー設定で有効化できます。

– シートヒーター。
– ステアリングホイールのヒーター。
– 希望設定（アクセス、ウェルカム、照明、ワイパーなど）。
– 「ハンズフリーパークアシスト」機能。
– 「」モード Save;
– ...

この機能のプログラムについては、マルチメディアの指示を参照してください。

安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

## 時計／外気温度計

### 時計の調整

時刻と外気温は、マルチメディア画面 ***1*** に表示されます。

時刻を調整するには、マルチメディア画面 ***1*** から「車両」ワールドを選択

し、「設定」メニュー >「日付や時刻」の順に選択します。

さまざまな設定にアクセスできます。

– 「時刻の形式」。
– 「タイムゾーンを選択」。
– 「タイムゾーンの設定」
– ...

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

## 外気温度計

**専用装備:**

外気温が - 3 °C ～ 3 °C の範囲内場合、温度を示す数値が点滅します（これは、凍結の可能性を示します）。

電気の供給が途絶えた場合（バッ テリー不足、ケーブル切断など） は、時計を合わせる必要があります。
ただし、走行中に時計の操作は危険ですのでおやめください。

**外気温度計**
凍結の条件は気候や湿度、 温度により異なります。外 気温の表示だけで凍結の有 無を判断することはできません。

# 警告灯

**下記の情報の表示は、車両の装備および国によって異なります。**

**インストルメントパネル *A*:**ドライバーのドアを開けたときに点灯します。ダッシュボードの輝度を調整するには、マルチメディア画面の説明に従います。

一部の警告灯の点灯と同時にメッセージが表示されることがあります。

警告灯 STOP が点灯した場合、周囲の交通に注意しながら直ちに安全な場所に停車しなくてはなりません。エンジンを停止し再始動しないでください。認定ディーラにご連絡ください。

ビジュアルリターンまたは音声がない場合には、インストルメントパネルが故障しています。そのため、交通状況が許す限り直ちに停車することが重要です。車両が固定されていることを確認して、指定工場に連絡してください。

警告灯 が表示されたら**慎重に運転しながらできるだけ速やかに指定サービス工場で点検を受けてください**。この推奨事項を守らない場合は、車両が損傷する恐れがあります。

**サイドランプ表示灯**

**ロービーム表示灯**

**ハイビーム表示灯**

**オートハイビーム表示灯**

**リアフォグランプ表示灯**

**左ターンシグナルランプ表示灯**

**右ターンシグナル表示灯**

**悪天候警告灯**

**「Adaptive Vision」ライト機能不良警告灯**

**半ドア警告灯**

**電動パーキングブレーキ作動警告灯** **➔ 167**

**「Autohold」システム警告灯**

**歩行者ホーン故障警告灯**

# 警告灯

**運転席 airbag および助手席** ➔ **111** 不具合警告灯

**フロントウインドウウオッシャー低レベル警告灯**

**オートワイパ警告灯**

**STOP警告灯**

イグニッションスイッチをONにすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。この警告灯は、他の警告灯やメッセージと同時に点灯し、点灯するとビープ音も同時に鳴ります。
この警告灯が点灯したら周囲の交通に注意しながら直ちに安全な場所に停車してください。エンジンを停止し再始動しないでください。
認定ディーラにご連絡ください。

**警告灯**

イグニッションスイッチをONにすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。この警告灯は、インストルメントパネル上に表示される他の警告灯やメッセージと同時に点灯する場合があります。
この警告灯が点灯したら**慎重に運転しながら**できるだけ速やかにルノー指定サービス工場で点検を受けてください。この推奨事項を守らない場合は、車両が損傷する恐れがあります。

**警告灯**

走行中に赤で点灯し、さらに STOP 警告灯が点灯する場合は、安全のために、交通条件が許す限り直ちに停止する必要があります。エンジンを停止し再始動しないでください。
認定ディーラにご連絡ください。
走行中に黄色で点灯し、さらに

警告灯が点灯する場合は、できるだけ速やかに正規サービス工場にお立ち寄りください。**それまでは、慎重な運転を心がけてください**。この推奨事項を守らない場合は、車両が損傷する恐れがあります。

**電気システム警告灯**

この警告灯は、電気アセンブリの温度が高すぎる場合に、警告灯 STOP およびビープ音と同時に点灯します。点灯したら、車両を停止しイグニッションスイッチを OFF にします。正規サービス工場にご連絡ください。

**この警告灯が、警告灯 STOP 、ビープ音および「安全に 回避」メッセージと同時に点灯した場合は、**イグニッションスイッチを OFF にし、エンジン再始動はお控えください。下車して、正規ディーラーにご相談ください。

「安全に 回避」メッセージが警告灯

STOP およびビープ音と同時に表示された場合は、交通状況にも注意しながら車両をただちに停止させてください。イグニッションスイッチは OFF にし、そのままの状態を保ちます。ご自身と乗員の全員で降車し、車両や道路から離れます。
**火災の恐れ**

道路の脇に車両を駐車するときは、三角停止表示板や国の法規で定められた機器を使用して他の車両に駐車中であることを知らせる必要があります。

**電気技術システム故障警告灯**

この警告灯が点灯した場合、電気系統のアセンブリ（トラクションバッテリおよび電気モーター）に関連する電気技術的な故障が発生していることを示します。できるだけ早く指定サービス工場で点検をお受けください。

**電気モーターの故障警告灯**
警告灯が点灯した場合、電気モーターに関連する電気系統の故障を示します。できるだけ早く指定サービス工場で点検をお受けください。

**トラクションバッテリ充電レベル表示灯**
これは、トラクションバッテリ充電レベルがリザーブしきい値に達したときに、黄色で表示されます。

**トラクションバッテリ故障警告灯**

走行中に警告灯 を伴って表示された場合、これはトラクションバッテリの動作に関連する故障を示します。できるだけ早く指定サービス工場で点検をお受けください。

**12 V バッテリ充電警告灯**

この警告灯が、STOP 警告灯とビープ音を伴って点灯した場合、電気系統において過電圧または放電➔ 333が生じてます。

**性能の制限警告灯**
これは、電動モータまたはトラクションバッテリが一時的に定格出力を供給しない場合に表示されます。この間、車両の性能が低下します。警告灯が消えるまで、よりスムーズな運転スタイルを選びます。

**充電ケーブル「差込中」警告灯**
この警告灯は、充電コードが車両に差し込まれると点灯します➔ 26。

**アンチロックブレーキング警告灯**
イグニッションスイッチを ON にすると点灯し、システムに異常が なければ数秒後に消灯します。
イグニッションスイッチを ON にしてから数秒後に消灯しないとき、または走行中に点灯するときは、ABS システムの故障を示しています。このときブレーキングは ABS 非装着車と同じになります。できるだけ早く指定サービス工場で点検をお受けください。

**横滑り防止装置（ESC）およびトラクションコントロールシステムに関する警告灯**
警告灯はいくつかの理由で点灯する場合があります。

**横滑り防止装置（ESC）／トラクションコントロールシステム➔ 184警告灯**

**タイヤ空気圧不足警告灯**
この警告灯は、イグニッションスイッチを ON にするかエンジンを始動すると点灯し、数秒後に消灯します➔ 178。

**「ハンズフリー駐車」機能警告灯**

**可変式パワーステアリング警告灯**
イグニッションスイッチまたはエンジンを ON にすると点灯し、システムに異常がなければ数秒後に消灯します。

走行中に警告灯 STOP と共に点灯した場合は、システムの故障です。認定ディーラにご連絡ください。

**ブレーキ回路の故障警告灯**
イグニッションスイッチまたはエンジンを ON にすると点灯し、システムに異常がなければ数秒後に消灯します。ブレーキを掛けたときに点灯し、同時に警告灯 STOP が点灯して警告音が鳴る場合、ブレーキ回路のフルードレベルが低下しているか、またはブレーキシステムに異常があると思われます。
周りの交通に注意しながら速やかに停車し、認定ディーラご連絡ください。

**ブレーキペダル警告灯**
この警告灯は、ブレーキペダルを踏んだときに点灯します。

# 警告灯

充電プログラミング警告灯

エアコンプログラミングインジケータ

ハンズオフステアリングホイール検出警告灯

「アクティブ非常ブレーキ」機能警告灯 ➔ 212

「アクティブ非常ブレーキ」機能の不具合または使用不可を示す警告灯 ➔ 212

速度超過警告灯

車線離脱警告灯

車線逸脱防止警告灯

レーンセンタリング機能警告灯

スピードリミッタ警告灯

アダプティブクルーズコントロール警告灯

ドライバーに対する「注意喚起」／ドライバーに対する「疲労」警告機能警告灯 ➔ 219; ➔ 221

## ディスプレイ *B* 上

Airbag助手席 ON ➔ 111

Airbag助手席OFF ➔ 111

フロントシートベルト非着用警告灯 ➔ 75

## ステアリング

### ステアリングホイールの高さと 前後位置の調節

レバー ***1*** を下げてステアリングホイールをご希望の位置に設定します。

続いてレバーをハードポイントの先まで上げて、ホイールを固定します。

ステアリングが確実にロックされたことを確認します。

> ⚠ 安全のために、この調整は必ず停止時に行ってください。

### ステアリングホイールのヒーティング

(車種によります)

この機能は、ステアリングホイール ***4*** を温めます。

**作動原理**

設定温度に達すると、システムが加熱エリアの温度を約 30 分間制御し、その後自動的にオフになります。

**機能の作動**

イグニッションスイッチを ON にした状態で、マルチメディア画面 ***2*** のボタン ***5*** を押します。

**機能の作動解除**

– **自動:**

約 30 分間の制御フェーズの後で、機能は自動的にオフになります。

– **手動:**

制御フェーズ中に機能を無効化するには、マルチメディア画面 ***2*** の ***5*** ボタンを押します。

**注:** この機能には、ステアリングホイール ***4*** 上の「お気に入り」ボタン ***3*** を押す方法でもアクセスできます。

# ステアリング

## 「お気に入り」機能

車両によっては、ステアリングホイールの制御装置 ***6*** を押すことで、あらかじめ定義し記憶したユーザー設定に従ってヒーター付きステアリングホイールのヒーターを有効化できます。

この機能のプログラムについては、マルチメディアの指示を参照してください。

## パワーステアリング

車両には走行速度に応じてステアリングの操作力を自動的に調整する、車速感応式パワーステアリングが装備されています。

このシステムは、駐停車時などの低速走行中には、楽にステアリング操作ができるよう十分なパワーアシストを行い、高速走行中は、速度の上昇にしたがって安定した走行を行うためにパワーアシスト量を抑えます。

> ⚠ 下り坂の走行中、および一般に走行中には絶対にエンジンを停止しないでください（パワーステアリングやエマージェンシーブレーキアシストが使用できなくなってしまいます）。

> ⓘ ステアリングを左右どちらかいっ ぱいに切った状態を長く保たない でください。
> エンジン停止時またはシステムが故障した場合でも、ステアリングを回すことができます。ただし、より大きな力が必要です。
> ステアリングホイールを素早く回すとノイズが起きることがあります。正常です。

## ドア／ルームミラー

### 電動調整付きドアミラー:

ご希望の位置に調整するには、いずれかのスイッチ ***3*** でドアミラーを選択し、スイッチ ***2*** を用います。

### ドアミラーデフロスター

エンジンの回転中は、ミラー熱線とリアウィンドウ熱線が同時に作動します。

安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

### 電動格納式ミラー

車両をロック解除するとドアミラーは自動的に展開されます。車両をロックするとドアミラーは格納されます。

ドアミラーの自動折り畳みを無効化／有効化できます➔ 132。

スイッチ ***1*** を押すと強制的に格納できます。この場合ドアミラーは、自動格納機能にかかわらず、ボタン ***1*** を再度押すまでは格納されたまれたままになります。

**注意：**

ルームミラーを手動で展開または折りたたんだ場合は、使用位置にリセットすることができます。

これを行うにはスイッチ ***1*** を押します。ルームミラーからメカニカル音が聞こえます。

ノッキング音が聞こえない場合は、スイッチ ***1*** をもう一度押して、ドアミラーからノッキング音が聞こえるようにします。

ルームミラーに映るものは見た目よりも近くにいます。
安全のために、操作する前に距離を正しく認識することを考慮してください。

### バックギアに入れるとドアミラーが傾きます。

運転席位置メモリ装備車両では、後進時のドアミラー位置記憶設定が可能です。

車両を停止させてシフトレバーを「後進」位置にすると、いずれかのスイッチ***3***でミラーを選択し、スイッチ***2***でお好きな位置に調整できます。

# リアビュー

## 走行位置に戻す

シフトレバーを、「後進」から「前進」に移動させることができます。

– 車速が 10 km/h 以下のときに後進ギア解放から約 9 秒後。
– 車速が 10 km/h を超えている状況で「後進」位置になった場合。
– エンジンが停止しているとき。

## シートポジションのメモリー

– ドアミラーの調整（前の項を参照）
– 設定メモリにアクセスする場合は、マルチメディア装置の取扱説明書を参照してください。設定を保存します。

前進ギアおよび後進ギア時のドアミラーの位置と、運転席シートの位置が同時に記憶されます。

## 保存された位置を呼び出す

記憶された位置を呼び出す場合については、マルチメディア装置の取扱説明書を参照してください。

「呼出し」を選択します。

シフトレバーが「前進」または「後進」の場合のドアミラー位置とフロントシートの位置が呼び出されます。

安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

## ルームミラー

角度は調節できます。

## レバー *4* 付きルームミラー

後続車のビームがまぶしいとき、またはランプがまぶしいときは、ルームミラーは自動的に暗くなり防眩します。

## 灯火類

### デイタイムランニングランプ

AUTOのシンボルがマーク***2***に合うまでリング***3***を回します。

デイタイムランニングランプは、エンジンを始動すると（特にレバー ***1*** を操作しなくても）自動的に点灯し、イグニッションスイッチを OFF にすると自動的に消灯します。

### スモールランプ

リング ***3*** を回してマーク ***2*** に合わせます。

メーターパネルの警告灯 が点灯します。

**注:** 車両によっては、パーキングブレーキがかかっているとき、またはシフトレバーが **P** 位置にあるときにのみ、スモールランプを手動で点灯できます。それ以外の場合は、メッセージ"ポジションランプ 点灯不可"がインストルメントパネルに表示され、スモールランプを点灯できないことが示されます。

### ロービーム

#### 手動での作動

リング ***3*** を回してマーク ***2*** に合わせます。

メーターパネルの警告灯 が点灯します。

> 夜間走行の際は、電子機器が正常に作動することを確認し、ヘッドランプの光軸調整を行ってください（積載量が普段と異なる場合）。
> 常に、汚れ、泥、雪、積載荷物などによってランプが遮られることのないように注意してください。

#### オートマチック機能

リング ***3*** を、AUTO 記号 がマーク ***2*** に合うまで回します。この状態でエンジンスイッチを ON にすると、ロービームは、レバー ***1*** を操作しなくても、灯火類の輝度に応じて自動点灯または消灯します。

# ランプ類

車両によっては、ロービームの自動作動機能が搭載されています（フロントワイパブレードが数回作動した後、自動的に作動）。

**アダプティブフロントランプシステム**

(車種によります)

速度や天候に応じて、ロービームの照射幅や照射範囲を自動的に調整する機能です。

エンジンスイッチを ON にした状態で、リング ***3*** を、AUTO 記号がマーク ***2*** と合うまで回します。

この機能は無効にできます。マルチメディアの指示を参照してください。

**作動異常**

「オートライト を点検」というメッセージがインストルメントパネル上に表示され、システムが無効化されます。

メーカーにお 問い合わせください。

## 「不安定な天候」機能

(車種によります)

この機能は、適応フロントランプシステムの一部です。これは、フロントフォグランプの使用に代わるものです。霧や雪の多い天候、または視界が悪い場合に作動する場合があります。

この機能を有効化するには、AUTO 記号がマーク ***2*** の反対側に表示されるまでリング ***3*** を回し、回転スイッチを押してマーク ***4*** を記号 ***5*** に合わせます。

メーターパネルの表示灯 が点灯します。

## ランプの消灯

この機能を無効化にするには、回転スイッチを再び回して、マーク ***4*** を記号 ***5*** と合わせます。

インストルメントパネルの表示灯

が消灯します。

ヘッドランプを消灯すると、不安定なフォグランプも連動して消灯します。

## 補助コーナリングランプ

(車種によります)

前進ギアで、ロービームまたはハイビームヘッドランプが点灯している場合、ステアリングホイールの角度に応じて、カーブや交差点での視認性を向上させるためにビーム幅を調整する機能です。

## ハイビーム：

エンジンスイッチが ON でロービームが点灯中にレバー ***1*** を押し（動き ***A***）ます。

メーターパネルの警告灯 が点灯します。

ロービーム位置に戻すには、もう一度レバー ***1*** を押します。

## ハイビームオートライト機能

車両によって、このシステムは、ハイブームを自動的に点灯または消灯させます。

この機能は、ルームミラーの後ろにあるカメラを使い、後続車両や対向車両を認識します。

**注:** 夜間、市街地の市街地では、自動ハイビームヘッドランプが自動的にオフになります。

以下の場合、ハイビームが自動的に点灯します：

– 灯火類の輝度が低い場合。
– 他の車両やライトが認識されないとき。
– 車両の時速が約 40 km/h 以上になったとき。

以上の条件のうち１つでもが満たさないものがあれば、このシステムは再びロービームに切り替えます。

**注:** フロントウインドウに障害物（汚物、泥、雪、結露など）がないかご確認ください。

### ON/OFF

### 自動ハイビームシステムを作動させるには

リング***3***を、AUTO記号がマーク***2***と合うまで回し、スイッチ***6***を押します。

ロービームが点灯すると、インストルメントパネルの 表示灯が点灯します。

### 自動ハイビームを無効化するには

スイッチ***6***を押します。 警告灯がインストルメントパネルから消えます。

**注:** レバー ***1*** を押すと、自動ハイビーム機能が無効化され、 警告灯がインストルメントパネルから消え、車両がハイビームを作動させます。

このシステムは、何らかの状況によって妨害されることがあります。、とりわけ

– 過酷な気候条件下で(雨、雪、霧…)；
– フロントウィンドウ、またはカメラの視界が遮られているとき；
– 後続車両あるいは対向車両のライトがほとんど見えない、または遮断されているとき；
– ヘッドランプの光軸調整されていない
– システムが反射の影響を受けている場合。
– ...

### 作動異常

「オートライト を点検」というメッセージがインストルメントパネル上に表示され、システムが無効化されます。

メーカーにお 問い合わせください。

夜間に、カメラの下のフロントウィンドウ部分で携帯型ナビゲーションシステムを使用すると、フロントウィンドウへの光反射により、「自動ハイビーム」システムの作動の妨げとなることがあります。

「自動ハイビーム」システムは、ドライバーが行うべき注意を代行するものではなく、車両の照明の操作責任や、周辺の明るさ、見やすさ、道路状況などに応じて車両を操作する責任はドライバーにあります。

## ランプの消灯

運転席のドアを開けるか、車両をロックするか、エンジンを切ってから 1 分後に自動的に消灯します。

この場合、次にエンジンを始動するときのリング ***3*** の位置に応じてランプが点灯します。

## ライト消し忘れ警告アラーム音

エンジンを停止した後にランプを点灯した場合、運転席側ドアを開けると警告ブザーが鳴り、ランプが点灯していることを知らせます。

## 作動異常

車両によっては、照明に不具合があると、その証として、「照明要点検」というメッセージが表示され、 警告灯および/または 警告灯がインストルメントパネル上で点滅します。

メーカーにお 問い合わせください。

## ウェルカム機能とグッドバイ機能

(車種によります)

機能が作動すると、 カードが検知されるか車両が解錠されたときに、デイタイムランニングランプとリアサイドランプが自動的に点灯します。

照明は以下の場合に自動的に消灯します：

– スイッチを ON にした約 15 秒後。
– エンジンが始動したとき（照明制御レバーの位置に応じて）。

または

– 車両の施錠時。

**機能の起動／作動解除**

アウターウェルカム機能を有効または無効にするには、マルチメディア装置の取扱説明書を参照してください。

## 「フォローミーホームランプ」

この機能によりサイドランプとロービームが一時的に点灯します（玄関口を照らす等）。

**エンジンを停止し照明スイッチを OFF にした状態で、**運転席ドアを開けた後にリング ***3*** を位置 AUTO にし、レバー ***1*** を手前に引きます。側灯とロービームが約 30 秒間点灯し、警告灯 および がインストルメントパネル上に表示されます。

この 時間を延長するには、レバーを最大 4 回まで手前に引くことができます（最長約 2 分）。

操作の確定を示すため、「_ _ _ 中に点灯」というメッセージが、点灯時間とともにインストルメントパネル上に表示されます。

次に、車両を施錠できます。

**「フォローミーホーム」機能の無効化**

自動消灯前に照明を消すには、リング ***3*** を他の任意の位置まで回してから位置 AUTO に戻します。

**注:** ウェルカム機能とグッドバイ機能が作動している場合は、エンジンがオフになると、スイッチを引く前に

# ランプ類

「フォローミーホーム」機能を解除する手順を実行する必要があります（それ以外の場合は、ウェルカム機能とグッドバイ機能によってランプが点灯し続けます）。

## リアフォグランプ

この機能を有効化するには、AUTO 記号がマーク ***2*** の反対側に表示されるまでリング ***3*** を回し、回転スイッチを押してマーク ***4*** を記号 ***7*** に合わせます。

メーターパネルの表示灯 が点灯します。

ランプはスイッチリング上で選択されたとおりに点灯します。選択されたランプが点灯すると同時にメーターパネル上のマークも点灯します。

リアフォグランプは点灯の必要がなくなったら直ちに消灯してください。後続車の迷惑になります。

## ランプの消灯

この機能を無効化にするには、回転スイッチを再び回して、マーク ***4*** を記号 ***7*** と合わせます。

インストルメントパネルの表示灯

が消灯します。

ヘッドランプを消灯すると、リアフォグランプも連動して消灯します。

> ⓘ 霧の深いとき、降雪時またはルー フを超える荷物を積載している場 合には、ランプは自動点灯しませ ん。
> フォグランプは、ドライバーが制御できます。点灯（警告灯点灯）／消灯（警告灯消灯）の状態は、インストルメントパネル上の警告灯で把握できます。

# ホーン／パッシングランプ／ハザードランプ／方向指示灯

2

## ホーン

ホーンを鳴らすにはステアリングホイールのボス ***A*** を押します。

## パッシングランプ

パッシングを行うには、レバー ***1*** を手前に引いてから離します。

## 方向指示灯

ステアリングホイールを動かしたい方向と同じ方向にレバー ***1*** を動かします。

**ワンタッチモード**

レバー ***1*** を、抵抗がなくならない位置まで短く上下に動かしてから離します。するとレバーは元の位置に戻り、該当する方向指示灯が 3 回点滅します。

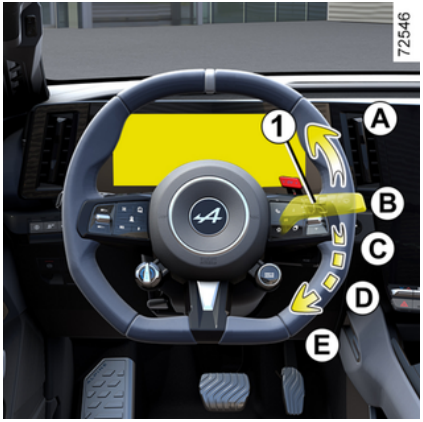
## ハザードフラッシャ

スイッチ ***2*** を押します。このスイッチを押すと、前後左右の方向指示灯とサイドマーカーが同時に点滅します。

ハザードランプは、危 険な場合、つまり特殊な運転状況や交 通状況のために、普段は停車しない場 所や駐車禁止区域にやむをえず停車し なくてはならないことを他の運転者に 知らせるときにしか使用しないでくだ さい。

## フロントワイパー、ウォッシャー

### 間欠フロントワイパー 装着車




***A.* ワイパーの 1 往復作動**
短く押すとワイパーが 1 往復作動します。

***B.* オフ**

***C.* 間欠ワイパー**
間欠作動では、ワイパーブレード が一往復するごとに数秒間停止し ます。リング ***2*** を回してワイパーの作動間隔を変更できます。

***D.* 低速ワイパー**

***E.* 高速ワイパー**

**特徴**

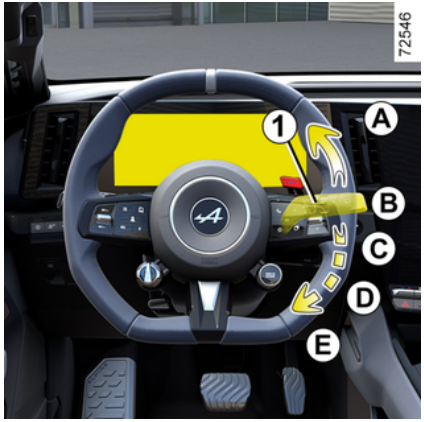
**走行中**車両が停止すると、ワイパの動作速度が遅くなります。

高速モードを 選択すると、停車時は遅速モードへ切 り替わります。

車両が再び走行を開始すると走行中に選択されていたもとの速度に戻ります。

レバー ***1*** の操作は自動機能に優先するため、操作すると自動機能はキャンセルされます。

### ウィンドウワイパレインセンサ装着車両




レインセンサは、フロントウインドウのルームミラー前にあります。

***A.* ワイパーの 1 往復作動**
短く押すとワイパーが 1 往復作動します。

***B.* オフ**

72547

***C.* オートワイパー機能**

この位置を選択すると、システム がフロントウインドーの水滴を探知 し、ワイパーを適切な速度で作動さ せます。リング ***2*** を回転させると、作動基準値や間欠ワイパーの程度を、次のように変更できます。

– ***F***: 最高感度。
– ***G***: 最低感度。

感度を上げると、ワイパーの反応と動作が速くなります。

自動ワイパーをオンにしたり感度を上げたりすると、ワイパーが 1 回作動します。

インストルメントパネルの警告灯

が点灯することで、機能が有効になったことを確認できます。

**注：**

– レインセンサーは運転時の操作を補助するものにすぎません。視界が悪くなった場合、運転者は手動でワイパーを作動してください。霧や降雪がある場合には、自動ワイパー機能は停止し、運転者の意志によって制御されます。
– 温度が 0 度を下回ると、車両が発進しても自動ワイパーは作動しません。車両が一定の速度（約 8 km/h）を超えると、自動的に作動します。
– 乾燥した天気の場合は自動ワイパーを作動させないでください。
– 自動ワイパーを作動させる前に、ウインドウの氷を完全に除去してください。
– ローラータイプの洗車機で洗車する場合は、レバー ***1*** を OFF 位置 ***B*** に戻して自動ワイパーを無効化してください。

**作動異常**

自動ワイパーが誤動作する場合、ワイパーが間欠ワイパーに設定されます。正規サービス工場にご連絡ください。

次の場合には、レインセンサの作動に支障が生じることがあります。

– フロントワイパーが破損している場合: この場合には、センサの検出ゾーンに残った水滴やブレード痕により、自動ワイパーの反応が遅くなったり、ワイパーの間隔が短くなったりする恐れがあります。
– フロントウィンドウのセンサ付近に小片や亀裂がある場合、またはフロントウィンドウに汚物、埃、小虫、氷、洗浄ワックス、撥水性の化学物質などが付着している場合。この場合、フロントワイパーの感度が下がったり、無反応状態となったりする恐れがあります。

***D.* 低速ワイパー**

***E.* 高速ワイパー**

**特徴**

**走行中**車両が停止すると、ワイパの動作速度が遅くなります。

高速モードを 選択すると、停車時は遅速モードへ切 り替わります。

車両が再び走行を開始すると走行中に選択されていたもとの速度に戻ります。

レバー ***1*** の操作は自動機能に優先するため、操作すると自動機能はキャンセルされます。

**注意**

– 凍結時は、拭き取りを開始する前にブレードがウインドウにくっついていないかどうかを確認してください。ブレードが氷でくっついているときにワイパーを作動させると、ブレードとワ

# ワイパー

イパーモーターの両方が破損するおそれがあります。
– ウインドウが乾燥している状態でワイパーを作動させないでください。摩耗が早まったり、ブレードが破損する原因となります。

## 特定のフロントワイパー位置（整備位置）

この位置では、ブレードを持ち上げてウインドウから取り外すことができます。

以下の場合に便利です。

– ブレードを清掃する場合。
– 冬季にブレードをウインドウから離しておく場合。
– ブレードを交換する場合➔ 352。

エンジンの停止または回転中に、レバー ***1*** を 2 回持ち上げ、***A*** 位置（1 回スイープ位置）にします。

ブレードはボンネットから外れた位置に停止し ます。

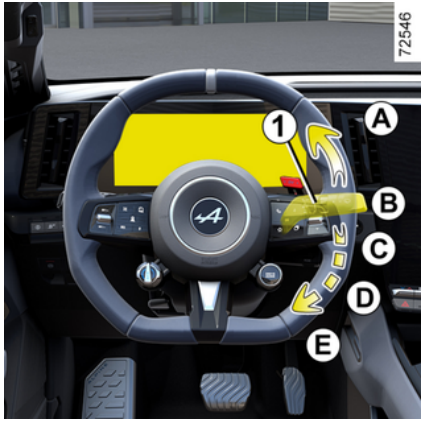
ブレードを最低位置に戻すには、イグニッションを ON にし、ワイパーがフロントウィンドウ上に降ろされているか確認してからレバー ***1*** を ***A*** 位置（1 回スイープ位置）にします。

イグニッションスイッチを ON にする前に、ワイパーをウインドウに置いてください。ウインドウ上にないと、スイッチを ON にしたときにボンネットやワイパーが破損するおそれがあります。

フロントウィンドウが絡む作業（洗車、デフロスターの作動、フロントウィンドウの清掃など）の前には、レバー ***1*** を ***B*** 位置（停車位置）に戻してください。**負傷および／または損傷の恐れがあります。**

ウインドウに障害物（ゴミ、雪、氷など）がある場合、ワイパを作動させる前にフロントウィンドウ（ルームミラーの後ろの中央ゾーンを含む）とウィンドウから障害物を除去します（モータのオーバーヒートの恐れがあります）。
ブレードの動作の妨げとなっている物がある場合、動作を停止する可能性があります。
障害物を取り除き、ワイパースイッチレバーを使用してワイパーを再作動させてください。

## ウインドウウオッシャー




**イグニッションスイッチを ON にした状態で**、レバー ***1*** を手前に引いてから離します。

長めに押すと、フロントウォッシャーに加えてワイパーが 2 回作動し、数秒後に 3 回目の作動が実行されます。

**注：**

– レバー ***1*** を用いたフロントウィンドウワイパの操作時間が 30 秒を超えると、フロントウィンドウウォッシャポンプが停止することがあります。**これは、ポンプの過熱を防ぐための措置です**。
– 温度が氷点下になると、ウォッシャ液がウインドウで凍結し、視界が悪くなるおそれがあります。清掃前に、デ

## ワイパー

フロスタースイッチを使用してウインドウを温めてください。

2

点検のためにボンネットを開ける場合、ワイパーのレバーがポジション ***B***（停止）の位置にあることを確認してください。
**場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。**

**ワイパブレードの効率**
ワイパーブレードの状態をこまめ に点検してください。これにより 耐用年数が大きく変わります：

– きれいに保ってください：ワイパブレード、リアウインドウをセッケン水で定期的に洗浄してください。
– ウインドウが乾燥している状態で使用しないでください。
– 長期間使用しないときは、ワイパをウインドウから離してください。

どの場合でも、機能が低下してきたら（約 1 年に 1 度は）交換してください➔ 352。

**ワイパをご使用になるとき の注意事項**

– 凍結または降雪時には、（モーターが過熱する危険を避けるため）ウインドウから凍結または降雪を除去してからワイパーを作動させてください。
– ワイパをご使用になる前 に、輸送荷物がブレードのストロークを妨げないこと を確認してください。

## エンジンの始動

カードを検出ゾーン ***1*** 内に置いてください。

**始動：**

– ブレーキペダルを踏みます。
– ボタン ***2*** を押します。メッセージ「READY」がインストルメントパネル上に表示され、ビープ音が鳴ります。

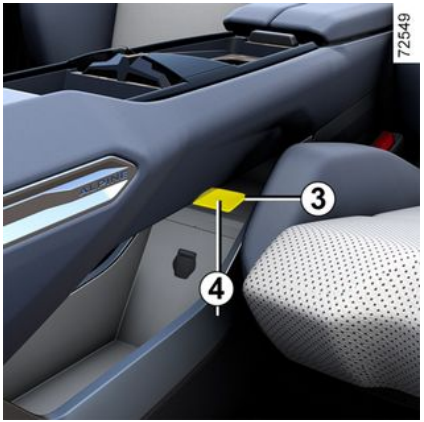
車速が時速約 5 km/h を超えると、メッセージは消えます。

**特別機能**

– エンジン始動の条件がひとつでも満たされていない場合は、「制動 + 始動」というメッセージがインストル メントパネル上に表示されます。

> ⓘ マルチメディアシステムによるシステムの更新中に、車両を始動することはできません。
> 車両を始動する前に、更新が完了するまで待ちます。
> システム更新の詳細については、マルチメディアシステムの取扱説明書を参照してください。

> ⓘ 車両から充電ケーブルが抜かれている場合にのみ、車両を起動できます。




**トランク開放状態での「ハンズフリー」始動**

この場合、カードを紛失しないよう、ラゲッジルームに置いたりしないでください。

**アクセサリー機能**

（イグニッションスイッチを ON にします）

一部の電装品（ラジオ、ナビゲーションシステム、ワイパーなど）は乗車するとすぐに使用することができます。

# エンジン始動と停止

他の機能を使用するには、車内にカードを置き、ペダルを踏まずに始動ボタン ***2*** を押します。

## 作動異常

場合によっては「ハンズフリー」カードが作動しないことがあります。

– カードの電池が切れており、補助 12 V バッテリも上がっている状態など。
– カードが、同一周波数の機器（画面、携帯電話、ゲーム機など）の近くにある場合。
– 強い電磁波の影響内に車両がある時。

「キーを検出ゾーンに置いて STARTボタンを押す」というメッセージがインストルメントパネル上にが表示されます。

ブレーキペダルを踏み、カード***4***（ボタン側）を、コンソールの定位置***3***に置きます。

ボタン ***2*** を押して車両を始動します。メッセージが消えます。

## エンジンの停止

車両は、停止している必要があります。

***2*** ボタンを押します。するとエンジンが停止し、READY というメッセージがインストルメントパネルから消え、電動パーキングブレーキがかかります。

エンジンスイッチを OFF にしたい時にカードが車内にないと、「キーカード検出できません STARTボタンを押す」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されるため、ボタン ***2*** を2 秒以上押してください。

エンジンが停止しても、その時に使用中だったアクセサリー類（ラジオなど）は約 45 分間作動し続けます。

運転席側のドアを開けると、アクセサリー類の作動は停止します。

車両が完全に停止するまでは絶対 にイグニッションキーを OFF にしないでください。エンジンを切ると、システム機能（パワーステアリング、Airbags やプリテンショナーなどの乗員保護装置）が停止します。

**駐車または停車時のドライバーの責任**
お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。実際、彼らがエンジンを始動したり、パワーウインドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険であり、他人にまで危害が及ぶ恐れがあります。
その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。
**死亡または重傷のおそれ。**

# ドライブモード

DRIVE MODE システムを使うと、車両に応じて、走行方法、ムードランプおよび快適機能に次のような影響を及ぼす複数の走行モードの中からいずれか 1 つを選択できます。

– モードはいずれも既定で、一部の設定（ムードランプ設定など）はカスタマイズできます。
– 「Perso」モードは完全にカスタマイズできます。

走行モードは、次のものに影響を及ぼします。

– ステアリングの力。
– 横滑り防止装置。
– エンジンの応答性。

以下にも影響します。

– 助手席照明やインストルメントパネル照明。
– インストルメントパネルやマルチメディア画面の表示。

ⓘ エンジン設定は、「Perso」モード以外、各運転モードに応じて決定されるため、カスタマイズできません。

## メニューにアクセスする

車両によっては、次の場所から走行モードにアクセスできます。

– マルチメディア画面 ***1*** からアクセスする方法。
– ステアリングホイールの制御装置 ***2*** を使う方法。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

ⓘ イグニッションをオフにする前に通常または省エネモードを選択した場合、最後に選択したモードが保持されます。
イグニッションをオフにする前にSportモードを選択すると、再起動時に通常モードが自動的に有効になります。

## 走行モード

### 「Save」モード

「Save」モードは、省エネルギー重視のモードです。エンジン作動管理機能により消費量➔ **173**が低減されます。

### 「Normal」モード

このモードでは、標準の車両設定を使用して、快適性と快適性の間で最良の妥協点を与えます。

### 「Sport」モード

このモードでは、高いエンジンの応答性が承認されます。ステアリングはシャープになります。

## 「Perso」モード

このモードでは、エンジンの応答性など、運転要素の完全な設定を行うことができます。

**注意:** アジリティコントロールとTrackモードが作動している場合（車両によって異なります）、アダプティブクルーズコントロールは無効化されます。

## 「Track」モード

（車種によります）

このモードでは、ESCシステムおよびトラクションコントロールの介入が遅延されます。

**注**:Track モードでは：

– 急減速時には、ブレーキアシストが無効化されます。
– アダプティブクルーズコントロールが無効化されます。

ⓘ モードによって設定モードをリセットできます。

## エアコン「Eco」設定

74843

このパラメータは各DRIVE MODEモードで利用可能で、エアコンの性能に働きかけることで車両の航続距離を最適化することができます（例：要求された温度設定値に到達するまでの時間を遅らせるなど）➔ 173。

この機能は、マルチメディア画面 ***1*** のDRIVE MODE構成メニューから有効化または無効化することができます。

有効化すると、ECO警告灯 ***3*** がマルチメディア画面 ***1*** に表示されます。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

# "OVERTAKE" FUNCTION

## はじめに

ステアリングホイール上にある「OV」ボタン ***1*** を押すと、エンジンの性能が一時的に高められ、車両の加速性能が瞬間的に高められ（ブーストされ）ます。

この機能を有効な状態に保つには、「OV」ボタン ***1*** を長押しします。この機能の最大期間は約10秒です。

これを超えたり、ボタンを放したりすると、車両は通常の動作を再開します。

この機能が提供する加速は、交通条件が許すおよび地域の規制を遵守している場合のみ使用されます。
毎回使用前に確認してください。
**事故や大ケガを負う危険があります。**

## システムの作動

この機能を有効にするには、以下の条件を満たす必要があります。

– エンジンがオンになっていて、**D** ポジションになっている。
– ﾚｷﾞｭﾗｰ または Sport モードがオンになっている ➔ **155**。
– 車速がゼロではない。
– アクセルペダルを踏み込む。
– トラクションバッテリーとエンジンが動作温度に達している。

最大出力はアクセルペダルを抵抗がなくなるまで踏み込むことで得られます。

## ディスプレイ

インストルメントパネルに表示される「OV」ゲージ***2***の残りの範囲を確認することにより、いつでも機能が使用可能かどうかを確認できます。

「OV」ゲージ***2***が空になると、この機能は使用できなくなり、徐々に充電されるのを待つ必要があります。これを行うには、「OV」ボタン***1***を放せば、ゲージ***2***が徐々に充電され始めます。

「OV」ゲージ***2***を完全に充電するのに必要な時間は最大30秒です。

**注**: この機能を有効にするため、ゲージ***2***が完全に充電されるのを待つ必要はありません。ゲージが空でない限り使用できます。

# "OVERTAKE" FUNCTION

## システムの無効化条件

特定の条件下では、システムの作動が無効になります。

– シフトレバーを**R** 位置か**N** 位置にした場合。
– 「Save」モードを有効化した場合。この場合、インストルメントパネルに「Overtake このでは使用不可 DRIVE MODE」メッセージが表示されます ➔ **155**。
– 「OV」計 ***2*** が空を示している場合。
– トラクションバッテリの充電レベルが15%。
– 車両のシステム障害（ESC など）。

## 動作の制限と一時的な利用禁止

特定の状況（バッテリ温度またはエンジン温度が高すぎか低すぎる状況など）では、「Overtake」機能が制限されたり、一時的に抑制されたりすることがあります。

機能制限中は、インストルメントパネル上の「OV」計 ***2*** が「満充填」を示さないことがあります。

機能抑制中は、インストルメントパネル上の「OV」計 ***2*** が空表示になります。「OV」ボタン ***1*** を押すと、機能使用不可の証として、「Overtake 使用不可」というメッセージがインストルメントパネルに表示されます。

# スタンディングスタートの手順

スタンディングスタート手順（Launch Control）は、タイヤと地面のグリップが最適なときに車両を最高速度で加速可能にする機能です。

**注:** Launch Control 機能は、トラクションバッテリーとエンジンが動作温度に達した場合のみ使用できます。

パフォーマンスをできるだけ高めるため、バッテリーがほぼ充電済みのときにこの機能を使用することをお勧めします。

システムの集中的な使用は、機械部品の寿命を短くさせます。詳細については、指定サービス工場にお問い合わせください。

## システムの作動

システムは、次のように作動します。

– エンジンが稼働して車両が停止している状態で、シフトを **D** ポジションに入れます。
– Sport モードによって ➔ **155** が有効になります。
– 左足でブレーキペダルをしっかり踏みます。
– ブレーキペダルに足を乗せたまま、インストルメントパネルに「Launch Control 準備完了 フルスロットル」メッセージが表示されるまで、ステアリングホイール***1*** の追い越し（OV）ボタンを押します。
– ボタン***1*** を放します。
– 60秒以内に、左足でブレーキペダルを踏んだまま、インストルメントパネルに「Launch Control ブレーキをはなす」メッセージが表示されるまで、右足でアクセルペダルを**抵抗点の先まで**完全に踏み込みます。
– 4秒以内にブレーキペダルを放すと、インストルメントパネルに特別なアニメーションが表示され、スポーティな発進が可能になります。

滑る、または濡れた道の上でこの機能を使用しないでください。
**車両制御の喪失の危険性があります。**

## システムの無効化条件

特定の条件下では、システムの作動が無効になります。

– **R** または **N** ポジションに入れている。
– 省エネモードまたはノーマルモードがオンになっている。インストルメントパネル ➔ **155** に「Launch Control このでは使用不可 DRIVE MODE」メッセージが表示されます。
– トラクションバッテリーの充電レベルが低すぎる。
– トラクションバッテリーの温度が低すぎるか高すぎる。
– エンジン温が低すぎるか高すぎる。
– 車両のシステム障害（ESC など）。

**注:** これらの条件のいずれかによって機能が抑制されている場合、「Launch Control 使用不可」メッセージがインストルメントパネルに表示されます。

## スタンディングスタートの手順

この機能を使用すると、タイヤの摩耗が大幅に加速します ➔ 339。

3

この機能が提供する加速は、交通条件が許すおよび地域の規制を遵守している場合のみ使用されます。
毎回使用前に確認してください。
**事故や大ケガを負う危険があります。**

# シフトコントロール

## 選択スイッチ

**R**、**N/P**および**D**スイッチを使うと、次のようなシフトレバー位置にすることができます。

- **R**: 後進。
- **N/P**: ニュートラル、駐車。
- **D**: 前進ギア。

シフト位置は、備考情報としてインストルメントパネル上に表示されます。

## 「ニュートラル」位置（N）にする方法

車両を停車し、エンジンを稼働した状態で、ブレーキペダルを踏み、**N/P**スイッチを短く押します（**N/P**スイッチの表示灯が白く点灯し、インストルメントパネルに**N**が表示されます）。

## パーキング（P位置）を締結するには

車両を停車し、エンジンを稼働した状態で、ブレーキペダルを踏み、**N/P**スイッチを長押しします（**N/P**スイッチの表示灯が赤く点灯し、インストルメントパネルに**P**が表示されます）。トランスミッションがパーキング位置（P）にシフトします。

## 前進ギア（D位置）にする方法

車両を静止させ、エンジンを作動させてブレーキペダルに足を載せた状態で、**D**スイッチを短押しします（**D** スイッチ内蔵表示灯が白色点灯し、**D** がインストルメントパネル上に表示されます）。

ブレーキペダルが踏み込まれていないと、現在位置表示が約 5 秒間点滅し、「ブレーキペダルを 強く踏む」というメッセージがインストルメントパネル上に約 5 秒間表示されます。

> ⓘ **D**、または**R**位置にすると、車両が静止中でも、ブレーキペダルから足を離すとすぐに（アクセルペダルを踏まなくても）車両は前進します。

大半の交通状況では、スイッチに触れる必要はありません。

**注:** エンジンが作動中で、車両が 0 km/h から 14 km/h で移動しており、シフトレバーが **N** または **R** 位置の場合、ブレーキペダルを踏まなくても **D** 位置にシフトできます。パーキング操作で前進と後進を交互に何度も繰り返す必要がある場合に便利です。

## 後進ギア（R 位置）にする方法

車両を静止させ、エンジンを作動させてブレーキペダルに足を載せた状態で、**R** スイッチを短押しします（**R** スイッチ内蔵表示灯が白色点灯し、**R** がインストルメントパネル上に表示されます）。

> ⓘ **D**、または**R**位置にすると、車両が静止中でも、ブレーキペダルから足を離すとすぐに（アクセルペダルを踏まなくても）車両は前進します。

ブレーキペダルが踏まれていない場合、現在の位置が約 5 秒間点滅し、表示灯 ***1*** がインストルメントパネル上に表示され続けます。

**注:** エンジンが回転しており、車速が 0 km/h から 6 km/h の場合で、シフトレバーが**N**または**D**位置の場合は、ブ

# シフトコントロール

レーキペダルを踏まなくても**R**位置にできます。パーキング操作で前進と後進を交互に何度も繰り返す必要がある場合に便利です。

## 停止する

3

車両が停止した状態で、ブレーキペダルを踏み、**N/P**スイッチを短く押します。

**注:** エンジン停止後に締結すると、車両のイグニッションが再びオンになるまで **N** ポジションが維持されます。

**パーキングブレーキがかかっており、車両が固定されていることを確認してください ➔ 167。**

アシストパーキングブレーキを使用して車両が移動しないようにします。車両から離れる前に、アシストパーキングブレーキが作動しているこ とを確認してください。電動パーキングブレーキの適用は、ドアが施錠されるまで電動パーキングブレーキスイッチの表示灯の点灯およびインストルメントパネルの (Ⓟ) 警告灯点灯によって確認できます。車両によっては、このことの警告として、フロントガラスの上部にラベルが貼り付けられています ➔ 167。

シフトコントロールを **N** ポジションにするだけでは駆動輪が機械的にロックされません。車両を離れる前に、車両が固定されていることを確認してください。

安全上の理由から、車両が 完全に停止するまでは絶対 にイグニッションスイッチ を OFF にしないでくださ い。

## 作動異常

エンジンの故障や電気的障害（バッテリの故障など）がある場合は、車両が適切に動かされていることを確認します。

操作時にサブフレームに衝撃があった場合（縁石、歩道またはその他の市街地設備との接触など）車両を損傷した恐れがあります（リアアクスルの変形など）。放置すると事故が起こるおそれがあるので、指定サービス工場で点検を受けてください。

# 回生ブレーキシステム

## はじめに

71757

72550

アクセルを放すと、車両は回生ブレーキを使用して減速します。

このエネルギーはすべて、トラクションバッテリーを充電するために電気に変換されます。

ステアリングホイールコントロール***2***を使用して、回生ブレーキを増減できます。

> ⚠ 回生ブレーキは、どのような場合でも、ブレーキペダルの代用として使用しないでください。

> ⓘ 一定の条件（完全に充電されたバッテリーが熱すぎるか冷たすぎる、エンジンが高温になっている、など）では、回生ブレーキシステムの性能が制限され、アクセルペダルを離したときのエンジンブレーキが減少します。
> インストルメントパネルのパワーメーターインジケータ***1***に、使用できると見込まれる回生ブレーキが表示されます。ただし、ブレーキペダル使用時の制動能力は維持されるため、車速を制限することができます。

3

# 回生ブレーキシステム

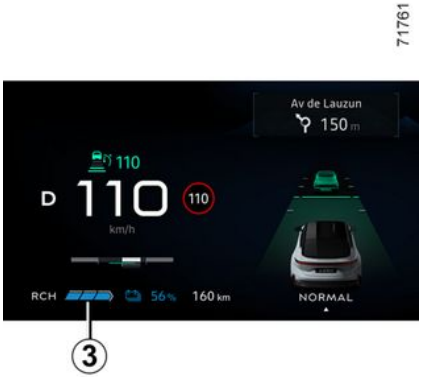
## 回生ブレーキシフトコントロール*2*

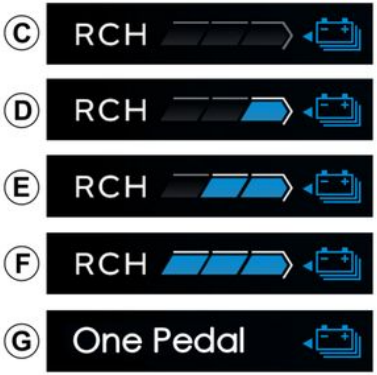
タッチコントロール*2*を使用して、回生ブレーキレベルを変更することができます。

– コントロール*2*を*A*に向かって回し、アクセルペダルを離したときのエンジンブレーキを上げます。
– コントロール*2*を*B*に向かって回し、アクセルペダルを離したときのエンジンブレーキを下げます。

コントロール*2*で選択したレベルは、アダプティブクルーズコントロール機能が作動している間は機能しません ➔ 234。

## 回生ブレーキ制御による走行




**回生ブレーキレベル**

コントロール*2*を使用して選択されたレベルに応じて、インジケーター*3*に回生ブレーキレベルが表示されます。

– ***C***: スムーズで経済的な運転を実現する「フリーホイール」レベルで、既定では、Saveモードを選ぶとこのレベルになります。より先を見越して運転する必要があります。
– ***D***: アクセルペダルから足を離すと軽いエンジンブレーキが掛かるレベルで、既定では、NormalモードやSportモードを選ぶとこのレベルになります。
– ***E***: アクセルペダルを離したときに中エンジンブレーキになります。
– ***F***: アクセルペダルから足を離すと強いエンジンブレーキが掛かるレベル。
– ***G***: アクセルペダルから足を離し、One Pedal機能が作動すると、非常に強いエンジンブレーキが掛かるレベル。

**注:** エンジンを停止すると、回生ブレーキのレベルは記憶されますが、One Pedal機能については記憶されません。

## One Pedal 機能

装備車両では、One Pedal機能が、主にアクセルペダルを使用して、市街地や交通量の多い場所での運転を容易にします。

# 回生ブレーキシステム

アクセルペダルから十分に足を離すと、車両が完全停止するまでこの機能がブレーキをかけます。

アクセルペダルから足を完全に離すと、エンジンブレーキレベルがきわめて高くなります。

アクセルペダルを十分に踏むと、速度が回復します。

## 作動

**D**位置の状態で、制御装置 ***2*** を ***A*** 方向に「One Pedal 起動しました」というメッセージが表示されるまで回します。ワンペダル機能が有効化されると、その証として、ワンペダル機能警告灯 ***3*** が点灯し、ビープ音が鳴ります。

> ⓘ One Pedal機能では非常停止できず、機能の使用中には制動性能が制限されます。

> ⚠ このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するのもです。

**注:** 車両が静止しており、「One Pedal」機能が有効化されている状態でレバーを**D**位置にすると、ブレーキペダルから足を離しても車両は動きません。

## スタンバイモード

One Pedal機能は、**R**または**N**位置にするとスタンバイ状態となります。

One Pedal 警告灯がインストルメントパネル内に灰色表示されます

**注: D**の状態で **R**位置にすると、車両が静止中でも、ブレーキペダルから足を離すとすぐに（アクセルペダルを踏まなくても）車両は前進します。

**D**位置にシフトすると、車速がおよそ 10 km/h を超えた時点で機能が再作動します。再有効化されると、その証として、One Pedal機能警告灯が白色表示されます。

**注：**

– パーキングブレーキは、車両が約 3 分を超えて静止状態になると自動的に掛かります。

### 作動解除

この機能を無効化するには、次のように操作します。

– 走行中の場合は、制御装置 ***2*** を ***B*** 方向に回します。
– 静止中の場合は、ブレーキペダルを踏んでから制御装置 ***2*** を ***B*** 方向に回します。

「One Pedal 解除しました」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。無効化されると、その証として、***3*** One Pedal警告灯が消え、ビープ音が鳴ります。

この機能は、エンジン始動／停止ボタンを押してエンジンを停止した場合、自動的に無効化されます。機能が必要な場合には、再始動後に再作動させる必要があります。

### 作動制限

– グリップが低下する路面（凍結路、積雪路など）でこの機能を使うと、大幅に減速する恐れがあります。大幅な減速や車両停止➔ **164**を回避できるよう、第1レベルである***C***または***D***とブレーキペダルを活用することをおすすめします。
– 急勾配の場所では、アクセルペダルから足を離しOne Pedal機能を使うだけでは車両を十分に静止できない場合があります。ブレーキペダルを踏むか電動パーキングブレーキを作動させ、車両が静止するか確認します。

### 作動異常

システムが作動不良を検出すると、「One Pedal 要点検」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。この場合、機能は使用できなくなります。正規サービス工場にご連絡ください。

## 電動パーキングブレ ーキ

### アシスト操作

**アシストパーキングブレーキの 作動**

**車両が静止した状態であれば、**次の場合に電動パーキングブレーキを使用して車両を固定できます。

– **エンジン始動／停止ボタン *1* を押した場合。**

または

– **運転席シートベルトが締まっていない場合**

または

– **運転席ドアを開けた時**

または

– **シフトコントロールPのポジションを締結している場合。**

アシストパーキングブレーキを使用して車両が移動しないようにします。車両から離れる前に、アシストパーキングブレーキが作動しているこ とを確認してください。ドアがロックされた時点で、パーキングブレーキはかかっているもののスイッチは OFF になっている場合、その証として、スイッチ ***3*** 上の警告灯 ***2*** と警告灯 Ⓟ がインストルメントパネル上で点灯します。車両に応じて、このことを思い出させるために、ステッカーがフロントガラスの上部に配置されています。

それ以外の場合には、パワーアシストパーキングブレーキが自動的に作動することはありません。このような場合は手動機能を使用してください。

アシストパーキングブレーキ機能は、一部の国では作動しません。詳しくは「手動操作」をご覧ください。

電動パーキングブレーキがかかると、その証として、Ⓟ 警告灯がインストルメントパネル上に表示され、スイッチ***3***上の表示灯***2***が点灯します。

# パーキングブレーキ故障

エンジンをオフにすると、アシストパーキングブレーキをかけた数分後に表示灯*2*が消え、車両の施錠時に

Ⓟ 警告灯が消えます。

**注:** 状況（電動パーキングブレーキの故障、パーキングブレーキの手動解除など）によっては、次の場合に、電動パーキングブレーキの解除についてドライバーに知らせるため、、ビープ音が鳴り、「ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾌﾞﾚｰｷを入れてください」というメッセージインストルメントパネル上にが表示さます。

– **エンジンが ON の状態**で運転席側のドアが開いた場合。
– **エンジンが OFF の状態**でフロントドアが開いた場合。

この場合に電動パーキングブレーキをかけるには、スイッチ ***3*** を引いて離します。

**アシストパーキングブレーキを解除する場合**

パーキングブレーキが解除されている:

– 車両が加速し始めると、

または

– P 位置からシフトする場合。

アシストパーキングブレーキを使用して車両が移動しないようにします。車両から離れる前に、アシストパーキングブレーキが作動しているこ とを確認してください。ドアがロックされた時点で、パーキングブレーキはかかっているもののスイッチは OFF になっている場合、その証として、スイッチ ***3*** 上の警告灯 ***2*** と警告灯 Ⓟ がインストルメントパネル上で点灯します。車両に応じて、このことを思い出させるために、ステッカーがフロントガラスの上部に配置されています。

## 手動での作動

手動でアシストパーキングブレーキを作動させることができます。

**手動でアシストパーキングブレーキを作動させる**

スイッチ ***3*** を引きます。警告灯***2***と警告灯 Ⓟ がインストルメントパネルに点灯します。

**手動でアシストパーキングブレーキを解除する**

イグニッションスイッチを ON に切り替えるには、ペダルを踏まずにスイッチ ***1*** を押します。ブレーキペダルを踏みスイッチ ***3*** を押します。すると、スイッチ上の表示灯 ***2*** とインストルメントパネル上の表示灯 Ⓟ が消灯します。

## 一時停止

（赤信号で停車した際、エンジンの回転が止まった際などに）電動パーキングブレーキを手動でかけるには、スイッチ ***3*** を引いて離します。車両を再発進させ るとすぐに、パーキングブレーキは自 動的に解除されます。

## 注意：

## 坂道駐車

斜面に駐車したり、トレーラー牽引中に駐車したりする場合には、ス イッチ ***3*** を数秒間引いて制動力を最大化します。

# パーキングブレーキ故障

## 電動パーキングブレーキ解除状態での駐車

パーキングブレーキを解除する場合は、その前に車両が安定しているかご確認ください。

電動パーキングブレーキ解除状態で駐車するには、パーキングブレーキの解除が必要です。

方法:

– **P**位置にシフト: 駆動輪が駆動シャフトにより機械的にロックされます。
– エンジン始動／停止ボタン ***1*** を押してエンジンを停止します。
– 運転席シートベルトを外します。
– 運転席側ドアを開けます
– 手動で電動パーキングブレーキを解除します（詳しくは、「電動パーキングブレーキの手動解除」と題された段落をご覧ください）。車両が安定しているか確認します。
– 運転席ドアを閉めます。必要であれば車両をロックします。

## 作動異常

– 不具合が生じた場合、インストルメントパネルに 警告灯が点灯して「ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾌﾞﾚｰｷを点検してください」メッセージが表示され、場合によっては (Ⓟ) 警告灯が点灯します。できるだけ早く指定サービス工場で点検をお受けください。
– パワーアシストパーキングブレーキに不具合が生じた場合は、STOP 警告灯と「ブレーキシステム 不具合」のメッセージが表示され、警告音が鳴ります。また、場合によっては (Ⓟ) 警告灯が表示されます。
その場合、周囲の交通に注意しながら直ちに停車します。

「電気的な不具合」、「バッテリー要確認」または「ブレーキシステム不具合」というメッセージが表示された場合には、P 位置にするかスイッチ ***3*** を約10 秒間引いて、車両が動かない状態にしてください。
条件と傾斜によって必要である場合は、車両に車輪止めを使用してください。
**車両のブレーキングの喪失の危険性があります。**
正規サービス工場にご連絡ください。

セレクトレバーを P 位置にしないでハンドブレーキをかけないまま、絶対に車外へ出ないでください。車両が停止していて も、ギアの入っている状態でエン ジンがかかっていると、アクセル ペダルを踏んだときに車両が動き 出します。
**事故の恐れがあります。**

# パーキングブレーキ故障

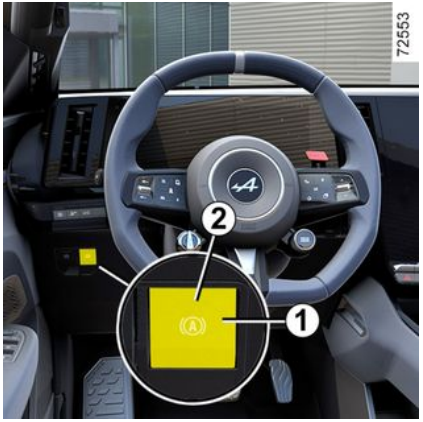
ビジュアルリターンまたは 音声がない場合には、イン ストルメントパネルが故障 しています。周囲の交通に注意しながら、直ちに停車してください。車両が固定されていることを確認して、指定工場に連絡してください。

## 「オートホールド」機能

車両が停止した場合（たとえば、赤信号、交差点、渋滞など）、運転者がブレーキペダルを離しても制動力が確保されます。

制動力は、ギヤが噛み合った状態で運転者が十分に加速するとすぐに解除されます。

### 作動




スイッチ ***1*** を押します。

この機能が有効化されると、その証として、スイッチ ***2*** 上の表示灯が点灯します。

### 作動解除

スイッチ ***1*** を押します。制動力で車両を維持する場合、ブレーキペダルを踏む操作でも維持できます。

機能の無効化を示すため、スイッチ上の警告灯 ***2*** が消えます。

制動力が維持されている場合、パーキングブレーキは次の場合に自動的に作動します。

– ドライバーがドアを開けます。

または

– ドライバーがシートベルトを外した場合。

または

– 車両を約 3 分間以上停止する。

始動するたびに、機能はエンジンが最後にオフになったときに設定されていたモードを継続します。

アシストパーキングブレーキを使用して車両が移動しないようにします。車両から離れる前に、アシストパーキングブレーキが作動しているこ とを確認してください。ドアがロックされるまで、スイッチ ***2*** 上の表示灯が点灯し、 警告灯がインストルメントパネル上に表示されます。車両に応じて、このことを思い出させるために、ステッカーがフロントガラスの上部に配置されています。

### 制動力を維持するための条件

次の条件を満たす必要があります。

## パーキングブレーキ故障

– 運転席ドアが閉まっていない

と

– 運転席シートベルトが締まっている。

と

– アシストパーキングブレーキが解除されている

と

– 非常に急な斜面に車両を停車していない。

制動力が維持されていることは、インストルメントパネルの 警告灯によって確認されます。

**制動力を中断するための条件**

次の条件を満たす必要があります。

– ドライバーが、ギアが係合した状態で十分に加速する

または

– ドライバーが機能を無効にする

インストルメントパネルの表示灯

が消灯します。

# 地球にやさしい車づくり

3

## 製造

お使いの車両は、その生産から走行を経て廃車へと至るライフサイクルを全うできるよう、**環境**に配慮して設計されています。

本車両は（水やエネルギーの消費を節約し、視覚的、聴覚的侵害を抑え、大気や水への汚染物質の排出を抑え、廃棄物の選別と再生を実施し）自然環境への影響を除去する過程を経た製造場所で製作されました。

## お客様ご自身も、環境保護に参加しているという意識を持ってお取り扱いください。

– 部品や車両の寿命が終了した場合は、部品を捨てないでください。環境基準に適合する法的存在に渡す必要があります。

– タイヤのような、車両の定期保守整備で交換される消耗部品や構成部品は、専用の回収場所で処分する必要があります。
– 摩耗した**電気**および**電子**構成部品（バッテリなど）をゴミとして捨てることはできません。認定ディーラに持ち込むか、適切なリサイクル施設に関する情報をお住まいの地方自治体にお問い合わせください。
– 車両のリサイクルを寿命の最後に最適化するために、指定サービス工場に連絡するか、メーカーのウェブサイトを参照して、地域の法律に準拠した環境を尊重するための回収ポイントに指示することができます。

## リサイクル

お使いの車両は、少なくとも 85% はリサイクル可能で、少なくとも 95% は回収可能な素材で作られています。

そのため多数の部品がリサイクルできるように設計されています。

素材と構造は次の目的で慎重に設計されています:

– これらの部品を簡単に取外して専門会社で再処理することができます。
– 循環エコノミーの促進（再使用、リサイクル、回収など）

これは、特に電気自動車のバッテリに該当します。

車両には、リサイクルされたプラスチックまたは再生素材から作られた部品が多く含まれています。

## エコドライブ

### はじめに

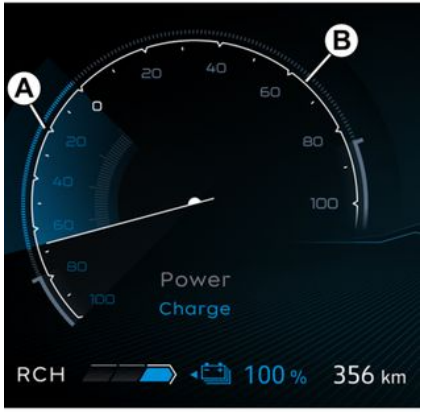
航続距離は、規制に準ずる標準的な方法で認定されています。すべてのメーカーで同一され、車両間が比較できます。

実際の使用での走行可能距離は車両、機器、ライディングスタイルの条件によって異なります。走行可能距離を最適化するため以下をご参照ください。

バージョンに応じて、エネルギー消費量を抑える機能が提供されます。

- インストルメントパネル上:
  - パワーメーター
- マルチメディア画面:
  - ルートプランナ
  - 省エネ走行モード。

### パワーメーター




（インストルメントパネル上）

充電メータは、車両の走行中に消費または回収されたエネルギーをリアルタイム表示します。

**「回収エネルギー」*A* 活用ゾーン**

運転中にアクセルペダルから足を離したり、ブレーキペダルを踏んだりすると、減速中にモータによる発電が行われ、この電力が、車両の制動やトラクションバッテリー ➔ 163 の充電に使用されます。

**「エネルギー消費量」*B* 消費ゾーン**

トラクションバッテリは、モータが車両を移動するために必要な電気エネルギーを供給します。

> この情報が表示されるかどうかは、選択されている車内環境設定 ➔ 129 に応じて変動します。

### ナビゲーションシステム

ナビゲーションシステムで確認できる情報（交通情報、最寄りの充電ステーションなど）を使用すると、行程の管理を簡素化し、充電時期を最適化することができます。

### 「」モードSave

Saveモードは、車両の出力を抑制（加速力や最高速度を抑制するなど）する方法で燃料消費を減らし、走行距離を延ばすのに役立つ機能です。

> Saveモードでエアコンの「Eco」設定を有効化すると、エアコンの出力が抑制 ➔ 155されます。

### マルチメディア画面 *3* からの有効化／無効化

車両によっては、DRIVE MODEメニューから機能を有効化または無効化できます。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

### スイッチ *4* を用いた有効化／無効化

車両によっては、スイッチ***4***を、Saveモードへのアクセスに必要な回数だけ押します。

Save モードを有効化すると、Save警告灯 ***5*** インストルメントパネルに表示されます。車速が約 130 km/h に制限されます。
走行中は、一時的にSaveモードを停止することで、エンジンの出力制限を解除できます。
これを行うには、アクセルペダルをしっかりと完全に押します。アクセルペダルを踏んだときにSave モードが再び有効になります。

## 車両の走行可能距離: アドバイス

実際の使用条件では、電気自動車の走行可能距離は部分的な制御を持ついくつかの要因によって異なり、車両の走行可能距離に大きな違いが生じる可能性があります。

これらの要因は次のとおりです。

– スピードとドライビングスタイル。
– 道路の種類。
– 暖房レベル。
– タイヤ。
– 電気アクセサリーの使用状況。
– 車両の負荷状態。

さらに、省エネモードを有効化すると、車両による、全電力消費源（エンジン出力など）に対する自動的充電も可能になるため、消費量➔ 173を可能な限り減らすことができます。

### スピードとドライビングスタイル

高速で走行すると、車両の走行可能距離が大幅に減少します。

例（定速走行時）:

– 車速を約130 km/h から110 km/hに減速することで、燃費を約20%まで節約できます。
– 車速を約90 km/h から80 km/hに減速することで、燃費を約10%まで節約できます。

「スポーティ」ドライビングでは、車両の走行可能距離が短くなります。
「スムーズ」ドライビングスタイルを選択してください。

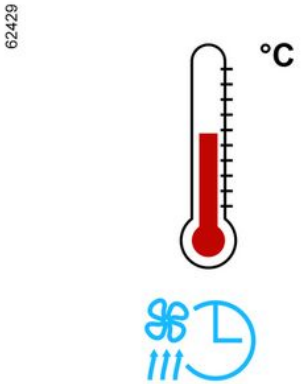
**アドバイス：**

– 定速走行。
– 走行状態を表示するツール（現在の消費量計、行程記録など）➔ 173から目を離さないでください。
– 過度のエネルギー消費を避けるために運転スタイルを調整してください。
– エネルギー回収を促進: アクセルペダルは頻繁に踏まず、徐々にブレーキをかけるなどの方法で、交通量の変化を予測しながら運転てください。

### 道路タイプ

上り坂で同じ車速を維持しないようにして、平坦な道路以上に加速しないようにしてください。アクセルペダルの踏み 込み量を変えないようにしましょう。

### 暖房レベル



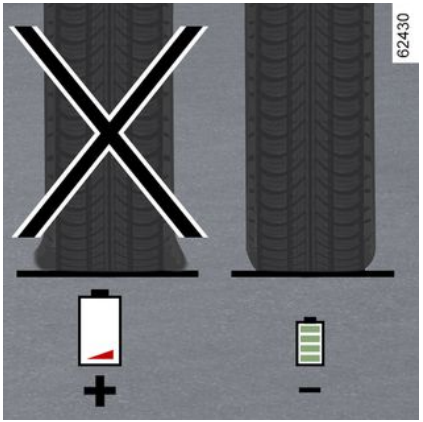

暖房や空調を使用すると、車両の走行可能距離が短くなります。

車両の航続距離を一定の水準に保つには、車両を使用する前に「プログラミング」モードを選択することをおすすめします➔ 309。

### 車両の負荷状態

無意味に車両を過負荷状態にしないでください。

### タイヤ




タイヤ空気圧が低すぎると燃費を悪くします。車両に指定されたタイヤ空気圧を遵守してください。

走行するときは、元のタイヤと同じ寸法、種類、構造の同じメーカー製のタイヤを使用してください。推奨されていないタイヤを使用すると、車両の走行距離が大幅に短くなる場合があります➔ 339。

## エコ予測運転アシスタント

### はじめに

車両によっては、サブスクリプション契約者用の地図を利用したこの機能により、より経済的な走行スタイルを採用できます。

注意して走行すべき場所（環状交差路、速度制限設定箇所など）に近づくと、この機能により、インストルメントパネルのディスプレイへのインジケータ表示を介してドライバーにその事実が通知されるため、この通知に気付いたらアクセルペダルから足を離してください。

ドライバーがこの操作を行うと、車両は加速を停止し、ブレーキの使用を制限できるようになります。

これにより、バッテリー消費量が減り、ブレーキパッドやタイヤの摩耗も抑えられます。

### 有効化／無効化

「車両」領域から、「運転支援」メニューを選択し、「ECO 予測運転支援機能」を選択します。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

## 作動原理

注意して走行すべき場所に近づくと、インストルメントパネル上に警告灯***1***と***2***が表示されます。

警告灯***2***は、アクセルペダルから足を離すようドライバーに促すためのものです。

警告灯 ***1*** は、注意して走行すべき場所に近づいていることを示します。

ドライバーがアクセルペダルから足を離すと、警告灯***2***がインストルメントパネルから消えます。警告灯 ***1*** は、この状況が発生するまでインストルメントパネルに表示されたままになります。

ドライバーが速度を調整しないと、警告灯 ***1*** と ***2*** は、ドライバーが速度を調整するまでインストルメントパネル上に表示されたままとなります。

## 注意して走行すべき場所

以下の記号は、システムが考慮する運転状況を示しています。

– （環状交差点）。

– （曲がり角）。

– （速度制限）。

– （Tジャンクション）。

– ...

方向指示灯が作動したとき：

– （交差点）。

– （地理的エリアによっては終了）。

サブスクリプションおよび／または地理的エリア、ならびにマルチメディア画面から「予測イベントおよび交通アラート」を作動した場合、車両は以下の動的イベントを考慮します。

– （交通量が多い場合）。

サブスクリプションおよび／または地理的エリアによっては、減速を促すインセンティブなしで次のイベントも表示されます。

– （道路工事）。

– （事故）。

– （車両を停止）。

**注意:**交通量の多い、道路工事、事故、静止した車両は動的なイベントであり、位置の精度が低い場合があります。

## 次のような場所はこの機能により検出されません。

– 坂道（上り坂または下り坂）。
– 停止や譲り（停止標識や譲れ標識）。

# タイヤ空気圧モニターシステム

3

## はじめに

車両に装備されている場合、このシステムがタイヤ空気圧を モニターします。

車両によっては、マルチメディア画面の「タイヤ 空気圧」タブでタイヤのリセット手順を実行可能な場合に、システムが識別可能になります。

このシステムは運転時の安全性を補助するもので、
この機能は、ドライバーの代わりをするものではありません。したがって運転されるときは、お客さまの責任において慎重に運転しなければならないことを忘れないでください。
毎月 1 回、タイヤの空気圧を点検してくださ い。

## 作動原理

各タイヤのバルブにセンサーが取付けられていて、このセンサーが空気圧を定期的に測定します。

システムは、現在の警告をインストルメントパネル ***1*** 上に表示し、空気圧が不十分な場合はその旨をドライバーに警告します。

タイヤの空気圧が不十分な（タイヤの空気圧低下、パンクなどが生じている）場合、 警告灯が常時点灯します。車両によっては、現在のタイヤ空気圧値がマルチメディア画面に表示されます。

警告灯 STOP が点灯した場合、周囲の交通に注意しながら直ちに安全な場所に停車しなくてはなりません。

## タイヤ空気圧基準値のリセット手順

次の場合には、リセットが必要です；

– タイヤ交換の後；
– 使用条件に適応するために（空荷時、積載時、高速走行）、タイヤ空気圧の基準値を変更しなければいけないとき；
– タイヤのローテーション➔ 339後。

**システムのリセットは、冷間時に 4 本のタイヤの空気圧を確認してから行ってください。**

タイヤの空気圧は車両の現在の使用に対応していなければいけません（空車時、積載時、高速走行など）。タイヤの空気圧を観察します。最低でも 1 ヶ月に一度か、長距離走行の前には、必ず空気圧を点検をしてください（運転席側ドアに貼付されているラベルをご覧ください ➔ 341）。

# タイヤ空気圧モニターシステム

## マルチメディア画面 *2* を介したリセットの手順

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

**注意:**

– リセット受理後は、手順終了を待つことなく走行できます。車両によっては、タイヤ空気圧値がマルチメディア画面に表示されます。
– タイヤ空気圧は、運転席ドアのサイドに記載されている基準の空気圧より低くてはいけません。

ⓘ ナビゲーションシステム装備車両の場合は、マルチメディア画面からリセットできます。この装備の取扱説明書を参照してください。

3

## メッセージ表示

**下表は、タイヤリセット手順に関連して表示され得るメッセージを示したものです。**

| 手順 | 表示（車両装備に応じて異なります） | メッセージ | 読み取り値 |
|---|---|---|---|
| 1 | | | イグニッションをオンにし、車両を停止させた状態で、4本すべてのタイヤの空気圧のリセットを開始してください。『マルチメディアユーザーマニュアル』をご覧ください。 |
| 2 | | タイヤ空気圧学習が開始されました | 4 本すべてのタイヤの空気圧リセットが完了したことを示すため、各タイヤの前で「---」という記号が点滅します。 |
| 3 | | | 各タイヤの前で「---」という記号が点滅します。これは、4 本すべてのタイヤの空気圧リセットが完了したことを示しています。これで走行できるようになりました。<br>**注意:**リセット中も、タイヤ空気圧監視は作動し続けます。 |
| 4 | | | 4本のタイヤの圧力値が表示されます。リセット手順は完了し、正常に終了しました。 |

## タイヤ空気圧の調整

**4 本のタイヤの空気圧は、冷間時に設定してください**（運転席ドアのサイドに貼ってあるラベルを参照してください）。

タイヤが冷えており空気圧を点検できない場合は、推奨空気圧より 0.2 から 0.3 bar（3 psi）高めに調整してください。

**温間時にタイヤの空気は絶対に抜かないでください。**

## ホイール／タイヤの交換

このシステムは、専用装備（ホイール、タイヤ、ホイールキャップなど）➔ 339を必要とします。

タイヤの交換を正規ディーラーに依頼するとともに、ブランドのネットワークで提供されているシステム適合アクセサリーについて確認してください。他のアクセサリを使用すると、システムが正しく動作しないおそれがあります。

**タイヤの交換**
このシステムは、タイヤの位置と空気圧を極力正しく計算するため、走行によっては数分間かかることがあります。車への作業を行った後は、必ずタイヤの空気圧を点検してください。

## タイヤパンク修理剤と空気入れキット

唯一メーカーの店舗が認可している備品を使用してください。それ以外の場合、システムが反応遅れで作動したり、正しく動作しない恐れがあります➔ 342。

タイヤ空気注入キットの使用後、タイヤの空気圧を調整し、タイヤ空気圧の基準値のリセットを開始します。

## タイヤ空気圧の不具合

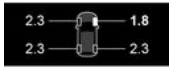
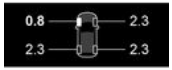
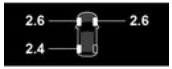
システムがタイヤ空気圧の異常を検出すると、警告メッセージがインストルメントパネル ***1*** に表示されます。

## 警告のメッセージ

**この表には、システムが空気圧の問題（タイヤの空気圧低下やパンクなど）を検出したときにインストルメントパネルに表示されるアラートメッセージが含まれています。**



警告灯 STOP が点灯した場合、周囲の交通に注意しながら直ちに安全な場所に停車しなくてはなりません。

| 表示灯 | メッセージ | 表示（車種によります） | 読み取り値 |
|---|---|---|---|
| が点灯し、その状態が保たれます。 | タイヤ空気圧を 調整してください |  | これは、タイヤの空気圧不足が検出されたことを示しています。車両によっては、ホイールと関連空気圧値がマルチメディア画面に黄色表示されます。<br>冷えているときに 4 本すべてのタイヤの空気圧を点検し、調整してください。警告は、運転開始から数分後にインストルメントパネルに表示されなくなります。 |
| + STOP<br>常時点灯状態になります。 | パンク |  | これは、該当するタイヤがパンクしているか空気圧が著しく不足していることを示しています。車両によっては、ホイールと関連空気圧値がマルチメディア画面に赤色表示されます。<br>タイヤの空気が抜けている場合は、冷えているときに 4 本のタイヤの空気圧を調整します。警告は、運転開始から数分後にインストルメントパネルに表示されなくなります。タイヤがパンクした場合は、タイヤを交換するか、タイヤを交換してからシステムをリセットしてください。 |
| が点滅後に点灯し、警告灯が表示されます。 | タイヤ空気圧 センサの点検 |  | これは、少なくとも 1 本のタイヤにセンサーが取り付けられていない（スペアタイヤなど）か、センサーが故障していることを示しています。車両によっては、ホイールがマルチメディア画面に表示されなくなります。メーカーにお問い合わせください。 |

## タイヤ空気圧モニターシステム

| 表示灯 | メッセージ | 表示<br>（車種によります） | 読み取り値 |
|---|---|---|---|
| | | | これは、システムが各タイヤの空気圧を判断できないことを示しています。これは、認定ディーラ非推奨センサの使用が原因の可能性があります。タイヤ空気圧センサーのモニターシステムは作動を続けています。 |

3

## はじめに

このシステムは次のコンポーネントによって構成されています（仕様による）：

– **アンチロックブレーキシステム（ABS）。**
– **エマージェンシーブレーキアシスト（車種によりブレーキアンティシペーション付き）**
– **アンダステア制御およびトラクションコントロールを備えた横滑り防止装置（ESC）。**
– **坂道発進アシスト、**
– **多重衝突ブレーキ、**
– **回生ブレーキシステム➔ 187。**

他の運転支援システムは、このリーフレットに記載されています。

これらの機能は、重大な走行状況において車両の挙動を走行状況に適合させるための追加支援機能です。
ただし、この機能は、ドライバーの代わりをするものではありません。**これらの機能は車両の限界を高めるものではなく、より速く走行することを促すものでもありません。**運転されるときは、お客さまの責任において慎重に運転しなければならないことを忘れないでください（常に細心の注意を払って運転してください）。

## アンチロックブレーキシステム（ABS）

急制動時、ABS はホイールのロックを防止し、制動距離を制御して、車両のコントロールを可能のまま保持します。

これらの条件により、ブレーキをかけながらの障害物回避操作が可能となります。さらに、このシステムにより接地性の悪い路面（濡れた路面など）での制動距離が最適化されます。

ABS 作動中は、制動中のブレーキペダルに小刻みに振動を感じます。ABS は、タイヤの、路面や路面保持に関する「物理的な」性能を向上させるものではありません。走行速度に応じた適切な車間距離を保つなど、**必ず** 基本的な注意や気配りを怠らないでください。

緊急制動が必要なときには、ブレーキペダルを**強く踏み続けてください**。ブレーキを断続的に操作するポンピングブレーキの必要はありません。ABS がブレーキシステ ムに掛けられた力を加減します。

### 作動異常

– ABSを 点検およびブレーキシステムを点検がインストルメントパネルに点灯し、車両によっては「ESC 点検」、「 」「 」というメッセージが表示される場合があります。ABS、ESCおよびブレーキアシスト機能は無効化されます。**ブレーキは操作可能です**。

– インストルメントパネル上に 、 、 および STOP が点灯し、「ブレーキシステム 不具合」メッセージが表示される場合:**これはブレーキシステムの故障を示します。**

いずれの場合も、認定ディーラにご相談ください。

> この場合でも、ブレーキシステムは部分的に作動します。ただし、**急ブレーキは避け て**、周囲の交通状況に注意しなが ら、なるべく早く車両を停止して ください。正規ディーラにご連絡ください。

## 緊急ブレーキングアシスト

ABS を補助して、車両の制動距離を短くするシステムです。

**作動原理**

このシステムは急ブレーキを検知することができます。この場合、制動システムは直ちに最大出力を発生させ、ABS 制御をトリガーすることができます。

ブレーキペダルから足を放さない限りブレーキ ABS は維持されます。

**ブレーキライトが点灯**

車両によっては、急激な減速を検知するとブレーキライトが点滅します。

**ブレーキアンティシペーション**

車両によっては、アクセルペダルから急に足を放すと、システムがブレーキ操作を先取りし、制動距離を短くします。

**注意：**

クルーズコントロール使用時：

– アクセルペダルを使用する場合、ペダルから足を離すとシステムが起動することがあります。
– アクセラレータを使用しない場合、システムは起動されません。

**作動異常**

システムが作動不良を検出すると、「ブレーキシステム を点検」というメッセージがインストルメントパネル上に表示され、警告灯が点灯します。

正規サービス工場にご連絡ください。

> これらの機能は、重大な走行状況において車両の挙動を走行状況に適合させるための追加支援機能です。
> これらの機能はドライバーを交換するものではありません。**これらの機能は車両の限界を高めるものではなく、より速く走行することを促すものでもありません。**運転されるときは、お客さまの責任において慎重に運転しなければならないことを忘れないでください（常に細心の注意を払って運転してください）。

## エレクトロニックスタビリティープログラム（ESC）アンダステア制御およびトランクションコントロール付き

**横滑り防止装置ESC**

このシステムは、走行中の非常事態発生時（障害物を回避すべき場合、カーブでのグリップが失われた場合など）に車両の制御を保つのに役立ちます。

**作動原理**

ステアリングホイールのセンサにより、ドライバーが望む走行軌道を判断できます。

その他のセンサは車両の各部に配置され、実際の走行軌道を測定します。

システムはドライバーの操作と車両の実際の経路と比較し、必要に応じて特定のホイールの制動やエンジン出力に作用して経路を修正します。システムが作動すると、インストルメントパネルに 警告灯が点滅します。

**アンダステア制御**

このシステムは、アンダーステア（フロントアクスルの路面保持性能の欠如）が生じた際に ESC の作動を最適化します。

**トラクションコントロール**

このシステムは、駆動輪のホイールスピンを抑え、発進・加速・減速時の車両を制御するのに役立ちます。

**作動原理**

ホイールセンサを使用し、常に駆動輪の速度を測定・比較することで、システムが過回転を検知します。1 輪が空転し始めると、空転しなくなるまでそのホイールにブレーキをかけます。

**作動異常**

システムによって動作障害が検出されると、「ESC 点検」メッセージと および の警告灯がインストルメントパネルに表示されます。この場合、ESC とトラクションコントロールが無効化されます。

正規サービス工場にご連絡ください。

**ESCおよびトラクションコントロールはTrackモードで**

車両によっては、***1***スイッチを必要な回数だけプレスして、Trackモードを選択します。ESCの機能が変更され、ドライバー支援機能➔ **155**が抑制されます。

**一時的な抑制ESC**

特定の場所（閉鎖周回路やサーキットなど）では、スイッチ ***2*** を長押しすることでこれらの機能を無効化できます。

警告灯と「ESC OFF」のメッセージがインストルメントパネルに表示されて警告します。

スイッチ***2***を短く押すことでいつでもこれらの機能を再作動できます。

**注意:**車両を再始動すると、システムは自動的に再作動します。

警告灯がインストルメントパネルに表示されない事実は、システム再作動の証です。

> トラクションコントロール機能を無効化すると、特定の運転補助機能（アクティブ非常ブレーキなど）が一時的に使用できなくなります。

> スイッチ***1***をプレスして走行モードを変更すると、ESCおよびトラクションコントロール➔ **155**機能が再度作動します。

## 坂道発進アシスト

勾配の角度によっては、このシステムは坂道発進の際にアシストします。ドライバーがアクセルを踏 むためにブレーキペダルから足を上げ たときに、ブレーキが自動的にかかっ て、車両が後退するのを防ぎます。

### エアサスペンションの作動

この機能は、シフトコントロールがN以外の位置にあり、車両が完全に静止（ブレーキペダルを踏み込んだ状態）しているときのみ作動します。

このシステムは約 **2 秒**間車両を保持します。その後ブレーキは徐々に解除されます（勾配に応じて車両は走行します）

ヒルスタートアシストシステムは、すべての状況（極めて急な勾配など）で車両の後退を完全に防ぐことはできません。
ドライバーはどんな場合でもブレーキペダルを踏んで、車両の後退を防ぐことができます。
ヒルスタートアシスト機能は長時間の停車には使用しないでください。ブレーキペダルを踏んでください。
この機能は常時車両を停止させるために使用するものではありません。
必要に応じてブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。
運転者は滑りやすい路面やグリップの弱い路面では特に慎重に運転してください。
**大ケガを負う危険があります。**

## 多重衝突ブレーキ

多重衝突ブレーキは、車両を一時的に停止させることにより、事故後の追加衝突のリスクを軽減します。

### 作動原理

エアバッグシステムが衝突を検出すると、プリテンショナまたはエアバッグが作動 ➔ **80** し、「多重衝突防止ブレーキ」機能が、横滑り防止装置（ESC）を有効化して車両にブレーキをかけます。

多重衝突ブレーキは、作動中に次の状況で無効になります。

– ドライバーがブレーキペダルを踏み込むことによって生成されるブレーキ力は、この機能によって作動する自動ブレーキによって生成される力よりも大きくなります。

**注意:**多重衝突ブレーキには、車両のブレーキシステムが適切に機能していることが必要です。

### 作動異常

システムが作動不良を検出すると、「ポストコリージョ ン要点検」メッセージと 警告灯がインストルメントパネル上に表示されます。

この場合、この機能は無効になります。メーカーにお問い合わせください。

## 回生ブレーキシステム

ブレーキング時に、回生ブレーキシステムは、車両の減速によって生成され

たエネルギーを電気エネルギーに変換することができます。

これにより、「高電圧」トラクションバッテリが再充電され、車両の航続距離➔ 163がより長くなります。

3

**作動異常**

– がインストルメントパネルに点灯し、同時に「ブレーキシステムを点検」というメッセージが表示されます：**ブレーキング支援は引き続き作動しています。**

この条件では、ブレーキペダルの踏み方が異なる場合があります。

ペダルを踏み込む前に、強い力で踏み続けることをお勧めします。

メーカーにお 問い合わせください。

– インストルメントパネルに STOP が点灯し、「ブレーキシステム 不具合」というメッセージが表示される**これはブレーキシステムの故障を示します。**

メーカーにお問い合わせください。

警告灯 STOP が点灯した場合、周囲の交通に注意しながら直ちに安全な場所に停車しなくてはなりません。エンジンを停止し再始動しないでください。認定ディーラにご連絡ください。

## My Safety

### はじめに

「My Safety」機能を使うと、一連の運転支援機能を同時に無効化または有効化できます。

車両によっては、運転支援機能の同時 OFF を選択することで、マルチメディア画面から「My Safety」機能を構成できます。

### 作動

### 「ALL ON」モード

車両により、このモードには次の運転支援機能が含まれています。

- 車線離脱防止機能 ➔ 190。
- 緊急車線逸脱防止 ➔ 197。
- ドライバーに対する注意喚起のための警告➔ 219。
- ドライバーに対する疲労警告➔ 221。
- 速度超過警告音 ➔ 224。

「ALL ON」モード作動時ボタン***1***のインジケーターランプが点灯し、インストルメントパネルに「My Safety All ON を実行」メッセージが表示されて確認できます。またこの場合、このモードで使用できる運転支援機能も有効化されます。

### 「Perso」モード

このモードは、「ALL ON」モードで使用できるいくつかの運転支援機能のうち、「My Safety Perso」設定を介して構成済みのものを**無効化**または**再有効化**する場合に使用できます。

「Perso」モードを有効化するには、イグニッションスイッチを ON にしてボタン ***1*** を 2 回連続で**押します**。初めて押すと、「もう一度押す My Safety Perso」メッセージがインストルメントパネルに表示されます。2 回目に押すと、ボタン ***1*** 上の表示灯が消えます。「Perso」モードがアクティブになります。「My Safety Perso を実行」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

「ALL ON」モードに戻すには、ボタン ***1*** 上を一度だけ**押します**。ボタン ***1*** 上の表示灯が点灯します。

> ⓘ 車両によっては、直前のエンジン停止以降の経過時間に応じて、次の場合に「ALL ON」モードが再有効化されます。
>
> – 車両のロックが解除された場合。
>
> または
>
> – ドアが開けられた場合。
>
> または
>
> – エンジンが再始動された場合。

### 「My Safety Perso」の設定

> ⚠ 安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

「My Safety Perso」モードで保存された「Perso」設定は、エンジンが作動するたびに、またはドアのロック時に保存されます。

### マルチメディア画面 *2* からの構成

この設定にアクセスする方法については、マルチメディア装置の取扱説明書を参照してください。

## 車線離脱防止

### はじめに

カメラ ***1*** からの情報を用いて作動するこの機能は、車両が、実線車線または破線車線から逸脱するか、路側帯（仕切り、障壁、舗道、堤防など）に近づいており、方向指示器が未作動の場合に、車両のステアリングシステムに対し事故回避操作介入を行います。

設定によっては、車両が破線車線から逸脱し、方向指示器も未作動の場合、この機能は、

– ステアリングシステムに対する事故回避操作介入は行わずドライバーへの警告のみ行います。

または

– ステアリングシステムに対し事故回避操作介入を行います。

ステアリングホイールを操作すると、いつでも**車両のコントロールを取り戻す**ことができます。

### カメラの位置 *1*

フロントウインドウが汚れや泥、雪、結露などでふさがれていないか確認してください。

このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、いかなる場合においても、ドライバーの適切な注意義務に取って代わるものではありません。ドライバーは常に車両を制御しなければなりません。

## 有効化／無効化

### マルチメディア画面 *2* から

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

### スイッチ *3* の使用

– **この機能を無効化するには**、前回「My Safety」➔ **189**機能の「Perso」モードからこの機能を無効化した場合は、スイッチ ***3*** を 2 回押します。

警告灯がインストルメントパネル上に黄色表示されます。

– **機能を再有効化する**にはスイッチ ***3*** を 1 回押します。インストルメントパネルの警告灯 が点灯します。

### 作動

この機能が有効化されると、 警告灯と左右両側の車線インジケータ ***4*** がインストルメントパネル上に灰色表示されます。

**機能は警告または介入する準備が整います。**車両の速度が約70 km/hを超え、 と左側または右側の車線インジケータ***4***が白色で表示される場合。

**この機能は、次の場合に介入**します。

– 車両が、方向指示灯未作動の状態で路肩／路側帯に近づいている場合。
– 車両が、方向指示灯未作動の状態で実線車線から逸脱した場合。

– 「破線車線からの逸脱時に作動」設定が選択されている状況で、車両が、方向指示灯未作動の状態で破線車線から逸脱した場合。

以下の場合に作動:

– この機能は、車両のステアリングシステムが車両の軌道を修正するための動作をトリガーします。

– インストルメントパネル上の 警告灯と逸脱車線側の指示灯 ***4*** が黄色に変わります。

ステアリングシステムに対する事故回避操作が不十分だと、インストルメントパネル上の 警告灯と逸脱車線側の指示灯 ***4*** が赤色に変わり、ステアリングホイールが振動します。

「破線車線からの逸脱時に作動」設定が選択されていない場合、この機能は、車両が、方向指示灯未作動の状態で破線車線から逸脱し、車線から十分近い場所に路側帯がない場合に**警告音を発し**ます。

この場合、この機能は、次の方法でドライバーに警告します。

– ステアリングホイールの振動により。

と

– インストルメントパネル上の 警告灯と逸脱車線側のインジケータ ***4*** が赤色に変わります。

**注意:** カーブでは、機能によりわずかに車線を跨ぐことが許容されます。

## 注意：

### 「正しく運転 してください」警告

– システムは作動しているものの、ドライバーによるステアリングホイール操作を検出できない状態になると、ドライバーが車両制御を再開するまで、「正しく運転 してください」メッセージがインストルメントパネル上に表示され、ビープ音が鳴ります。また車両によっては、 警告灯が赤色表示されます。

– システムの作動時間が長すぎると、ドライバーが車両の制御を再開するまで、「正しく運転 してください」というメッセージがインストルメントパネル上に表示され、ビープ音が鳴るほか、車両によっては、 警告灯が赤色点灯し、該当車線側のインジケータ ***4*** が点滅します。

ステアリングホイールを操作すると、いつでも車両の修正アクションを中断することができます。

### 「アクティブ運転支援」装備車両

「車線中央維持」機能と「車線逸脱防止」機能が同時に作動すると、警告灯の表示が次のように変化します。

– 「レーンセンタリング」機能が作動中：インストルメントパネル上の白色または灰色 警告灯が、緑色 警告灯に置き換えられます。このため「レーンセンタリング」機能の状態が優先的にドライバーに通知されます。

– 「レーンセンタリング」機能は待機状態になり、「車線逸脱防止」機能は準備中でも作動中でもありません。グレーの 警告灯が、インストルメントパネル上の白またはグレーの 警告灯に変わります。このため「レーンセンタリング」機能の状態が優先的にドライバーに通知されます。

– 「レーンセンタリング」機能は、「車線逸脱防止」機能が準備中または作動中の間、待機状態になります。

警告灯がインストルメントパネルで赤または黄色で表示されます。このため、「車線逸脱防止」機能の状態が優先的にドライバーに通知されます。

どの場合でも、ドライバーに対しては、車両のステアリングシステム制御

中における機能の状態が常に通知されます。また有用性の高い情報は常に表示されます。

## 機能の一時的な使用不可 / 無効化

このシステムは、次の場合、一時的に使用できない状態となるか、無効化されます。

– 瞬間的に車線を離脱したとき。
– ライン上を走行し続けているとき。
– 車線を変更してから約4秒後。
– きついカーブ
– 視界不良
– いずれかの方向指示器が作動中の場合。
– ハザードランプが有効化されている場合。
– シフトレバーが「後進」位置の場合。
– 加速
– 車線幅の変更。
– 横滑り防止装置が作動している場合。
– アンチロックブレーキシステムが作動している場合。
– アクティブ緊急ブレーキシステムが作動した場合。
– 「車線中央維持」機能に代表されるステアリングシステム制御機能による介入が行われた場合。

この機能が使用不能になると、インストルメントパネル上の 警告灯と左右両側の起動補正インジケータ ***4*** が灰色に変わります。

フロントカメラの妨げとなる障害物などがある場合は、「フロントカメラ 映像なし」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。この場合には、センサ配置場所をきれいにします

## 自動無効化

この機能は、次の場合に自動で無効化されます。

– 車両ダイナミクス制御システムが無効化された場合。
– 横滑り防止装置に機能不良が生じた場合。
– アンチロックブレーキシステムに機能不良が生じた場合。
– 牽引バーがトレーラーヒッチソケットに電気的に接続されている場合。

– STOP 警告灯が表示されます。

この機能が有効化されると、 OFF 警告灯がインストルメントパネル上に黄色表示されます。

## マルチメディア画面 *2* からの設定調整

3

## スイッチ *3* の使用

マルチメディア画面 ***2*** からこの機能設定にアクセスするには、マルチメディア画面上の指示に従ってください。

– 「破線介入」：この設定を使用すると、車両が、方向指示灯を作動させずに破線車線から逸脱した場合における、この機能による対応を次の中から選択できます。

  – 選択された設定：この機能は、車両の走行軌跡を補正するために、車両のステアリングシステムを作動させることがあります。
  – 未選択の設定：この機能は、車両の走行軌跡を補正せずに、ステアリングホイールの振動でドライバーに警告します。

– 「振動の強さ」:「車線逸脱防止」機能が行うステアリングホイールの振動の程度を調整します。

– 「レーンデパーチャー設定」:ライン認識の感度レベルを調整します。調整するには、以下から選択します。

  – “遅め”:またいだときにラインを認識する。
  – “ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ”:近づいたときにラインを認識する。
  – 「早め」近接車線検出機能です。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

## 作動異常

システムが作動不良を検出すると、左右両側の表示灯と OFF 警告灯がインストルメントパネルに黄色表示されます。

場合によっては、以下のメッセージが表示されます。

– « ドライブアシスト 操作不可 »;

または

– « フロントカメラを 点検してください »;

または

– « ドライブアシスト 要確認 ».

メーカーにお問い合わせください。

## 警告

このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、いかなる場合においても、ドライバーの適切な注意義務に取って代わるものではありません。ドライバーは常に車両を制御しなければなりません。

**システムの整備／修理作業**

– 衝突した際はカメラのアライメントが変わる可能性があり、その動作に影響が出ます。機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。
– カメラのある場所の作業（修理、交換、フロントウィンドウの変更など）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

**システムの障害**

以下に掲げるような環境要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

– フロントウインドウの汚れ（泥、雪、結露など）
– 複雑な環境（トンネルなど）。
– 悪天候（降雪、降雨、雹、路面凍結など）。
– 視界不良（夜間、濃霧など）。
– 道路標識が複数存在する状況（道路で工事が行われている状況など）、道路標識の判別が難しい状況、道路標識が変則的である状況（車線の一部分または大部分が色あせている状況、車線の間隔が広すぎる状況、路面が不均一な状況など）。
– 眩惑（逆光、反対車線走行中の対向車両のヘッドライトなど）。
– 狭い道路、曲がりくねった道路、起伏のある道路（急カーブがあるなど）。
– 同車線の前方車両との車間がわずかなとき。

この場合、「車線逸脱防止」機能が誤って有効化されるか、全く作動しないことがあります。

**不必要な修正、誤った修正、または軌道の修正のリスク。**

**機能の作動解除**

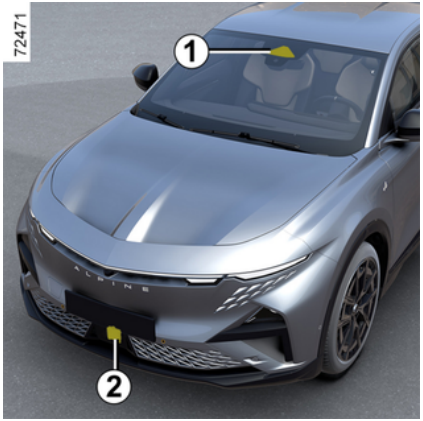
次の場合にはこの機能を無効化してください。

– カメラ領域が損傷しています（フロントガラス側またはルームミラー側）。
– 道路が滑りやすい（積雪、路面凍結、水貯まり、砂利などがある）場合。

– フロントガラスにひびが入ったり歪んだりしている（このエリアではフロントガラスの修理を行わず、指定代理店で交換してください）。
– 自車両でトレーラまたはキャラバンを牽引する場合。

## 緊急車線離脱防止

### はじめに



フロントレーダ ***2*** とカメラ ***1*** からの情報を用いて作動するこの機能は、隣接車線の対向車両と衝突する危険が生じており、方向指示灯が未作動の場合に、車両のステアリングシステムに対し事故回避操作介入を行います。

車両によっては、リアレーダの検出領域内で同一速度のまたはより高速度の走行車両と衝突する危険が生じている場合にも、サイドレーダ ***3*** とカメラ ***1*** からの情報を用いて作動するこの機能が、車両のステアリングシステムに対し事故回避操作介入を行います。

ステアリングホイールを操作すると、いつでも**車両のコントロールを取り戻す**ことができます。

このシステムは付加的な運転援助を提供します。このシステムは、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するのもです。

### カメラの位置 *1*

フロントウインドウが汚れや泥、雪、結露などでふさがれていないか確認してください。

### フロントレーダーの位置 *2*

レーダーエリアが、車両の前面に取り付けられたアクセサリー（フロントバンパーやロゴなど）によって遮られたり、衝撃、修正（塗装を含む）、泥、泥、雪、前部ナンバープレートの取り付け不良によって隠されていないことを確認してください。

### サイドレーダーの位置 *3*

レーダーエリアが（汚れ、泥、雪など）、影響を受けたり、変更されたり（塗装など）されていないことを確認してください。

### 機能の起動／作動解除

***A*「My Safety」スイッチを使用します。**

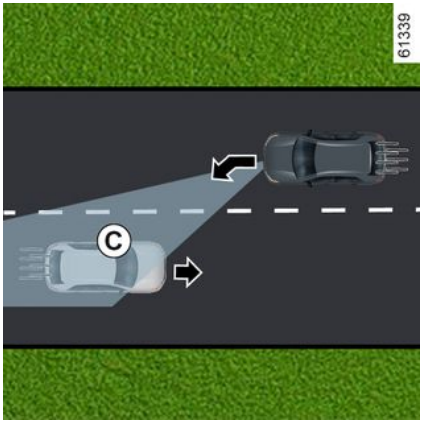
「My Safety」機能 ➔ **189** の「Perso」モードを介してこの機能を無効化する場合は、スイッチ ***A*** を 2 回押します。

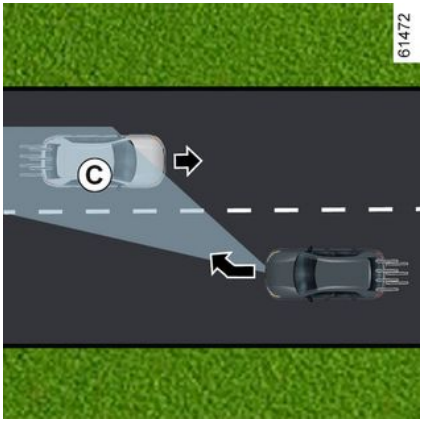
**機能を再有効化するには**、スイッチ ***A*** を押します。

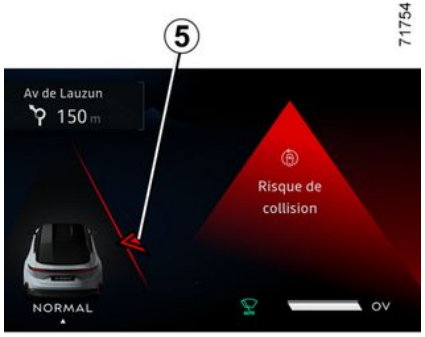
**マルチメディア画面 *B* から**

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

### 対向車の検出






約70 km/hから110 km/hの速度で走行中、隣接車線の検出ゾーン***C***内で対向車両との衝突リスクがあり、ターンシグナルが作動していない場合、システムは以下の動作を行います。

– **衝突の危険を警告:**

「衝突注意」というメッセージがインストルメントパネル上に表示され、該当車線に対応する警告灯 ***4*** が赤色点灯し、ビープ音が鳴ります。該当車線に対応する記号 ***5*** がインストルメントパネル上に表示されます。

と

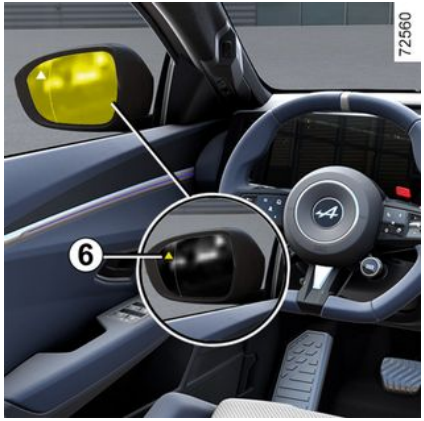
– **ステアリングシステムの修正動作がトリガーされます。**

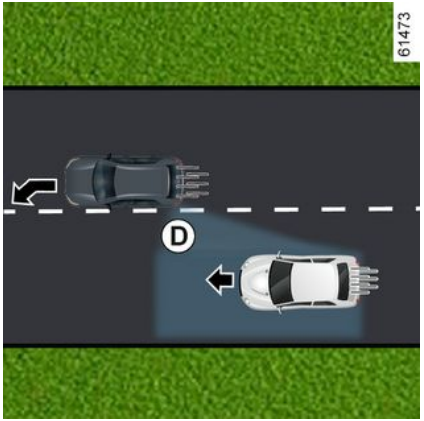
> ステアリングホイールを操作すると、いつでも車両の修正アクションを中断することができます。

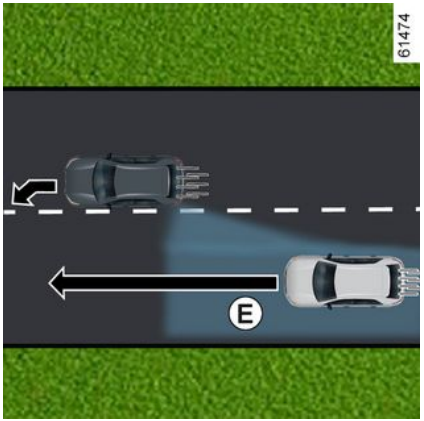
> このシステムは運転時の安全性を補助するもので、
> この機能は、いかなる場合においても、ドライバーの適切な注意義務に取って代わるものではありません。ドライバーは常に車両を制御しなければなりません。

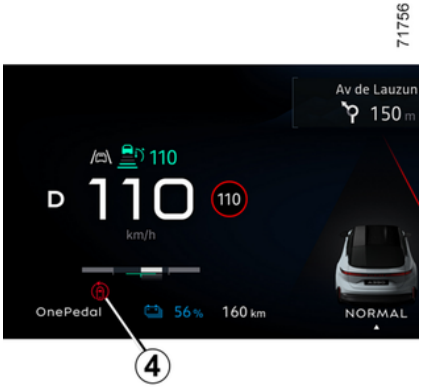
接近車両の速度が約 200 km / h を超えている（自車両は 110 km / hで走行しており、隣接車線の対向車両は 91 km / h で走行している場合など）と、この機能は有効化されない場合があります。

## 追い越しの場合





約70 km/h以上で走行中に、実線または破線の線に接近し、死角内に位置する車両***D***が自車と同じ方向に走行している場合や、検知エリア内の隣接車線で後方から急接近している車両***E***との衝突の危険がある場合、システムは次の動作を行います。

– **衝突の危険性について警告します。**
警告灯***6***が点滅し、インストルメントパネルに「側方並走車 検出」メッセージが表示され、赤色の警告灯***4***、該当側のライン、および警告音が鳴ります。該当車線に対応する記号 ***5*** がインストルメントパネル上に表示されます。

と

– **ステアリングシステムの修正動作がトリガーされます。**

## 一時的な使用不可／システムの無効化

このシステムは、次の場合、一時的に使用できない状態となるか、無効化されます。

– 瞬間的に車線を離脱したとき。
– ライン上を走行し続けているとき。
– 車線を変更してから約4秒後。
– きついカーブ
– 視界不良
– 方向指示灯の点灯操作が行われている場合（隣接車線で対向車が検出されている場合のみ）。
– ハザードランプが有効化されている場合。
– 加速
– 車線幅の変更。

– 横滑り防止装置が作動している場合。
– アンチロックブレーキシステムが作動している場合。
– アクティブ緊急ブレーキシステムの作動。
– ...

以下の場合には、システムを作動することはできません。

– カメラが、該当する左右いずれかの車線（実線または破線）を検出できない場合。
– カメラが、自車両が走行している車線の左端と右端にある境界を同時に検出できない場合。
– リバースギアが入れられた時：
– カメラの視界が妨げられている
– フロントレーダーが隠されている。
– 車両によっては、リアレーダーが隠されている。
– ...

車両によっては、サイドレーダーのいずれかの妨げとなる障害物などがある場合、「サイドレーダー 作動していません」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

フロントレーダーの妨げとなる障害物などがある場合は、「フロントレーダー 作動していません」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

フロントカメラの妨げとなる障害物などがある場合は、「フロントカメラ 映像なし」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

センサが配置されているエリアを清掃します。

## 機能の自動的な無効化

次の場合、システムは自動的に無効化されます。

– 車両ダイナミクス制御システムが無効化された場合。
– 横滑り防止装置に機能不良が生じた場合。
– アンチロックブレーキシステムに機能不良が生じた場合。
– 牽引バーがトレーラーヒッチソケットに電気的に接続されている場合。
– STOP 警告灯が表示されます。

システムが認識済みの牽引バーを装備している車両の場合は、車線逸脱緊急防止機能の無効化についてドライバーに知らせるための「トレーラー: 側センサー使用不可」というメッセージが表示されます。

車両がトレーラまたはキャラバンを牽引している場合は、予期しない、または不必要な修正が発生する可能性があります。システムは、想定外のまたは不要な事故回避介入を阻止する目的で無効化することもできます。

## 作動異常

この機能が作動不良を検出すると、次のメッセージがインストルメントパネル上に表示されることがあります。

– « フロントカメラを 点検してください » ;

または

– « フロントレーダーを 点検してください » ;

または

– « ドライブアシスト 要確認 » ;

車両タイプによって異なります。

– « サイドレーダーを 点検してください ».

メーカーにお問い合わせください。

## 警告

このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、いかなる場合においても、ドライバーの適切な注意義務に取って代わるものではありません。ドライバーは常に車両を制御しなければなりません。

**システムの整備／修理作業**

– 衝撃が発生した場合、カメラまたはレーダーの配置が変更され、その結果、その動作に影響が及ぶ可能性があります。機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。
– レーダーまたはカメラのある場所の作業（交換、修理、フロントウィンドウの変更など）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

**システムの障害**

以下に掲げるような環境要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

– フロントウインドウの汚れ（泥、雪、結露など）
– 複雑な環境（トンネルなど）。
– 悪天候（降雪、降雨、雹、路面凍結など）。
– 視界不良（夜間、濃霧など）。
– 道路標識が複数存在する状況（道路で工事が行われている状況など）、道路標識の判別が難しい状況、道路標識が変則的である状況（車線の一部分または大部分が色あせている状況、車線の間隔が広すぎる状況、路面が不均一な状況など）。
– 眩惑（逆光、反対車線走行中の対向車両のヘッドライトなど）。
– 狭い道路、曲がりくねった道路、起伏のある道路（急カーブがあるなど）。
– 同車線の前方車両との車間がわずかなとき。

この場合、「車線逸脱防止」機能が正しく作動しないか、まったく作動しない恐れがあります。

**不必要な修正、誤った修正、または軌道の修正のリスク。**

**機能の作動解除**

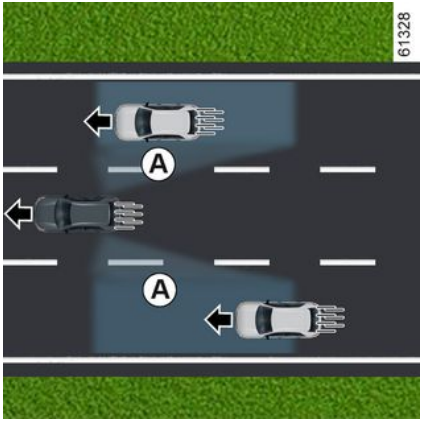
次の場合にはこの機能を無効化してください。

– カメラ領域（フロントガラス側またはルームミラー側）またはレーダー領域が損傷しています。
– 道路が滑りやすい（積雪、路面凍結、水貯まり、砂利などがある）場合。

– フロントガラスにひびが入ったり歪んだりしている（このエリアではフロントガラスの修理を行わず、指定代理店で交換してください）。
– 車両がトレーラーまたはキャラバンを牽引している。
– 車両の牽引（分解）。
– 舗装道路で運転していない。

## 死角の警告

### はじめに



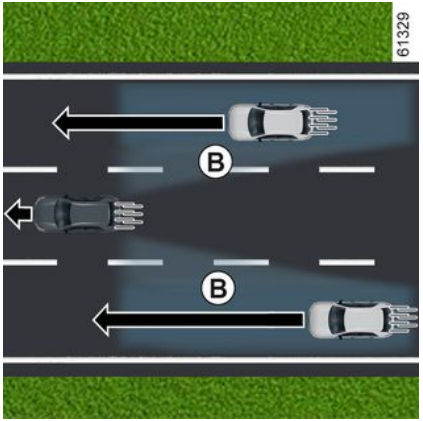

リアバンパ（ゾーン ***C***）の両側に取り付けられているセンサからの情報を用いて作動するこの機能は、次の場合に、ドライバーに警告します。

– 死角 ***A*** 内に他車両が存在し、自車両と同一方向に走行している場合。

と

– ゾーン ***B*** 内に存在し、自車両より高速で隣接車線を走行している他車両と衝突する危険がある場合。

この機能は、車速が約 15 km/h 以上になると警告を発します。




このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、いかなる場合においても、ドライバーの適切な注意義務に取って代わるものではありません。ドライバーは常に車両を制御しなければなりません。

他の車両が動いていない場合、この機能は運転者に通知しません。

### 特徴

リアバンパ両側のレーダ付近にあるゾーン ***C*** に障害物（汚物、泥、雪など）がないか確認します。

レーダーの妨げとなるものがある場合は、「サイドレーダー 作動していません」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。センサが配置されているエリアを清掃します。

## 警告灯 *1*

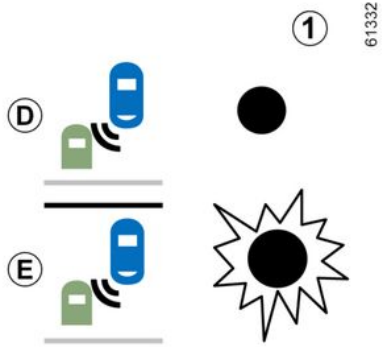
警告灯 ***1*** は、各ドアミラー ***2*** 上にあります。

**注意:**

– ドアミラー ***2*** は定期的に清掃し、警告灯 ***1*** を正しく視認できる状態に保ってください。
– 他の車両を追い越す場合、警告灯 ***1*** は、自車両の死角 ***A*** に十分な長さの他車両が存在する場合に限り点灯します。

## 表示

### ディスプレイ *D*




最初の警告：**方向指示灯が作動していない場合**、警告灯 ***1*** は、死角内に車両が検知されていること、および／または隣接車線の後方から車両が急速に接近していることを示します。

### ディスプレイ *E*

**方向指示灯の作動中に、死角内で他車両が検出されるか、他車両が、自車両の旋回方向に向かって後方から自車両に急接近していると、警告灯 *1* が点滅します。**

方向指示灯を停止すると、この機能は、初期警告状態（表示 ***D***）に戻ります。

## 作動しない場合

– きつい曲がり角の道路を走行中の場合
– リバース。

車両がシステム認識のけん引装置を装備している場合、「トレーラー：インストルメントパネルに「ブラインドスポット警告OFF」というメッセージが表示され、この機能が停止していることを知らせます。

お車に合った装備をお探しの際には、お近くの指定サービス工場にご相談ください。

## 作動異常

システムが不具合を検出すると、「サイドレーダーを 点検してください」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

メーカーにお問い合わせください。

> ⓘ バンパーの後ろにセンサがあるため、バンパーの作業（修理、交換、塗装など）は資格を持つ専門スタッフに任せることをお勧めします。

3

## 警告

– システムの検知範囲は、標準の車線幅に基づいて作動します。幅広い車線を運転する場合、システムは死角内を走行する車両を検出できない可能性があります。
– 非常に悪天候（大雨、雪など）の場合、システムが一時的に中断する場合があります。走行条件を常に認識してください。

**事故の恐れがあります。**

このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、いかなる場合においても、ドライバーの適切な注意義務に取って代わるものではありません。ドライバーは常に車両を制御しなければなりません。
ドライバーは、システムの指示に関係なく、常に交通状況に応じて車速を調整する必要があります。
いかなる場合でも、システムを障害物の検知や衝突防止装置として使用することはできません。

**システムの整備／修理作業**

– 衝突した際はレーダーのアライメントが変わる可能性があり、その動作に影響が出ます。メーカーにお問い合わせください。
– レーダーのある場所の作業（修理、交換）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

**システムの障害**

以下に掲げるような環境要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

– 複雑な環境（金属橋、トンネル、端に障壁がある道路など）。
– 悪天候（降雪、降雨、路面凍結など）。
– 車両には、システムによって認識されない牽引バーが取り付けられています。

**誤アラームまたは警告なしのリスク**

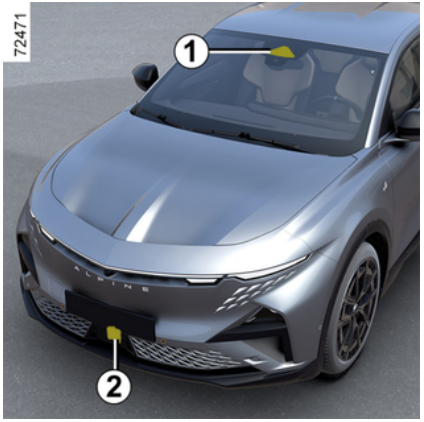
システムの作動に異常が発生した場合は正規ディーラーまでご連絡ください。

**システムの作動上の制限**

– システムの正常な作動を確保するために、レーダーエリアは清潔に保ち、変更を加えないようにする必要があります。
– 車両に近づく小さな物体（バイク、自転車、歩行者など）は、システムによって認識されないことがあります。
– カーブに差しかかると、レーダーは、隣接車線の他車両を一時的に検出しなくなる場合があります。
– 隣接する車線（3 車線の道路を走行中）で他の 2 台の車両が後方から並んで接近しているときに、自車よりもはるかに高速であると、この機能は遅れて警告することがあります。
– 他の車両が著しく異なる速度で走行している場合、システムが警告を表示しないことがあります。
– 車両が、車長の長い車両（たとえば、重い車両が車両と同様の速度で追い越す）に追い越される場合、システムは操縦の終了前に警告を中断することがあります。
– 車両が風の強い道路を走行する場合。

## 適切な車間距離アラート

### はじめに




レーダー ***2*** とカメラ ***1*** からの情報を用いて作動するこの機能は、自車両と前方車両の時間間隔をドライバーに知らせ、両車両が安全に停止できる距離を保てるよう支援します。

### カメラの位置 *1*

フロントウインドウが汚れや泥、雪、結露などでふさがれていないか確認してください。

### レーダーの位置 *2*

レーダーエリアが、車両の前面に取り付けられたアクセサリー（グリルやロゴなど）によって遮られたり、衝撃、修正（塗装を含む）、泥、泥、雪、前部ナンバープレートの取り付け不良によって隠されていないことを確認してください。

このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、いかなる場合においても、ドライバーの適切な注意義務に取って代わるものではありません。ドライバーは常に車両を制御しなければなりません。

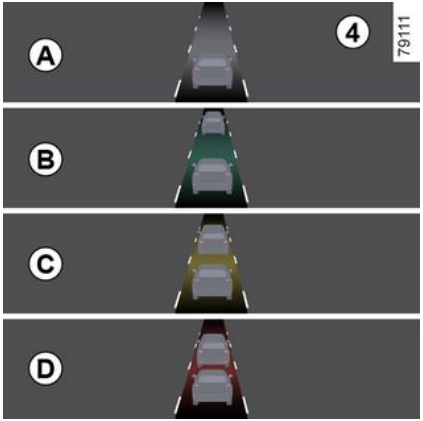
### マルチメディア画面 *3* からの有効化／無効化

マルチメディア画面 ***3*** の「車両」領域から、「運転ｱｼｽﾄ」メニュー > 「ｴｱｺﾝ」の順に押します。

「車間距離」機能を有効化または無効化します。

エンジンを始動すると、機能はエンジンが最後にオフになったときに保存されていたモードを継続します。

## 作動




この機能が有効化されると、表示灯 ***4*** がインストルメントパネル上に表示され、自車両と前方車両の車間距離をドライバーに知らせます。

– ***A***（灰色）:非作動
– ***A***（緑色）: 車両が検出されない
– ***B***（緑色）: 時間差が約2秒以上（2台の車両間の距離があなたの速度に合わせて調整されている状態）
– ***C***（黄色）: 時間差が約1秒から2秒の（2台の車両の車間距離が不十分な）状態
– ***D***（赤色）: 時間差が約1秒以下の（2台の車両間の距離がきわめて不十分な）状態

2 台の車両の車間時間が約 0.5 秒未満の場合、ディスプレイ ***D*** 上の表示灯 ***4*** がインストルメントパネル上で赤色点灯します。

特定の条件下では、時間差が表示されません。

– 旋回時、
– 車線の変更時、
– 前方の車両がレーダーまたはカメラの範囲から十分に遠いか範囲外にある場合。

# 運転時の補助機能

## 警告

測定値は情報提供のために表示されます。システムは車両に対していかなる操作も実施しません。
この機能は、都市部での使用や、急カーブ、急加速、急ブレーキなどのダイナミックな運転スタイルを想定したものではなく、安定した運転状況を想定して設計されています。
この機能はブレーキングシステムとは連動していません。
システムの正常な動作を保証するためには、レーダーゾーンとカメラゾーンを清潔に保ち、改変されないようにする必要があります。
レーダーやカメラが設置されている場所（修理、交換、フロントガラスやバンパーの改造など）で行われた作業は、資格のある専門家が行う必要があります。

## 運転時の補助機能

このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、いかなる場合においても、ドライバーの適切な注意義務に取って代わるものではありません。ドライバーは常に車両を制御しなければなりません。

**システムの整備／修理作業**

– 衝撃が加わると、レーダーおよび / またはカメラの位置合わせが変更され、その動作が結果として影響を受ける可能性があります。機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。
– レーダーやカメラが設置されている場所（交換、修理、フロントガラスやバンパーの改造など）で行われた作業は、資格のある専門家が行う必要があります。

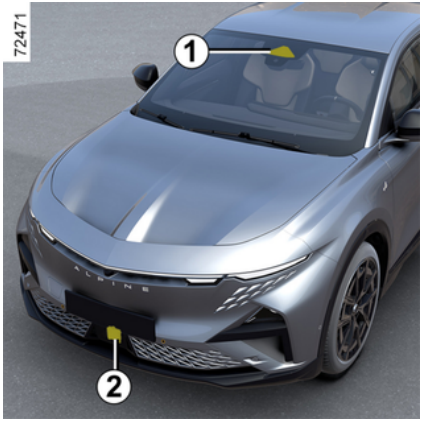
指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

**システムの障害**

– フロントウインドウまたはバンパー上に障害物（汚物、氷、雪、結露など）がある。
– 複雑な環境（金属製の橋梁、トンネルなど）。
– 悪天候（降雪、降雨、路面凍結など）。
– 視界不良（夜間、濃霧など）。
– 車両の前方とその周辺のコントラストが小さい（白色の車両が積雪場所にあるなど）。
– 眩惑（逆光、反対車線走行中の対向車両のヘッドライトなど）。
– 道路が狭く、巻いて波打っている（きついカーブなど）

**誤警報のリスク。**

## エマージェンシーブレーキアシスト




このシステムは、カメラ ***1*** とレーダー ***2*** から届く情報を用いて、自車両と次のものとの距離を判定します。

– 同じ車線の前方の車両から。

または

– 方向転換の操作中に対向車両から。

または

– 直角に通過する車両；

または

– 静止車両。

または

– 周囲の歩行者やサイクリスト。

システムは、正面衝突の危険性があるかどうかをドライバーに通知して、適切な緊急操作（ブレーキペダルの踏みおよび / またはステアリングホイールの回し）を可能にします。

ドライバーの反応度に応じて、システムは、損傷を制限するためまたは衝突を防止するためにブレーキングを支援することができます。

**それ以外の場合、システムは非アクティブで、アラートは起動しません。**

このシステムは運転時の安全性を補助するもので、
この機能は、いかなる場合においても、ドライバーの適切な注意義務に取って代わるものではありません。ドライバーは常に車両を制御しなければなりません。

**このシステムは必要に応じて、車両が完全に停止するまで最大ブレーキングを加えることができます。**
安全上の理由から、車両に乗るときは常にシートベルトを着用し、荷物が前方に投げ出されて乗員に当たらないように積載・固定されていることを確認してください。

### カメラの位置 *1*

フロントウインドウが汚れや泥、雪、結露などでふさがれていないか確認してください。

### レーダーの位置 *2*

レーダーの周りに、障害物（汚れ、泥、雪、取付け不良ナンバープレートなど）、衝突、改変部分（塗装を含みます）または遮断部分がないか確認してください。

### 作動

走行中に衝突の危険が生じると、システムは次のように作動します。

– **衝突の危険を警告します：**警告音と共に「障害物あり」というメッセージがインストルメントパネルに表示されます。

**注意:** ドライバーがブレーキペダルをプレスしても、システムで依然として衝突の危険性が検出されている場合、ブレーキング力が衝突を防ぐのに十分でないときは、ブレーキング力が増加することがあります。

– **ブレーキングを作動させることができます:**警告に対してドライバーが反応せず、衝突の危険が差し迫っている場合、赤色の警告灯と「危険 ブレーキ」メッセージが、音声信号とともにインストルメントパネルに表示されます。

**注意:**

– ドライバーによる車両の制御装置（ステアリングホイール、ペダルなど）の使用中には、システムの反応に遅れが生じたり、システムが作動しなかったりすることがあります。
– アクティブ緊急ブレーキングが作動して車両が停止すると、一定の短い時間が経過するまでは車両が静止状態に保たれます。この時間を超えて車両を静止させておくには、ドライバーがブレーキペダルを踏み続ける必要があります。
– システムがブレーキングを作動させると、「セーフティー ブレーキ実行」メッセージがディスプレイに表示されます。

緊急操作時には、次の操作によりいつでもブレーキングを停止できます。

– アクセルペダルをタップします。

または

– 衝突回避操作としてステアリングホイールを回します。

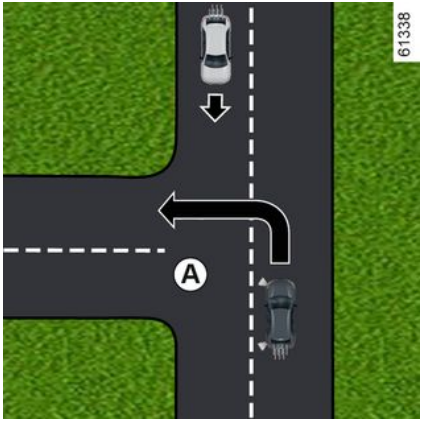
**注意事項**
速度に応じて、警告とブレーキが同時に作動することがあります。

## 車両検出

### 同一車線を走行している車両の検出

システムは、車両が約8 km/hを超える速度で走行している場合に、同一車線の前方車両と衝突する危険を検出します。

### 進行方向を変更する操作の文脈での対向車両検出




方向転換を希望する場合（例: ***A***）、システムは次の条件で対向車両を検出します。

– 車両が約 8 km/h ～ 20 km/h の速度で走行している場合。
– フラッシャ表示灯を作動させた場合。

### 車線を直角に横切る車両の検出

システムは、次の場合に車線を横切る車両を検出します:

– 自車両が約 20 km/h から 60 km/h の速度で走行している場合。

### 車線内に停まっている車両の検出

システムは、静止車両を次の場合に検出します:

– 自車両が約 8 km/h から 80 km/h の速度で走行している場合。

## 歩行者および自転車の検出

### 同一車線上の歩行者や自転車の検出

システムは、次の場合に歩行者や自転車を検出します。

– 自車両が約 8 km/h から 85 km/h の速度で走行している場合。

### 進行方向変更時における歩行者や自転車の検出

システムは、次の場合に歩行者や自転車を検出します。

– 自車両が約 8 km/h から 20 km/h の速度で走行している場合。

## 有効化／無効化

車両によっては、直前のエンジン停止以降の経過時間に応じて、次の場合に機能が再び有効化されます:

– 車両のロックが解除された場合。

または

– ドアが開けられた場合。

または

– エンジンが再始動された場合。

### マルチメディア画面からのシステムの有効化、無効化 *3*

機能を有効または無効にするには、マルチメディアの指示を参照してください。

「ON」または「OFF」を選択します。

## 設定

安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

### マルチメディア画面 *3* からの設定

車両を静止させた状態で下記の機能に関する設定にマルチメディア画面 ***3*** からアクセスするには、マルチメディアの操作手順をご参照ください。

警告:感度レベルを調整する。これを行うには、以下から選択してください。

– « 遅め »;
– « ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ »;
– « 早め ».

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

## 一時的に使用できない

システムが一時的な不具合を検出すると、 警告灯が点灯します。また

## 運転時の補助機能

車両によっては、 警告灯がインストルメントパネル上に点灯します。

考えられる原因:

– システムは一時的に機能しなくなります（太陽からのグレア、ロービームヘッドライト、悪天候など）。可視性条件が良好な場合、システムは再び動作可能になります。
– システムが一時的に中断されます（フロントガラス、フロントまたはリアバンパ、またはロゴが汚れ、泥、雪、結露などによって保護されている）。この場合は、車両を駐車し、エンジンを停止します。フロントウインドウ、フロントバンパ、またはロゴを清掃します。次にエンジンを起動し、約 5 分から 10 分間走行すると、警告灯とメッセージが消えます。この対応でも問題が解消されない場合は、他の原因が考えられるため、認定ディーラーにご相談ください。

### 作動異常

システムが一時的な故障を検出すると、 警告灯が点灯します。また車両によっては、 警告灯がインストルメントパネル上に点灯します。メーカーにお問い合わせください。

## 警告

このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、いかなる場合においても、ドライバーの適切な注意義務に取って代わるものではありません。ドライバーは常に車両を制御しなければなりません。
この機能の起動は、システムがドライバーによる車両の制御の明確な兆候（ハンドル、ペダルなどに対するアクション）を検出したときに遅延または防止される可能性があります。

以下の場合には、システムを作動することはできません。

- シフトレバーがニュートラル位置にある場合。
- 横滑り防止装置（ESC）が起動している場合。

**システムの整備／修理作業**

- 衝撃が加わると、レーダーおよび / またはカメラの位置合わせが変更され、その動作が結果として影響を受ける可能性があります。
  機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。
- レーダー / カメラのある場所の作業（修理、交換、フロントウィンドウの変更など）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

**システムの障害**
以下に掲げるような環境要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

– 複雑な環境（金属製の橋梁、トンネルなど）。
– 悪天候（降雪、降雨、雹、路面凍結など）。
– 視界不良（夜間、濃霧など）。
– 物体（車両、歩行者など）とその周辺のコントラストが小さい（白色の衣服を着た歩行者が積雪場所にいるなど）場合。
– 眩惑（逆光、反対車線走行中の対向車両のヘッドライトなど）。
– フロントウインドウの汚れ（泥、雪、結露など）
– ...

**このような状況では、システムは無反応またはドライバーに警告しないか、誤ってブレーキをかけることがあります。**
**システムの作動上の制限**

– 車両が始動されるたびに、システムは、車両の周囲環境に応じてキャリブレーションを実行し、約 2 ～ 5 分の走行の間、非アクティブになる場合があります。
– システムの正常な動作を保証するためには、レーダーゾーンとカメラゾーンを清潔に保ち、改変されないようにする必要があります。
– システムは、バイクなどの小型車両に対しては、他の車両の場合のように効果的に機能することができない場合があります。
– 路面が滑りやすい状況（降雨時、降雪時、路面凍結時など）では、システムが正常に作動しないことがあります。
– システムは、障害物とそれ以外の要素を完全に区別できないと正しく作動しません。したがって、システムは以下を検出できません。
  – 暗闇または明るさが不十分な場所の歩行者／自転車走行者。
  – 一部分しか視認できない歩行者／自転車走行者。
  – 身長が約 80 cm 未満の歩行者。
  – 大きな物を運ぶ歩行者
  – ...

**このような状況では、システムは無反応またはドライバーに警告しないか、誤ってブレーキをかけることがあります。**



**機能の作動解除**
次の場合にはこの機能を無効化してください。
– カメラエリアが損傷している（例: フロントウィンドウの内側または外側）。
– 車両の前面に損傷（衝突痕、歪み、レーダーにひっかき傷など）がある場合。
– 車両の牽引（分解）。
– フロントガラスにひびが入ったり歪んだりしている（このエリアではフロントガラスの修理を行わず、指定代理店で交換してください）。
– 舗装道路で運転していない。

**システムの動作が異常な場合は、システムの作動を解除して、正規ディーラーまでご連絡ください。**
**機能の一時停止**
アクセルペダルを軽く踏むか、衝突回避操作でステアリングホイールを回すことで、ブレーキング機能をいつでも一時停止することができます。

## ドライバーに対する注意喚起のための警告

### はじめに

この機能は、注意散漫のリスクがる場合に運転時の安全性を補助するものです。この機能が車両を操舵することはありません。この機能は、どのような状況でも、ドライバーが走行中に果たすべき責任を軽減するものではありません。
ドライバーは、システムからの指示にかかわらず、常に周囲の状況を踏まえて運転しなければなりません。

システムは、車内カメラ ***1*** を用いてドライバーの顔の動きを分析し、ドライバーの注意が散漫している場合には警告を発します。

注意散漫とは、ドライバーが約 3 秒間道路を見なかったり、この動きを数回連続して繰り返すことです。

**注意:**システムは画像を一切記録せず、リアルタイムで動作します。

### カメラの位置 *1*

dカメラに視界を妨げるもの（汚物、泥など）が付着していないか、または覆われていないか確認してください。

### 作動

このシステムはドライバーの注意を継続的に監視し、走行中にいくつかの警告を発することができます。

**この機能は、**車速が約 20 km/h を超える場合に警告する準備ができています。

ハイブリッドモデルでは、「運転に集中 してください」のメッセージがインストルメントパネル ***2*** に表示され、ビープ音が鳴ります。

道路に注意を払い、あらゆる事故を予測することをお勧めします。

インストルメントパネルに表示されている警告を消去するにはスイッチ ***3*** **OK**を押します。メッセージを削除した後も、システムは注意散漫を監視し続け、必要に応じて新たな警告を発します。



## 有効化／無効化

安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

車両によっては、直前のエンジン停止以降の経過時間に従って、次の場合に警告が再び有効化されます。

– 車両のロックが解除された場合。

または

– ドアが開けられた場合。

または

– エンジンが始動された場合。

車両によっては、警告を無効化できない場合があります。

車両に応じて、警告は以下を使用して有効または無効にできます。

– 「My Safety」ボタン、
– マルチメディア画面。

### *4*「My Safety」ボタンを用いた警告の有効化および無効化

「My Safety」機能➔ **189**の「Perso」モードより警告を非作動または作動にすることができます。

過去に「Perso」モードを用いて警告を無効化したことがある場合:

– **警告を無効化するには**、ボタン ***4*** を 2 回連続で押します。ボタン ***4*** 上の表示灯が消灯します。
– **警告を有効化するには**、ボタン ***4*** を 1 回押します。ボタン ***4*** 上の表示灯が点灯します。

### マルチメディア画面 *5* からの警告の有効化、無効化

警告を有効化または無効化にするには、マルチメディア画面の指示に従ってください。

「ON」または「OFF」を選択します。

## システム作動時間の制限

次のような特定の条件により、システムの動作が妨げられる場合があります。

– 特定の種類のメガネを着用しているとき。
– カメラが部分的にでも遮られている場合。
– ドライバーの顔の一部が隠されている場合（髪の毛、帽子、サージカルマスク、スカーフなどによって）。
– カメラが顔を適切に分析できない可能性のある不適切な運転位置（座り心が低すぎる、後ろに傾くなど）。
– ...

**このような状況では、システムは警告をトリガーしないか、時期尚早または誤った警告をトリガーする可能性があります。**

### 作動異常

システムが機能に異常を検出すると、メッセージ「アテンション モニター要点検」が表示され、車両によっては、メッセージ「アテンションモニター作動不可 表情が認識できません」と

表示灯がインストルメントパネルに表示されます。

カメラが清浄であることを確認するか、フェイスカバーアクセサリを取り外します。正しく着席していることを確認してください。

不具合が直らない場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。

## ドライバーに対する疲労警告

### はじめに

この機能は、疲労のリスクがる場合に運転時の安全性を補助するものです。この機能が車両を操舵することはありません。この機能は、どのような状況でも、ドライバーが走行中に果たすべき責任を軽減するものではありません。ドライバーは、システムからの指示にかかわらず、常に周囲の状況を踏まえて運転しなければなりません。

このシステムは、車内カメラ ***1*** を使用してドライバーの顔の挙動を分析し、ドライバーが居眠りする危険性がある場合は警告を発します。

**注意：**システムは画像を記録せず、リアルタイムで動作します。

### カメラの位置 *1*

dカメラに視界を妨げるもの（汚物、泥など）が付着していないか、または覆われていないか確認してください。

## 作動

このシステムはドライバーの注意を継続的に監視し、走行中にいくつかの警告を発することができます。

エンジンを始動するたびに、またはドライバーを変更するたびに、数分後にシステム設定がリセットされます。

**以下の場合、機能は作動する準備ができています：**

– 車両が最後に停止してから数分が経過した場合。
– 車速が約 20 km/h を超えている場合。

疲労や注意散漫の危険が生じている場合は、「休憩を とりましょう」というメッセージがインストルメントパネル ***2*** 上に表示され、ビープ音が鳴ります。

ドライバーが眠りに落ちると、ビープ音とともにインストルメントパネルに「疲労アラート 休憩を入れてください」メッセージが表示されます ***2*** 。

なるべく早く停車して休息してください。

インストルメントパネルに表示されている警告を消去するにはスイッチ ***3*** **OK**を押します。メッセージ削除後も、システムは、ドライバーの疲労状況の監視を継続し、必要に応じて新たな警告を行います。

## 有効化／無効化

安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

車両によっては、直前のエンジン停止以降の経過時間に従って、次の場合に警告が再び有効化されます。

– 車両のロックが解除された場合。

または

– ドアが開けられた場合。

または

– エンジンが始動された場合。

車両によっては、警告を無効化できない場合があります。

車両に応じて、警告は以下を使用して有効または無効にできます。

– 「My Safety」ボタン、
– マルチメディア画面。

### *4*「My Safety」ボタンを用いた警告の有効化および無効化

「My Safety」機能➔ 189の「Perso」モードより警告を非作動または作動にすることができます。

過去に「Perso」モードを用いて警告を無効化したことがある場合:

– **警告を無効化するには**、ボタン *4* を 2 回連続で押します。ボタン *4* 上の表示灯が消灯します。
– **警告を有効化するには**、ボタン *4* を 1 回押します。ボタン *4* 上の表示灯が点灯します。

### マルチメディア画面 *5* からの警告の有効化、無効化

警告を有効化または無効化にするには、マルチメディア画面の指示に従ってください。

「ON」または「OFF」を選択します。

### システム作動時間の制限

次のような特定の条件により、システムの動作が妨げられる場合があります。

– 特定の種類のメガネを着用しているとき。
– カメラが部分的にでも遮られている場合。
– ドライバーの顔の一部が隠されている場合（髪の毛、帽子、サージカルマスク、スカーフなどによって）。
– カメラが顔を適切に分析できない可能性のある不適切な運転位置（座り心が低すぎる、後ろに傾くなど）。
– ...

**このような状況では、システムは警告をトリガーしないか、時期尚早または誤った警告をトリガーする可能性があります。**

### 作動異常

システムが機能に異常を検出すると、メッセージ「アテンション モニター要点検」が表示され、車両によっては、メッセージ「アテンションモニター作動不可 表情が認識できません」と

表示灯がインストルメントパネルに表示されます。

カメラが清浄であることを確認するか、フェイスカバーアクセサリを取り外します。正しく着席していることを確認してください。

不具合が直らない場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。

## 道路標識の検出

### はじめに

システムは、検出した、道路脇にある制限速度標識の内容に従ってインストルメントパネル上に制限速度を表示します。

このシステムは、主に、リアビューミラー背後のフロントウィンドウに取り付けられたカメラ ***1*** が提供する情報を使用します。国により、システムは、地図から得られる情報も併用して、特定の標識（市街地の入口を示す標識など）を解釈します。

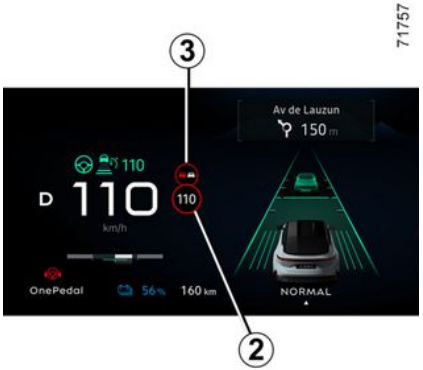
システムが道路標識を検出すると、インストルメントパネル上に表示される標識も変化します。

速度リミッタまたはアダプティブクルーズコントロールを有効化すると、制限速度設定値を、システム（➔ 231 および ➔ 234）が用いる値としてインストルメントパネル上に表示される制限速度に調整できます。

検出制限速度を超過すると、その旨をドライバーに知らせるため、インストルメントパネルに表示される道路標識が変わります。

### 作動

#### 警告灯




この機能は、次の警告灯を表示します。

***2.*** 速度制限標識および追加速度制限標識（矢印付き出口ランプの速度、キャラバンでの速度、適用時間の制限速度など）

***3.*** 追加の道路標識（オーバーキングゾーンの開始）。

検出制限速度を超えると、ドライバーへの警告のため、道路標識円周部が点滅（警告灯 ***2***）し、車両によっては、ビープ音が数秒間鳴ります。

このインストルメントパネル上での点滅は、車速が制限速度を超えている限り続きます。

**地図サブスクリプション契約**

道路標識検出機能は、地図サブスクリプション契約対象の地図と連動します。

**サブスクリプションを管理するには、マルチメディアの説明書を参照してください。**

サブスクリプションがない場合、システムは、カメラによって検出された制限速度標識を考慮して制限されます。

この場合システムは、地図に関する情報を考慮しません。速度制限の可用性が影響を受ける可能性があります。

## 有効化／無効化

安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

直前のエンジン停止以降の経過時間に応じて、次の場合に警告音が再び有効化されます。

– 車両のロックが解除された場合。

または

– ドアが開けられた場合。

または

– エンジンが再始動された場合。

### *4*「My Safety」ボタンを用いた速度超過警告音の有効化、無効化

この警告音は、「My Safety」機能内の「Perso」モードを用いることで無効化または有効化できます ➔ 189。

過去に「Perso」モードを用いて警告音を無効化したことがある場合:

– **警告音を無効化するには**、ボタン ***4*** を 2 回連続で押します。ボタン ***4*** 上の表示灯が消灯します。
– **警告音を再び有効化するには**、ボタン ***4*** を 1 回押します。ボタン ***4*** 上の表示灯が点灯します。

### マルチメディア画面 *5* からの速度超過警告音の有効化、無効化

警告音を有効化または無効化にするには、マルチメディア画面の指示に従ってください。

「ON」または「OFF」を選択します。

### 制限速度または設定速度の変動

（車種によります）

スピードリミッタまたはアダプティブクルーズコントロールの設定値を検出された制限速度に合わせる方法：スイッチ***6***を短く押して、最後に検出された制限速度標識に表示されている制限速度に車両の速度を合わせてください。

**注意:**マップサブスクリプションを搭載している車両では、検出された制限速度標識に示されている新しい制限ごとに車両の速度を自動的に調整できます。これを行うためには、スイッチ***6***を約6秒間長押しします。

## 一時的に使用不可

カメラや地図データに関する理由でシステムを使用できない場合、 記号（車両によっては黄色の 記号）がインストルメントパネル上に表示されます。不具合が直らない場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。

以下の場合にシステムは制限速度を検知できません。

– フロントウインドウが汚れている
– カメラが日射で機能しなくなっている
– 視界が不十分な場合（霧発生時など）。
– 標識を判読できない（雪など）または隠れている（別の車両または樹木などによって）
– 地図から得られる情報が最新情報でない場合。

**注意:**前方カメラが隠されている場合は、インストルメントパネルに「フロントカメラ 映像なし」メッセージが表示されます。この場合は、カメラ前方のフロントガラス部分を清掃してください。

## 作動異常

システムが作動不良を検出すると、 （車両によっては黄色の 記号）がインストルメントパネル上に表示されます。

場合によっては、以下のメッセージが表示されます。

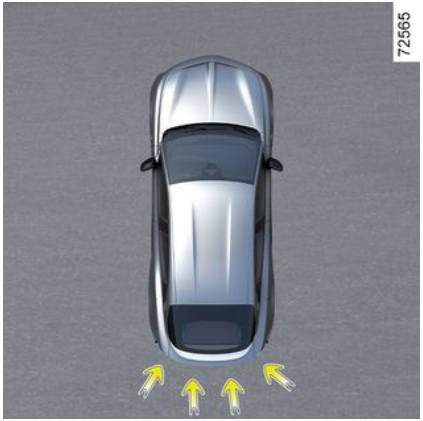
– « ドライブアシスト 操作不可 »；
または
– « フロントカメラを 点検してください »；
または
– « ドライブアシスト 要確認 ».

メーカーにお問い合わせください。

## 警告

このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、いかなる場合においても、ドライバーの適切な注意義務に取って代わるものではありません。ドライバーは常に車両を制御しなければなりません。
ドライバーは、システムの指示に関係なく、常に交通状況に応じて車速を調整する必要があります。
システムは最大速度制限標識を検出し、他の標識（都市部への入り口 / 出口を示す標識など）を検出しません。
システムは、すべての制限速度標識を検出しないか、誤って解釈することがあります。
ドライバーは、システムが未検出の道路標識を無視してはならず、実際の道路標識や道路交通法に沿った走行を優先しなければなりません。
視界が悪い場合（霧、雪、霜など）は、システムが正しい車速をドライバーに通知できない場合があります。

## リバースギアでのアクティブエマージェンシーブレーキング




「駐車ｱｼｽﾄ」➔ 282 機能に加え、車両の後部にある 4 つの中央センサーからの情報を用いて作動するシステムが、車両後方にある固定物を検出します。衝突の重大なリスクがある場合、システムは自動的に車両にブレーキをかけます。

**注意:**車両の後部にある 4 つの中央センサにその妨げとなるもの（汚物、泥、雪など）がないか確認してください。

### 作動

**リア固定障害物の検出**

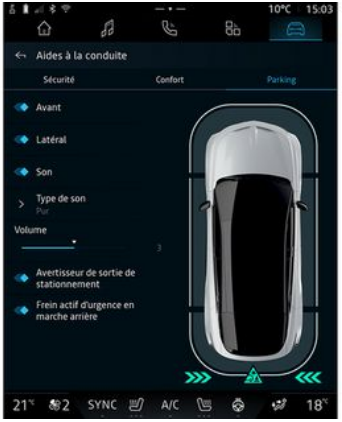
シフトレバーが「後進」位置で、3 km/h から 10 km/h での走行中に、固定の物体との衝突のリスクが生じている場合、システムは、**自動的に車両にブレーキをかけます**。警告表示 ***2*** がマルチメディア画面 ***1*** 上に表示され、ビープ音が鳴ります。

車両が停止したら、ブレーキペダルを踏み込んだままドライバーが車両を静止させる必要があります。

このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、いかなる場合においても、ドライバーの適切な注意義務に取って代わるものではありません。ドライバーは常に車両を制御しなければなりません。

操作時にサブフレームに衝撃があった場合（縁石、歩道またはその他の市街地設備との接触など）車両を損傷した恐れがあります（リアアクスルの変形など）。放置すると事故が起こるおそれがあるので、指定サービス工場で点検を受けてください。

## システムの作動／解除




72527

マルチメディア画面 ***1*** を介してこの機能を有効化または無効化するには、「車両」ワールド >「駐車ｱｼｽﾄ」の順に選択します。「リバースギアでのエマージェンシーブレーキアシスト」を選択します。

この機能が無効化されると、マルチメディア画面上に***3*** OFF 警告灯が表示されます。

## 作動異常

システムが動作障害を検出すると、リバースギアのアクティブな緊急ブレーキが自動的に非アクティブになります。

機能不良の種類に応じて、マルチメディア画面上に***3*** OFF 警告灯が表示され、インストルメントパネル上に次のメッセージが表示されます。

– « PKセンサー 使用不可 » ;

または

– « パーキングセンサー 点検 » ;

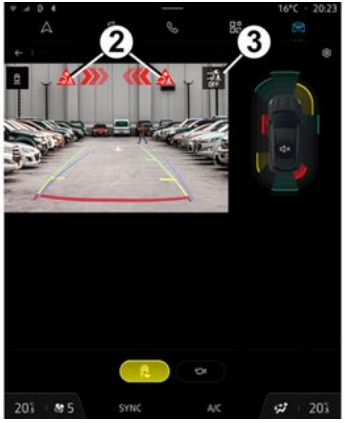
または

– « ドライブアシスト 操作不可 » ;

または

– « ドライブアシスト 要確認 ».

超音波センサを清掃します。不具合が直らない場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。




車両にシステムが認識するけん引装置が装着されていて、トレーラーが接続されている場合、リバースギアでのアクティブ緊急ブレーキングは自動的に解除され、次のメッセージがインストルメントパネルにディスプレイされます。「トレーラー: パーキングセンサー使用不可」がインストルメントパネルに表示され、同時にマルチメディア画面上に***3***の OFF 警告灯が点灯します。

3

## 警告

**リバースギアでのアクティブエマージェンシーブレーキング**
このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、いかなる状況においても、ドライバーの注意力や責任に取って代わるものではありません。
気候や環境条件によっては、システムが破壊されたり、損傷したりする可能性があります。その結果、ドライバーは走行中の急な事態に常に備えていなければなりません。操作時には、死角に子供、動物、ベビーカー、自転車、石、柱などの小さく細い動く障害物がいないことを必ず確認してください。
この機能の起動は、システムがドライバーによる車両の制御の明確な兆候（ハンドル、ペダルなどに対するアクション）を検出したときに遅延または防止される可能性があります。

**システムの整備／修理作業**

– 衝撃が発生した場合、リアセンサーとその性能に影響を与える可能性があります。機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。
– センサーのある場所の作業（修理、交換、バンパの変更など）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

**機能の作動解除**

車両が牽引されている場合（故障回復）、または車両にシステムで認識されないけん引装置が取り付けられている場合は、機能を無効にする必要があります。
システムの動作が異常な場合は、システムの作動を解除して、正規ディーラーまでご連絡ください。

# スピードリミッター

## はじめに

スピードリミッタ機能は、設定した走行速度（**制限速度**）を超えないように、エンジンとブレーキシステムを制御します。

> ⓘ セーブモードの有効化中は、制限速度を、セーブ ➔ 173モードにおける最高速度を超える速度に設定できません。

## 操作部

***1.*** 車両に応じて異なる、次の走行支援機能の選択／選択解除スイッチ。

– アクティブドライバーアシスト、
– アダプティブクルーズコントロール。
– スピードリミッタ、
– OFF.

***2.*** 機能をスタンバイ状態にし、記憶制限速度を保存します（0）。

***3.*** 記憶制限速度を呼び出せます（RES）。

***4.***

– 上方向: 作動させる、制限速度を上げる、または現在の速度を記憶する（SET/+）。
– 下方向: 作動させる、制限速度を下げる、または現在の速度を記憶する（SET/-）。

***5.*** ポップアップボタン（車両によって異なる）:検出された制限速度に合わせて速度設定を調整します ➔ 224。

> ⓘ 車両によっては、スイッチ ***5*** を押すことで、スピードリミッタ機能を「道路標識検出」機能 ➔ 224 と連動させることができます。

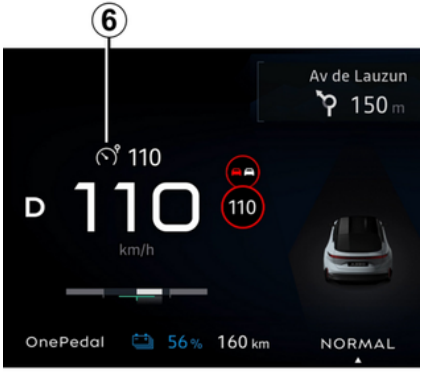
車両によっては、イグニッションスイッチを OFF にする前の段階で「OFF」モードが選択されていると、次の車両始動時に「速度リミッタ」機能がデフォルトで有効化されます。

## 走行

制限速度が設定されているがまだ到達していないときは、速度制限機能を持たない車両を運転することと同様です。

保存された速度に達すると、必要な場合を除き、アクセルペダルを踏んでもプログラムされた速度を超えることはできません ➔ 232。

## 作動



# スピードリミッター

速度リミッターの選択に必要な回数だけスイッチ***1***を押します。

警告灯 ***6*** が灰色表示されます。スピードリミッタ機能が有効化され、制限速度の記憶待ち状態になると、その証として、「リミッターOK SETで実行」というメッセージがインストルメントパネル上に表示され、破線表示も表れます。

現在の速度を記憶するには、スイッチ***4***を上方向（SET/+）または下方向（SET/-）にプレスします。制限速度が破線表示に置き換わり、車両によっては警告灯***6***が白色表示されます。

最低記憶速度は20 km/hです。

## 設定速度の変更

制限速度は、制御装置 ***4***を次のように繰り返し押すか単純に押すことで変更できます。

– 速度を上げるには上方向（SET/+）に押します。
– 速度を下げるには下方向（SET/-）に押します。

## 制限速度標識認識機能付きスピードリミッタ

カメラ、「道路標識検出」機能 ➔ **224** および地図を使用して作動するこのシステムは、速度制限道路標識を識別し、標識を通過すると、車速を自動的に制限します。

### 有効化／無効化

マルチメディア画面の「車両」ワールドで 「運転ｱｼｽﾄ」を選択します。次に、「コンフォート」タブから「適応性がある速度の振幅制限器および巡航制御 *」を選択します（装備により異なります）。

**注意:**コンテキストボタン***5***を長押しすることでも、有効化／無効化できます。

## 設定速度を超えて加速させる

次の操作を行うといつでも設定速度を超えることができます：これを行うには、アクセルペダルを**一番奥まで**（抵抗点より奥まで）しっかり踏み込みます。

制限速度を超えると、インストルメントパネル上の制限速度灯が黄色点滅します。

次に、アクセルペダルを離します。設定された速度より低い速度に達すると、スピードリミッタ機能はすぐに戻ります。

**注意:**車両によっては、アクセルペダルを抵抗点に近い位置までプレスすることで、制限速度を超えることもできます。この方法で制限速度を超過すると、ビープ音が鳴ることに加え、警告がインストルメントパネル上に表示されます。

**緊急事態に備え足をペダルの近くに置く必要があります。**

（何度有効化を試しても）速度リミッターを使用できない場合は、正規ディーラーにご連絡ください。

# スピードリミッター

## 機能のスタンバイ

速度リミッタ機能は、スイッチ ***2*** を押すと一時停止します（0）。

限界速度はインストルメントパネルに灰色で表示されて保存されます。

## 設定速度の呼び出し

速度が記憶されていれば、***3*** スイッチを押すことでその速度を呼び出せます。

ⓘ スピードリミッタがスタンバイに設定されている場合、コントロール***4***を上または下に押すと、記憶された速度を考慮せずにスピードリミッタ機能が再度作動します。考慮されるのは車両が走行している速度です。

## スピードリミッタ機能の解除

スピードリミッタ機能は、スイッチ ***1*** を押してその選択を解除すると一時停止します。この場合、速度は記憶されなくなります。

警告灯 ***6*** は、機能が停止したことを確認するためにインストルメントパネルから消えます。

ⓘ 運転支援機能を OFF にするには、必要な回数だけスイッチ ***1*** を押します。「運転支援無効化」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。
この場合、車両によっては、次のエンジン始動時に「速度リミッタ」機能が有効化され、制限速度記憶待機状態となります。

3

# 適応クルーズコントロール

## はじめに

レーダーおよびカメラの情報に基づいて、アダプティブクルーズコントロール機能を使用すると、同じ車線の前方の車両から安全な距離を保ちながら、選択した速度（巡航速度）を維持することができます。

車両によっては、「道路標識検出」機能が有効化➔ 224されている場合、システムは、カメラが認識する制限速度標識に応じて車速を調整できます。

国に応じて、カメラと地図を使用して、状況や道路上の事象（ラウンドアバウト、曲がり角、次の標識、または速度制限ゾーン）に応じて車両の速度を事前に調整します。

前方車両が停止した場合、アダプティブクルーズコントロール機能が自車両にブレーキをかけて完全に停止させ、その後再び発進できるようにすることがあります。

システムは、エンジンとブレーキシステムを使用して、車両の加速度および減速を制御します。

システムの最大カバー距離は約 130 メートルです。これは、道路の状況（地面の起伏、気象条件など）によって異なる場合があります。

アダプティブクルーズコントロール機能は、道路の状況（交通、気象など）に応じて 0 km/h から作動させることができます。

この機能は 記号で示されます。

**注意:**

– ドライバーは、走行している国の法令に従って、速度制限と安全車間距離を守らねばなりません。
– アダプティブクルーズコントロールでは、ブレーキング能力の最大約 1/3 の強度でブレーキをかけることができます。状況によっては、ドライバーはより強くブレーキをかける必要があります。

ⓘ 省エネモードの有効化中は、巡航速度を、省エネ➔ 173モードにおける最高速度を超える速度に設定できません。

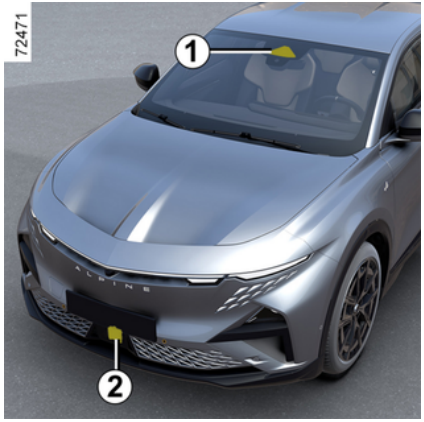
ⓘ クルーズコントロールまたはアダプティブクルーズコントロール機能の作動中は、回生ブレーキシステムと回生ブレーキ制御を使用できません。

ⓘ アダプティブクルーズコントロールは緊急停止機能を作動させず、その制動能力も制限されています。

⚠ このシステムは運転時の安全性を補助するもので、
いかなる場合でも、制限速度と安全距離を尊重し、警戒することは、ドライバーの責任です。
ドライバーは常に車両を制御する必要があります。
ドライバーは、周囲および交通状況に応じて常に速度を調整する必要があります。
**アダプティブクルーズコントロールは、郊外や見通しが良く幅の広い道路でお使いください。**
曲がりくねった道や滑りやすい路面（凍結、ハイドロプレーニング、砂利）、天候不良時（霧、雨、横風など）では、クルーズコントロールの操作が制限される場合があります。
**事故の恐れがあります。**

# 適応クルーズコントロール

## カメラの位置 *1*

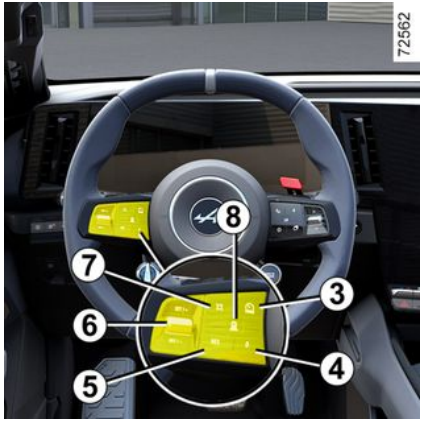



フロントウインドウのレンズが汚れや泥、雪などでふさがれていないか確認してください。

## レーダーの位置 *2*

レーダー保護プレートが、車両の前面に取り付けられたアクセサリー（グリルやロゴなど）によって遮られたり、衝撃、修正（塗装を含む）、泥、泥、雪、前部ナンバープレートの取り付け不良によって隠されていないことを確認してください。

## 操作部




***3.*** 車両に応じて異なる、次の走行支援機能の選択／選択解除スイッチ。

– スピードリミッタ、
– アダプティブクルーズコントロール。
– Active driver assist、
– OFF.

***4.*** （巡航速度が記憶された状態で）機能をスタンバイ状態にできます（0）。

***5.*** 記憶巡航速度を呼び出すことができます（RES）。

***6.***

– 上方向: 機能を有効化して巡航速度を上げたり、現在の速度を記憶したりできます（SET/+）。
– 下方向: 機能を有効化する、巡航速度を下げる、または現在の速度を記憶することができます（SET/-）。

***7.*** ポップアップボタン（車両によって異なる）:検出された制限速度に合わせて速度設定を調整します ➔ 224。

***8.*** 車間距離の調整。

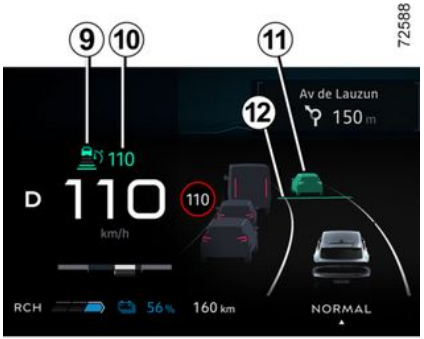
> ⓘ 車両によっては、スイッチ ***7*** を押すことで、クルーズコントロール機能を「道路標識検出」機能 ➔ 224 と連動させることができます。

車両によっては、イグニッションスイッチを OFF にする前の段階で「OFF」モードが選択されていると、次の車両始動時に「速度リミッタ」機能がデフォルトで有効化されます。

# 適応クルーズコントロール

システムの正常な動作を保証するためには、レーダーゾーンとカメラゾーンを清潔に保ち、改変されないようにする必要があります。

## 表示




***9.*** クルーズコントロール警告灯。

***10.*** 保存された設定速度。

***11.*** 前方の車両。

***12.*** 保存された安全車間距離

重要:どのような事態にも備えられるよう、常に足をペダルの近くに置いておく必要があります。

## 作動

***13*** にてアダプティブクルーズコントロールを選択するには、スイッチ ***3*** を押します。警告灯 ***9*** が灰色表示されます。クルーズコントロール機能が作動し、巡航速度の記憶待機中であることを示すため、「アダプティブクルーズコントロールを実行」というメッセージが、ダッシュとともにインストルメントパネル上に表示されます。

以下の場合は、この機能を有効にすることはできません:

– パーキングブレーキがかかっている
– 運転席のシートベルトが着用されていない場合。
– 1つ以上のドアが正しく閉じられていない場合。
– 「ハンズフリー駐車」機能がすでに有効化されている場合。

「ACC利用不可」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

## 設定速度の設定

停車中または一定速度で走行中に、***6*** を上方向（SET/+）または下方向（SET/-）に押してください。この機能が有効化され、その時点での速度が記憶されます。

最低巡航速度は20 km/hです。

設定すると、破線が巡航速度 ***10*** に置き換わり、緑色の巡航速度表示と警告灯 ***9*** によりクルーズコントロールの作動が示されます。

180 km/hを超える速度で機能を有効にすると、「無効な速度」メッセージが表示され、機能が非アクティブのままになります。

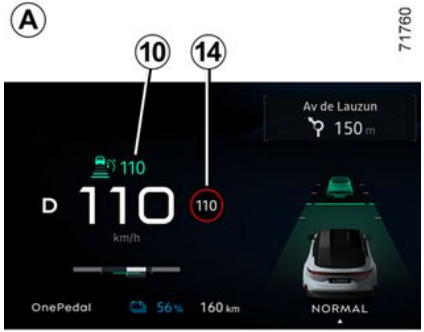
設定速度がメモリーされ、システムが作動しているとき、足をアクセルペダルから放すことができます。

## 適応クルーズコントロール

**注意:**車両速度が約20 km/h未満の場合、機能はデフォルトで20 km/hの巡航速度を使用します。車両は、保存された設定速度に達するまで加速します。

### 速度制限標識認識機能を備えたクルーズコントロールの有効化（表示 *A*）

（車種によります）

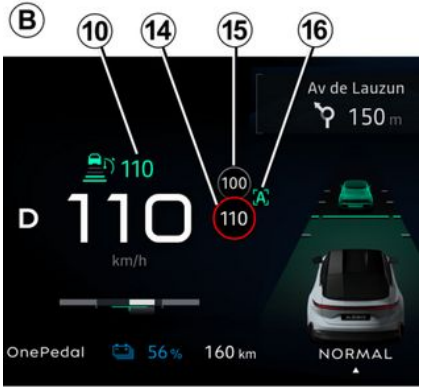



「道路標識検出」機能 ➔ 224 装備車両で、車速を、カメラが検出した制限速度 ***14*** にするには、ポップアップボタン ***7*** を押します。

該当標識を通過すると、巡航速度 ***10*** が、検出速度 ***14*** になります。

### 高度な速度制限標識認識機能を備えたクルーズコントロールの自動作動（表示 *B*）

（車種によります）



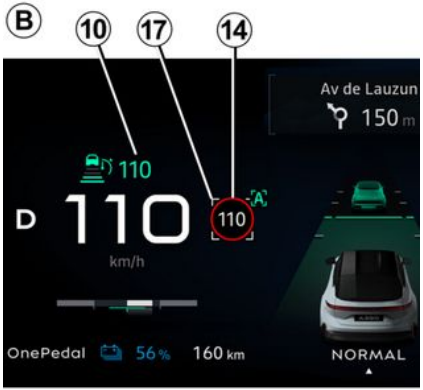

カメラ、「道路標識検出」機能 ➔ 224 および地図を使用して作動するこのシステムは、次の標識 ***15*** が検出されるまで、車速の自動調整に必要な予測を行います。

### 有効化／無効化

マルチメディア画面の「車両」ワールドで 「運転ｱｼｽﾄ」を選択します。次に、「コンフォート」メニューから「アダプティブスピードリミッタとクルーズコントロール」を選択します。

機能は、ポップアップボタン ***7*** を押し続ける方法でも有効化／無効化できます。

インストルメントパネルに「A」***16***の文字が表示されることで、自動クルーズコントロール（高度な速度制限標識認識付き）の作動が確認できます。




**注意:**車両速度と制限速度***14***に差異が生じた場合、ドライバーはポップアップボタン***7***をプレスして速度を手動で確定するよう求められる場合があります。その場合、検出速度の周りに白色の四角 ***17*** が表示されます。

### 作動

機能が有効になり、以下の速度がインストルメントパネルに表示されます:

– 巡航速度 ***10***。

# 適応クルーズコントロール

– システムが検出した、車両が走行中の道路区間における現在の制限速度 ***14***。
– システムが検出した、次の道路区間または制限速度ゾーンにおける速度 ***15***。

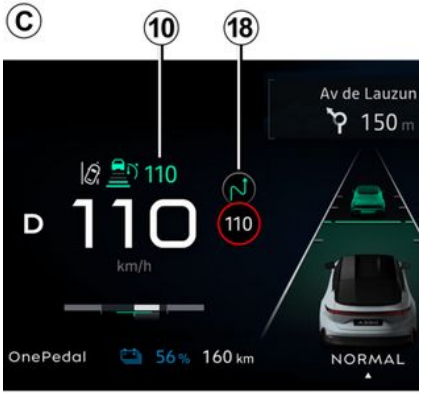
検出速度 ***15*** はシステムが考慮します。車速は、ドライバーが操作しなくても、巡航速度 ***10*** に達するまで徐々に調整されます。制限速度標識またはゾーンがs特定されると、***15*** に標示されている速度が ***14*** に表示されます。

**ドライバーは、システムによって適用される速度に常に注意を払い、車速に責任を持つ必要があります。**

この機能が有効化されていないと、速度制限標識認識機能（表示 ***A***）により巡航速度が設定される作動と同じ作動になります。

## 高度な道路配置認識機能を備えたクルーズコントロールの自動作動（表示 *C*）

（車種によります）




カメラ、「道路標識検出」機能➔ 224、および地図を活用し、システムは特定の状況（ラウンドアバウト、カーブなど）を検知すると、車両速度の自動適合を事前に把握し管理することができます。

### 有効化／無効化

マルチメディア画面の「車両」ワールドで 「運転ｱｼｽﾄ」を選択します。次に、「コンフォート」メニューから、道路状況への「制限速度アダプティブクルーズコントロール」を選択します。

### 作動

状態が検出されると、インストルメントパネルに記号 ***18*** が表示されて通知します。その後、車両は自動的に速度を調整し、検出されたエリアに近づきます。

その状態がなくなると、車両は巡航速度 ***10*** に戻ります。

**ドライバーは、システムによって適用される速度に常に注意を払い、車速に責任を持つ必要があります。**

この機能が有効化されていないと、速度制限標識認識機能（表示 ***A***）により巡航速度が設定される作動、また、作動している場合は（高度な速度制限標識認識機能（表示 ***B***）により巡航速度が自動的に設定される作動）と同じ作動になります。

以下の記号は、システムが考慮する運転状況を示しています。

– （環状交差点）。
– （曲がり角）。
– （速度制限）。
– （Tジャンクション）。
– ...

方向指示灯が作動したとき：

– （交差点）。
– （地理的エリアによっては終了）。

**注意:**

# 適応クルーズコントロール

– 制限速度標識認識（ディスプレイ ***A***）を備えたクルーズコントロールモードでは、ドライバーが白い四角で提案された新しい制限速度を手動で検証しない場合、運転状況が過ぎると、車両は自動的に最初の巡航速度に戻ります。
– 言及されたイベントのみが考慮されます。その他のイベント（停止または道譲り標識、斜面など）は考慮されません。

> ⓘ 道路レイアウトが事前に認識されたクルーズコントロールは、サブスクリプションに関連付けられています。サブスクリプションがない場合は、この機能を有効にすることはできません。
> **サブスクリプションを管理するには、マルチメディアの説明書を参照してください。**

## 設定速度を設定する

速度を変更するには、制御装置 ***6*** を、次の方向に繰り返し（小さな変更の場合）押すかを押し続け（大きな変更の場合）ます。

– 下方向: (SET/-) を押して速度を下げます。
– 上方: 加速（SET/+）する場合。

## 安全車間距離制御の作動

クルーズコントロールが有効化されるとすぐに、既定の安全車間距離 ***12*** がインストルメントパネル上に緑色表示されます。

システムが、自車線内で他車両を検出すると、その車両 ***11*** の概要が、インストルメントパネル上の距離計 ***12*** 上に表示されます。

車両は、前方の車両の速度に合わせて、インストルメントパネルに表示されている距離を維持するために、必要に応じてブレーキをかけます（ブレーキランプが点灯します）。

**注意:**輪郭の***11***の大きさは、前方の車両との距離によって変化します。外形が大きいほど、前方の車両が近い。

## 車間距離の調整

車両前方の安全車間距離は、スイッチ ***8*** を繰り返し押すことでいつでも変更できます。

インストルメントパネルの水平距離ゲージは、さまざまな安全車間距離を示しています。

– 距離ゲージ***D***:長距離（約2.4秒に相当）；
– 距離ゲージ***E***：中間距離2（約2秒に相当）；
– 距離ゲージ***F***:中距離1（約1.6秒に相当）。
– 距離ゲージ***G***:短距離（約1.2秒に相当）。

選択した距離ゲージは、インストルメントパネルに緑で表示されます。他のゲージはグレーのままです。

**注意:**車間距離は、交通状況、現地規制、天候状態に応じて設定する必要があります。

車間距離は、既定車間距離計 ***E*** をもとに安全車間距離に調整します。



## 設定速度を超える

アクセルペダルを踏めば、いつでも加速することができます。

超過すると、巡航速度 ***10*** が黄色表示されます。

ドライバーがアクセルペダルを踏むと、「アダプティブクルーズコントロール」機能は作動しなくなります。

次に、アクセルペダルを離します。クルーズコントロールとアダプティブクルーズコントロールは、以前に選択した速度と車間距離の設定を自動的に再開します。

## 追い越し操作

前方車両を追い越したい場合、車速が 70 km / h を超えていれば、方向指示器を動かすことで、前方車両との車間距離が一時的に短縮され、追い越しやすくするための加速が行われます。

## システムによるターンシグナル使用時の車線変更における速度調整の先読み

すでに速度の遅い車両が走行している隣接車線に移動したい場合:ターンシグナルを作動させると、隣接車線に既に存在する速度の遅い車両の速度に合わせて、システムは車線変更操作を開始する前に自車の速度調整を開始します。

## 不正な追い越しの防止

車両の速度が約 60 km/h を超える場合、隣接する車線にある車両に近づいた場合、システムは右側（または地域の規制によっては左側）での不正追い越しを防止できます。

この場合、追い越しを防ぐためにシステムが自動的に速度を調整します。

ただし、アクセルペダルを軽く踏むと、この機能を一時的に無効にして巡航速度に戻ることができます。

**注意:**システムは、現在運転している国の現地の規制に適応します（右側走行または左側走行）。

## 車両の停止と発進

前方の車両が減速すると、システムは速度を調整し、必要に応じて（交通量が多い場合など）車両を完全に停止させます。車両は前方の車両の数メートル前で停車します。

前方の車両が再び発進した場合:

- 停止が 30 秒未満続く場合、車両はドライバーの操作なしで再び起動します。

  **注意:**ドライバーは、走行中は常に急な事態に備えておく必要があり、車両の制御について引き続き責任を負います。システムが車両周辺で歩行者を検知した場合、自動再始動は次の停止まで抑制されます。
- 停止時間が約 30 秒を超えた場合、車両の再発進には次のいずれかの操作が必要となります。
  - アクセルペダルを踏みます。

  または
  - ボタン ***5***（RES）を 1 回押します。

メッセージ「ACC再開には RES押しor アクセルペダル」がインストルメントパネルに表示され、確認できます。

約 3 分を超えて停止すると、パワーパーキングブレーキが自動的に掛かり、アダプティブクルーズコントロールが無効化されます。

機能が無効化されると、その証として、警告灯 ***9*** が消えます。

## 機能のスタンバイ

以下の場合、機能を待機状態に設定できます:

– スイッチ ***4*** を押す（0）。
– 車両が動いているときにブレーキペダルを踏む。

この機能は、次の場合にシステムによって作動解除されます。

– シフトレバーを **R** または **N** 位置にします。
– 運転席のシートベルトを外す。
– 開閉部の 1 つを開く
– エンジン始動／停止ボタンを押す
– 勾配が急すぎるとき
– 特定のドライビングアシストおよび補正デバイスが作動しているABS（アクティブ緊急ブレーキング、ESCなど）。
– 車両の速度が約 180 km/h 以上になったとき

**注意:**車両によっては、接続されたデータの受信が最適ではない場合、システムは自動的に事前速度制限標識認識および / または道路レイアウト機能の事前認識をスタンバイ状態にします。

接続されたデータの受信が再び最適になると、2 つの機能が自動的に再起動されます。

すべての状況で、警告灯が灰色で表示され、メッセージ「ACC 休止」がインストルメントパネルに表示されたときに、スタンバイが確認されます。

アダプティブクルーズコントロールを待機状態にする、またはオフにしても、急激な速度低下は起こりません。必要に応じてブレーキペダルを踏んでブレーキをかけてください。

## スタンバイの解除

**保存されているクルージング速度に基づいて**

設定速度がメモリーされている場合は、交通条件（交通量、車道の状態、気象条件など）が適切であることを確認してから設定速度を呼び出すことができます。有効な速度範囲内で速度を調整するには、ボタン ***5***（RES）を押します。

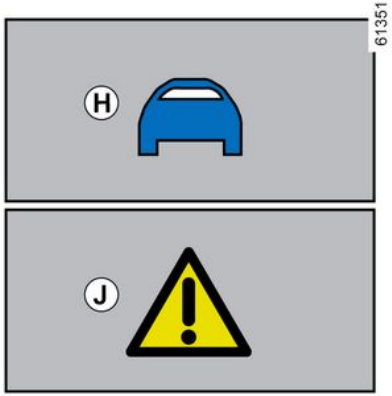
メモリーされた速度の呼び出し中には設定速度が緑で点灯し、クルーズコントロールの作動を確認することができます。

**注意:**記憶速度が現在の速度より高い場合、車両はその速度に達するまで加速します。

**現在の速度に基づいて**

クルーズコントロールが待機状態のとき、スイッチ ***6*** を上方向（SET/+）または下方向（SET/-）にプレスして、記憶された速度を考慮せずにクルーズコントロール機能を再作動させます。考慮されるのは車両が走行している速度です。

## 「車両の制御を取る」警告




**状況（極端に速度の遅い車両に遭遇した、前方車両が急に車線変更したなど）によっては、システムが反応時間を確保できない場合があります。**

状況に応じて、システムは以下に関連するビープ音を鳴らします。

– 状況に照らしてドライバーへの注意喚起が必要だと考えられる場合にはオレンジ色の警告 ***H***。

または

– 赤色警告 ***J*** と「危険 ブレーキ」というメッセージ（状況に照らしてドラ

イバーへの緊急注意喚起が必要だと考えられる場合）。

**あらゆる状況に対応し、適切な操作を実行してください。**

## スピードリミッタ機能の解除

アダプティブクルーズコントロール機能の中断:

– スイッチ ***3***を押した場合。

警告灯 ***9*** は、機能が停止したことを確認するためにインストルメントパネルから消えます。

ⓘ 運転支援機能を OFF にするには、必要な回数だけスイッチ ***3*** を押します。「運転支援 解除」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。
この場合、車両によっては、次のエンジン始動時に「速度リミッタ」機能が有効化され、制限速度記憶待機状態となります。

## 一時的に使用不可

### レーダー

レーダーは、車両の前方の車両を検出することができます。レーダー検出領域が不明瞭な場合、または信号が中断されている場合、システムが正常に作動することができません。

レーダ検出エリアに障害物があったり、レーダ信号が途絶えたりすると、「フロントレーダー 作動していません」というメッセージがインストルメントパネル上に表示され、「アダプティブクルーズコントロール」機能が一時停止します。

機能が自動的に無効化されたことを示すため、緑色の警告灯 ***9*** が消えます。

レーダーエリアがきれいな状態を保ち、雪、泥、取り付け不良のナンバープレート、車両前面（グリル上）に取り付けられているアクセサリーによって妨げられたり、車両前面（グリルやロゴなど）に取り付けられているアクセサリーによって隠れたりしていないことを確認してください。

特定の地域の条件では、次のような機能が妨げになることがあります。

– 乾燥したゾーン、トンネル、長い橋、または道路のない道路を軽く使用して、標識や樹木が近くにない。
– 軍用または空港ゾーン。

機能を作動させるには、このようなエリアを残しておく必要があります。

すべてのケースで、エンジンを再始動した後にメッセージが消去されない場

合は、指定サービス工場に連絡してください。

## カメラ

カメラが汚れ、泥、雪、結露などによって保護されている場合、システムは作動できません。

カメラの視界が狭くなると、「フロントカメラ 映像なし」というメッセージがインストルメントパネル上に表示され、アダプティブクルーズコントロール機能の性能が低下します。警戒心を持って行います。

## 作動異常

「アダプティブクルーズコントロール」機能の故障が検出されると、「ドライブアシスト 要確認」というメッセージがインストルメントパネル上に表示され、「アダプティブクルーズコントロール」機能の作動が中断されます。

システムの 1 つまたは複数のコンポーネントで動作不良が検出された場合、適応クルーズコントロール機能は中断されます。

故障のタイプに応じて、インストルメントパネルにメッセージが表示されます。

– « ドライブアシスト 操作不可 » ;
– « フロントカメラ 映像なし » ;
– « フロントカメラを 点検してください » ;
– « フロントレーダー 作動していません » ;
– « フロントレーダーを 点検してください .»

メーカーにお問い合わせください。

## システム作動の制限

### 車両検出

システムは、車両と同じ方向に移動する車両（車両、トラック、バイク）のみを検出します。

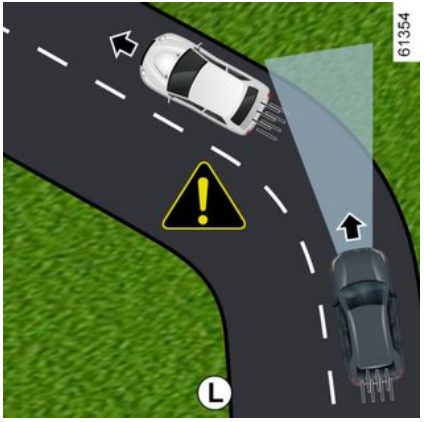
**システムが不適切なまたは遅延制動を引き起こすことがあります。**

**システムは以下を検出できません。**

– 交差点に進入してくる車両:側道（例: ***K***）など。
– 道路の反対側を走行している、またはこちらに向かってリバースしている車両。

> ⓘ アダプティブクルーズコントロールは、郊外や道路の線が見える幅の広い道路で使用してください。

### コーナリング時の検出




コーナーや曲がり角を検出すると、レーダー／カメラは、一時的に前方車両（***L*** など）を検出できなくなることがあります。

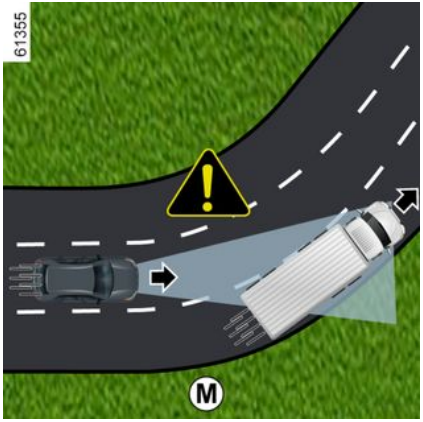
**システムが加速を引き起こす可能性があります。**

カーブを抜ける際には、前方の車両の検知が中断したり、遅れたりする場合があります。

**システムが不適切なまたは遅延制動を引き起こすことがあります。**



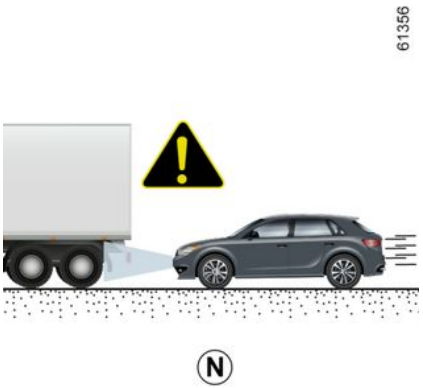
## 隣接車線の車両の検出




システムは、次の場合に隣接する車線を走行する車両を検出することがあります:

– 曲がり角に差し掛かった場合（***M*** など）。
– 細い車線の道路を走行した場合
– 隣接する車線上の車両の速度が遅く、これらの車両のうちの1台が他の車両の車線に近すぎる場合。

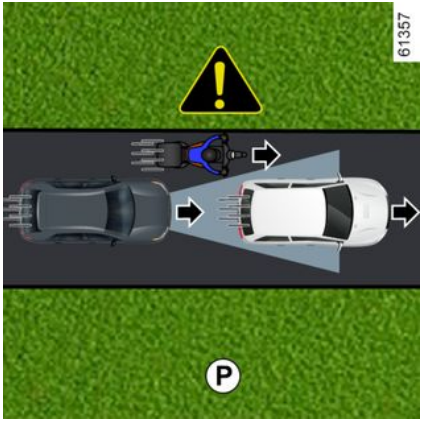
**システムが誤って車両の減速やブレーキングを行う場合があります。**




**カメラやレーダーの検知エリアの外側にある車両。**

検出された車両がカメラとレーダーの検出エリア外にある場合、特に以下のケースでは、**システムは反応が遅れるか、まったく反応しない可能性があります。**

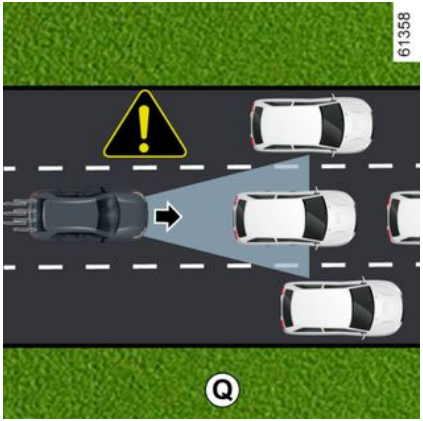
– 車線を超える長尺物を輸送する車両
– 背の高い車両の実際の全長部（***N*** など）がレーダ検出エリア外まで及ぶような車両（建設機械、農業機械牽引車両など）。




– 車線内で位置決めが十分でない車両
– 自車両から非常に近い場所に位置する細長い車両（***P*** など）。

**地面の起伏によって隠れた車両**

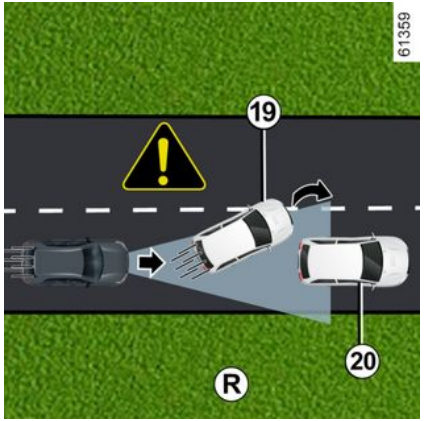
上り坂や下り坂を走行するとき、地面の起伏の変化やカメラやレーダーの検知エリアの外側にある車両が検知されることはありません。




**静止／低速で移動している車両**

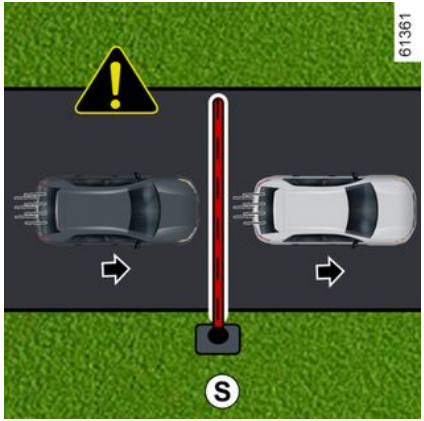
システムは、以下に対して反応しないか、非常に遅れて反応する可能性があります。

– 静止車両（***Q*** など）。
– 非常に低速で走行している車両。




– 前方車両 ***19*** が車線変更中に発見した停止車両 ***20***（***R*** など）。

> ⓘ **どんな状況でも対応できるよう、常に準備してください。**
>
> **ドライバーは常に車両を制御する必要があります。**
>
> アダプティブクルーズコントロールは緊急停止機能を作動させず、その制動能力も制限されています。




**固定障害物や小型物体の不検出**

**システムは以下を検出できません。**

– 歩行者、バイク、スクーターなど。
– 動物。
– 固定障害物（料金所、壁など）（***S*** など）。

システムはこれらを考慮しません。システムによる警告や反応は発生しません。

## 警告

このシステムは運転時の安全性を補助するもので、いかなる場合でも、制限速度と安全距離を尊重し、警戒することは、ドライバーの責任です。
ドライバーは常に車両を制御する必要があります。
制限速度標識や地図からの道路地図情報（「道路標識検出」機能装備車両）以外の交通情報（信号機、横断歩道など）は、システムにより考慮されません。ドライバーは、システムの指示に関係なく、常に周囲の状況と走行条件に応じて車速を調整する必要があります。
いかなる場合でも、システムを障害物の検知や衝突防止装置として使用することはできません。
**アダプティブクルーズコントロールは、郊外や見通しが良く幅の広い道路でお使いください。**
**システムの整備／修理作業**
– 衝撃が加わると、レーダーおよび / またはカメラの位置合わせが変更され、その動作が結果として影響を受ける可能性があります。システムを解除して、指定サービス工場に連絡してください。
– レーダー / カメラのある場所の作業（交換、修理、フロントウインドウの変更、塗装など）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

**システムの障害**
以下に掲げるような環境要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

– フロントウインドウまたはバンパーのレーダー領域に障害物（汚物、氷、雪、結露など）がある。
– 複雑な環境（トンネルなど）。
– 悪天候（降雪、豪雨、雹、路面凍結など）。
– 視界不良（夜間、濃霧など）。
– 眩惑（逆光、反対車線走行中の対向車両のヘッドライトなど）。
– 道路が狭い場合、曲がりくねった道路の場合、起伏のある道路の場合（急カーブがあるなど）。
– 速度に著しい差がある車両、
– 車両に適合していないマットの使用。ドライバー側は、車両に適合したフロアマットのみを必ず使用し、あらかじめ装備されたパーツにしっかりと固定されているか定期的に点検してください。マットを重ねて敷いてはいけません。**ペダルの動作を妨げる危険があります。**

**この場合、システムがブレーキをかけるか、意図せずに加速する場合があります。**
予期しない状況の多くがシステムの動作に影響を与える可能性があります。カメラまたはレーダー探知ゾーンに現れる可能性のある特定の物体または車両は、システムによって誤って解釈され、不適切な加速または制動につながる可能性があります。
**運転中に起こる可能性のある突然の出来事には常に注意を払う必要があります。どのような場合でも行動できるように、常に足をペダルの近くに置いて、車両を制御し続けてください。**

**機能の作動解除**
次の場合にはこの機能を無効化してください。
– 車両の牽引（分解）。
– 車両がトレーラーまたはキャラバンを牽引している。
– 車両がトンネル内または金属製構造物の近くを走行している。
– 車両が料金所、道路工事区域、または狭い車線に到達している。
– 極度に曲がりくねった道（山道など）を走行する場合。
– 車両が急斜面を上り下りしている。
– 視認性が悪い（眩しい太陽、霧など）。
– 車両が滑りやすい路面（雨、雪、砂利など）を走行している。
– 気象条件が悪い（雨、雪、砂嵐など）。
– レーダーの検出領域に（衝突などに起因する）損傷がある場合。
– カメラエリアが損傷している（例: フロントウィンドウの内側または外側）。
– フロントウインドウの亀裂または変形。

**システムの動作が異常な場合は、システムの作動を解除して、正規ディーラーまでご連絡ください。**

## はじめに

「Active driver assist」は、屋外の舗装道路、広い道路、見通しの良い道路で使用できる運転支援システムです。

このシステムには、以下の機能があります。

– **「アダプティブクルーズコントロール」➔ 234 ;**
– **「レーン位置決め」➔ 250。**

このシステムでは、以下のことが可能になります。

– 過去の記憶速度をもとに車速を維持すること。
– 自車両と前方の他車両の車間距離を調整すること。
– 車両を車線中央に誘導すること。
– 自動的に（車両によってはドライバーの確認後に）、車速を、道路標識に示されている速度に調整します。

このシステムは付加的な運転援助を提供します。いかなる場合でも、制限速度と安全距離を尊重し、警戒することは、ドライバーの責任です。
システムは、ドライバーに事前に警告する必要があるすべての状況を検出できない場合があります。
ドライバーは、あらゆる状況や運転状況において、常に車両をコントロールし続けなければなりません。
ドライバーは、周囲および交通状況に応じて常に速度を調整する必要があります。
**事故の恐れがあります。**

## アダプティブクルーズコントロール機能。

国によっては、レーダー、カメラ、および GSM 接続を介して送信される地図データの情報に基づき、アダプティブクルーズコントロールは、同一車線の前方車両から安全な距離を保ちながら、選択した速度（クルージングスピード）を維持できるオプションを提供します。

車両によっては、巡航速度が、速度制限の変更に合わせて自動的に調整されます。

車両が停止している場合、アダプティブクルーズコントロールは、車両を完全に停止させてから再度オフにすることができます。

重要:万が一に備えて、常に足をペダルの近くに構え、手をステアリングホイールに置いてください。

システムは、エンジンとブレーキシステムを使用して、車両の加速度および減速を制御します。

アダプティブクルーズコントロール機能は、道路の状況（交通、気象など）に応じて 0 km/h から作動させることができます。

有効化されると、 ➔ **234** 記号が表示されます。

**注意:**

– ドライバーは、走行している国の法令に従って、速度制限と安全車間距離を守らねばなりません。
– 適応クルーズコントロールでは、ブレーキング能力の最大 1/3 の強度でブレーキをかけることができます。状況

によっては、ドライバーはより強くブレーキをかける必要があります。

> ⓘ アダプティブクルーズコントロールは緊急停止機能を作動させず、その制動能力も制限されています。

**アダプティブクルーズコントロール機能の詳細**（クルーズコントロールの作動、制限速度標識認識付きクルーズコントロール、巡航速度、車間距離、追い越し、一時的な利用不能、システム動作制限など）➔ 234。

## 「レーンセンタリング」機能

「レーンセンタリング」機能は、カメラからの情報を使用して、ステアリングシステムに介入、車両を車線中央に誘導します。この機能は、Active driver assist が有効になっている場合にのみ使用できます。

条件が許せば、機能を有効にすることができます。

– 時速 0 キロから**前方に車両がある場合**。アクティブになると、機能が介入する可能性があります。

または

– 時速約 50 km/h から**前方に車両がない場合**。アクティブになると、この機能は約 30 km/h から介入する場合があります。

「レーンセンタリング」機能は快適な機能です。インストルメントパネルでは、警告灯 で表されます。

**注意:**急な曲がり角では、機能の車線維持能力が制限されるため、ドライバーはステアリングホイールをただちに操作しなければなりません。

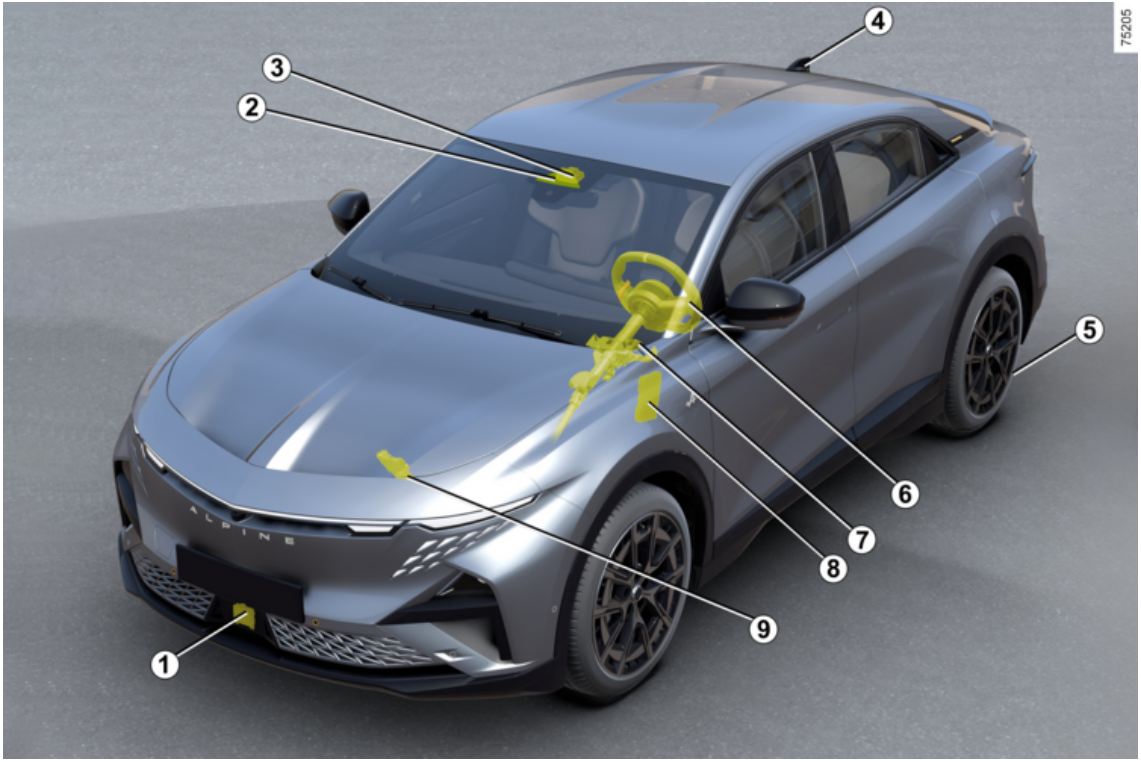
## 追加情報

車両によっては、「Active driver assist」機能を他の運転支援機能と併用することができます。

**「車線逸脱防止」機能との相互作用**

「レーンセンタリング」機能を調整モードにすると、すでに有効化されている「車線逸脱防止」機能が自動的に一時停止されます➔ 190。「レーンセンタリング」機能によるステアリングシステムの制御が行われていない状況であれば、条件が整った場合に「車線逸脱防止」機能を再び有効化できます。

## コンポーネントの位置



***1.* レーダー。**
自車と前方の車両（追従車両）との距離を計算します。
システムの最大カバー距離は約 130 メートルです。これは、道路の状況（地面の起伏、気象条件など）によって異なる場合があります。
レーダーエリアが、車両の前面に取り付けられたアクセサリー（グリルやロゴなど）によって遮られたり、衝撃、修正（塗装を含む）、泥、泥、雪、前部ナンバープレートの取り付け不良によって隠されていないことを確認してください。

***2.* カメラ。**
地上のマーキングと、さまざまな交通車線上の車両の位置を検出します。

***3.* コントロールユニット。**
カメラ***2***に関連付けられたコンピュータは、レーダー***1***からの情報を使用します。それらを補完し、カメラからの情報と相互参照して車両の軌道と速度を決定し、その動作（車線内の位置、加速、またはブレーキ）を調整します。
さらに、システムのオン／オフ設定を制御します。
ステアリングホイール上に置かれているドライバーの手の検出に必要な情報も処理します。
フロントウインドウのレンズが汚れや泥、雪などでふさがれていないか確認してください。

***4.* アンテナや地図。**
（所在とサブスクリプションに応じて異なります）
道路地図および特定の道路状況（環状交差点、曲がり角、交差点）は、車両の走行経路に応じてダウンロードされます。ドライバーが事前に選択したアダプティブクルーズコントロールのパラメータに応じて、システムは、制限速度標識で速度制限の変更が検出された場合、減速を予測することができます。
また、鋭いカーブや環状交差点などの特定の道路状況に接近した際に、車両の速度を調整することもできます。

***5.* 電動パーキングブレーキ。**
特定の条件下で車両を固定します。

***6.* 容量センサ。**
車両によっては、ステアリングホイールに添えられた手を検出します。

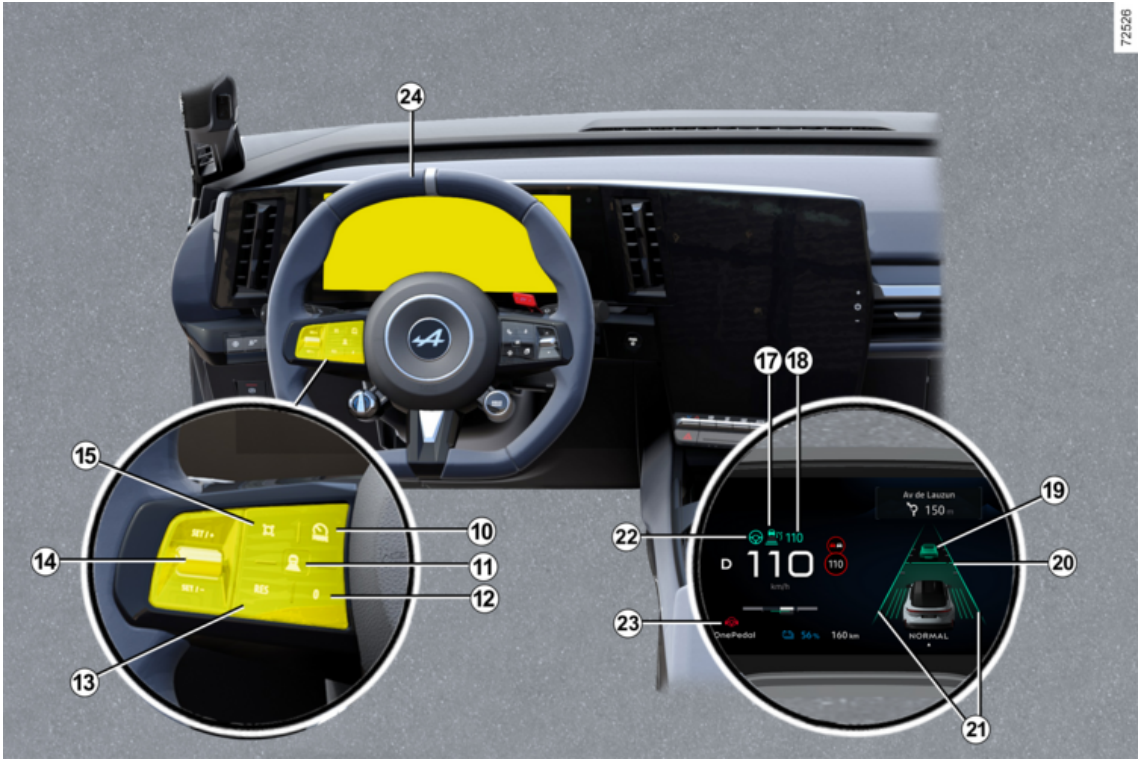
***7.* パワーステアリング。**
このコンポーネントは、コントロールユニット ***3*** から送られてきた情報に応じた軌跡に車両を誘導できるよう前輪を制御します。

***8.* エンジンコントロールユニット。**
エンジンを制御し、必要な加速を実行するように指示します。

***9.* アクティブ車両制御。**
このシステムは、車両のダイナミクスに関する情報（速度、横加速度など）をコントロールユニット ***3*** に提供するほか、ブレーキシステムに介入して減速を制御したり、車両を静止状態に保ったりします。

システムの正常な動作を保証するためには、レーダーゾーンとカメラゾーンを清潔に保ち、改変されないようにする必要があります。

## 操作部


72526
24
15
14
13
10
11
12
17
18
22
23
19
20
21
D
110
km/h
110
Av de Lauzun
150 m
OnePedal
56 %
160 km
NORMAL
RES

***10.*** 車両に応じて異なる、次の走行支援機能の選択／選択解除スイッチ。

– Active driver assist、
– アダプティブクルーズコントロール。
– スピードリミッタ、
– OFF.

***11.*** 安全車間距離の設定

***12.*** この機能をスタンバイ状態に（し制限速度を記憶）することができます（0）。

***13.*** 記憶巡航速度を呼び出すことができます（RES）。

***14.***

– 上方向: 機能を有効化して巡航速度を上げたり、現在の速度を記憶したりできます（SET/+）。
– 下方向: 機能を有効化する、巡航速度を下げる、または現在の速度を記憶することができます（SET/-）。

***15.*** ポップアップボタン（車両によって異なる）:検出された制限速度に合わせて速度設定を調整します ➔ 224。

車両によっては、イグニッションスイッチを OFF にする前の段階で「OFF」モードが選択されていると、次の車両始動時に「速度リミッタ」機能がデフォルトで有効化されます。

## インストルメントパネル上の表示

***17.*** アダプティブクルーズコントロール」機能警告灯 。

***18.*** 保存された設定速度。

***19.*** 前方の車両。

***20.*** 保存された安全車間距離

***21.*** 左と右のラインのインジケータ

***22.*** 「レーンセンタリング」機能警告灯 。

***23.*** ハンズオフステアリングホイール検出警告灯 。

## ステアリングホイール *24*

ドライバーは常にステアリングホイールを握っていなければなりません。ドライバーが十分な力でステアリングホイールを回すと、「レーンセンタリング」機能は中断し、ドライバーが車両を制御できる状態に戻ります。

ドライバーがステアリングホイールを操作しない場合（ドライバーの手が検出されない場合）、「レーンセンタリング」機能は、数回の警告の後、無効になります。

## 「Active driver assist」機能の有効化／無効化

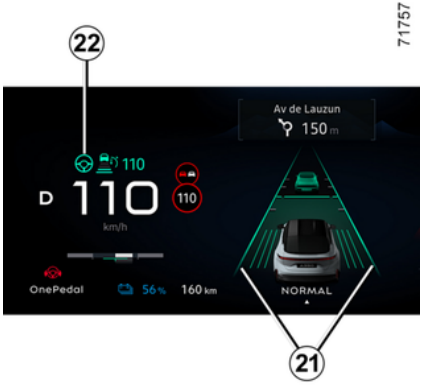
### 機能の作動

この機能を有効化にするには、スイッチ ***10*** を必要な回数だけ押し、インストルメントパネル上でアイコン「***25***」を選択します。

インストルメントパネルには「レーンセンタリング」機能 ***22*** 警告灯と 警告灯が灰色で表示されます。

その後は、ステアリングホイール上の制御装置 ***14*** を上方向（SET/+）または下方向（SET/-）に押します。アダプティブクルーズコントロールと

「レーンセンタリング」機能で構成される「Active driver assist」がその後作動します。




「レーンセンタリング」機能の作動中は、その証として、緑色 ***22*** の警告灯と左側および右側車線インジケータ ***21*** がインストルメントパネル上に表示されます。作動中は、この機能の介入により車両が車線内に誘導されます。

「レーンセンタリング」機能は、ステアリングホイールを強く回すことでいつでも中断できます。ステアリングホイールの回転を止めると、それ以降の条件が満たされたタイミングで「レーンセンタリング」機能が自動的に再起動します。

**注意:**「レーンセンタリング」機能を使用する際は、ステアリングホイール上に手を置いておく必要があります。どのような場合でもステアリングホイールからは絶対に手を離さないでください。

## 機能の作動解除

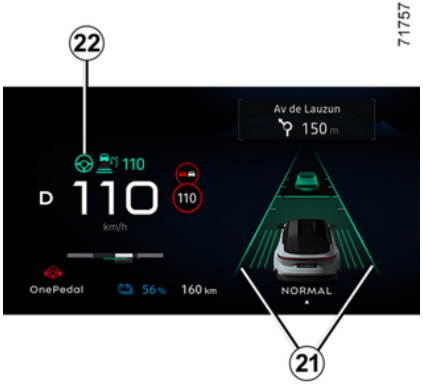
スイッチ ***10*** を押します。機能が無効化されると、その証として、警告灯 ***22*** と左側車線および右側車線インジケータ ***21*** がインストルメントパネルから消灯します。

**注意:**「車線逸脱防止」機能が以前に有効化されていて、条件が整っている場合は、自動的に再度有効化されます。

> ⓘ 運転支援機能を OFF にするには、必要な回数だけスイッチ ***10*** を押します。
> 「運転支援 解除」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。
> この場合、車両によっては、次のエンジン始動時に「速度リミッタ」機能が有効化され、制限速度記憶待機状態となります。

## 車線内位置の調整

（車種によります）




レーンポジション調整を有効にするには、以下の条件を満たす必要があります。

– 「レーンセンタリング」機能は、インストルメントパネルに警告灯 ***22*** が緑色で表示された状態で動作している必要があります。
– 車速が約 50 km/h 未満である必要があります。
– 車両は高速道路を走行している必要があります。
– 車両は十分に広くまっすぐな車線にある必要があります。

これらの条件が満たされると、「レーンセンタリング」機能を無効にするこ

となく、車線内の車両の横方向の位置を調整できます。

方法:

– ステアリングホイールを少し右または左に回して、希望の位置に到達するまで車線内の車両を調整／オフセットします。
– 約10秒間、ステアリングホイールに圧力をかけ続けてください。車両の位置は、速度、車線幅および線種に応じて自動的に算出されます。
– ステアリングホイールを握る力を抜いてください：車両はオフセット位置を維持し、インストルメントパネルにディスプレイされる***21***のラインが調整が適用されたことを示します。

**注意:**曲がり角に近づき、時速約 70 km/h を超える速度に達した場合など、特定の走行条件では、車両が自動的に中央に戻る場合があります。

車線の中央に戻したい場合は、ステアリングホイールを反対方向に少し回し、車両がレーンの中央に達したら操作を止めます。

## スタンバイ時の「レーンセンタリング」機能

「レーンセンタリング」機能は、次の場合、自動的にスタンバイ状態になります。

– 車線区分線はシステムによって検出されなくなったか、片側でのみ検出されます。
– 車線が狭すぎるか、広すぎる場合。
– システムでステアリングホイールでドライバーの手が検出されない。
– 走行路の形状が機能の作動に適さない形状（環状交差点、通常交差点、急カーブなど）の場合。
– 車両の速度が最高速度を超過した場合、
– 車速が約 30 km/h 未満で、前方に車両がない場合。
– 車両が車線から逸脱している場合。
– システムが一時的に動作が阻害される（例:カメラが汚れ、泥、雪、結露などによって遮られている場合。

ドライバーが実行する特定のアクションによっては、「レーンセンタリング」機能も一時停止します。

– インジケータを作動させる
– 十分な力でステアリングホイールを回します。

機能がスタンバイ状態になると、その証として、灰色の警告灯 ***22*** と左側車線および右側車線インジケータ ***21*** がインストルメントパネル上に表示されます。

条件が満たされると、この機能は再び車線内の車両の位置を調整して維持します。この状態になると、警告灯 ***22*** と左側車線および右側車線インジケータ ***21*** がインストルメントパネル上に緑色で表示されます。

**注意：**

システムは、「レーンセンタリング」機能が保留になる可能性のある特定の状況（車線境界線に近づくなど）を予測します。

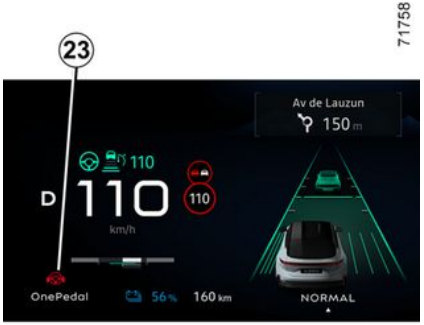
この場合、インストルメントパネルに ***22*** 警告灯と左側または右側のラインインジケータ ***21*** が黄色で表示され、ドライバーに警告します。

カメラがラインを検出できない場合など、場合によってはシステムが保留になり、ビープ音が鳴ります。

重要:万が一に備えて、常に足をペダルの近くに構え、手をステアリングホイールに置いてください。

ステアリングホイールを回すことで、任意のポイントで**車両の軌道**に影響を与えることができます。

## 「ハンドルから 手を離さないでください」警告




車速が約 10 km/h を超えると、Active driver assist システムがステアリングホイールに手を置くことを検出しなくなった場合、いくつかの警告レベルがトリガーされます。

– **約15 秒後**に、「ハンドルから 手を離さないでください」というメッセージがインストルメントパネル上に黄色で表示されます。
– **約 30 秒後に**、インストルメントパネルに「ハンドルから 手を離さないでください」メッセージと ***23*** 警告灯が赤く点灯し、ビープ音が徐々に大きくなります。

– **約35秒後**、警告に従ってドライバーがハンドルに手を戻さないと、システムは無効になり、ビープ音が鳴ります。**緊急停止アシスト機能は自動的に作動します ➔ 264**。

> ⓘ 最初の 2 つのアラートレベルでは、システムが再びステアリングホイール上にドライバーの手があることを検出すると、システムはアラートを停止します。この状態になると、機能による車線中央への車両誘導が継続されます。

**注意:**以下に示すような状況では、「レーン位置決め」機能が、ステアリングホイール上のドライバーの手を検出できなくなり、警告が発せられることがあります。

– ドライバーはステアリングホイールを軽く握っている。
– ドライバーが手袋を着用している状況。
– ...

## 鋭いカーブの場合

急カーブの走行中には、車速により、機能の車線維持能力が制限されるため、車両を車線内に保つには、ドライバーがステアリングホイールをただちに操作しなければなりません。

ドライバーが介入しない場合、この機能はステアリングホイールの振動をトリガーして、車両がラインを突破しようとしていること、およびドライバーが即座に行動を起こす必要があることを通知します。

この状態になると、警告灯 ***22*** と左側車線または右側車線インジケータ ***21*** がインストルメントパネル上に赤色で表示されます。

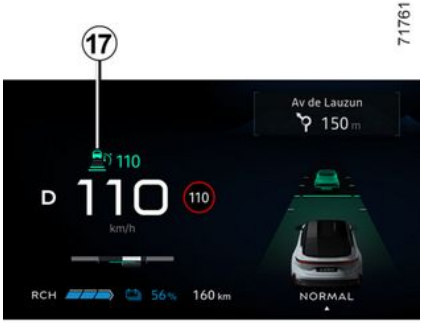
**車両が車線から完全に逸脱し車線外に出てしまったり、急カーブに突入したりすると、「レーンセンタリング」機能はスタンバイ状態になります。**

機能がスタンバイ状態になると、その証として、灰色***22*** の警告灯と左側車線および右側車線インジケータ ***21*** がインストルメントパネル上に表示されます。

> 「レーンセンタリング」機能は、環状交差点や通常交差点の通過中にドライバーを支援することができないため、それらの場所の通過中には機能が自動的にスタンバイ状態になることがあります。
> いずれの場合も、このような走行状況下では、ドライバーは常にステアリングを切って車両の軌道を管理する必要があります。

## 一時的に使用できない

### レーダー




レーダーは、車両の前方の車両を検出することができます。レーダー検出領域が不明瞭な場合、または信号が中断されている場合、システムが正常に作動することができません。

レーダー検出領域に障害物があるか、レーダー信号の混乱が生じると、「フロントレーダー 作動していません」というメッセージがインストルメントパネル上に表示され、Active driver assist システムの作動が中断されます。

システムが自動的に無効化されたことを示すため、緑色の警告灯 ***17*** が消えます。

レーダーエリアがきれいな状態を保ち、雪、泥、取り付け不良のナンバープレート、車両前面（グリル上）に取り付けられているアクセサリーによって妨げられたり、車両前面（グリルやロゴなど）に取り付けられているアクセサリーによって隠れたりしていないことを確認してください。

次のような場所は、システムの作動の妨げとなり得ます。

– 乾燥したゾーン、トンネル、長い橋、または道路のない道路を軽く使用して、標識や樹木が近くにない。
– 軍用または空港ゾーン。

システムを作動させるには、このようなエリアを残しておく必要があります。

すべてのケースで、エンジンを再始動した後にメッセージが消去されない場合は、指定サービス工場に連絡してください。

## カメラ

カメラが汚れ、泥、雪、霧などによって覆われている場合、システムは車両を車線内に確実に維持することができない場合があります。この場合、「レーンセンタリング」機能は保留になります。

アダプティブクルーズコントロール機能は引き続き動作しますが、パフォーマンスは低下します。

警戒心を持って行います。

場合によっては、インストルメントパネルに「フロントカメラ 映像なし」というメッセージが表示されます。

## 作動異常

作動不良が検出されると、「ドライブアシスト 操作不可」または「ドライブアシスト 要確認」というメッセージがインストルメントパネル上に表示され、機能が無効化されます。

障害の性質によっては、アダプティブクルーズコントロール機能が動作し続ける場合があります。

いずれの場合も、システム異常が発生した場合は、認定ディーラーにご相談ください。

## 注意

「Active driver assist」は追加の運転補助装置です。いかなる場合でも、制限速度と安全距離を尊重し、警戒することは、ドライバーの責任です。
ドライバーは常に車両を制御する必要があります。
ドライバーは、システムの指示に関係なく、常に周囲の状況と走行条件に応じて軌道と車速を調整する必要があります。
車線と制限速度標識を区切る線とは別に、システムの検出機能とマルチメディアシステムに送信される地図データの範囲内（国とサブスクリプションによって異なります）の範囲内で、特定の条件(他の交通標識、信号機、横断歩道など)はシステムによって考慮されません。システムによる警告や反応は発生しません。
「Active driver assist」は、「アダプティブクルーズコントロール」機能と「レーン位置決め」機能を使用します。いかなる場合でも、システムを障害物の検知や衝突防止装置として使用することはできません。
「Active driver assist」は、市街地の外、ラインが目視できる広い道路でのみ使用します。
交通 渋滞時、曲がりくねった道や滑りやすい路面（凍結、ハイドロプレ ーニング、砂利）、天候不良時（霧、雨、横なぐりの雨など）には使用しないでください。
**事故の恐れがあります。**
**システムの整備／修理作業**

– 衝撃が加わると、レーダーおよび / またはカメラの位置合わせが変更され、その動作が結果として影響を受ける可能性があります。システムを解除して、指定サービス工場に連絡してください。
– レーダー / カメラのある場所の作業（交換、修理、フロントウインドウの変更、塗装など）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。
**システムの障害**
以下に掲げるような要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

– フロントガラスまたはレーダー領域の障害物（汚れ、氷、雪、結露などによる）フロントガラス、フロントワイパーブレード、フロントバンパーの汚れや状態を頻繁に点検してください。
– 複雑な環境（トンネル、金属構造など）。
– 悪天候（降雪、豪雨、雹、路面凍結など）。
– 視界不良（夜間、濃霧など）。

– 車両の前方とその周辺のコントラストが小さい（白色の車両が積雪場所にあるなど）。
– 眩惑（逆光、反対車線走行中の対向車両のヘッドライトなど）。
– 道路が狭い場合、曲がりくねった道路の場合、起伏のある道路の場合（急カーブがあるなど）。
– システムが車線をアスファルト舗装車線として検出する状況の場合。
– 狭い/拡幅車線。
– 複数の道路標示（道路工事など）。
– 不規則なまたは識別困難な路面標示（部分的に消えている、間隔が広すぎる、路面の凹凸により視認しずらいなど）。
– 高速道路の出口に、矢印を含まない道路標識がある場合。
– 通信電波が弱く、車両の地理的位置情報を取得できないか、地図を最新版に更新できない場所の場合。
– 速度に著しい差がある車両、
– 車両に適合していないマットの使用。ドライバー側は、車両に適合したフロアマットのみを必ず使用し、あらかじめ装備されたパーツにしっかりと固定されているか定期的に点検してください。マットを重ねて敷いてはいけません。**ペダルの動作を妨げる危険があります。**

**以下の場合に作動:**

– **不必要なブレーキングまたは加速の危険性があります。**
– **不必要な修正、誤った修正、または軌道の修正のリスク。**

予期しない状況の多くがシステムの動作に影響を与える可能性があります。カメラまたはレーダー探知ゾーンに現れる可能性のある特定の物体または車両は、システムによって誤って解釈され、不適切な加速または制動につながる可能性があります。

**システムの解除**

次の場合は、システムの作動を解除する必要があります。

– 車両が風の強い道路を走行する場合。
– 車両の牽引（分解）。
– 車両がトレーラーまたはキャラバンを牽引している。
– 車両が料金所、道路工事区域、または狭い車線に到達している。
– 車両が急斜面を上り下りしている。
– 視認性が悪い（眩しい太陽、霧など）。
– 気象条件が悪い（雨、雪、砂嵐など）。
– 車両が滑りやすい路面（雨、雪、砂利など）を走行している。
– カメラエリアが損傷している（例: フロントウィンドウの内側または外側）。

– フロントウインドウの亀裂または変形、
– レーダーエリアが損傷している（衝突など）。
– ステアリングホイールの表面が損傷または濡れている。

**システムの動作が異常な場合は、システムの作動を解除して、正規ディーラーまでご連絡ください。**
**運転中に起こる可能性のある突然の出来事には常に注意を払う必要があります。常にペダルに足を置き、ステアリングホイールに手を置いて、車両を常に制御できる状態にしてください。これにより、あらゆるイベントに対応できるようになります。**

# 緊急停止アシスト

## はじめに

緊急停止アシスト機能は、運転者がハンドルから手を離したり、道路を見ていない状況を検知すると、自動的に車両のステアリングとブレーキを操作する運転補助機能です。

車両に応じて、システムは次の運転支援に関連付けられます。

– 「ドライバー注意警報」➔ 219または「ドライバー疲労警報」➔ 221機能（**作動モードA**）

と

– 「Active driver assist」システム ➔ 249（**動作モードB**）。

**どの機能またはシステムがアクティブになっているかに応じて、「緊急停止アシスト」は、次の場合に介入する準備ができています。**

- ドライバーが、注意散漫や疲労の兆候が検出された際に発せられる視覚的および聴覚的警告を無視する場合（**作動モードA**）
- ドライバーがステアリングホイール上の手が検知されない場合に発せられるさまざまな視覚的および聴覚的警告を無視する（**動作モードB**）。

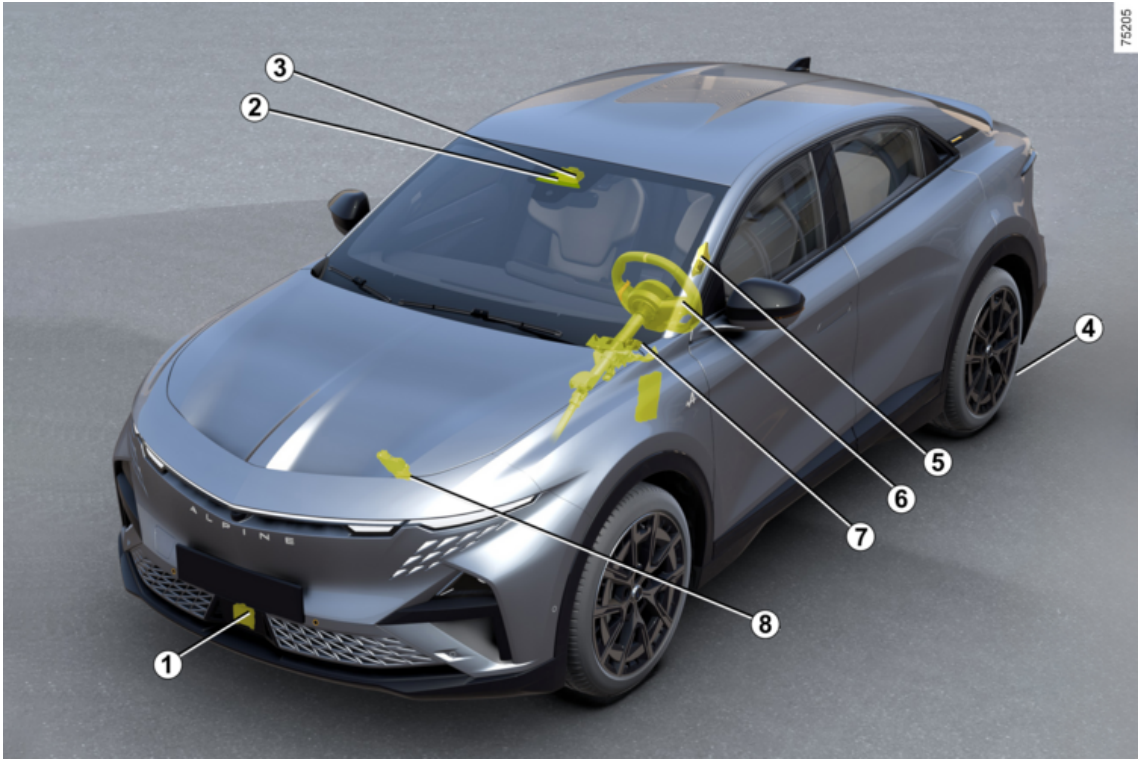
両方の動作モード **A** および **B**、**「緊急停止支援」機能がアクティブになると**、システムは次のことを行います。

– 前方の車両（追従車両）との安全な距離を維持しながら車両を車線内に維持する。
– ドライバーがさまざまな警告に反応しない場合、車両を減速して完全に停止させます。

このシステムは付加的な運転援助を提供します。この機能は、どのような状況でも、ドライバーが走行中に果たすべき責任を軽減するものではありません。
ドライバーは、システムの表示に関係なく、常に自分の注意力と疲労レベルに応じて運転を調整する必要があります。
システムは、ドライバーに事前に警告する必要があるすべての状況を検出できない場合があります。
ドライバーは、あらゆる状況や運転状況において、常に車両をコントロールし続けなければなりません。
**事故の恐れがあります**。

# 緊急停止アシスト

## コンポーネントの位置



# 緊急停止アシスト

***1.* レーダー。**
自車と前方の車両（追従車両）との距離を計算します。
システムの最大カバー距離は約 130 メートルです。これは、道路の状況（地面の起伏、気象条件など）によって異なる場合があります。
レーダーエリアが、車両の前面に取り付けられたアクセサリー（グリルやロゴなど）によって遮られたり、衝撃、修正（塗装を含む）、泥、泥、雪、前部ナンバープレートの取り付け不良によって隠されていないことを確認してください。

***2.* カメラ。**
地上のマーキングと、さまざまな交通車線上の車両の位置を検出します。
フロントウインドウのレンズが汚れや泥、雪などでふさがれていないか確認してください。

***3.* コントロールユニット。**
カメラ***2***に関連付けられたコンピュータは、レーダー***1***からの情報を使用します。それらを補完し、カメラからの情報と相互参照して車両の軌道と速度を決定し、その動作（車線内の位置またはブレーキ）を調整します。
さらに、システムのオン／オフ設定を制御します。
車両によっては、ステアリングホイール上に置かれているドライバーの手の検出に必要な情報を処理します。

***4.* 電動パーキングブレーキ。**
特定の条件下で車両を固定します。

***5.* 車内カメラ。**
これにより、システムはドライバーの顔の行動を分析し、注意散漫や疲労の兆候を検出できます。
dカメラに視界を妨げるもの（汚物、泥など）が付着していないか、または覆われていないか確認してください。

***6.* 容量センサ。**
車両によっては、ステアリングホイールに添えられた手を検出します。

***7.* パワーステアリング。**
このコンポーネントは、コントロールユニット ***3*** から送られてきた情報に応じた軌跡に車両を誘導できるよう前輪を制御します。

***8.* アクティブ車両制御。**
このシステムは、車両のダイナミクスに関する情報（速度、横加速度など）をコントロールユニット ***3*** に提供するほか、ブレーキシステムに介入して減速を制御したり、車両を静止状態に保ったりします。

## 作動

このシステムは運転時の安全性を補助するもので、ドライバーは介入して車両の制御を取り戻すことができます。

## 作動 A

このシステムは、注意散漫や疲労の兆候が車内カメラ ***5*** によって検出された場合に発行される視覚的および聴覚的な警告をドライバーが無視すると**時速約 20 km/h** から作動します。

**注**:システムは画像を一切記録せず、リアルタイムで動作します。

「ドライバー注意警告」➔ **219**および／または「ドライバー疲労警告」➔ **221**機能がどのように機能するかの詳細については、こちらをご覧ください。

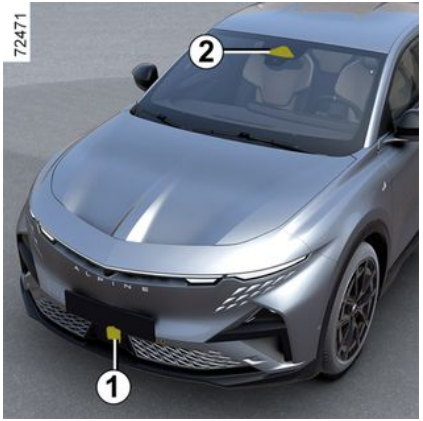
## 作動 B

このシステムは、ドライバーがさまざまな視覚的警告（ 警告灯の赤色表示を含む）と、ステアリングホイール ***9*** に手が置かれていないことが検出される場合に発せられる警告音を無視すると、**約 10 km/h** から作動します。

**注**:ステアリングホイールにアクセサリー（保護カバーなど）を取り付けることは禁止されています。

Active driver assist、➔ **249** の操作の詳細。

## 緊急停止手順




「緊急停止支援」機能の手順と停止条件は、作動モード **A** または **B** で同じです。

**トリガーされた場合：**

– 「緊急停止アシスト」機能は、レーダー ***1*** およびカメラ ***2*** によって提供される情報のおかげで、車両を自車線に保ち、前方車両（後続中の車両）との安全な距離を維持します。
– ハザード警告灯が自動的に点灯し、インストルメントパネルに「緊急ブレーキ作動 ハンドル要操作」メッセージが表示され、警告灯 が赤で点灯し、ビープ音が鳴ります。
– その後、車両のブレーキが段階的に作動し、運転者が制御を取り戻すよう促します。反応しない場合、システムは車両が完全に停止するまで徐々に減速します。
– 車両が停止すると、ビープ音を伴ってインストルメントパネルに「緊急ブレーキ 作動」メッセージが表示されます。このシステムは車両を固定した状態に保ちます。

> 緊急停止支援機能のブレーキ性能と車線維持性能には制限があります。
> 以下の場合には、システムは車両が車線内に留まっていることを保証できません。
> – システムが車線を検出しなくなった。
> – 車線が狭すぎる。
> – カーブが鋭すぎる。
> – …
> **事故の恐れがあります**。

**車両が停止した後：**

– ハザードランプが点灯したままになります。
– 開口部は自動的にロック解除されます。
– 警告灯は、ドライバーが車両の制御を取り戻すまで赤のままになります。

# 緊急停止アシスト

– 電子パーキングブレーキ ***4*** は、車両が停止してから約 3 分後に自動的に作動します。

> ⚠ 車線内で静止したままにしないでください。
> 車両の制御を取り戻し、安全な場所に避難してください。
> **事故の恐れがあります。**

**ドライバーはいつでもエマージェンシーストップアシスト機能を中断し、車両の制御を取り戻すことができます**（運転中または停止段階で、別のアクションまたはアクションの組み合わせを実施することで）。

車両に応じて、可能なアクションは次のとおりです。

– アクセルペダルを強く踏む。
– ブレーキペダルを強く踏む（車両走行中）
– ステアリングホイールを急に回す。
– ギアポジションを変更する際にブレーキペダルを踏むこと
– 電子パーキングブレーキの操作を実行する。
– アクセルペダルを適度に操作し、同時にステアリングホイールを適度に操作する。
– ステアリングホイールのボタン（0）を押しながらステアリングホイールをわずかに回転させる。
– アクセルペダルを踏みながらステアリングホイールをわずかに回転させる。
– ブレーキペダルを踏みながらステアリングホイールをわずかに回転させる。

> ⓘ 非常停車支援機能が作動すると、それ以前に有効化されていたActive driver assistシステムは無効化されます。操縦中または停止段階でできるだけ早く車両の制御を取り戻してください。
> 車両の制御を取り戻したら、システムを手動で再起動できます。

## 有効化／無効化

> ⚠ 安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

### アクティブ化／非アクティブ化 - 操作 A

> ⓘ 車両や、直前のエンジン停止以降の経過時間によっては、次の場合に警告が再び有効化されます。
> – 車両のロックが解除された場合。
> または
> – ドアが開けられた場合。
> または
> – エンジンが始動された場合。

# 緊急停止アシスト

マルチメディア画面 ***9*** から、緊急停止支援機能を有効または無効にするには、事前に次の 2 つの機能のうち少なくとも 1 つをアクティブにする必要があります。

– « 気を抜かないこと »;
– « 疲労アラート ».

次に、「緊急停止アシスト」機能を有効または無効にします。

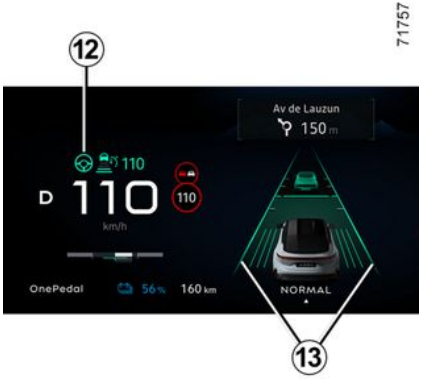
詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

**注**:設定が有効になると、自動的に「ドライバー注意警告」機能と「ドライバー疲労警告」機能の2つに関連付けられます。

## 「My Safety」の特徴

「ドライバー注意警告」および／または「ドライバー疲労警告」機能をボタン***11***で有効または無効にする操作は、「My Safety」モードの「➔ 189」機能 Perso で設定できます。

## アクティブ化／非アクティブ化 - 操作 B




緊急停止アシストは、「Active driver assist」システムを選択すると自動的に作動します ➔ 249。

「レーンセンタリング」機能の作動中は、その証として、緑色の警告灯 ***12***

と左側および右側車線インジケータ ***13*** がインストルメントパネル上に表示されます。作動中は、この機能の介入により車両が車線内に誘導されます。

## 作動制限

状況によっては、システムはブレーキをかけることができますが、車両が車線内に留まることを保証することはできません。例:

– システムがラインを検出しないか、レーン内で 1 本のラインのみが検出される。
– 車線が狭すぎるか、広すぎる場合。
– 走行路の形状が機能の作動に適さない形状（環状交差点、通常交差点、急カーブなど）の場合。
– 車両は大幅な横方向または縦方向の加速度を受けます。
– 車速が約 160 km/h または 180 km/h（車両に応じて変動）を超えている場合。
– フロントカメラ ***2*** 環境条件(太陽からのまぶしさ、大雨、障害物、汚れ、泥、雪、霧など)によって妨げられます。

フロントカメラの視認性の低下 ***2*** が検出された場合、インストルメントパネルに「フロントカメラ 映像なし」メッセージが表示されることがよくあります。

このような状況では、システムのブレーキ性能が低下します。**できるだけ早く車両の制御を取り戻してください**。

# 緊急停止アシスト

## 一時的に使用できない

次の状況ではシステムが一時的に使用不能になります。

– 車両は非常に曲がりくねった道路を走行します。
– 車速が約 160 km/h または 180 km/h（車両に応じて変動）を超えている場合。
– このシステムは、フロントレーダーの視認性の低下を検出します。
– ...

レーダーの領域で停電が発生した場合 ***1*** またはその信号が中断された場合、インストルメントパネルに「フロントレーダー 作動していません」メッセージが表示されます。これには、「ドライブアシスト 操作不可」メッセージが伴う場合もあります。

レーダーエリア ***1*** がきれいな状態を保ち、雪、泥、取り付け不良のナンバープレート、車両前面（グリル上）に取り付けられているアクセサリーによって妨げられたり、車両前面（グリルやロゴなど）に取り付けられているアクセサリーによって隠れたりしていないことを確認してください。

一部の領域では、システムの動作が中断したり、損傷したりする可能性があります。次に例を示します。

– 乾燥したゾーン、トンネル、長い橋、または道路のない道路を軽く使用して、標識や樹木が近くにない。
– 空港または軍用ゾーン。
– 内部カメラ ***5*** が部分的にでも遮られている場合（操作 **A**）。
– 運転者の顔が検出されない場合（操作 **A**）。

## 作動異常

システムが故障を検出すると、インストルメントパネルに「ドライブアシスト 操作不可」メッセージが表示され、システムは自動的に無効になります。

機能不良の種類に応じて、インストルメントパネルに次のメッセージが表示され、車両によっては、STOP 警告灯が表示されます。

– « フロントカメラを 点検してください »；
– « フロントレーダーを 点検してください »；
– « カメラとレーダーを 点検してください »；
– « ドライブアシスト 要確認 ».

メーカーにお問い合わせください。

ドライバーの注意散漫または疲労が検出された場合：

– 警告灯とともにインストルメントパネル上に「アテンション モニター要点検」が表示され、ビープ音が鳴ります（操作 **A**）。

メッセージが残る場合は、指定サービス代理店にお問い合わせください。

## 注意

緊急停止アシスト機能は、追加走行支援機能です。いかなる状況においても、車両の制御を維持する運転者の責任が免除されるわけではありません。
ドライバーは、システムの表示に関係なく、常に自分の注意力と疲労レベルに応じて運転を調整する必要があります。

ドライバーの注意力の低下や疲労はシステムによって検出されない場合や、時間内に検出されない場合があります。運転に集中し、定期的に休憩を取ってください。

**事故の恐れがあります。**

特定の状況（車線区分線が検出されない、車線が狭すぎるまたは広すぎる、感情交差点、交差点、急カーブ、太陽光のまぶしさ、大雨、障害物、土埃、泥、雪、霧など）では、システムは車両が車線内にとどまることを保証できません。

**警戒心を持って行います。**

「エマージェンシストップアシスト」機能のブレーキング性能には制限があります。システムは、ブレーキング能力の最大 1/3 の強度でブレーキをかけることができます。

フロントカメラの視認性が低下した場合、システムのブレーキ性能が低下します。

**できるだけ早く車両の制御を取り戻してください。**

**システムの整備／修理作業**

– 衝撃が加わると、レーダーおよび / またはカメラの位置合わせが変更され、その動作が結果として影響を受ける可能性があります。システムを解除して、指定サービス工場に連絡してください。
– レーダー / カメラのある場所の作業（交換、修理、フロントウインドウの変更、塗装など）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

**システムの障害**

以下に掲げるような要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

– フロントガラスまたはレーダー領域の障害物（汚れ、氷、雪、結露などによる）フロントガラス、フロントワイパーブレード、フロントバンパーの汚れや状態を頻繁に点検してください。
– 複雑な環境（トンネルなど）。
– 悪天候（降雪、豪雨、雹、路面凍結など）。
– 視界不良（夜間、濃霧など）。

– 車両の前方とその周辺のコントラストが小さい（白色の車両が積雪場所にあるなど）。
– 眩惑（逆光、反対車線走行中の対向車両のヘッドライトなど）。
– 道路が狭い場合、曲がりくねった道路の場合、起伏のある道路の場合（急カーブがあるなど）。
– システムが車線をアスファルト舗装車線として検出する状況の場合。
– 狭い/拡幅車線。
– 複数の道路標示（道路工事など）。
– 不規則なまたは識別困難な路面標示（部分的に消えている、間隔が広すぎる、路面の凹凸により視認しずらいなど）。
– 速度に著しい差がある車両、
– ドライバーが特定種の眼鏡を着用している（**作業 A**）。
– 内部カメラに障害物（部分的なものを含みます）がある（**作業 A**）。
– ドライバーの顔の一部分が（髪の毛、帽子、サージカルマスク、スカーフなどで）覆われている（**作業 A**）。
– 運転姿勢が正しくない（着席位置が低すぎる、背もたれが傾きすぎているなど）（**作業 A**）。
– ドライバーは手袋を着用しているか、ハンドルを非常に軽く握っています。

**以下の場合に作動:**

– **不慮のブレーキングのリスク。**
– **不必要な修正、誤った修正、または軌道の修正のリスク。**

予期しない状況の多くがシステムの動作に影響を与える可能性があります。カメラの検出ゾーンに現れた特定の物体または車両が、システムにより誤解釈され、不適切な加速または制動につながる可能性があります。

**システムの解除**

次の場合は、システムの作動を解除する必要があります。

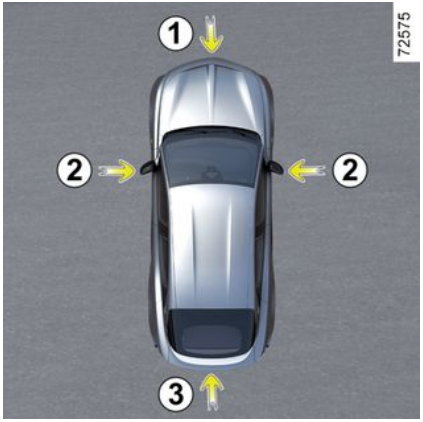
– 車両がトレーラーまたはキャラバンを牽引している。
– フロントカメラ部分が損傷している（例：内側または外側のフロントウインドウエリア）、フロントウインドウの亀裂または変形。
– レーダーの検出領域に（衝突などに起因する）損傷がある場合。
– 内部カメラの視認領域に損傷がある（**作業 A**）。
– ステアリングホイールの表面が損傷または濡れている。

**システムの動作が異常な場合は、システムの作動を解除して、正規ディーラーまでご連絡ください。**

## 360° カメラ

### はじめに

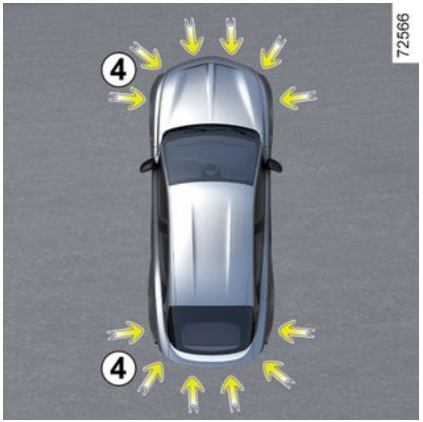
（車種によります）




フロントバンパー、ドアミラーおよびテールゲートに配置されたカメラ ***1***、***2*** および ***3*** と、車両のバンパーに配置された超音波センサ ***4*** からの情報を使用して作動するこの機能は、車両周辺の模様を表示する方法で、難しい操作（駐車など）を支援します。

**注意:** カメラが（汚れ、泥、雪、曇りなどで）覆われていないか確認してください。

### 作動




このカメラは、マルチメディア画面 ***5*** に複数の分割ビューを送信します。

これによって、車両の周囲を確認できます:

– フロントビュー（カメラ ***1*** を使用）：標準フロントビューおよびパノラマフロントビュー
– リアビュー（カメラ ***3*** を使用）:標準後方ビューおよびパノラマ前方ビュー

– バードアイズビュー（カメラ***1***、***2***、***3***の使用）:標準俯瞰ビューおよびポップアップ俯瞰ビュー（障害物検知時）
– サイドビュー（カメラ***2***を使用）：フロントサイドビューおよびリアサイドビュー
– 3D ビュー。
– トレーラビュー。

超音波センサは、車両の前方、後方、および（車両に応じて）側面の障害物を検出します。

# パーキングアシスト

## フロントカメラ 1

前方カメラの映像はマルチメディアディスプレイ***5***に表示されます。

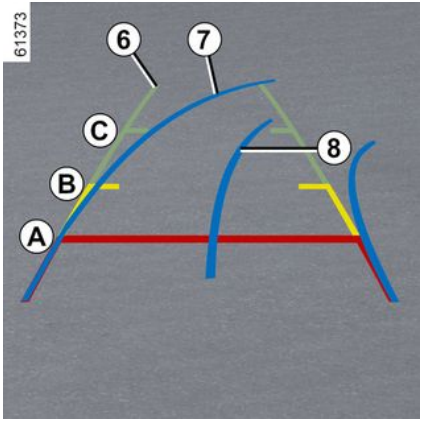
この機能は補助的機能です。したがって運転されるときは、お客さまの責任において慎重に運転しなければならないことを忘れないでください。
走行中は、ドライバーは常に突発的な出来事に備えている必要があります。操作時には、死角に子供、動物、ベビーカー、自転車、石、柱などの小さく細い動く障害物がいないことを必ず確認してください。

## リアカメラ 3

リアカメラの映像はマルチメディア画面 ***5*** に表示されます。

車両後方の模様については、ルームミラーと同様に、車両後方の反転映像がマルチメディア画面 ***5*** に表示されます。

前方ビューまたは後方ビュー：斜面で操作する際、マルチメディアスクリーンに表示される物体は、実際よりも近く見えたり遠く見えたりする場合があります。
**走行前には、正しく距離を判断するために次のことを考慮してください。**




マルチメディア画面 ***5*** に送られる「車両前方」または「車両後方」の模様は、1 本、2 本または 3 本のガイド線 ***6***、***7***、***8*** を用いて表示されます。

このシステムはひとつ、または複数のゲージ（軌道は可動式およびトレーラー、距離は固定ゲージ）をもとにしています。

**固定ガイド線 *6***

固定ガイド線には、次のような、車両の後方における距離を示す色付きのマーカー ***A***、***B***、***C*** が含まれています。

– 車両からの距離が約 30 cm であることを示す ***A***（赤色）。
– 車両からの距離が約 70 cm であることを示す ***B***（黄色）。
– 車両からの距離が約 150 cm であることを示す ***C***（緑色）。

**可動ガイド線 *7***

この線は、マルチメディア画面 ***5*** 上に青色表示されます。フロントビューおよびリアビューには、ステアリングホイールの位置に応じた車両の行跡が示されます。

**トレーラーガイド線 *8***

この線は、マルチメディア画面 ***5*** 上に青色表示されます。ハンドルの切れ角に応じて、トレーラー牽引装置の軌道を示します。

これにより、ドライバーはトレーラーの牽引ヘッドにできるだけ近い牽引装置を配置することができます。

フロントビュー、リアビュー、およびサイドビューのガイドラインは、平坦な地面に投影される表現です。この情報は、垂直方向の対象物または地面上の物体に投影された場合には考慮しないでください。
マルチメディア画面の端に表示される対象物が歪んで表示されることがあります。
光度が強すぎる場合（雪、車両に直射日光が当たっているなど）、カメラの視覚が妨害されることがあります。

カメラが複合表示形式の場合:
– バードアイズビューでは、高さのあるもの（舗道、車両など）は歪んで表示されることがあります。
– 車両の上の対象物は表示されません。

## 運転席側フロントサイドカメラ 2

ドアミラーに取り付けられたカメラ ***2*** は、マルチメディア画面 ***5*** にサイドビューを送信します。

車両によっては、マルチメディア画面を使用して鳥瞰ビューをフロントサイドビューに変更できます。詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

## バードアイズビュー

バードアイズビューは、カメラ ***1***、***2*** および ***3*** からの情報を組み合わせて表示されるものです。

車両の上部とその周囲のビューが表示されます。

これは、近隣周囲（フロント、リア、およびサイド）に対して、車両位置のビューを確認するために使用できます。

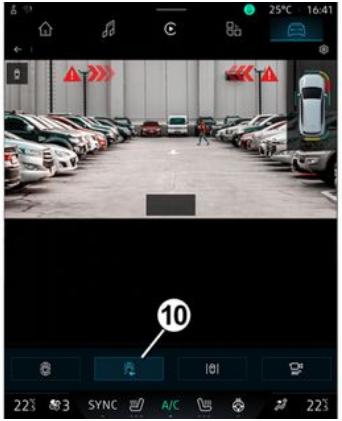
ⓘ 「バードアイズビュー」モードでは、マルチメディア画面に表示される対象物は実際よりも近く見えます。
**走行前には、正しく距離を判断するために次のことを考慮してください。**

## サイドビュー

マルチメディア画面で、専用ボタン ***9*** を押すと、バードアイズビューと 2 つのサイドビューを組み合わせたビューが表示されます。

# パーキングアシスト

## フロントパノラミックビューまたはリアパノラミックビュー




マルチメディア画面で、専用ボタン***10***を押すと、フロントパノラマビューが有効になります。

リバースギアに入れ替わると、フロントパノラマビューがリアパノラマビューに置き換わります。

**注意:**ドライバーの視界を改善するため、ステアリングホイールアングルに応じてフロントパノラマビューとリアパノラマビューが切り替わります。

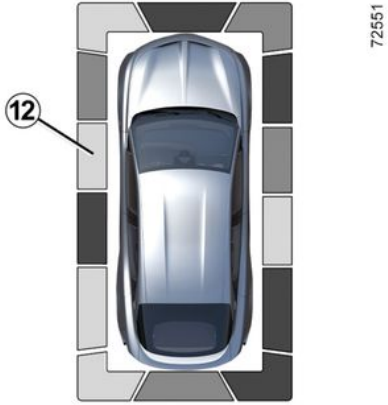
## 3D ビュー

マルチメディアスクリーンから、専用ボタン***11***をプレスすると、車両とその周囲の3Dビューを表示する3Dディスプレイが有効になります。

## 「トレーラービュー」

トレーラーが連結されている場合、シフトレバーが「前進」位置の状態で、マルチメディア画面 ***5*** 上の「車両」領域内で「360°カメラ」メニューを押すと、カメラ ***3*** が、車両後方の模様を約30 秒間にわたり送信できる状態になります。

# パーキングアシスト




「360°カメラ」システムが表示されている場合、マルチメディア画面からビューを変更（リアビューをパノラマリアビューに変更など）できます。

## 障害物の検出

システムの作動中に「パークアシスト」機能が車両の周囲に 1 つ以上の物体を検出すると、インジケータ ***12*** ラインが各ビューに示されます。

警告音が鳴るのに加え、このインジケータの色により、近接物体が次のように示されます。

- 緑: 約50～70cmの障害物、
- 黄色:約30～50cmの障害物、
- 赤: 約30cm以内の障害物。

このインジケータは、物体の検出位置を、「車両」記号との相対的な位置関係を用いて示します。

詳しくは ➔ **282** をご覧ください。

## 「自動ズーム」機能

車両のフロントまたはリア付近で障害物が検出されると、「Zoom auto」機能は、現在のディスプレイを特定のディスプレイ（上部、フロントビューまたはリアビュー）に切り替えます。

「Zoom auto」機能を有効化または無効化するには、マルチメディア画面の説明に従います。

## 有効化／無効化

### オートマチックモード

車両が停止し、エンジンがかかっている状態でリバースギアを入れると、オートマチックモードが作動します。リアビューとバードアイズビューがマルチメディア画面 ***5*** 上に表示されます。

シフトレバーを「後進」位置から「前進」位置に素早く変えると、マルチメディア画面 ***5*** 上のリアビューおよびバードアイズビューがフロントビューおよびバードアイズビューに切り替わります。

自動モードは次のように無効化されます。

– 後進ギアから N または P 位置にシフトし、約 3 秒経過した時点。
– N または P 位置へのシフト前に車両を前進または後進（運転操作など）させ約 3 分経過した時点。
– 車両が前進しているときの速度が10 km/hを超えた時点。



**マニュアルモード**

手動モードを有効化するには、車両を静止させ、エンジンスイッチ ON の状態で、マルチメディア画面 ***5*** 上の「車両」ワールドモードから「360° カメラ」メニューを押すことで、フロントビューとバードアイズビューがマルチメディア画面上に表示されます。

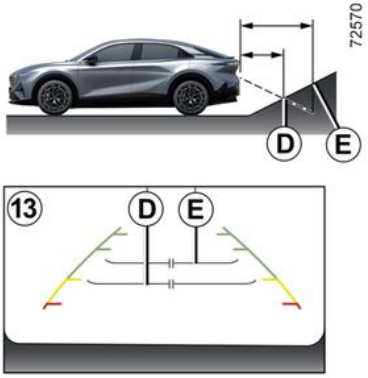
マニュアルモードは次の場合に無効化されます。

– 前進車速が 10 km/h に達した場合。
– シフトレバーが約 3 分間使用されていない場合。

– ドアミラーを折りたたんだ状態では、この機能を使用しないでください。
– この機能を使用する前に、トランクドアが正しく閉まっていることを確認してください。
– カメラの上、またはカメラの前にものを置かないでください。

## 推定される距離と実際の距離の相違

### 急な上り坂に向かう走行または後退

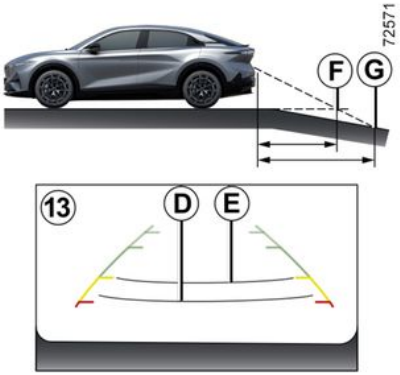



固定ガイド線 ***13*** の示す距離が実際よりも近くなります。

画面に表示される対象物は、斜面では実際にはより遠くにあります。

具体例を挙げると、画面の ***D*** 位置に対象物が表示されている場合、対象物が実際にある場所は ***E*** です。

### きつい下り勾配に向かう走行または後退

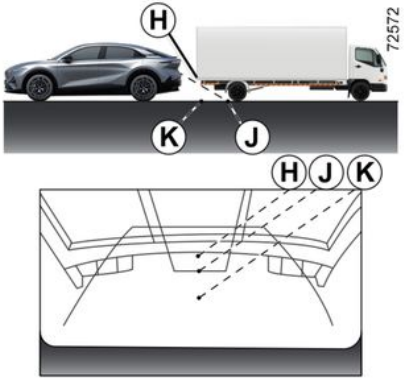



固定ガイドライン***13***の示す距離が実際よりも遠くなります。

画面に表示されている対象物は、斜面上では実際の位置が画面上の表示よりも近くにあります。

例えば、画面に対象物が ***G*** に表示されている場合、実際の距離は ***F*** です。

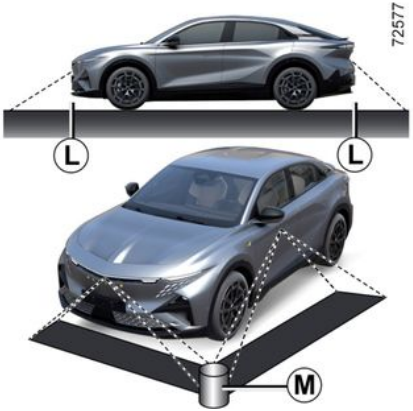
## 突き出た対象物に向かう走行または後退




画面上では、位置 ***H*** が位置 ***J*** より遠くに見えます。しかし、位置 ***H*** と位置 ***K*** は同じ距離にあります。

固定ガイドラインおよび移動ガイドラインによって示される行跡では、対象物の高さは考慮されていません。そのため、位置 ***K*** に向かってリバースすると、車両が対象物に衝突するリスクがあります。

## システムの作動上の制限




システムでは、一部領域にある対象物を表示できません。

フロントビューまたはリアビューモードでは、***L*** 領域にある物体をシステムを使用して表示することができません。

バードアイズビューモードでは、***M*** 領域（表示領域の端部付近）にある大きな物体をシステムを使用して表示することができません。

## 表示の調整

「360° カメラ」システムの表示中には、マルチメディア画面からビューを変更（リアビューをパノラマリアビューに変更など）できます。

> ⚠ 安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

シフトレバーが R 位置にある場合、次のビューを使用できます。

– リアビュー / バードアイズビューの画面分割。

または

– パノラマリアビュー。

または

– サイドビュー / バードアイズビュー（車両によって異なる）。

または

– 3D ビュー（車両タイプによって異なります）。

後進ギアから P 位置にシフトすると、次のビューを使用できます。

– リアビューとバードアイズビューの分割ビュー。

または

– パノラマリアビュー（車両によって異なる）。

または

– サイドビュー / バードアイズビュー（車両によって異なる）。

または

– 3D ビュー（車両タイプによって異なります）。

後進ギアから D 位置にシフトすると、次のビューを使用できます。

– フロントビューとバードアイズビューの分割ビュー。

または

– フロントパノラミックビュー。

または

– サイドビュー / バードアイズビュー。

または

– 3D ビュー。

## カメラ設定の調整

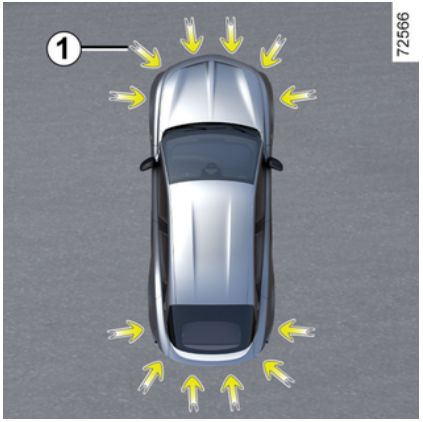
ガイド線を追加または削除したり、カメラ画像のパラメータ（明るさ、コントラストなど）を調整したりするには、マルチメディア画面から、「360° カメラ」システムの表示中に「設定」ボタンを押します。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

**注意:** 安全上の理由から、車両が走行中は「設定」メニューにビューは表示されません。

# パーキングアシスト

## 作動原理




車両付近の障害物を検出できるよう、車両のバンパーには、矢印 ***1*** が示すような超音波センサーが取り付けられています。

この機能は、信号音と表示により、障害物検出箇所である旨をドライバーに警告します。

車両装備により、システムは、車両の後方、前方および側面にある障害物を検出します。

パーキングアシストシステムは、車速約 10 km/h 未満での走行中以外は作動しません。

この機能では、システムによって認識されない運搬システムは考慮されません。

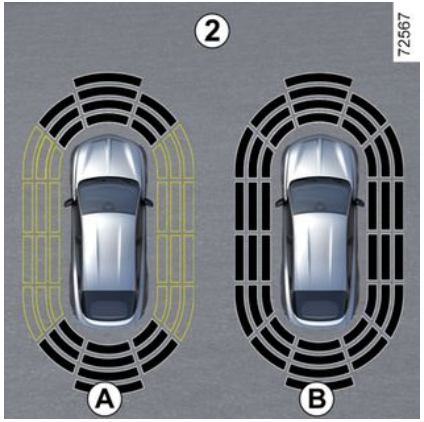
このシステムは運転時の安全性を補助するもので、
したがってドライバーは後退時、責任をもって慎重に後退させなけれ ばならないことを忘れないでください。
走行中は、ドライバーは常に突発的な出来事に備えている必要があります。操作時には、死角に子供、動物、ベビーカー、自転車、石、柱などの小さく細い動く障害物がいないことを必ず確認してください。

操作時にサブフレームに衝撃があった場合（縁石、歩道またはその他の市街地設備との接触など）車両を損傷した恐れがあります（リアアクスルの変形など）。放置すると事故が起こるおそれがあるので、指定サービス工場で点検を受けてください。

## 超音波センサの位置 *1*

矢印 ***1*** が示す超音波センサの周辺部について、その作動を妨げるもの（汚物、泥、雪、取付け不良ナンバープレート）の有無、その作動に影響を及ぼす要素の有無、改造（塗装など）の有無、車両の後部（車両によってはその前部または側部）に取り付けられているアクセサリによる作動妨害の有無を確認します。

## 作動



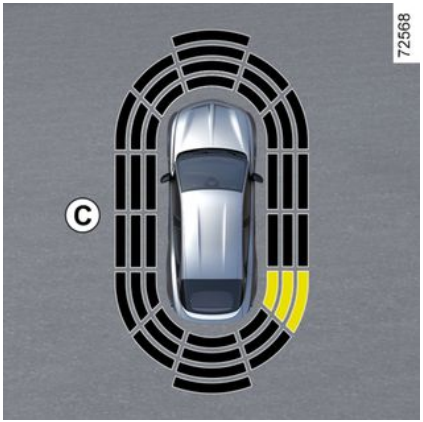

ディスプレイ ***2*** が車両周辺の状況を表示しビープ音を鳴らします。

車両の装備によっては、数メートル走行しないと側面障害物検出機能が有効化されないことがあります。

すべての領域がグレーの背景である場合、車両周囲の全体が監視されます。

– ディスプレイ ***A***:車両周辺の解析中；
– ディスプレイ ***B***:車両周辺の分析が完了しました。

**障害物の検出**




車両前方、後方、側面付近にあるほとんどの物体を検知し、物体を検知すると警告音が鳴ります。

信号音の周波数は、車両が障害物に近づくほど高くなり、側面にて障害物が検出された場合には、車両と障害物の距離が約 20 cm になると連続ビープ音となり、前方または後方でにて障害物が検出された場合には、車両と障害物の距離が約 30 cm になると連続ビープ音となります。

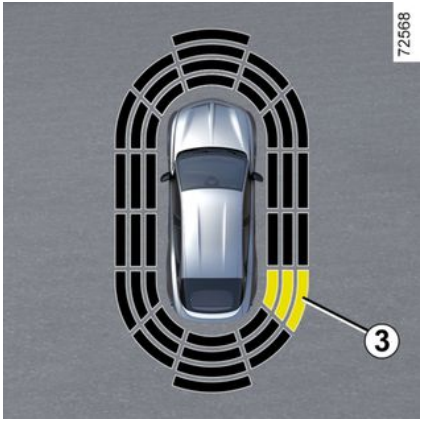
障害物検出箇所が（表示 ***C***）のように表示されます。車両によっては、検出障害物までの近さに応じて、検出箇所

が緑色、オレンジ色（車両によっては黄色）または赤色で表示されます。

> ⓘ 操作中に進行方向が変わると、障害物との衝突リスクを示す信号に遅れが生じることがあります。



**側面での障害物検出に関する特殊なケース**




このシステムは、ホイールの向きに応じて車両の軌道を判断し、車両側面において障害物 ***3*** と衝突する危険がある場合にその旨をドライバーに通知します。

側面に障害物が検知された場合:

– 障害物に接近するにつれて、警告音が高速になり連続して鳴ります。障害物検出箇所 ***3*** が（表示 ***D***）のように表示されます。
– 衝突のリスクがない場合は、障害物に近づいても警告音は鳴りません。車両によっては、障害物検出箇所 ***3*** が分散表示されます。

> ⓘ 操作中に進行方向が変わると、障害物との衝突リスクを示す信号に遅れが生じることがあります。

## 有効化／無効化

**マルチメディア画面 *4* からの有効化／無効化**

マルチメディア画面***4***の「車両」ワールドから、「運転ｱｼｽﾄ」メニューを押し、「パーキング」タブを選択し、次に「駐車ｱｼｽﾄ」を選択します。

超音波センサでカバーされている領域を有効または無効にします。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

**注意:**リア検出ゾーンは、車両により無効化でない場合があります。

**パーキングアシスト自動作動解除スイッチ**

次のときにシステムは自動的に解除されます：

– 車速が約 10km/h 以上になったとき。

# パーキングアシスト

– 車両によっては、車両が約 5 秒を超えて静止し、前方に障害物が検知された場合（渋滞時など）。
– シフトレバーを N または P 位置にした場合。
– 作動不良が検出された場合。

**注意:**車両によっては、車両に、システムが認識済みのけん引装置が装備されている場合、リアパーキングアシスト機能だけが無効化されます。

## 設定

安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

エンジンを始動する度に、この機能は、エンジンが最後に停止した時点で記憶された作動状態に復帰します。

**マルチメディア画面 *4* からの設定調整**

車両を静止させた状態で、マルチメディア画面 ***4*** 上の「車両」領域から「駐車ｱｼｽﾄ」メニューを押します。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

**システムサウンドの解除**

**（車種によります）**

パーキングアシストサウンド ON/OFF スイッチ

**注意:**消音設定にすると、障害物接近時にはディスプレイのみで警告されます。

**パーキングアシストオーディオ音量スイッチ**

音量バーを使ってパーキングアシストの音量を調整できます。

エンジンを始動する度に、この機能は、エンジンが最後に停止した時点で記憶された作動状態に復帰します。

## 注意：

次の場合、警告音（車両によっては関係する検出ゾーン）を手動で無効化できます。

– システムが未認識の、牽引、運搬またはトレーラー用の車両装備が超音波センサーの前にある場合。
– 超音波センサーに損傷がある場合。

**注意:警告音がミュートされている場合でも、**ディスプレイは引き続き警告を行います。

## 作動異常

システムが故障を検知した場合：リバースギアが入ると、約3秒間警告音が鳴り、インストルメントパネルに「パーキングセンサー 点検」というメッセージが表示される場合、またはリバースギアが入ってもシステムが音やディスプレイを出さないことがあります。

超音波センサがきれいか確認します。

不具合が続く場合は、正規ディーラーにご相談ください。

## アドバイス

車両の走行速度が約 10 km/h 未満だと、車両周辺（の自動二輪、ローリー、空気ドリルなど）からの騒音でパーキングアシストの警告音が鳴る場合があります。



**システムの整備／修理作業**

– 衝突した際はセンサーのアライメントが変わる可能性があり、その動作に影響が出ます。機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。
– センサのある場所の作業（修理、交換）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

**システムの障害**

以下に掲げるような要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

– 不安定な天候条件（雨、雪、あられ、薄氷など）、
– 車両周辺（の自動二輪、ローリー、空気ドリルなど）からの騒音。
– 互換性がないけん引ボールまたはフックの取付け。

**誤アラームまたは警告なしのリスク**

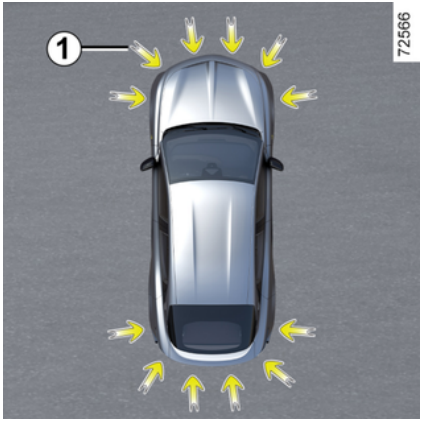
システムの作動に異常が発生した場合は正規ディーラーまでご連絡ください。

**システムの作動上の制限**

– システムの正常な作動を確保するために、センサの周囲は清潔に保ち、変更を加えないようにする必要があります。
– 車両に近づく小さな物体（バイク、自転車、歩行者など）は、システムによって認識されないことがあります。
– 車両に近すぎる障害物はシステムにより検出できない場合があります。
– 他車両または障害物と自車両の走行速度が大きく異なる場合、システムは警告を表示しないことがあります。
– 操縦中の軌道変更時に、システムが障害物を遅れて報告することがあります。
– 車両がトレーラを牽引している場合は、リアパーキングアシストシステムを停止する必要があります。

## ハンズフリー駐車

### はじめに




この機能は、車両のバンパーに取り付けられた矢印***1***で示される超音波センサーを使用して、アクセス可能な駐車スペースを見つけ出し、駐車操作を支援するのに役立ちます。

ステアリングホイールから手を離せば、ドライバーだけがコントロールできます。

- アクセルペダル
- ブレーキペダルを踏む
- シフトコントロール。

いつでも、ステアリングホイールを操作すると、コントロールを取り戻すことができます。

**注意:**この機能は、地面の駐車ラインに基づいて空きスペースを検知しません。他車両、建物または大きな物体の間または付近に利用可能な駐車スペースがあるか検索し、その結果をもとに駐車可能場所を検出および提案します。

このシステムは運転時の安全性を補助するもので、
したがってドライバーは後退時、責任をもって慎重に後退させなけれ ばならないことを忘れないでください。
走行中は、ドライバーは常に突発的な出来事に備えている必要があります。操作時には、死角に子供、動物、ベビーカー、自転車、石、柱などの小さく細い動く障害物がいないことを必ず確認してください。

操作時にサブフレームに衝撃があった場合（縁石、歩道またはその他の市街地設備との接触など）車両を損傷した恐れがあります（リアアクスルの変形など）。放置すると事故が起こるおそれがあるので、指定サービス工場で点検を受けてください。

### 作動

# パーキングアシスト

車両を静止させたり、時速約 30 km/h 未満で走行したりすると、機能にアクセスする方法はいくつかあります。

– マルチメディア画面 ***3*** の「車両」領域 ***2*** から、「運転ｱｼｽﾄ」メニューを押した後、「パーキング」タブを押してパーキングアシストメニューにアクセスする方法。
– 「ハンズフリーパークアシスト」ウィジェットからアクセスします（設定済みの場合）。
– ステアリングホイール上にある「お気に入り」ボタン（構成済みの場合）を用いる方法。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

## 特別機能

矢印***1***で示された超音波センサが汚れ、泥、雪、ナンバープレートの取付け不良などによって隠れていないことを確認します。

## 操作の選択

システムは 3 つの操作を実行できます。

– 並列／縦列駐車スペースへの車両駐車。
– 並列パーキングのスペースから出る。

マルチメディア画面***3***から、実行する操作を選択します。

**注意:**車両起動時やシステムを使用して並列駐車を正常に完了した後は、システムによってデフォルトで並列駐車スペースから出庫する支援が提案されます。

その他のケースでは、マルチメディア画面***3***からデフォルトの操作を選択します。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

> システムの起動時にはパークアシスト機能が作動し、360°カメラが装備されている車両では、ドライバーが操作を確認しやすくするために360°カメラも作動します➔ 282、➔ 274。

## 作動

> このシステムは運転時の安全性を補助するもので、
> したがって、どのような場合でも速度制限に注意し、細心の注意を払う（突然の事態にもブレーキを踏めるように常に備える）必要があり、操作中の責任はドライバーにあります。

操作中、ステアリングホイールが速く回転することがあります。ステアリングの内側に手を入れず、何も挟まっていないことを必ず確認してください。

駐車の際には、マルチメディア画面に表示される指示に従ってください。運転操作に遅れが生じたり、指示に背いたりすると、操作が取り消されたり、正しく駐車できなかったりする恐れがあります。

## 並列／縦列駐車スペースへの車両駐車

車速が 30 km/h 未満である限り、システムは、車両の両側を対象に駐車可能スペースを探します。

駐車スペースが見つかると、マルチメディア画面 ***3*** 上に文字「**P**」で表示されます。「停止」メッセージが表示され、ビープ音が聞こえるまでゆっくり運転します。車両の左右どちらかに複数のスペースが見つかった場合は、希望スペースを方向指示器で選択しなければなりません。複数のスペースが車両の左右どちらかのみにある場合は、システムが最後に見つけたスペースのみ考慮されます。

マルチメディア画面 ***3*** 上では、該当駐車スペースが灰色になり、文字「**P**」で表示されます。

– 車両を止めます。
– リバースギアを選択します。

表示灯 がインストルメントパネル上に表示され、ビープ音が鳴ります。

– ステアリングホイールから手を離します。
– マルチメディア画面 ***3*** に表示される指示に従います。

速度が約 7 km/h を上回らないようにする必要があります。

インストルメントパネルの警告灯 が消灯してビープ音が鳴ると、操作は完了です。

## 並列パーキングのスペースから出る。

– 「ハンズフリーパークアシスト」機能を作動させます。
– 「縦列駐車スペースからの発進」モードを選択します。
– 車両から降りたい側の方向指示灯を点灯させます。

すべての条件が満たされている場合、マルチメディア画面 ***3*** 上にメッセージが表示され、車両が動き出します。

– 始めるには「OK」ボタンを押します。

警告灯がインストゥルメントパネル上に表示され、ビープ音が鳴ります。

– ステアリングホイールから手を離します。
– マルチメディア画面 ***3*** に表示される指示に従い、パーキングアシストアシストシステムによる警告を考慮して、前後進の操作を行います。

速度が約 7 km/h を上回らないようにする必要があります。

車両が駐車可能スペースの出口に達すると、機能による誘導の完了の証として、 警告灯がインストルメントパネルから消え、ビープ音が鳴り、メッセージがマルチメディア画面 ***3*** 上に表示されます。

## 作動の一時停止／再開

次の場合、操縦は一時停止されます。

– 移動の方向に障害物があると、操作が完了しません。
– 助手席ドアまたはトランクドアが開いている場合。

# パーキングアシスト

操縦が中断されると、その旨をドライバーに知らせるため、 警告灯がインストルメントパネルから消え、ビープ音が鳴ります。「駐車操作を中断します」というメッセージと操縦中断理由がマルチメディア画面 ***3*** 上に表示されます。

確認内容:

– ステアリングホイールから手を離している。

と

– すべてのドアとトランクルームを閉まっている。

と

– 移動する方向に障害物がない。

と

– エンジンが始動している。

警告灯が点滅している状態は、システムが作動を再開できる状態です。

操縦を再開するには、「駐車ｱｼｽﾄ」メニューを押します。 警告灯がインストルメントパネル上で点灯します。

マルチメディア画面 ***3*** に表示される指示に従ってください。

## 操作のキャンセル

以下の状況で、操作をキャンセルすることができます。

– ホイールをコントロールする。
– 車両が長時間停止している。
– パーキングブレーキがかかっている
– 車速が約 7 km/h を超えた場合。
– 車輪がスリップしている。
– エンジン始動／停止ボタンが押された場合。
– マルチメディア画面 ***3*** を介してキャンセルされた場合。
– マルチメディア画面に表示されている指示が守られなかった場合。
– 運転席シートベルトが外された場合。
– 運転席側ドアが開いている場合。
– 1 回の操作で、10 回以上の前進 / 後進を実行した場合。
– 駐車時距離制御機能センサが汚れていたり、センサの作動を妨げるものがあったりする場合。

作動が中断止されると、インストルメントパネル上の 警告灯が消え、警告音が鳴ります。「パークアシストがキャンセルされました」というメッセージと操作のキャンセル理由がマルチメディア画面 ***3*** 上に表示されます。

## 使用できない機能

システム有効化方法のいずれか 1 つを選択した場合に作動条件が満たされていないと、インストルメントパネル画面上に、機能を使用できないことを警告する「ハンズフリー駐車を使用できません」というメッセージが表示されます。

## 作動異常

この機能で作動不良を検出すると、インストルメントパネルに次のメッセージが表示されます。

– 「Park Assist 要確認」。 警告灯も表示されます。

または

– « パーキングセンサー 点検 » ;

または

– « パーキングアシスト 要確認 ».

超音波センサを清掃します。不具合が直らない場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。

**注意:**機能に故障が発生しても、車両は不動化されません。

**すぐに、車両の制御を再度取得します。**

3

## 警告

このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、いかなる場合においても、ドライバーの適切な注意義務に取って代わるものではありません。ドライバーは常に車両を制御しなければなりません。操作が、現地で適用される交通規制に準拠したものであることを確認してください。

走行中は、ドライバーは常に突発的な出来事に備えている必要があります。車両を操作する際は、死角に小さな動く障害物（子供、動物、ベビーカー、自転車、石、ポール、けん引など）が存在しないことを常に確認してください。

**システムの整備／修理作業**

– 衝撃が発生した場合、センサの動作が影響を受ける可能性があります。機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。
– センサーのある場所の作業（修理、交換、外装トリムの変更など）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

**システムの障害**

特定の状態は、天候の悪化（雪、雹、氷など）など、システムの動作を混乱させるか、または悪化させる可能性があります。
システムの動作が異常な場合は、システムの作動を解除して、正規ディーラーまでご連絡ください。
誤警報のリスク。

**システム作動時間の制限**

– システムは、センサの死角にある対象物を検出できません。
– 常にシステムによって提案されたパーキングスペースが実際に利用可能であり、全体の操縦の間に障害物がないことを確認するために確認してください。
– トレーラー牽引時や、車両またはその周辺の車両に牽引／運搬システムが装備されている状況では、このシステムを使用しないでください。

## 駐車終了警告

### はじめに

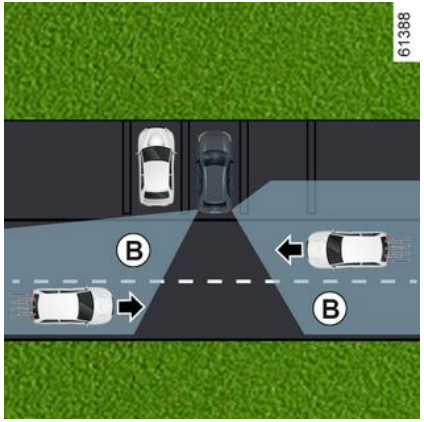
リアバンパー（ソーン ***A***）の両側に設置されているレーダーからの情報を用いて作動するこのシステムは、他車両が検出ゾーン ***B*** に存在する場合にその旨をドライバーに通知します。

次の場合にシステムが作動します。

– シフトレバーを「後進」位置にした場合。

と

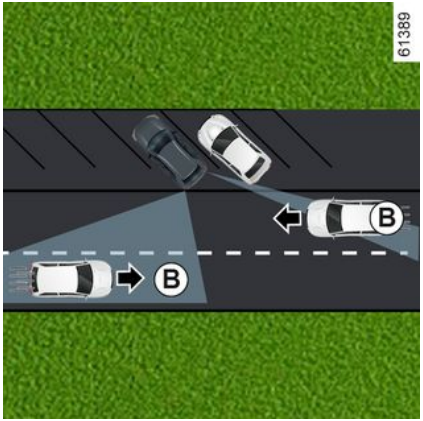
– 車両が停止しているか、低速で走行しているとき。




システムの検出機能は、車両の周囲（静電気物など）、バンパーの状態などによって異なります。

このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、いかなる場合においても、ドライバーの適切な注意義務に取って代わるものではありません。ドライバーは常に車両を制御しなければなりません。

### 特徴




レーダー領域 ***A*** に障害物（ステッカー、泥、雪など）がないか確認してください。

レーダーの妨げとなるものがある場合は、「サイドレーダー 作動していません」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。センサが配置されているエリアを清掃します。

# パーキングアシスト

## マルチメディア画面 *1* からの有効化／無効化

機能を有効または無効にするには、マルチメディアの指示を参照してください。

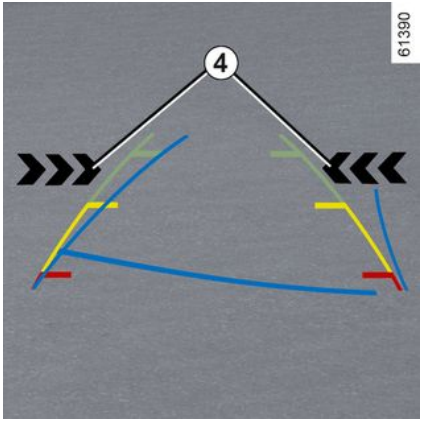
「ON」または「OFF」を選択します。

## 作動

この機能は、領域 ***B*** にいる任意の車両が自車両に接近している場合に警告します。

接近車両が検出されると、左右のドアミラー ***3*** に対応する警告灯 ***2*** が点灯します。

**注意:**警告灯***2***が見えるように、ドアミラー***3***を定期的に清掃してください。




マルチメディア画面上の警告灯 ***4*** は、側部から自車両に接近する他車両が検出された場合に表示されます。

**注意:**カメラが遮られないように、定期的に清掃してください。

シフトレバーが「後進」位置で車両が動いている場合には、警告灯 ***2*** および ***4*** とともに警告音が鳴ります。

## 作動異常

車両にシステムによって認識されたけん引装置が取り付けされ、トレーラが接続されている場合、パーキング終了警告は自動的に無効になります。次のメッセージがインストルメントパネルに表示されます：「ドライブアシスト操作不可」。

# パーキングアシスト

システムが不具合を検出すると、「サイドレーダーを 点検してください」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。メーカーにお問い合わせください。

ⓘ バンパーの後ろにセンサがあるため、バンパーの作業（修理、交換、塗装など）は資格を持つ専門スタッフに任せることをお勧めします。

⚠ **システムの作動上の制限**

– システムの正常な作動を確保するために、レーダーエリアは清潔に保ち、変更を加えないようにする必要があります。
– 車両に近づいてくる小さな物体（バイク、自転車、歩行者など）は、システムによって認識されないことがあります。

**機能の作動解除**

次の場合にはこの機能を無効化してください。

– レーダー領域 ***A***（リアバンパー）に損傷がある場合。
– 車両には、システムによって認識されない牽引バーが取り付けられています。

⚠ このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、いかなる場合においても、ドライバーの適切な注意義務に取って代わるものではありません。ドライバーは常に車両を制御しなければなりません。
いかなる場合でも、システムを障害物の検知や衝突防止装置として使用することはできません。

**システムの整備／修理作業**

– 衝撃を受けた場合は、レーダーの位置が変わり、機能に影響が出ます。機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。
– レーダーのある場所の作業（修理、交換、ボディー修理）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

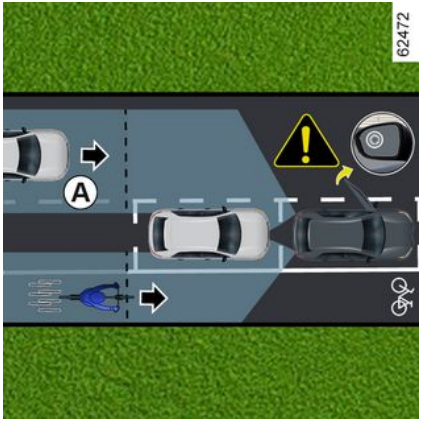
**システムの障害**
以下に掲げるような要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

– 複雑な環境（地下駐車場、鉄骨構造など）の場合。
– 悪天候（降雪、豪雨、降雹、黒氷発生など）な場合。

**機能の作動解除**
車両が牽引されている場合（故障回復）、または車両にシステムで認識されないけん引装置が取り付けられている場合は、機能を無効にする必要があります。
システムの動作が異常な場合は、システムの作動を解除して、正規ディーラーまでご連絡ください。

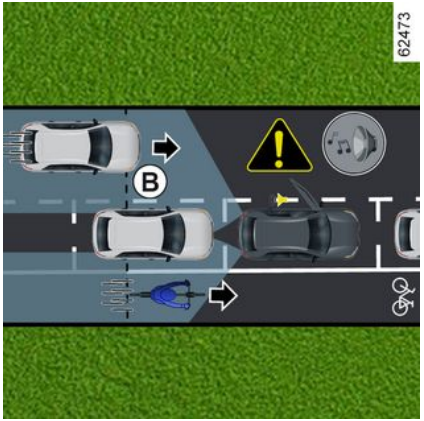
## 乗員の安全出口

### 説明




この機能は、車両乗員の安全を確保する補助運転補助機能です。

「乗員の安全出口」機能の目的は、車両が固定されているときにドアを開いた場合に、ドライバーおよび / または乗員に潜在的な危険を警告する目的です。




リアバンパー（領域 ***C***）の両側に設置されているセンサからの情報を用いて作動するこの機能は、次の場合に、ドライバーに警告します。

– 他車両（または自動二輪、自転車、歩行者など）が検出ゾーン ***A*** 内に存在する場合。

と

– 他車両（または自動二輪、自転車、歩行者など）と衝突するリスクがゾーン ***B*** 内で生じている場合。

# パーキングアシスト

## 特徴

リアバンパー両側のレーダー付近にあるゾーン ***C*** に障害物（汚物、泥、雪など）がないか確認します。

いずれかのレーダーを妨げるものがあると、「サイドレーダー視界喪失」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。センサが配置されているエリアを清掃します。

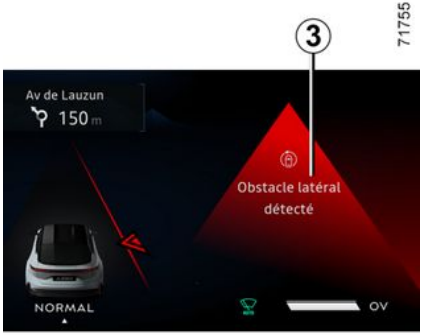
次の場合にはこの機能を無効化してください。

– レーダー検出ゾーン ***C***（リアバンパー）に損傷がある場合。
– 車両には、システムによって認識されない牽引バーが取り付けられています。

## 作動

ドアを開ける際に動きのある物体が検出されると、警告灯 ***1*** がドアミラー ***2*** に表示され、車両によってはフロントドアのムードランプが点灯します。

**注意:**警告灯***1***が見えるように、ドアミラー***2***は定期的に清掃してください。




検出障害物が車両にきわめて近接している場合は、警告メッセージ「側方並走車 検出」***3*** が表示され、ビープ音が鳴ります。

**注意:**イグニッションをオフにした後も、システムはしばらくの間作動し続けます。

3

### マルチメディア画面 4 からの機能の有効化／無効化

機能を有効または無効にするには、マルチメディアの指示を参照してください。

> ⓘ 車両のロックを解除すると、機能はマルチメディア画面に最後に保存されたステータスに戻ります。

### 作動しない場合

– 車両が走行中で完全に静止していない。
– 車両が外側からロックされている。
– システムによってリスクとは見なされない低速で車両に向かって、または車両の近くを移動する移動物体（バイク、自転車、歩行者、車両など）があります。
– リアバンパ内にあるセンサの範囲は、車両の非常に近くに駐車した他の特に広い駐車車両など、物体によって隠されています。

システム認識済みの牽引バー装備車両の場合、この機能が作動していないことをドライバーに知らせるための、「運転支援使用不可」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

お車に合った装備をお探しの際には、お近くの指定サービス工場にご相談ください。

### 作動異常

システムが不具合を検出すると、「サイドレーダー要点検」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。メーカーにお問い合わせください。

> ⚠ この機能は運転時の補助機能であり、車両の付近で動く車両や物体を検知できない場合があります。この機能は、ドライバーと車両の乗員の警戒と責任に代わるものではありません。ドライバーと乗員は常に交通状況に特に注意を払い、車両を離れる前にエリアをチェックする責任があります。
>
> **システムの障害**
> 特定の条件（複雑な環境、悪天候条件など）により、誤ったアラームの危険性を伴ってシステムの動作を混乱または損傷する可能性があります。

# 緊急サービスコール

## はじめに

車両に装備されている場合、エマージェンシーコール機能を使用することで、事故時または疾病時に、自動または手動で（課金なしで）救急サービスに電話し、救急サービスの現場到着までの時間を縮小することができます。

**注意:**エマージェンシーコールが作動中:

– 第2世代Gおよび第3世代G、または車両によっては第4世代Gの通信インフラが整備され、システムと互換性のある関連テレマティクス緊急通報サービスが提供されている国で利用できます。
– 車両が走行中の地域のネットワークの通信範囲に応じて異なります。

目撃した事故を報告するためにエマージェンシーコール機能を使用する場合、救急サービスが車両の位置つまり報告する事故の位置を特定できるように、交通の状態に応じて、停車することになります。

国や地方自治体の規則に従って処理してください。

ⓘ 事故を目撃した場合、または気分が悪くなった場合、緊急事態に巻き込まれた場合にのみ、エマージェンシーコールを使用してください。

***1.*** システム作動警告灯:

– 緑: 稼働中

（ネットワークが利用可能であるなど）

– オフ: 非稼働

（ネットワークが利用できないなど）

– 赤: 故障

故障。

– 緑色点滅:通話中。

***2.*** 自動モード警告灯。

***3.*** 「SOS」ボタン。

***4.*** マイク。

***5.*** スピーカー。

コールは常に次のように行われます。

– エマージェンシーサービスへのコールが開始されます。
– 事故に関連するデータ（車両製造者プレート、コール時間、最終所在地、車両の方向など）が送信されます。
– エマージェンシーサービスとの音声通信が行われます。
– 必要であれば、緊急サポートに電話が掛けられます。

エマージェンシーコールには次の 2 つのモードがあります。

– 自動コールモード。

# 緊急サービスコール

– 手動モード。

## 作動

### オートマチックモード

システムが起動すると、オートマチックモードが作動します。

エマージェンシーコールは、保護装置（シートベルトプリテンショナー、airbag など）の作動を必要とした事故発生時に自動的に起動します。

> ⚠ 事故の発生時には、場所と交通の状態が許せば、必要に応じてコールセンターにすぐに応答できるように、できる限り車両に近い場所に留まってください。

### マニュアルモード

このエマージェンシーコールは次の方法で開始できます。

– ボタン ***3*** を 3 秒以上長押しします。

または

– ボタン ***3*** を 10 秒以内に 5 回押します。

誤ってボタンを押してしまった場合は、コールセンターにつながる前であれば、ボタン ***3*** を約2秒間長押しすることでコールをキャンセルできます。

通話の確立後は、コールセンターのみが通話を終了できます。

## 作動異常

状況（バッテリー不足など）によっては、緊急通報が実行されない場合があります。

システムが作動不良を検出すると、警告灯 ***1*** が、30 分を超える時間にわたり赤色点灯します。

システムに不具合が生じると、警告灯 ***1*** および ***2*** が消灯し、それ以降は点灯しなくなります。

この2つの場合は、できるだけ早く指定サービス販売店にご連絡ください。

> ⓘ システムは、専用バッテリで駆動します。バッテリの寿命は約4年間です（消耗時には警告灯 ***1*** が赤色で点灯し、ドライバーに警告します）。メーカーにお問い合わせください。

# 緊急サービスコール

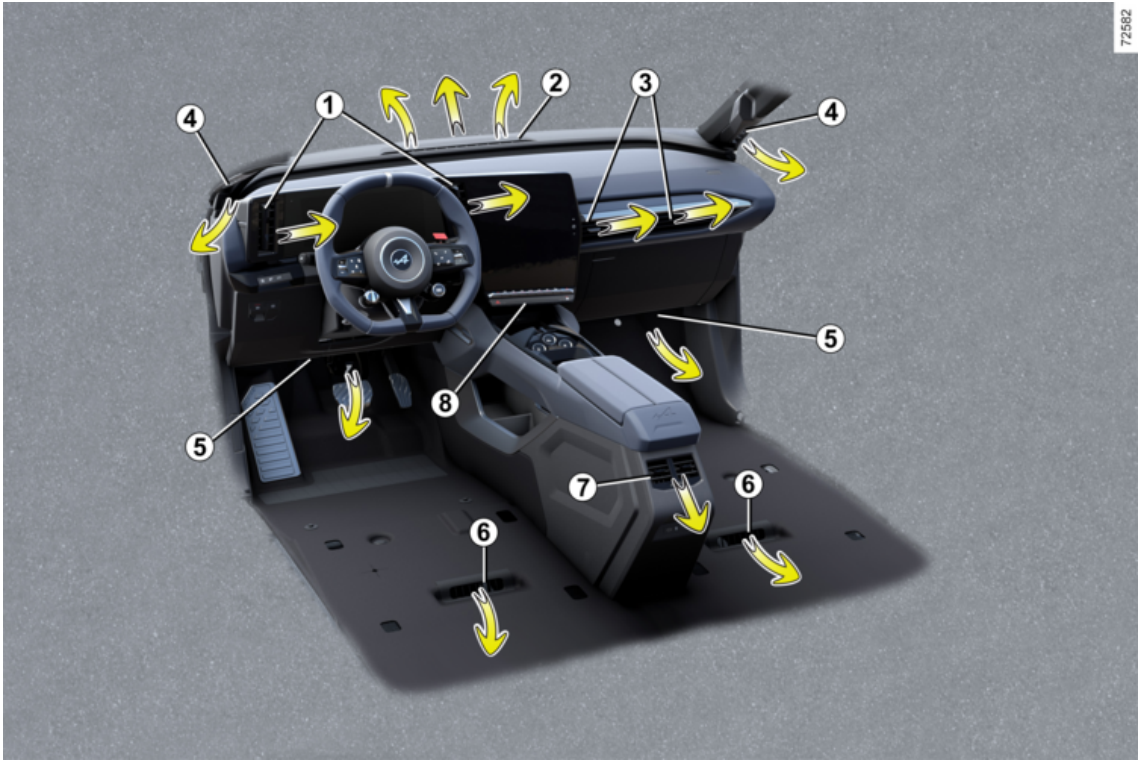
エマージェンシーコール機能を使用しない場合、システムは追跡できず、持続的な監視下に置かれません。データは、自動的かつ継続的に削除され、システムでは車両の最後の 3 位置のみが保存されます。
国の法律に従って、データは緊急通報の際にのみ送信されます。
コールセンターに送信されるデータは、所在国で適用される個人データ保護法に従って扱われます。システムは、アクティビティ履歴データを 13 時間のみ記憶します。
車両のオーナーは、データに対するアクセス権を持ち、データの修正、削除、ロックを要求できます。

システムの安全および適切な動作を確認するために、バッテリに対するどのような作業（取り外し、接続の解除など）も適格な技能者が実施する必要があります。
**重大なやけどまたは感電の危険性があります。**
メンテナンス資料に記載された交換間隔に（超過なく）従う必要があります。
バッテリは専用タイプです。同型のバッテリと交換してください。
認定ディーラにご連絡ください。

# エアベンチレータ、ヒーター、エアコン

## ベンチレーター: エアアウトレット

### 吹き出し口



## エアベンチレータ、ヒーター、エアコン

1. 運転席のベンチレーター
2. フロントウィンドウデフロスター吹き出し口
3. 助手席ベンチレーター
4. サイドウィンドウデフロスター吹き出し口
5. 前席足元用ヒーター吹き出し口
6. 後部座席足元用ヒーター吹き出し口
7. 後部座席用センターベンチレータ
8. コントロールパネル

## 運転席吹き出し口 *1*

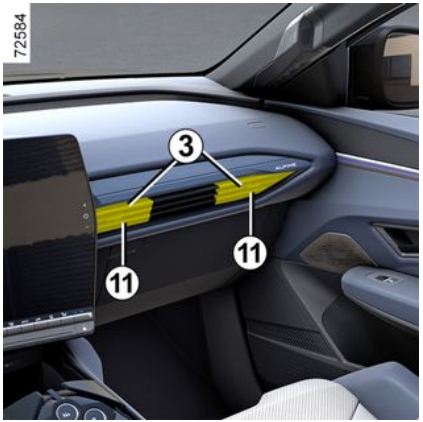
### 風向きの調節

気流の向きを決めるには、タブ ***9*** を用いて吹き出し口 ***1*** を回します。

**閉めるには:**タブ***10***をステアリングホイールから離れる方向に抵抗点を超えるまで動かします。

**開け方:**タブ***10***をステアリングホイール側へ動かします。

## 助手席吹き出し口 *3*




### 風向きの調節

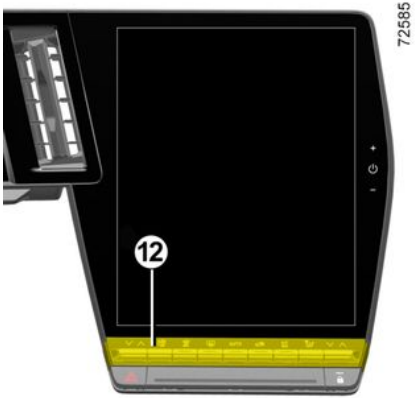
気流の向きを決めるには、タブ ***11*** を用いて吹き出し口を回します。

**閉めるには:**タブ***11***をフロントパネルの外側に向かって、抵抗を感じる位置を越えるまで動かしてください。

**開け方:**タブ***11***をフロントパネルの内側に向かって動かしてください。

ベンチレーターに物（電話機など）を取り付けないでください。
**損傷のおそれがあります。**

## 風量の調節



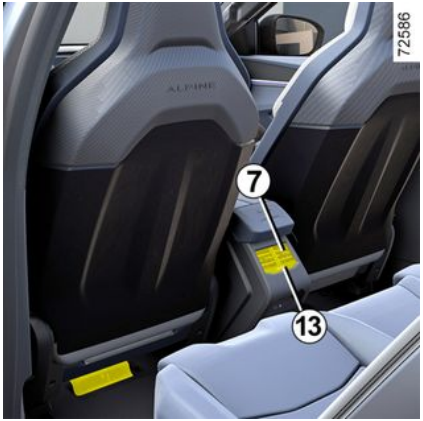

吹き出し口 ***1*** および ***3***からの気流を制御するには、制御装置 ***12*** を押すか、目的のレベルまで上げます。

車両の悪臭には専用のシステムのみを使用してください。メーカーにお問い合わせください。

悪臭が入ってくる場合など に車両のブロアに物を挿入 しないでください。
**故障や火災の恐れがあります。**

# エアベンチレータ、ヒーター、エアコン

## 後席




（車種によります）

### 風向きの調節

気流の向きを決めるには、タブ *7* を用いて吹き出し口を回します。

### 風量の調節

吹き出し口 *7* からの気流を確かめるには、次のように、ノブ *13* を希望開口レベルまで回します。

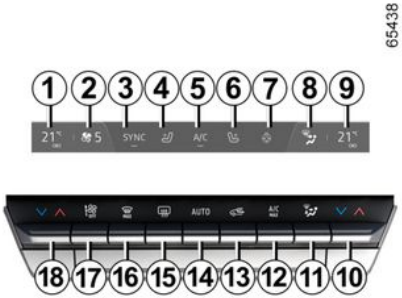
– 右：最大風量；
– 左：閉。

ベンチレーターに物（電話機など）を取り付けないでください。
**損傷のおそれがあります。**

悪臭が入ってくる場合など に車両のブロアに物を挿入 しないでください。
**故障や火災の恐れがあります。**

## オートエアコン

### 操作部




***1.*** 設定温度インジケータ。
***2.*** 送風速度インジケータ。
***3.*** 「同期」SYNC 機能有効化制御。
***4.*** 運転席シート暖房作動スイッチ。
***5.*** エアコン作動スイッチ。
***6.*** 乗員シートヒーター作動スイッチ。
***7.*** ステアリングホイールヒーター作動コントロール。
***8.*** 室内吹出し口インジケータ。
***9.*** 助手席ヒーター温度インジケータ。
***10.*** 乗員のエア温度調整。
***11.*** 室内の空気分布調整。
***12.*** 「A/C MAX」機能作動スイッチ。
***13.*** 内気循環。
***14.*** AUTOモードエアコン起動スイッチ。
***15.*** リアウインドウのデフロスタと、車両によってはミラーのデフロスタ（除氷・曇り除去機能）
***16.*** 「シークリアー」機能。
***17.*** 送風速度の調節とシステムの停止。
***18.*** 運転席の温度調整。

### システムの作動

車両が始動すると、前回使用していたプログラムが再起動します。

駐車時にもこの機能は作動します。

# エアベンチレータ、ヒーター、エアコン

制御装置 ***14*** を押してシステムを有効化するか、制御装置 ***17*** を希望風量に設定します。

## 強制内気循環機能の停止

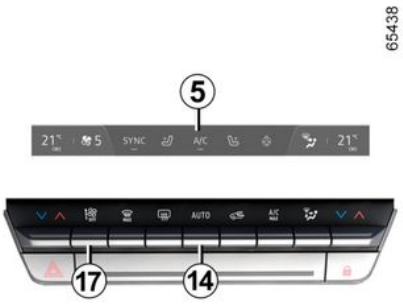
制御***17***を「OFF」位置に設定します。

## エアコンディショナーの始動または 停止

自動モードでは、システムはエアコンの起動を管理します。このシステムは、制御装置 ***5*** を押す方法でも有効化または無効化できます。

## オートマチックモード

オートエアコンは、パッセンジャコンパートメントを常に快適な空間に保ち、同時に良好な視界を確保し燃料の節約にも貢献します（極端な使用状況を除く)。




システムは送風速度、吹出し口切替え、内気循環、エアコンの起動および停止、エア温度を制御します。

3 つのプログラムからモードを選択できます：

AUTO **:**外部条件に応じて選択された快適レベルを最適に実現します。ボタン ***14*** を押します。

SOFT**:**希望した快適性レベルに、より穏やかで静かに到達します。ボタン ***14*** を押し、下に押して、SOFT モードを有効化します。

FAST **:**室内の流量を強くできます。このモードは、リアシートの快適性を最適化するのにお薦めです。ボタン ***14*** を押し、上に押して、FAST モードを有効化します。

## 室内の空気分配の調整

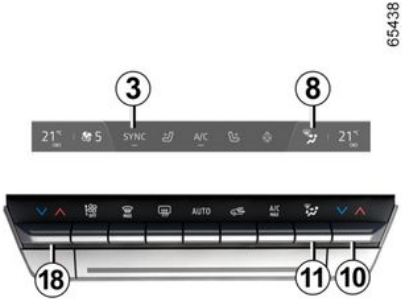
空気の分配を選択するには、***11*** を1回以上押します。選択した空気の配分***8*** はマルチメディア画面に表示されます。次の順序で位置が示されます:

フロントウインドウデフロスタおよびサイドウインドウデフロスタから送風されます。

空気の流量は前席サイドウインドウデフロスタ、フロントウインドウデフロスタ、および足元の吹き出し口に分散されます。

前席左右のサイドウインドウデフロスタ吹出し口、フロントウインドウデフロスタ吹出し口、ダッシュボード吹出し口、および足元の吹出し口から送風されます。

空気の流量は主にダッシュボード吹出し口とリア乗員中央ベンチレータから送風されます。




ダッシュボードと足元のベンチレーターに向かって送風ます。

空気は主に乗員の足元（ダッシュボードの下またはフロントシートの下）にある吹き出し口から吹き出します。

## エア温度を調節する

設定には次の 2 つのタイプがあります:

– 室内の独立した調整。
– 助手席側と運転席側を同期させる SYNC モードでの調整。

**室内の独立した調整**

左側と右側の設定を個別に調整するには、制御装置 ***10*** と ***18*** を使用します。

**SYNCモードでの調整**

乗員側の温度とドライバー側の温度を同じにするには、マルチメディア画面上のSYNC ***3***をプレスします。

**この機能をOFF**にするには、SYNCを再度押すか、助手席側の温度を調整します。

## 風量調整

オートモードでは、システムは快適な温度を維持するため最適な風量を制御します。

風量は、制御装置 ***17*** を押して風量を増やすか減らす方法で調整できます。

## 「クリアビュー」機能

ボタン ***16*** を押すと、内蔵警告灯が点灯します。

この機能により、フロントウインドウとリアウインドウ、サイドウインドウとドアミラー（車両によって）の急速なデフロスタ機能が作動します。エアコンおよびリアウインドウデフロスタが自動的に作動します。

**注意:** これにより、内気循環が自動的に解除されます。

**この機能を終了させるには、**ボタン ***14***または***16***を押します。

いくつかのボタンには、作動状態表示灯が内蔵されています。

## リアウィンドウデフロスターおよび曇り止め

ボタン ***15*** を押すと、内蔵警告灯が点灯します。この機能により、熱線式リアウインドウの急速な曇り止め、および熱線式ドアミラーデフロスターが作動します（装備車の場合）。

**この機能を終了するには、**もう一度ボタン ***15*** を押します。スイッチを押 さなかった場合でも、曇り止めは自動 的に停止します。

## 「A/C MAX」機能

「A/C MAX」機能を使うと、エアコンシステムの性能を最大限に引き出すことができます。時折作動させれば、車内をすばやく冷却できます。

65437

この機能には自動修正が含まれます。

- 温度を完全に冷間に設定。
- 乗員への送風配分
- 最大出力でのエアフロー
- エアコンの起動
- 内気循環。

**この機能を作動させるには**、ボタン ***12*** を押します。ボタン ***12*** 上の表示灯が点灯します。A/C MAX機能を最大限に活用するには、省エネモードを解除してください。

**この機能を停止するには**、ボタン ***12*** かボタン ***14*** をもう一度押します。ボタン ***12*** 上の表示灯が消灯します。

## 内気循環の作動（車内を外気か ら遮断）

汚染地域を走行する場合などには、再循環機能を随時作動させ、車内への外気流入を遮断することができます。

> ⓘ デフロスター／デミスターは常に 内気循環に優先して作動します。

### 手動でのご使用

ボタン ***13*** を押すと、内蔵警告灯が点灯します。

**注意:**ウインドウの結露を防ぐため、この機能は、システムにより自動的に無効化されることがあります。ボタン ***13*** と一体化された表示灯が消灯します。

ボタン ***13*** をもう一度押すと、空気の再循環が不要になった時点ですぐに機能が無効化されます。

## 「お気に入り」機能

72497

車両によっては、制御装置 ***19*** を押すことで、次の機能を、過去に定義し記憶させたユーザー設定で有効化できます。

- ステアリングホイールのヒーター。
- シートヒーター。
- リアウインドウデフロスタ。
- ドアミラーデフロスター。

この機能のプログラムについては、マルチメディアの指示を参照してください。

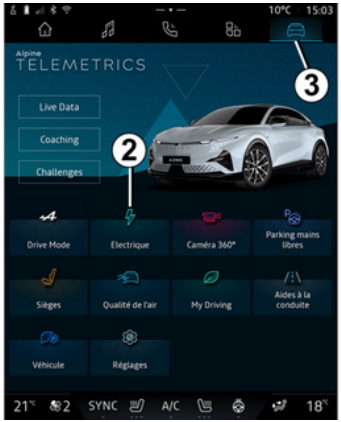
## エアコン「Eco」設定

詳しくは、「DRIVE MODE」の項 ➔ 155 をご覧ください。

## エアコン: プログラミング

### エアコンプログラミング

設定にアクセスするには、車両を静止させ、エンジンスイッチを ON にした状態で、マルチメディア画面 ***1*** の「車両」ワールド ***3*** から、「電気関連機能」メニュー ***2*** >「充電およびエアコン」タブの順に押します。




次の設定を有効にすることで、いくつかのコンフォートプログラムを保存できます。

- 温度調節
- 車両の準備が整う時間のプログラミング。
- プログラムを繰り返す必要がある日数の選択。

保存したプログラムを有効または無効にできます。

**注意:**スマートフォンアプリを使って、エアコンの設定をプログラムすることができます。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

**駐車または停車時のドライバーの責任**
お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。
**死亡または重傷のおそれがあります。**

### 「プログラミング」の有効化

この機能は、プログラムした時間以前に始動するため、次の場合に、車両内の温度が選択した快適温度に達します。

- ボンネットが閉じている
- トラクションバッテリの充電レベルが 7.5% 以上。
- エンジンが停止しているとき
- ドライバーが車両に乗ってない。

メーターパネルの表示灯 が点灯します。

### エアコンの即時起動

次の場合は、エアコンを即時始動させることができます。

- ボンネットが閉じている

– トラクションバッテリの充電残量が十分な場合。
– エンジンが停止しているとき
– 車両内に乗員がいない場合。

エアコンの即時起動の動作は、設定とは異なります:

– スマートフォンから起動する必要があります。
– ステアリングホイールヒーターとシートヒーター機能（車両に装備されている場合）が自動的に有効化されます。
– この機能は、約 10 分後に停止します。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

### プログラムされたエアコンを停止する

エアコンは、設定された終了時間の約 10 分後に自動的に停止します。

ただし、以下の場合は、この機能を無効にできます。

– エンジンが始動している。
– トラクションバッテリーの充電レベルが 7% 未満。
– ボンネットが開いている
– コントロールパネルのスイッチの 1 つを押した。
– ドライバーが約 20 秒間車内にいる。

**注意:**これらの条件は、エアコンの即時非作動にも適用されます。

少なくとも1つのアクティブなプレコンディショニングスケジュールでドアを開けずに車両を長時間駐車すると、含まれている 3 回目のプレコンディショニング起動から機能が無効になります。この機能は、車両のドアの 1 つが開かれたときに使用可能になります。

## エアコン: 情報と使用に際してのアドバイス

### 使用上の注意

### エアコンの上手な使い方

場合によっては（エアコンの停止、内気循環モードの作動、風量調節スイッチが 0 または弱になっているなど）、ウインドーガラスが水蒸気で曇ることがあります。

そのような場合には、**「クリアビュー」**機能を使用して水蒸気を除去してから、エアコンをオートモードでご使用になると水蒸気が発生しません。

悪臭が入ってくる場合など に車両のブロアに物を挿入 しないでください。

**故障や火災の恐れがあります。**

### 消費量

エアコンが作動しているときにエネルギー使用量の増加に気付くのが通常です。

マニュアルエアコンディショナー装備車の場合、必要ないときにはエアコンディショナーを停止するようにし てください。

**燃料の消費を最小限に抑え、環境 を守るためのアドバイス:**

換気口は開け、ウインドーは閉めて走行してください。炎天下に駐車していたときは、走 り出す前にドアやウインドウを開 けて熱気を車内から逃すようにし てください。

### 点検整備

点検時期については整備手帳を参照してください。

寒冷時にも少なくとも月に一度、約 5 分間、エアコンを定期的に使用してください。

### 作動異常

作動不良の場合は、指定サービス工場で点検をお受けください。

– **デフロスター、デフォッガー、または エアコンの効きの低下。**

# エアベンチレータ、ヒーター、エアコン

室内フィルタのカートリッジの 詰まりが原因かもしれません。

– **冷気が出てこない。**

各スイッチ が適切な位置にあるか、ヒュー ズが切れていないか点検してください。これらに問題がない場 合には作動を停止します。

## 車両の下に水が溜まる場合

エアコンディショナーを長時間使用すると車両の下に水が溜ま ることがありますが、これは室内の湿気が凝縮し、排出されたものです。これは結露が原因です。

**絶対に自分でエアコンディショナーシステムの配管類を外さないでください。**目や皮膚に思わぬ怪我を負うことあがあり非常に危険です。

## 冷媒

59952

冷媒流体回路（一部の成分は密閉されています）には、フッ素化された温室効果ガスが含まれている可能性があります。

車種によっては、エンジンルーム内に貼付されたラベル***A***に次の情報が記載されています。

ラベル ***A*** のにある情報の有無やラベルの場所は、車両に応じて異なります。

**冷媒の種類**

**（XXX）エアコンディショナ回路のオイルの種類**

**可燃物**

**取扱説明書をご覧ください**

**点検整備**

| | |
|---|---|
| x.xxx kg | **（1）**車両内の冷媒流体量。 |
| GWP xxxxx | **（2）**地球温暖化への寄与度。 |
| CO2 eq x.xxxt | **（3）**CO2換算重量。 |

## 追加情報

ラベルおよび冷媒の種類に応じて:

**冷媒R-1234yf**

– **（1）**1.150 kg
– **（2）**GWP 0,501
– **（3）**0.0006 t

**絶対に自分でエアコンディショナーシステムの配管類を外さないでください。**この液体は目や皮膚に危険です。

4

# エアベンチレータ、ヒーター、エアコン

エンジンルーム内で作業を実施する前には、イグニッション➔ **153**を必ず切ってください。

4

# マルチメディア装備

## はじめに

これらの設備の有無と取り付けスペースは、車種によります。

***1.*** マルチメディア画面。

***2.*** 上部センターコンソールのUSB-Cマルチメディアソケット。

***3.*** ステアリングコラムコントロール。

***4.*** 音声コマンド。

***5.*** リアシート乗員用 USB-C マルチメディアポート。

ⓘ 詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

## 「USB-C」マルチメディアポート

マルチメディアポートUSB-C***2***および***5***は、各ソケットごとに最大15W（5V）でアクセサリーの充電に使用できます。

**注意:**USB-Cマルチメディアポート***2***はデータ転送にも使用できます。

ⓘ アクセサリの配線（例：smartphoneの充電配線など）をUSBポートに接続した場合は、使用後に必ず配線を取り外してください。
**ケーブルの端部を金属製の物体（シガレットライターなど）に触れさせると、ショートが生じ、USBポートに損傷が及ぶ危険があります。**

## マイク6

（電話および音声アシスタント用）

**電話の使用方法**
これらの機器の使用に際し ては、現行法規を順守して ください。

## 誘導充電ゾーン7

車両によっては、ゾーン*7*に磁気装置*8*➔ **0**が装備されています。

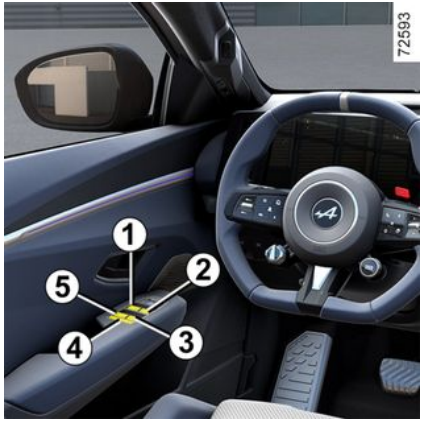
走行の際には、カップホルダに収めた容器が倒れないよう、正しく閉じてください。
**液体がこぼれると、周りの電気装置／電子機器が故障する恐れがあります。**

## パワーウインドウ

**これらのシステムは** イグニッションスイッチの ON/OFF にかかわらず、いずれかのフロントドアが開けられるまで作動します（約 3 分間）。

**ドライバーの責務**
たとえ短い時間でも絶対に、お子様、支援が必要な大人、またはペットを車内に残して、 カードまたはキーを車内に置いたまま、お車から離れないでください。
お子様（やペット）がエンジンを始動したり、パワーウインドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険です。
体の一部をはさみ込まれた場合は、該当スイッチを押してすぐにウインドウを下ろしてください。
**大ケガを負う危険があります。**

## ワンタッチ式パワーウインドウ




ウインドウガラススイッチを一番奥まで短くプレスまたは引いてください。ウインドウガラスは全開または全閉されます。作動中にパワーウインドウスイッチに触れると作動が停止します。

**注意:**後部のウインドウは全開になりません。

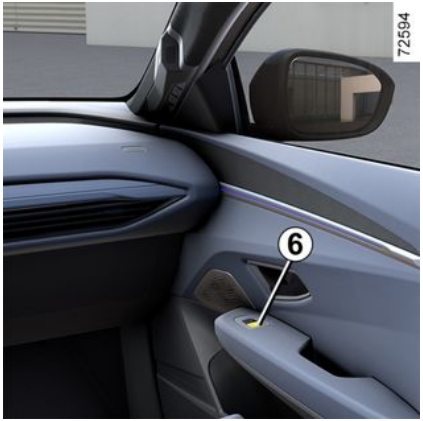
運転席からスイッチを押します:

***1.*** 運転席側

***2.*** 助手席側

***3.*** および***5***後部座席用。

助手席から、スイッチ***6***を押します。




半開きのウインドウガラスに物を置かないでください。電動ウインドウガラスが損傷するおそれがあります。

### 乗員の安全

ドライバーはスイッチ***4***を押して、後部座席のパワーウインドウの操作を無効にすることができます。メーターパネルにメッセ ージが表示されます。

**注意:**ウインドウガラスがほぼ閉じた状態で抵抗（木の枝など）を検知すると、ウインドウは作動を停止して数センチ下がります。

### ワンタッチパワーウインドウを作動できない

ワンタッチ電動ウインドウガラスには熱保護機能が装備されています。パワーウインドウスイッチを16回以上連続して押すと、保護モード（ウインドウがロックされます）になります。

次のようなことができます:

– パワーウインドウスイッチを短く、約 30 秒間隔で使用します。
– エンジンが作動している状態で、パワーウインドウスイッチの約 20 分後にウインドウがロック解除されます。

### リモコンによるウインドウの開閉操作

ドアを外側からロック解除する場合は、**カードのロック解除ボタンを押し続ける**と、ワンタッチ式の電動ウインドウを装備するウインドウがすべて、自動的に開きます。

ドアを外側からロックする場合は、**カードのロックボタンを押し続ける**と、ワンタッチ式の電動ウインドウを装備するウインドウがすべて、自動的に閉じます。

車両がはっきりと見える状態で、かつ車内に誰もいない場合のみ、このシステムを操作することを推奨します。

ウィンドーを閉めたときは、体の一部（腕、手など）が車両から突き出ていないことを確認します。

**大ケガを負う危険があります。**

### 作動異常

ウインドウガラスを閉じる際に故障が発生した場合、システムは通常モードに戻ります。該当するスイッチを必要なだけ上に引き、ウインドウガラスが完全に閉まるまで操作してください（ウインドウガラスは徐々に閉まります）。その後、スイッチを閉じる側で1秒間保持し、システムを初期化するためにウインドウガラスを完全に下げてから再度完全に上げてください。

必要に応じて、指定サービス工場にお問い合わせください。

## ルームランプ

### マップランプ

（車種によります）

マップランプ***1***、***2***、または***3***をタッチして、点灯させます。

– 常時点灯、
– すぐに消灯します。

**注意:**

– ランプをオンまたはオフにするには、ランプを押す必要はありません。連絡する必要がある場合のみ。
– マルチメディア画面を使用して、ドアを開いた際のマップランプの点灯を有効/無効にできます ➔ 132。

ドアのロックを解除して開けると、ルームランプとフロアーランプが一時的に点灯します。

## ラゲッジルームランプ

ランプ***4***はトランクを開けると点灯します。

## サンバイザ、ミラー

### サンバイザー

サンバイザー***5***を下ろしてフロントウインドウを覆うか、クリップを外してサイドウインドウ側に動かします。

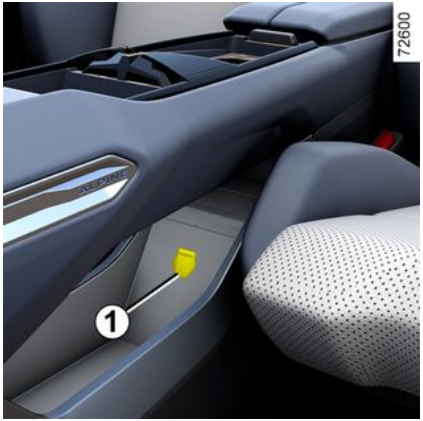
### バニティミラー

カバー***6***を持ち上げます。

照明***7***は自動です。

## アクセサリ電源

### アクセサリソケット *1*




これはアクセサリ接続用です。

タイヤ空気充填キットのコンプレッサに使用できます（例えば ➔ 342）。

> ⚠ 最大消費電力が120W（12V）のアクセサリーのみ接続してください。
> **火災の恐れがあります。**

# 各部の収納スペース

## フロントドアポケット1

フロア（ドライバーの前）には物を置かないようにしてください。急ブレーキングが必要なときに、物がペダルの下にスライドしてペダルの使用を妨げる危険があります。

## センターコンソールの収納ボックスまたは非接触充電ゾーン *2*

車両によっては、ゾーン ***2*** に磁気装置 ***3*** が装備されています。この装置は、磁気技術が装備されているか、互換性のある（磁気）ケースが装備されている場合にスマートフォンを定位置に保持する設計の装置です。このシステムは、デバイスの充電を最適化しながら、安定した接続を可能にします。

誘導充電ゾーンの詳細については、マルチメディアの指示を参照してください。

走行の際には、カップホルダに収めた容器が倒れないよう、正しく閉じてください。
**液体がこぼれると、周りの電気装置／電子機器が故障する恐れがあります。**

携帯電話を充電している間は、誘導充電エリア***2***に物（起動カード、USB メモリースティック、 SD カード、クレジットカード、宝石、鍵、コインなど）を置かないようにしてください。充電の際には、磁気カードやクレジットカード類をすべて電話ケースから取り出した後に、非接触充電エリア ***2*** 上に電話を位置決めしてください。

# 各部の収納スペース

誘導充電ゾーン *2* 内に物を置くと過熱する恐れがあります。この目的のために用意されているエリアに置くように求めるメッセージが表示されます（収納ボックス、サンバイザー収納ボックスなど）。

## センターコンソールの収納ボックス *4*

## カップホルダ *5*

走行の際には、カップホルダに収めた容器が倒れないよう、正しく閉じてください。
**液体がこぼれると、周りの電気装置／電子機器が故障する恐れがあります。**

## センターアームレストグローブボックス *7*

ロック解除ボタン*6*をプレスします。

アームレスト収納スペースのカバーは、*A*の方向に自動的に持ち上がります。

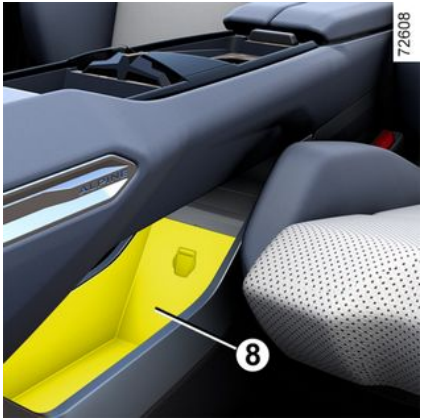
堅くて重いものや先のとがったものは絶対に蓋のない収納部に入れないでください。このようなものが入っていると、急角度で曲がったり、急ブレーキをかけたりしたときに、飛び出して乗員がケガをするおそれがあります。

カップホルダに入れた容器が、カーブを曲がったり、加速やブレーキをかけた際に外れないように注意してください。
**熱いものがこぼれると、火傷をするおそれがあります。**

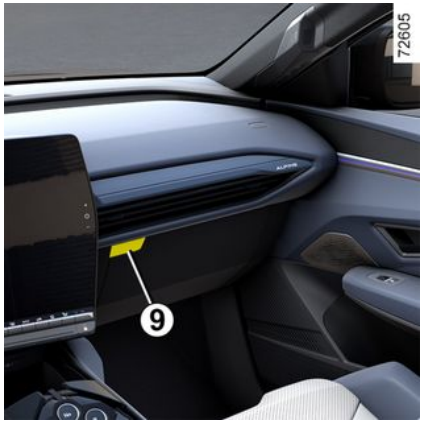
# 各部の収納スペース

airbag の適正作動に影響を及ぼしたり、作動時の負傷につながったりする恐れがあるため、センターアームレストグローブボックス *7* 上に物を置かないでください。

## センターアームレスト下の収納スペース *8*




## グローブボックス




開けるときは、ハンドル*9*を押します。

ここには、ティッシュボックス、ボトルウォーターなどを収納できます。

## アシストグリップ *10*

これはサポートを提供し、車両が走行中に握ることができます。

車の乗り降りの際に、取っ手 として使用しないでください。

# 各部の収納スペース

## リアドア収納 *11*

## 収納ポケット12

（車種によります）

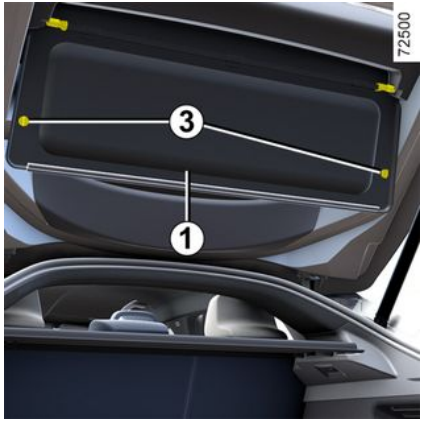
⚠ 堅くて重いものや先のとがったものは絶対に蓋のない収納部に入れないでください。このようなものが入っていると、急角度で曲がったり、急ブレーキをかけたりしたときに、飛び出して乗員がケガをするおそれがあります。

## トランクルーム内の収納

### リアパーセルシェルフ

これは2つの部分で構成されています。

– 可動棚***1***
– 固定棚***2***。




可動棚***1***取り外し方法：

– 4分の2回転分開く***3***、
– 可動棚***1***を下方向に引いてクリップを外してください。

固定棚***2***の取り外し：

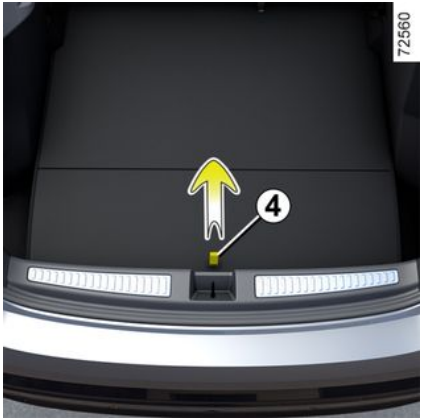
– リアヘッドレストを下げます。
– 固定棚***2***を上方向に持ち上げてクリップを外します。

> ⓘ リアパーセルシェルフの最大積載重量：2 kg（均等に分散）

取付けは、取外しと逆の順序で行います。

リアパーセルシェルフには 重い物や固い物を置かない でください。
急ブレーキや事故の際に、車両の乗員がけがをする恐れがあり大 変危険です。

## 充電ケーブルの収納トレー



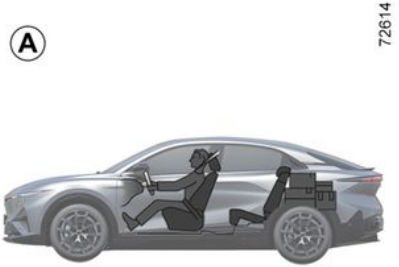

このトレーは充電配線用です。トレイの最大許容荷重は15 kgです。

アクセスするには、トランクルームを開き、ハンドル ***4*** を使用してトランクカーペットを持ち上げます。

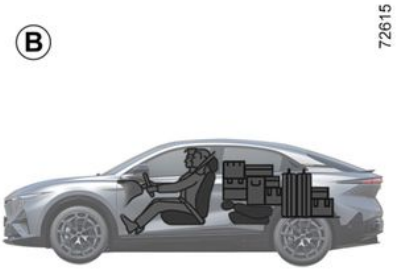
充電ケーブル収納トレイに水が溜まっている場合や、充電ケーブルコネクタまたは車両の充電ソケットに腐食の兆候または異物が存在する場合は、車両を充電しないでください。
**火災の恐れがあります。**
ケーブルの取り扱いに注意:ケーブルを踏まない、水に浸さない、引っ張らない、物をぶつけないでください。
収納トレイを定期的に点検し、清掃してください。

## ラゲッジルームへの荷物の積み込み

ラゲッジルームに荷物を積み込むときは、次にようにしてください：




– 通常の荷物の積載には、リアシートの背もたれに接するようにする（例 ***A***）。



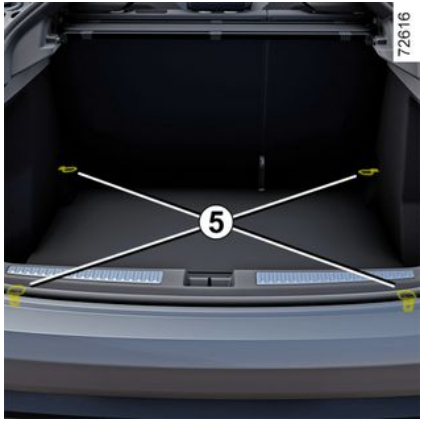
# 荷物を積み込む

– 積載量を最大化するためにリアシートの背もたれを折り畳む場合は、フロントシートの背に接するようにする（例***B***）。

輸送する物が積載エリア全体に均等に分散されている必要があります。

折りたたんだ背もたれの上に荷物を置く場合は、背もたれを折りたたむ前に必ずヘッドレストを収納し、できるだけぴったりと背もたれを座面に押し付けてください。

**背もたれを元の位置に戻す ときは**、背もたれがしっか りとロックされていること を確かめてください。
**シートカバーを使用する場合は**、背もたれのロックが妨げられないように気をつけてください。
シートベルトが正しい位置にあるか確かめてください。
ヘッドレストを元の位置に戻します。ヘッドレストは安全装置のひとつです。 必ず取り付けて、適切な高さに調節してください。




必ず重い荷物が一番下にな るように積み込んでくださ い。ラゲッジルームフロアにフック***5***が装着されている車両では、これを使用します。急ブレーキのときに荷物が前方に 飛び出して乗員にけがを負わせな いよう、荷物はしっかりと固定し て積んでください。リアシートに乗員がいない場合で も、ラゲッジルームに荷物を積む ときは、シートベルトのバックル を締めておいてください。

## けん引装置

**許容ノーズ荷重、ブレーキ付きまたはブレーキなしトレーラーの許容最大けん引重量：➔ 368.**

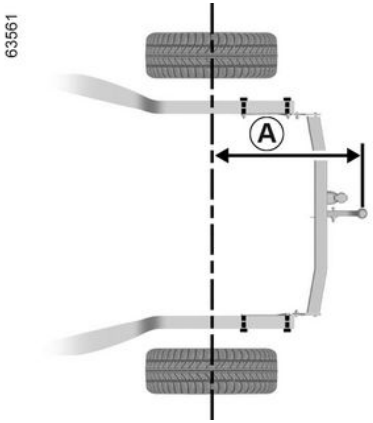
**けん引装置の選択と取り付け**

車両に元々装着されていないけん引装置（クロスメンバおよびヒッチ）：けん引装置全体および固定具の重量は21kgを超えてはなりません。

いかなるけん引装置も未使用時にランプやナンバープレートを妨げてはなりません。

あらゆるケースで、滞在国の規則に従わなければなりません。

取付け方法と使用方法は、製品付属の説明書を参照してください。これらの説明書は他の車両ドキュメントと一緒に保管してください。




最大サイズ ***A***：1107 mm。

## 運搬機器

### 使用時の注意

**テールゲートの使用**

テールゲートを使用する前に、ルーフバーに取り付けられている荷物および／またはアクセサリー（サイクルキャリア、ルーフボックスなど）を点検してください。それらは適切に整理・固定され、テールゲートの操作の妨げにならないようにしなければなりません。

> ⓘ 運搬物は、積載箇所全体に均等に配置してください。

### ルーフ取付け型の運搬装置

> ⓘ お車に合った装備をお探しの際には、お近くの指定サービス工場にご相談ください。この部品の取付けや取扱いの方法について、部品に付属の取扱説明書をご覧ください。
> これらの説明書は他の車両ドキュメントと一緒に保管してください。

**取付け箇所を備えた車両**

ドアを開けて、固定ポイント***1***にアクセスします。

**ルーフの最大許容重量：**80 kg（積載装置を含む）。

> ⚠ ルノーのテクニカルサービスが認可している純正ルーフバーには、専用ボルトが付いています。車両にルーフバーを取り付ける際は、必ずこの専用ボルトをお使いください。

## ボンネット

### ボンネット安全ロックの解除

開けるには、ダッシュボード左手にあるハンドル ***1*** を引きます。

車両の充電中、またはイグニッションのスイッチが入っている間は、ボンネットの下で作業を行わないでください。

ボンネットに圧力をかけるのはお止めください。誤ってボンネットが閉まる危険があります。

ボンネットを数センチ持ち上げ、レバー ***2*** を左に押します。

衝突した場合は、グリルやボンネットに軽く当たっただけであっても、できるだけ早くルノー指定サービス工場でボンネットのロックシステムの点検を受けてください。

電気自動車の駆動システムは高電圧電流を使用します。
このシステムは、イグニッションのオフ中およびオフ後に熱くなることがあります。
車両のラベルに表示される警告メッセージを尊重します。
車両の「高電圧」電気系統（部品、配線、コネクタ、トラクションバッテリ）での作業や変更は、固く禁じられています。
**重度の火傷や感電のリスクは、死に至る可能性があります。**
さらに、クーリングファンが突然作動することがあります。これは、エンジンルーム内の ラベルによって、これを思い出させてくれます。
**場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。**

## ボンネットの開き方

ボンネットを持ち上げ、ストラット ***4*** を固定具 ***3*** から取り外した場合は、安全のため、***必ず*** ストラットを定位置 ***5*** においてください。

## ボンネットの閉じ方

ボンネットを閉じる前に、エンジンルーム内に何も置き忘れていないことを確認してください。

ボンネットを閉じる際は、ストラット ***4*** を固定具 ***3*** に再度取り付けます。ボンネットの中央部を手で支えながら ボンネットを下ろし、閉じる位置の約 30 センチ上ぐらいのところで手を離 します。ボンネットは自重で閉まり施錠されます。

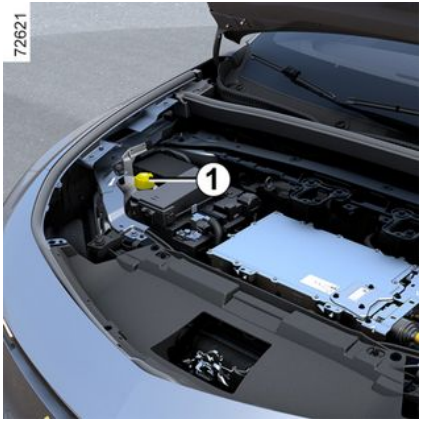
エンジンルームで作業を行う際は、フロントワイパーレバーが停止のポジションにあることを確認してください。
**場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。**

ボンネットが確実にロックされていることを確認します。
ロックを妨げる障害物（グリット、布など）がないことを確認します。

エンジンルームの点検後は、中に布や工具等を置き忘れないようご注意ください。
さもないと、エンジンを傷めたり、火災が発生する恐れがあります。

## レベル：

### エンジン冷却水




リザーバー***1***は、エンジンとトラクションバッテリの冷却に使用されます。

エンジンを停止し、平坦な場所でオイルレベルを点検してください。各リザーバーについて、液面は**冷間時**クーラントリザーバー***1***の「MINI」と「MAXI」の間にある必要があります。

冷却水は、水量が「MINI」のマークに達する前に、**冷えた状態で**充填してください。

**注意:**慣らし運転中の新車の場合：液面がリザーバータンクの「MAXI」のマークより高くなることがありますが、その後、液面が「MINI」と「MAXI」の間まで下がることがあります。この作業には危険は伴いません。

オイル消費量が異常に低下したり、頻繁に低下する場合は、認定ディーラにご相談ください。

エンジンが熱いうちは、クーリング回路での作業を実施しないでください。
**やけどをするおそれがあり ます。**

電気自動車の駆動システムは高電圧電流を使用します。
このシステムは、イグニッションのオフ中およびオフ後に熱くなることがあります。
車両のラベルに表示される警告メッセージを尊重します。
車両の「高電圧」電気系統（部品、配線、コネクタ、トラクションバッテリ）での作業や変更は、固く禁じられています。
**重度の火傷や感電のリスクは、死に至る可能性があります。**
さらに、クーリングファンが突然作動することがあります。これは、エンジンルーム内の ラベルによって、これを思い出させてくれます。
**場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。**

**クーラントレベルの点検頻度**

**冷却水レベルを定期的に点検してください**（冷却水の不足は、エンジンとバッテリを大幅に劣化させる恐れがあります）。

補充には必ずメーカー推奨クーラントをご使用ください。メーカー推奨クーラントは以下の成分を含んでいます：

- 冷却回路の凍結防止
- 冷却水系統の錆止め

**交換時期**

整備手帳を参照してください。

車両の充電中、またはイグニッションのスイッチが入っている間は、ボンネットの下で作業を行わないでください。

エンジンルームで作業を行う際は、フロントワイパーレバーが停止のポジションにあることを確認してください。
**場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。**

## ブレーキ液

エンジンを停止し、平坦な場所でオイルレベルを点検してください。ブレーキ液はできるだけこまめに点検 してください。またブレーキの効き具 合に少しでも異常を感じたら必ず点検 してください。

**交換時期**

整備手帳を参照してください。

オイル消費量が異常に低下したり、頻繁に低下する場合は、認定ディーラにご相談ください。

### ブレーキ液の補充

ブレーキ油圧系統に何らかの整備を実施したら、必ず専門家にブレーキ液を交換してもらってください。補充するときは、必ず（シールされたボトルの）メーカー推奨ブレーキ液をご使用ください。

### レベル *1*

通常はブレーキパッドが消耗するとブレーキ液レベルも下がりますが、絶対に「MINI」の警告ラインを下回らないようにしてください。

ご自分でディスクの摩耗状態を点検する場合は、指定サービス工場またはメーカーのウェブサイトから、点検手順を記載した文書を入手してください。



## ウインドウウォッシャータンク

### ブレーキ液の補充

キャップ*2*を開いて、液面が見えるようになるまで補充し、キャップを閉めます。

### ウォッシャー液

必ず、不凍液含有のフロントウィンドウウォッシャー液をお使いください。

認定ディーラか適格専門スタッフへのご相談をおすすめします。

**注意:**硬水は使用しないでください（プライミングポンプに損傷を与えたり、ポンプやジェットに石灰が堆積するリスクがあります）。

# バッテリー：

## 12 V バッテリ

12 Vバッテリは、車両装備（照明、ウィンドウワイパ、オーディオシステムなど）や、ブレーキアシストに代表される特定の安全確保システムの作動に必要な電力を供給します。

**バッテリを開いたり、液を追加したりしないでください。**

車両の充電中、またはイグニッションのスイッチが入っている間は、ボンネットの下で作業を行わないでください。

## メンテナンスと交換

12 V バッテリ ***1*** の充電残量は、特に、お使いの車両を次のような状況で使用すると少なくなり得ます。

– 外気温が低下したとき
– エンジンを停止した状態で、電力を消費するデバイスを長時間使用した後。

お客様の安全を確保し、車両電装品（灯火類、フロントワイパ、ブレーキアシストなど）を正しく作動させるため、「12 V」バッテリ絡みの作業（取外し、切離しなど）は、**必ず**有資格専門作業員に行わせてください。
重大なやけどまたは感電の危険性があります。
メンテナンス資料に記載された交換間隔に（超過なく）従う**必要があります**。
バッテリは専用タイプです。同型のバッテリと交換してください。
認定ディーラにご連絡ください。

電気自動車の駆動システムは高電圧電流を使用します。
このシステムは、イグニッションのオフ中およびオフ後に熱くなることがあります。
車両のラベルに表示される警告メッセージを尊重します。
車両の「高電圧」電気系統（部品、配線、コネクタ、トラクションバッテリ）での作業や変更は、固く禁じられています。
**重度の火傷や感電のリスクは、死に至る可能性があります。**
さらに、クーリングファンが突然作動することがあります。これは、エンジンルーム内の 警告灯により、通知されます。
**場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。**

5

# バッテリー：

## ラベル A

バッテリーに記載されている次の注意事項を守ってください。

***2.*** 火気厳禁、禁煙。

***3.*** 必ず目を保護すること。

***4.*** 子供を近づけないこと。

***5.*** 爆発性物質。

***6.*** マニュアルを参照してください。

***7.*** 腐食性物質

## 車両故障時の対処の仕方

車両の損傷を避けるため、次のものを用いて補助 12 V バッテリを充電するのはお止めください。

– 外部バッテリチャージャを使用する。

– 他の車両のバッテリを使用する。

正規サービス工場にご連絡ください。

12V バッテリの切離しは禁じられています。
**重大なやけどまたは感電の危険性があります。**

お使いの電気自動車を使用して、別の車両の 12 Vバッテリを再始動するのはお止めください。電気自動車の 12 V 電力では、この作業に十分に対応できません。
車両に損傷を与える危険性があります。

# クリーニング

## ボディのメンテナンス

お手入れを欠かさないことで、お車を長持ちさせることができます。日頃からのボディのお手入れをおすすめします。

車両には高性能の防錆塗装が施されています。しかしながら、さまざまな要因によって影響を受けることがあります。

**大気中の腐食物質**

– 大気汚染物質（人口密集地域や工業地帯）、
– 海岸沿いの地域（特に夏季）の大気中の塩分、
– 凍結防止剤の散布や路面清掃の散水などの季節的条件や高湿度の天候条件

**接触事故**

**研磨剤**

大気中の埃、砂、泥や他車による飛び石など

これらのリスクから守るために、最低限の予防策を講じてください。

## ボディのお手入れ

**洗車時はエンジンを停止**し、テクニカルサービス推奨のシャンプーをお使いの上こまめに洗車を行ってください。（研磨剤入りの洗剤は使わないでください。）前もってジェットウォッシャーを使用して十分に洗い流してください。

– 樹木の樹脂や産業による汚染物質。
– 泥が付着していると水分を吸収し、錆が発生しやすくなります。ホイールハウス内側やボディ下側など泥が付きやすいところをよく洗ってください。
– **鳥の糞（塗料と化学反応を起こして塗装の変色を促進し、最終的には塗装が剥がれます）。**

こうした跡を見つけたら**直ちに**洗い流してください。放置すると研磨しても取り除けないようになります

– 凍結防止剤が散布された道路を走行したあとは、ホイールハウス内側やボディ下側を特によく洗ってください。

車両から落ち葉（樹液、樹膜など）を定期的に除去します。

砂利道を走行するときは、塗装面を傷つけないようにするため、前車との車間距離を十分にとってください。

塗装面が傷ついたら、できるだけ早 く修理を受けるか、タッチアップペ イントなどで補修してください。錆 が広がるのをくい止めることができ ます。

防錆保証対象車の場合、忘れ ずに定期点検を受けてください。整備手帳を参照してくだ さい。

洗車をする場合には、現地の規制に従ってください（公道での洗車禁止等）。

高圧洗浄装置で車両を洗浄する場合は、次の注意事項を踏まえて行ってください。

– 車両の塗装、洗浄箇所または洗浄コンポーネントが、高圧洗浄装置で洗浄可能なものか確認してください。
– 高圧洗浄装置の圧力は 100 bar 未満でなければなりません。
– 洗浄時には、噴射ノズルを、車両から 15cm 以上離して使用し、水量も、1 分あたり 15 L 未満にしてください。
– （塗装に傷が付いたりシールが剥がれたりする危険があるため）同じ箇所、衝突痕のある箇所、またはシールの連続洗浄はお止めください。

機械部品やヒンジ部などを洗浄した場合は、必ずテクニカルサービス認可のケア製品をスプレーして性能を維持するようにしてください。

> ⓘ ルノー販売店でお求めになれる専用のケア製品を選びました。

## ボディのお手入れに関する注意

日差しの強い日や凍える日に洗車し ないでください。

泥や汚れは無理に削り落とさずに、 水で洗い流してください。

汚れやごみを付着したままで放置し ないでください。

傷から発生する錆を放置しないでく だ さい。

# クリーニング

メーカーが推奨するもの以外の溶剤を用いて汚れを取り除こうとしないでください。塗装面を傷めるおそれ があります。

特にホイールアーチやボディの下回りなど、雪や泥が付いた状態で走行しないでください。

高圧洗浄や、メーカーが推奨するスプレー洗浄液以外などで脱脂や洗浄をしないでください:

– 機会部品（エンジンルーム内の機械部品など）。
– 車輪（ブレーキキャリパーなどのブレーキシステムコンポーネントなど）。
– ボディ下側。
– ヒンジ付き部品類（例: ドアの内側）。
– 塗装したバンパーなど樹脂製の外装部品

これらは、錆の発生や故障を招くおそれがあります。

## マット塗装の車両の特性

このタイプの塗装には一定の注意が必要です。

## ボディのお手入れ

やわらかい布やスポンジなどを使用して、十分な水で車両を手洗いしてください。

## ボディのお手入れに関する注意

ワックス（艶出し）を原料とした製品の使用。

強い摩擦を与える。

洗車機に車両を通す。

塗装にステッカー類を貼り付ける（跡が残るおそれがあります）。

高圧洗浄装置を使用した洗車

## 洗車機使用の場合

車両を適切に保ち損傷を防ぐため、以下の指示および洗車場で示されている指示を遵守してください。

– ワイパーレバーをオフ位置➔ 149に戻します。
– すべての開閉部およびウインドウを閉じます。
– 外装品（追加ヘッドランプ等）の取付けを点検します。
– アンテナがある場合は取り外してください。
– 可能であればドアミラーを格納してください。
– ルーフバーやサイクルキャリアなどのアクセサリーを取り外してください。

**注意:**車両によっては、洗浄後、アンテナをできるだけ奥までねじ込んで再取付けすることを忘れないでください。

**車両の洗浄**
エンジンルーム、充電接続部、トラクションバッテリを高圧ジェットで絶対に洗わないでください。
**電気回路を損傷する危険があります。**
充電中は車両を絶対に洗浄しないでください。
**感電により死亡するおそれがあります。**

## ヘッドランプ、テールランプ、センサ、カメラのクリーニング

必ず柔らかい布で拭いてください。

十分でない場合は、石鹸水で布を湿らせ、柔らかい布または綿毛で洗い流してください。

最後に、柔らかい布でそっと乾拭きしてください。

**アルコール系製品や器具（例: スクレーパーなど）の使用は禁止されています。**

# クリーニング

## クリーニングステッカー、装飾フィルムなど

## ボディのお手入れ

必ず柔らかい布で拭いてください。

石鹸水で少し湿らせてから、いつも柔らかい布やコットンできれいに拭いてください。

最後に、柔らかい布でそっと乾拭きしてください。

## ボディのお手入れに関する注意

アルコール系洗浄剤を使用してください。

工具（スクレーパーなど）を使用します。

強い摩擦を与える。

高圧洗浄装置を使用した洗車

## 内装のお手入れ

お手入れを欠かさないことで、お車を長持ちさせることができます。日頃からの内装のお手入れをおすすめします。

汚れは直ちに取り除いてください。

どのような汚れに対しても、必ず**天然石けんと冷水（またはぬるま湯）で作った石けん水**をお使いください。

**食器用洗剤、粉末洗剤、アルコールを含んだ溶剤は使用しないでください。**

必ず柔らかい布で拭いてください。

すすぎ、余分な水を拭き取ります。

## マルチメディア画面

画面のメンテナンスは、マルチメディア機器のタイプによって異なる場合があります。詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

## 計器類の透明カバー

（例: インストルメントパネル、時計、外気温計など）。

必ず柔らかい布で拭いてください。

汚れが落ちないときは、石けん水を少量含ませた布で拭き、その後水で濡らした別の柔らかい布で拭き取ってください。

最後に、柔らかい布で**そっと**乾拭きしてください。

**アルコールを含む製品やスプレーはこのエリアに使用しないでください。**

## シートベルト

シートベルトは常に清潔にしておきましょう。

ルノー認定製品（ルノーショップ）または石鹸水（ぬるま湯）をスポンジにつけて拭き、乾いた布で拭き取ります。

**溶剤や染料は絶対に使用しないでください。**

## 布地（シート、ドアトリムなど）

**定期的に**埃を取り除くようにしてください。

**液体の汚れ**

石けん水を使用してください。

液体を柔らかい布に含ませるか（こすらずに）軽く叩いて拭き取ってから、水拭きをし、最後に余分な水分を拭き取ってください。

**固形の汚れや粘着質の汚れ**

ヘラを使って、**直ちに**固形の汚れや粘着質の汚れを慎重に落とします（汚れが広がらないように外側から内側に向かってヘラを動かします）。

液体汚れの場合は、指示に従って清掃します。

**飴やチューインガムについての注意事項**

汚れの上に氷を当てて固まらせます。その後は固形の汚れと同じ手順です。

内装のお手入れについてアドバイスをお受けになりたい場合、または満足の行くようにお手入れできなかった場合は、正規ディーラーまでご相談ください。

## 取り外し可能な車内装備の取り付け／取り外し



汚れを取り除くために、取り外し可能な装備（フロアマットなど）を取り外した場合は、装備を正しい側に（例えば運転席側フロアマットは運転席側に）正確に取り付け、所定のパーツでしっかりと固定（例：必ずもとから付いていた固定具を使って運転席フロアマットを固定）してください。

必ず停車した状態で、運転の妨げになるものがないか確認してください（ペダルの下に障害物がないか、足がフロアマットに引っかからないかなど）。

## ボディのお手入れに関する注意

防臭剤や香水などを吹き出し口の付近に置くこと。ダッシュボードのトリムを傷める恐れがあります。

車内で高圧洗浄機やスプレーを使用すること。

車内の電気系統またはコンピューターの機能を低下させたり、故障の原因となったりする可能性があります。

## タイヤ

### タイヤのメンテナンス

タイヤは車と地面とを結ぶ唯一の接点です。したがって安全な走行のためにはタイヤを常に良好な状態に維持することが大切です。

タイヤは、地域の道路交通法で定められている規制に準拠する必要があります。

タイヤは、良好な状態で、タイヤ接地面（トレッド）の溝にも十分な深さがなかればなりません。ルノー技術部門認定タイヤは、**タイヤの摩耗状態を示すためにトレッドの数カ所に設けられている**摩耗警告ストラップ ***1*** も備えています。

トレッドが磨耗すると、摩耗インジケータが現われ、タイヤ交換が必要だと一目でわかります ***2***。**摩耗インジケータが現れた状態では、トレッドの溝の深さが最大でも約 1.6 mm しかない状態に達しており、滑りやすく濡れた路面などでは十分な排水ができず正常なグリップ力を発揮できない状態にあるため、必ずタイヤを交換してください。**

また荷物の積み過ぎや夏期の長距離走行、高速走行あるいは悪路の走行などはタイヤの摩耗や劣化を早めます。安全のためタイヤはこまめに点検しましょう。

「歩道にあたる」など運転中のトラブルにより、タイヤやリムが損傷したり、フロントまたはリアアクスルの調整不良を引き起こしたりします。このような場合は、ルノー指 定サービス工場で点検を受けてく ださい。

### タイヤ空気圧

タイヤの空気圧の仕様に準拠します。少なくとも毎月1回、または長距離走行をする前はタイヤ空気圧を点検してください（運転席側のドアに貼ってあるラベルをご覧ください）➔ **341**。

**タイヤ空気圧が適正でないと、**タイヤが異常に磨耗したり、異常に熱くなったりします。これらは、安全性に重大な影響を及ぼし、次の原因につながる可能性がある要因です。

– ロードホールディングが低下します。

– バーストやトレッドのはく離が起こるおそれがあります。

適切なタイヤ空気圧は、積載重量と走行速度によって異なります。車の使用状況に応じて空気圧を調整してください（運転席ドアのサイドに貼ってあるラベルを参照）。

空気圧の点検はタイヤが冷えているときに行ってください。気温の高いときや高速走行後、タイヤがまだ暖まった状態の時はタイヤ空気圧は通常よりも高くなっています。

**タイヤが冷えており空気圧を点検できない場合は、推奨空気圧より 0.2 から 0.3 bar（3 PSI） 高めに調整してください。**

**温間時にタイヤの空気は絶対に抜かないでください。**

注意:バルブキャップがなかったり締め方が悪かったりすると、タイヤの気密性が損なわれてタイヤ空気圧が低下することがあります。
バルブキャップを必ず元のバルブに装着し、完全に締めてください。

**タイヤ空気圧監視システム装備車両**
（パンクや空気圧不足などにより）タイヤの空気圧が基準を下回ると、警告灯がインストルメントパネル ➔ 178 上に表示されます。

フロントホイール（タイヤ／リム）とリアホイールを交換することは禁止されています。

## タイヤの交換

新品のタイヤの取り付けについては、認定ディーラまでお問い合わせください。

安全性を守り、道路交通法に従うために：
タイヤを交換する場合は、必ず元のタイヤと同じメーカー、サイズ、タイプ、アクスルのものを取付けてください。
**交換後のタイヤは、少なくとも耐荷重と速度定格が元のタイヤと同じであるか、認定ディーラ推奨のものでなければなりません。**
これらの指示に従わなかった場合、安全性が損なわれると共に車両の適合性を無効にする可能性があります。
**車両制御の喪失の危険性があります。**

## 冬期の使用

### チェーン

標準装備のタイヤよりも大きなサイズのタイヤを取り付けると、**チェーンが装着できなくなります。**

### 一方向タイヤ

一方向タイヤは、一方向にのみ取り付けてください。この方向を守らなければなりません。

一方向タイヤをパンク後の回転方向とは反対側に取り付ける必要がある場合は、特に濡れた道路では注意が必要です。タイヤの仕様が適合しないためです。

**専用装備**を使用される場合は、指定サービス工場にお問い合わせください。

### 「スノー」タイヤまたは「スタッドレス」タイヤ

正常なグリップ力を確保するため、**四輪ともに**同一種類のタイヤを装着することをおすすめします。

**注意**: これらのタイヤには回転方向が決められている場合があり、使用可能な設定速度が車両の最高速度より低いことがあります。

チェーンは、**お車に**標準装備されたタイヤと同じサイズのタイヤにしか装着できません。
チェーン装着は可能ですが、専用のチェーンに限ります。指定サービス工場に相談してください。

### スパイクタイヤ

スパイクタイヤはそれぞれの国や地方の法律で定められた期間以外は使用できません。法定制限速度を遵守してください。

スパイクタイヤは最低限フロントホイール両輪に装着してください。

**注:** スノータイヤ、冬期タイヤ、スタッドタイヤの使用時には、車両の走行可能距離が大幅に減少します。

いずれの場合にも、お車に最適な装備を選択させていただくために、ルノー正規サ ービス工場にお問い合わせいただくことをお勧めします。

## タイヤ規定空気圧

### ラベル A

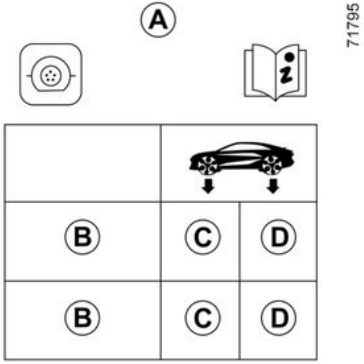
数値を読み取るには、運転席ドアを開けてください。

空気圧の点検はタイヤが冷えているときに行ってください。

タイヤが冷えており空気圧を点検できない場合は、**空気圧を、既定より 0.2 bar から 0.3 bar（または 3** PSI**）高くします。温間時にタイヤの空気は絶対に抜かな いでください。**

タイヤの空気圧は車両の現在の使用に対応していなければいけません（空車時、積載時、高速走行など）。タイヤ空気圧を観察します。タイヤの空気圧は、月に 1 回以上の頻度で点検し、長距離走行前には必ず点検してください。

車両によっては、タイヤへの空気充填またはタイヤ空気圧調整の都度、タイヤ空気圧を基準値にリセットする必要がありますタイヤ空気圧モニターシステム。




***B.*** ：車両に装着されているタイヤの直径

***C.*** ：フロントホイールのタイヤ空気圧。

***D.*** ：リアタイヤの空気圧（高速走行時）。

**タイヤ空気圧監視システム装備車両**
（パンクや空気圧不足などにより）タイヤの空気圧が基準を下回ると、 警告灯がインストルメントパネル ➔ **178** 上に表示されます。

**タイヤの安全性とチェーンの取り付け:** タイヤの保守条件と、車両バージョン別のチェーンの使用に関する情報 ➔ **339**。

**フルロード(最大許容荷重)でトレーラをけん引する車両**
最高速度が**100 km/h**を**超えないようにし、タイヤ空気圧を0.2バール増やします ➔ 368。タイヤはく離のリスク。**

安全性を守り、道路交通法に従うために：
タイヤを交換する場合は、必ず元のタイヤと同じメーカー、サイズ、タイプ、アクスルのものを取付けてください。
**交換後のタイヤは、少なくとも耐荷重と速度定格が元のタイヤと同じであるか、認定ディーラ推奨のものでなければなりません。**
これらの指示に従わなかった場合、安全性が損なわれると共に車両の適合性を無効にする可能性があります。
**車両制御の喪失の危険性があります。**

## タイヤ空気注入キット

### はじめに

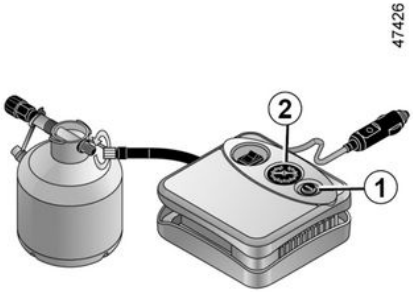
# タイヤ

このキットを使うと、6 mm未満の物が原因でタイヤのトレッド部分 ***A*** に生じた傷を修理できます。6 mm以上の傷やタイヤの側面 ***B*** についた切り傷などにより生じたパンクの修理にはこのキットをお使いいただけません。
ホイールリムが良好な状態にあることも確認してください。
パンクの原因となった異物がタイヤに刺さったままである場合は、それを取り除かないでください。

パンクした状態での走行により損傷したタイヤにはタイヤ空気圧注入キットを使用しないでください。
修理を行う前にはタイヤ側面を入念に点検してください。
また、空気圧の不足したタイヤや、空気が完全に抜けた（またはパンクした）タイヤで走行することは危険であり、タイヤも修理不可能になります。
**これはあくまでも応急処置です。**
パンクしたタイヤは、できるだけ速く専門家に点検（可能なら修理）してもらってください。
このキットを使って修理したタイヤを交換する場合は、そのことを作業員に伝えてください。
走行時、タイヤ内に注入された内容物による振動が感じられることがあります。

このキットは、装備車両のタイヤだけを修理するために認定を受けています。
いかなる場合でも、他の車両のタイヤを修理したり、その他の物（救命具やボートなど）を膨らませることに使用しないでください。
パンク修理剤の製品ボトルを扱う際に、液体が皮膚にかからないようにしてください。もし付着した場合は、大量の水で洗い流してください。
修理キットを子供の手の届くところに放置しないでください。
ボトルは絶対に投棄しないでください。指定サービス工場または回収業者までお届けください。
ボトルの使用期限はボトルに貼られたラベルに記載されています。使用期限を点検してください。
注入チューブとパンク修理剤ボトルを交換するときは、指定サービス工場においでください。

# タイヤ




6

パンク時は、トランクにあるキットをご使用ください。

**タイヤ空気圧監視システム装備車両**
（パンクや空気圧不足などにより）タイヤの空気圧が基準を下回ると、 警告灯がインストルメントパネル ➔ 178 上に表示されます。

**エンジンを回転させ、パーキングブレーキをかけた状態で次の作業を行います。**

– 車両のアクセサリーソケットに接続されているすべてのアクセサリーを切り離します。
– 牽引装置を装備する車両の場合は、必要に応じて連結ソケットの接続を外します。
– 車両のトランクにある**空気注入ボンベキットに関する情報を参考に、**取扱説明に従って作業します。
– タイヤを推奨圧力まで膨張させます ➔ 339。
– **15** 分間を上限として空気を注入したら、注入を止め、（圧力計 ***2*** に表示されている）空気圧を読み取ります。

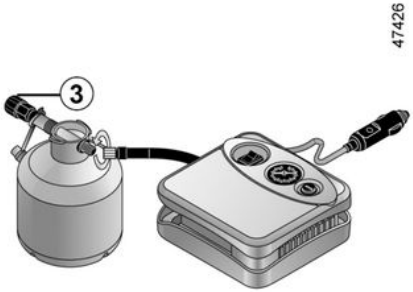
**注: ボンベが空になるまでの間（約 30 秒間）は、圧力計 *2* に表示される値が最大で 6** bar に達することもありますが、ボンベが空になると表示値は下がります。

– 空気圧の調整: 空気圧を上げるにはキットを使って空気注入を続けます。空気圧を下げるにはボタン ***1*** を押します。

**15 分かけても推奨空気圧 1.8 bar にならない場合は、修理不能です。車両を走行させないでください。正規サービス工場にご連絡ください。**

キットを使用する前に車両を交通の妨げにならない場所に移動してハザードランプを点灯し、パーキングブレーキをかけ、車両の全乗員を車から下ろして安全な場所に退避させてください。

道路の脇に車を駐車するときは、三角停止表示板や国の法規で定められた機器を使用して他の車に駐車中であることを知らせる必要があります。




正しい空気圧になるまで空気を注入したら、キットを取り外します。取り外す際には、ボンベ内の残存空気が飛散しないよう注入アダプタのねじをボンベ ***3*** からゆっくり緩め、取り外したボンベは、ボンベ内の空気が漏れ出さないようプラスチック容器に入れて保管します。

– 運転時の推奨事項のラベル（ボンベ下にある）を、ダッシュボード上のドライバーからよく見える場所に貼り付けます。
– キットを収納してください。
– 一回目に空気注入を行った後は、タイヤからまだ空気が漏れます。穴をふさぐために走行を行うことが必要です。
– ただちににエンジンを始動して、20 km/h から 60 km/h の速度で走行し、空気をタイヤ全体に行き渡らせます。3 km ほど走行したら停車して、空気圧を点検します。
– 空気圧が 1,3 bar 以上であっても、規定空気圧以下であれば、規定空気圧に調節します（運転席側ドア側面のラベルを参照）。それ以外の場合は、正規代理店にご連絡ください。タイヤは修理できません。

## キットの使用上の注意

キットは 15 分以上連続して使用しないでください。

液体が残っていてもボンベは使用後に交換する必要があります。

ドライバーの足元には何も置かないでください。急ブレーキなどが必要なときに、ペダルの下に物が滑り込みブレーキ操作の妨げとなる危恐れがあります。

注意:バルブキャップがなかったり締め方が悪かったりすると、タイヤの気密性が損なわれてタイヤ空気圧が低下することがあります。
バルブキャップを必ず元のバルブに装着し、完全に締めてください。

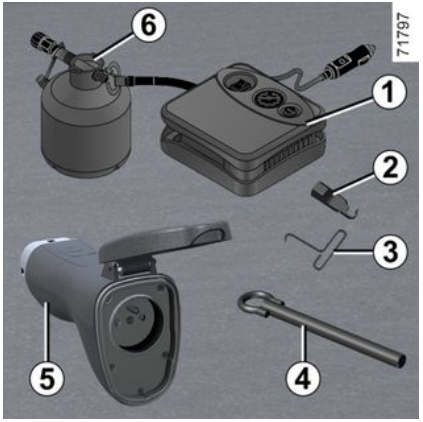
キットで修理した後、200 km 以上走行しないでください。
また、走行速度を抑え、いかなる場合も 80km/h を超えないようにしてください。ダッシュボード上のドライバーからよく見える場所に貼り付ける運転時の推奨事項のラベルが注意を促します。
国または地方の法律により、タイヤ空気注入キットで修理したタイヤは交換しなければならない場合があります。

## ツール

### ツールキットの場所

ツールキットは、トランクフロアマット下にあります。

使用後、ツールが正しく保管されていることを確認してください。




**タイヤ空気充填キット コンプレッサ *1***

➔ 342

**ホイールボルトガイド *2***

**ホイールキャップツール *3***

ホイールキャップを取外すのに使用します。

> ⓘ セントラルキャップを取り付けたり取り外したりするために、ツールを使用する必要はありません。

**牽引リング *4***

➔ 347

**V2L 充電 *5* 用アダプタ**

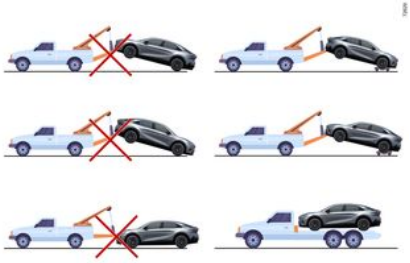
➔ 40

**パンク防止製品の容器 *6***

➔ 342

> ⚠ ツールを車内に放置したまま走行するのはお止めください。**ブレーキをかけたときに飛散する恐れがあるためです。**放置しておくと乗員が**ケガをする**おそれがあるため、使用後はツールキット内に固定して決められた場所に格納してください。

## けん引: 故障車両



必ずけん引に関する現行の規則を守ってください。

車両を牽引したり、プラットフォームトラックで回収したりする場合は、その前に、状況に応じて、ギアコントロールが**N**位置にあることや、パーキングブレーキが解除されていることを確認してください。

次の指示に従います。

– 車内にカードを置き、ブレーキペダルを踏みながらエンジン始動ボタンを押します。
– シフトレバーを **N** ➔ **161** ポジションにします。
– エンジン始動ボタンを押して停止します。
– ブレーキペダルを踏まずに、エンジン始動ボタンを2秒以上押します。アクセサリ機能に電力が供給され、車両のランプ機能（ハザードランプ、ブレーキランプなど）を使用できる状態になります。夜間は、灯火類を点灯してください。「強制アフター イグニッションon」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。
– 運転席シートベルトを締めている場合は、外します。
– 運転席側ドアを開けます
– ブレーキペダルを踏みながらパーキングブレーキを解除します ➔ **167**。「P.ブレーキが ゆるい」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。
– 運転席のドアを閉めます。車両をロックしないでください（「強制アフター イグニッションon」モードをオンにしておく必要があります）。
– けん引が完了したら、ブレーキペダルを踏まずにエンジン始動ボタンを2秒以上押します（バッテリー放電のリスクがあります）。「強制アフター イグニッションon」というメッセージがインストルメントパネルから消えます。

## けん引の選択

フロントホイールまたはリアホイールを接地して車両をけん引することは固く禁じられています。

ツールを車内に放置したまま走行するのはお止めください。ブレーキをかけたときに飛散する恐れがあるためです。

## けん引用リングの取り付け位置

**必ずフロント *2* およびリア *5*** にある牽引ポイントを使用してください（ドライブシャフトまたは車両の他の部分は絶対に使用しないでください）。これらけん引ポイントは車をけん引するためのものです。車体を持ち上げるために使用してはなりません。

**注:** マイナスドライバーなどの工具を使用する場合は、必ずけん引ポイントエリアを布で保護してください。

**けん引用リング 3 を力のかぎり手で締めます。**

必ず牽引アイ ***3*** をお使いください。

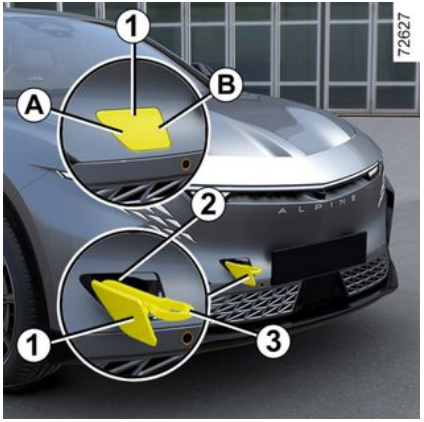
けん引リングが正しくねじ込まれていることを確認してください。
**けん引対象物を失う恐れがあります。**

6

エンジンを停止すると、パ ワーステアリングやブレー キの作動はできません。

**標準バージョン**

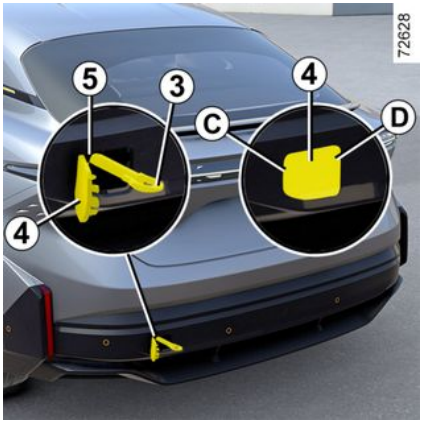
## フロントけん引ポイント*2*




ゾーン***B***を引いてフラップ***1***を開いた状態で、ゾーン ***A***を押して圧力をかけ続けます。

– 堅いけん引用のバーを使用してください。ロープや ワイヤーの使用が許可され ている国で、それらをけん 引に使用する場合は、けん引さ れる車のブレーキが機能して い なければなりません。
– 走行に支障のある車両をけん引してはなりません。
– 急に加速したり急ブレーキをかけたりしないでください。そのような場合には車両が損傷するおそれがあります。
– どのような状況でも、**25 km/h** 以下の速度で走行してください。

## 後部けん引ポイント *5*




ゾーン ***C*** を押して圧力をかけ続けると同時にゾーン ***D*** を引いてフラップ ***4*** を開けます。

# ヘッドライト、ランプ: 電球の交換

## エクステリアランプ: 電球の交換

### ヘッドランプ

**LEDロービーム／ハイビーム／コーナリングランプ*1***

メーカーにお 問い合わせください。

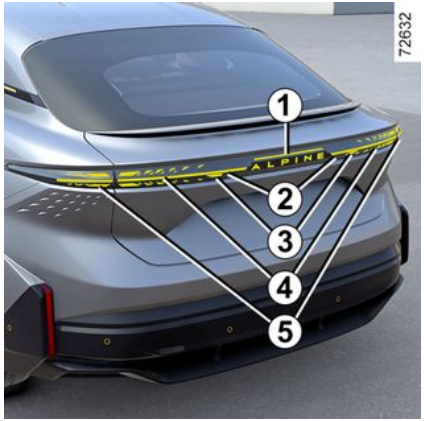
**LED 日中走行灯／側灯／方向指示灯 *2***

メーカーにお 問い合わせください。

> 接続が間違っていると電気機器（ハーネス、コンポーネント、特にオルタネーター）の損傷につながる可能性があるため、電気系統の操作（または変更）は必ず指定サービス工場で実施する必要があります。さらに、指定サービス工場には、これらのユニットを取り付けるために必要なすべての部品がそろっています。

### テールランプと表示灯

**LED ハイマウントストップランプ *1***




メーカーにお 問い合わせください。

**LEDリアフォグランプ*2***

メーカーにお 問い合わせください。

**LEDバックランプ*3***

メーカーにお 問い合わせください。

**LEDストップランプとサイドランプ*4***

メーカーにお 問い合わせください。

**LED 方向指示灯 *5***

メーカーにお 問い合わせください。

# ヘッドライト、ランプ: 電球の交換

## LED ナンバープレートランプ *6*

メーカーにお 問い合わせください。

## サイドリピータ *7*

メーカーにお 問い合わせください。

# ルームランプ: バルブ交換

## 読書灯 *1* および *2*

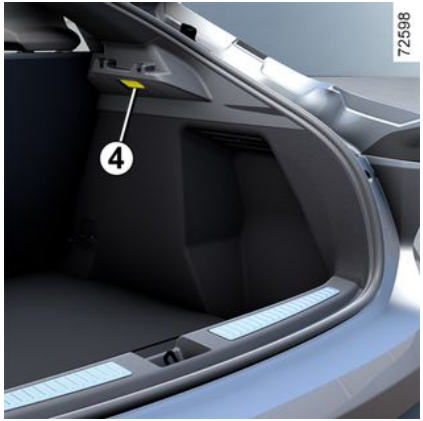
メーカーにお 問い合わせください。

# ヘッドライト、ランプ: 電球の交換

## カーテシミラーランプ *3*

メーカーにお 問い合わせください。

## ラゲッジルームランプ 4




メーカーにお 問い合わせください。

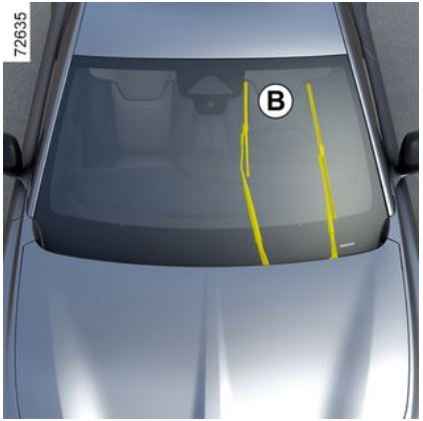
# ワイパーブレード: 交換

## フロントワイパブレード *2* の交換

ワイパを交換するには、まずサービス位置***B***に入れます。

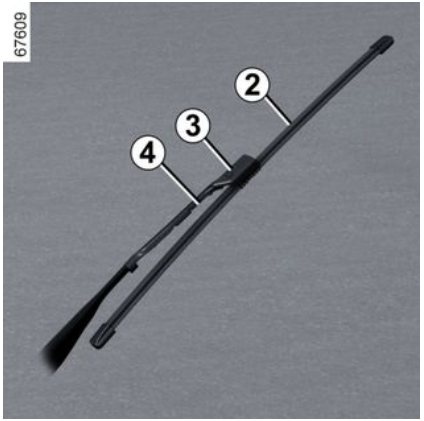
**イグニッションスイッチ ON 、エンジンオフ；**

– レバー***1***を連続して2回位置***A***に移動します（1回スイープ）。ワイパブレードはボンネットからサービス位置***B***で停止します。
– ブレード***2***のタブ***3***を押します。
– ブレードを手前に引いて取り外します。
– ウインドウウォッシャー液パイプ***4***を切り離します。




**取付け**

ワイパーブレードの取付けは、逆の手順で行います。ブレードがロックされており、ウインドウウォッシャー液パイプが正しく接続されていることを確認してください。




ⓘ ワイパーブレードの状態をこまめ に点検してください。これにより 耐用年数が大きく変わります：

– ブレード、フロントウインドウは定期的にセッケン水で洗ってください。
– フロントウインドウが乾燥している状態で使用しないでください。
– 長期間使用しないときは、ワイパーをフロントウインドウから離してください。

## ワイパーブレード: 交換

フロントワイパーブレード***2***は、フロントウインドウに**固有**であるため、同等のフロントワイパーブレードと交換する必要があります。
メーカーにお 問い合わせください。

– 気温が低く、ワイパーが凍結して いる可能性があるときは注意してください。凍りついたワイパーを無理やりに作動しようとすると、ワイパーモーターが過熱し、傷む恐れがあります。
– ワイパーブレードの状態をこまめ に点検してください。

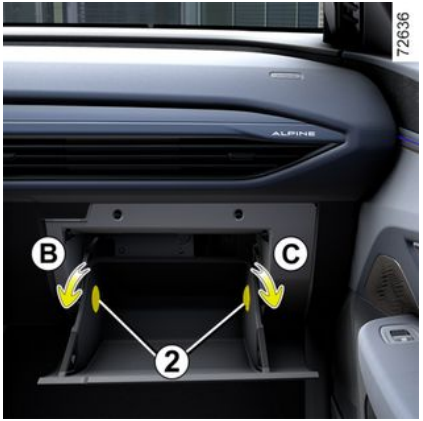
ワイパーブレードは、性能が低下してきたらすぐに交換してください（1 年に 1 回は交換してください）。
ブレードの交換中、ブレードが取外されているときは、アームがウインドー上に落ちないように注意してください（ウインドーが損傷するおそれがあります）。

# ヒューズ

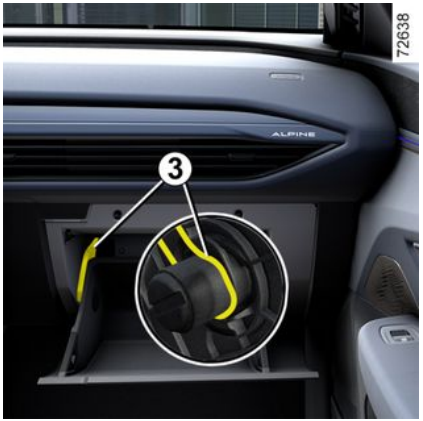
## ヒューズボックス

電装品が作動しない場合は、まずヒューズの状態を点検してください。

ヒューズには、グローブボックス ***A*** の後ろからアクセスできます。開ボタン ***1*** でグローブボックス ***A*** を開きます。




ふたが開いたら、ストッパ ***2*** を（***B*** と ***C*** 方向に）1/4 回転し、取り外します。




配線 ***3*** のフックを外してグローブボックスのふたを解放すると、ヒューズボックスにアクセスできます。

グローブボックスのドア ***A*** をできる限り下に動かします。

これでヒューズボックス ***4*** に直接アクセスできます。

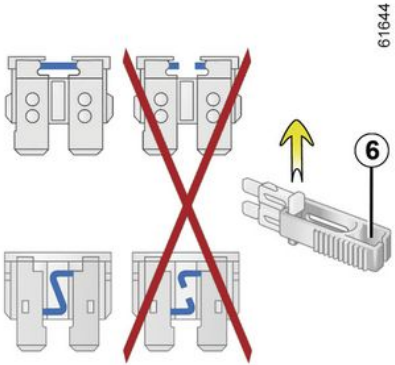
## ヒューズボックス*D*

(車種によります)

# ヒューズ

フラップ *5* のクリップを外します。

## クランプ 6




ヒューズパネル上にあるクランプ *6* を用いてヒューズを取り外します。

ヒューズをプラーから取り外すときは、ヒューズを横にスライドさせます。

ヒューズの空いた場所を使用しないようにしてください。

該当ヒューズを確かめ、**必要に応じて 交換します。交換後のヒューズは、必ず元のヒューズと同じ定格のものにしてください。**
容量の大きなヒューズを付けると、装置の電力消費が異常に増えたと きに配線などが過熱し、火災発生につながるおそれがあります。

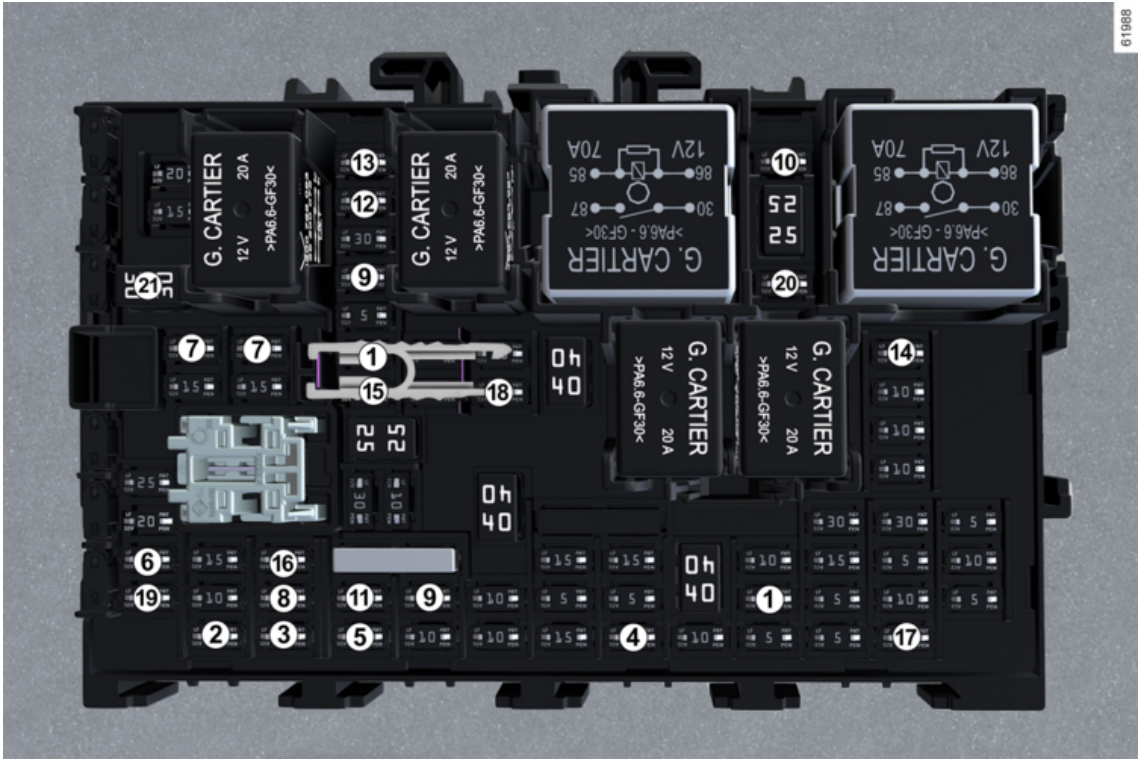
現地の法令に従うため、または予防措置として次の対応を行ってください。
予備のヒューズとバルブセットを用意しておくと安心です。ルノー指定サービス工場でお求め下さい。

## ヒューズの配置

**（ヒューズの有無は車両の装備レベルによって異なります）**

6

# ヒューズ


61988
G. CARTIER
12 V
20 A
>PA6.6-GF30<
G. CARTIER
12 V
20 A
>PA6.6-GF30<
G. CARTIER
>PA6.6 - GF30<
30
85
86
87
12V
70A
G. CARTIER
>PA6.6 - GF30<
30
85
86
87
12V
70A
G. CARTIER
12 V
20 A
>PA6.6-GF30<
G. CARTIER
12 V
20 A
>PA6.6-GF30<
25
25
25
25
40
40
40
1
2
3
4
5
6
7
7
8
9
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21

## ヒューズ

| 番号 | 該当 |
|---|---|
| *1* | ESP/ABR ECU 停止スイッチ |
| *2* | 右リアウインドウ制御モーター |
| *3* | 運転席側ウィンドウ制御モーター |
| *4* | ムードランプ |
| *5* | 左リアウインドウ制御モーター |
| *6* | 連結ソケット |
| *7* | フロントシート調整コントロール |
| *8* | 助手席側ウインドウ制御モーター |
| *9* | 電動式ドアミラー |
| *10* | 連結ソケット通信モジュール |
| *11* | マルチメディアアクセサリソケット |
| *12* | 右フロント車外開閉コントロール |
| *13* | 左フロント車外開閉コントロール |
| *14* | アクセサリ電源 |
| *15* | ラジオ |

| 番号 | 該当 |
|---|---|
| *16* | マッサージ機能付きシート |
| *17* | アクセサリの事前装備 |
| *18* | 誘導充電器 |
| *19* | アラーム |
| *20* | ドライバー監視カメラ |
| *21* | トランク開閉制御 |

**電装品アクセサリーの後 付け**
電装品または電子機器を後付けする前に（特にに送受信機の場合： 周波数帯域、 出力レベル、アンテナの位置など）、それらがお車に適合するか確認してください。ルノー指定 サービス工場にご連絡ください。
アクセサリをソケットに接続する前に、ソケットで許可されている最大電力を超えないようにしてください
**➔ 313 ➔ 318。火災の恐れがあります。**
車両の電気系統／電子回路を対象とする作業は、有資格専門スタッフに限り行えます。これを無視し、メーカー非承認の電装品／電子機器を誤った方法で接続する／取り付けると、次のような問題が生じる恐れがあります。

- 電装機器の損傷。
- 接続されている部品の損傷。
- 車両データの収集および使用。
- プライバシー侵害（個人データの改変、削除、または個人データへの不当アクセス）。
- サービス開始許可の取消し。

**重大な事故のリスク。プライバシーの侵害の危険性。**
将来に電装品を取り付けた場合は、該当するヒューズの定格と位置が通知されていることを確認してください。
**ダイアグノシスソケットの使用**
診断ソケットで電装品アクセサリーを使用すると、車両の電子装置に重大な障害が発生したり、プライバシーの侵害（個人データの改変、削除、または不当なアクセス）が生じたりする可能性があります。安全のため、電装品は、認定ディーラにご相談の上、メーカー認定のものをお使いください。**重大な事故のリスク。プライバシーの侵害の危険性。**
**アクセサリーの後付け**
お車にアクセサリーを取付 けたいときは、ルノー指定 サービス工場にご相談くだ さい。車両の機能を良好に維持し、安全 な走行を確保していただくため に、メーカー車にはメーカー車専 用のアクセサリーを装備すること をお薦めします。メーカー車専用 アクセサリーは車両に適応するよ うに作られており、メーカーが保 証する唯一のアクセサリーパーツ です。
盗難防止用ロッドをお使いの場合は、ブレーキペダルにのみ取り付けてください。
**運転の妨げになるもの**
運転席側は、車両に適合したフロアマットのみを必ず使用し、あらかじめ装備されたパーツにしっかりと固定されているか定期的に確認してください。複数のマットを余分においてはいけません。**ペダルの動作を妨げる危険があります。**

# 作動異常

**下の表では、トラブルが発生したときの簡単な応急処理について説明しています。安全のためにできるだけ早くルノー指定サービス工場にご相談ください。**

| 充電中 | 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|---|
| トラクションバッテリを充電することが不可能。<br>充電フラップ警告灯が赤く点滅。 | 屋外の温度が - 26 °C 未満。 | より適切な環境で車両を充電します。必要に応じて ➔ 347。 |
| | コンセントに電流が流れていないか、家庭用ソケットにケーブルが正しく接続されていない。 | インストールを確認してください（サーキットブレーカー、プログラマなど）。<br>接続（充電ソケットなど）を確認してください ➔ 26。 |
| | コードに欠陥がある。 | 認定ディーラに交換をご依頼ください。 |
| トラクションバッテリを充電することが不可能。<br>充電口フラップ表示灯が白色点滅している。 | 充電コードが車両に正しくロックされていない。 | 充電ケーブルを車両に正しく接続してください ➔ 26。 |

| カードキーの使用 | 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|---|
| カードが作動せず、ドアが施錠/ 解錠しない。 | カードキーの電池切れ | バッテリーを交換してください。お使いの➔ 58および➔ 153 車両のロック／ロック解除や始動は可能です。 |
| | リモコンと同一の周波数で作動する装置（携帯電話など）が使われている。 | 機器の使用を中止するか、内蔵キーを使用します ➔ 58。 |
| | 強い電磁波の影響内に車両がある<br>12 V バッテリが上がっている。 | カードに内蔵されているキーを使用します ➔ 58。 |

6

# 作動異常

| カードキーの使用 | 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|---|
| | カードの非同期化。 | カードの内蔵キーをドアロック ➔ **58** に挿入する方法で運転席ドアのロックを解除し、カードを配置エリア ➔ **153** に置いて「START」ボタンを押す方法でカードを同期します。 |
| メッセージ「カードをSTARTボタンの近くに配置してください」が、インストルメントパネルに表示されます。 | カードバッテリが消耗している、またはカードが同期しない。 | カードのバッテリの状態を確認するか、カードを専用配置エリアに置いてください ➔ **153**。 |

| 走行中 | 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|---|
| ステアリングが重い | パワーステアリングシステムのオーバーヒート。 | 低速度で慎重に走行し、ハンドルに必要以上の力をかけないように運転します。 |
| | 電動アシストモータの故障。<br>アシストシステムの故障. | メーカーにお 問い合わせください。 |
| 異常な振動がある | タイヤ空気圧が不適切、バランス不調、タイヤの損傷 | タイヤ空気圧を点検します。空気圧が原因ではない場合は、指定サービス工場でタイヤの状態を点検します。 |

| 電装品 | 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|---|
| ワイパーが作動しない | ワイパーブレードの固着 | ブレードを慎重にガラスからはがします。 |
| | ワイパヒューズ破損。 | メーカーにお 問い合わせください。 |
| | ワイパーモーターの故障 | メーカーにお 問い合わせください。 |
| ワイパーが停止しない。 | 電動スイッチの故障 | メーカーにお 問い合わせください。 |
| 方向指示灯の点滅速度が通常より速い | バルブの故障。 | メーカーにお 問い合わせください。 |
| 方向指示灯が点灯しません。　片側のみ： | バルブの故障。 | メーカーにお 問い合わせください。 |

# 作動異常

| 電装品 | | 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|---|---|
| | 両側： | – ヒューズが切れた。 | ヒューズ➔ 354をご自身で交換するか、交換を依頼します。 |
| | | – 電気回路またはスイッチに障害があります。 | 交換：指定サービス工場にご連絡ください。 |

| 電装品 | | 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|---|---|
| ヘッドランプ点灯しない。 | 片側のみ： | – バルブの故障 | メーカーにお 問い合わせください。 |
| | | – 配線の接続が外れている、またはコネクタの取り付け不良。 | メーカーにお 問い合わせください。 |
| | 両側： | 損傷ヒューズ | ヒューズ➔ 354をご自身で交換するか、交換を依頼します。 |
| ヘッドランプが消灯しない。 | | 電動スイッチの故障 | メーカーにお 問い合わせください。 |
| ランプとテールランプの内部の結露。 | | 結露は温度と湿度の変化によって生じる自然現象なので故障ではありません。<br>この結露は、照明を点灯すれば徐々に消えます。 | |

| 停止 | 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|---|
| イグニッションスイッチをオフにした後、または車両が充電されている場合、エアコンおよびファンスイッチがオンになります。 | これは、外気温が低いときにシステムの温度を調整するために、エアコンコンプレッサとファンスイッチがオンの場合、必ずしも故障ではありません。 | |
| | イグニッションスイッチをオフにした場合、エアコンコンプレッサとファンスイッチが 30 分以上オンになります。 | メーカーにお 問い合わせください。 |

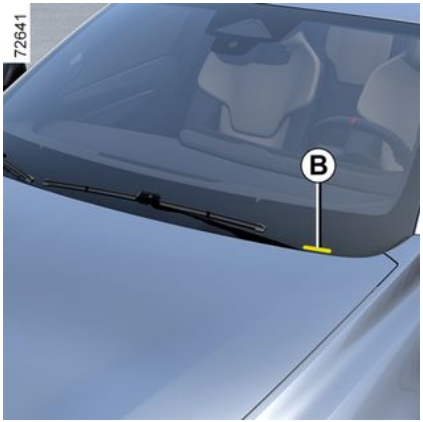
6

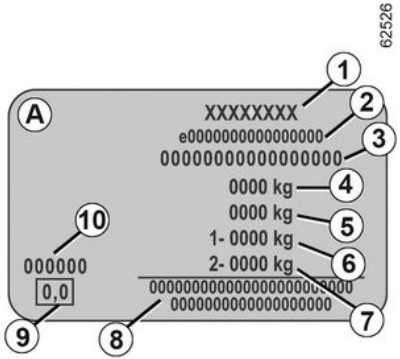
# 作動異常

| 停止 | 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|---|
| プログラム可能なエアコンが機能しない。 | 使用条件の 1 つに準拠していない（トラクションバッテリが充電されていないなど）。 | ➔ 309. |
| トラクションバッテリ残量に応じた航続距離の表示が、直前のエンジン停止時とは異なっている。 | 車両の停止から再始動までの間に生じたトラクションバッテリ温度の変動は、インストルメントパネルに表示される航続距離に影響を及ぼす恐れがあります。<br>外気温が低いと、直前のエンジン停止時と比べ航続距離が短くなる恐れがあります。 | 数 km の走行によりバッテリの温度が適正水準に達すると、バッテリ残量に応じた航続距離が自動的に再調整されます。 |
| バッテリが十分に充電されている場合でも、室内のエアコンとヒーター機能は、ユーザーによる操作なくオフになります。 | これは必ずしも故障ではありません。バッテリの自律性または再充電の最適製の維持のために、システムはデフォルトで機能をオフにします。 | ボードモードで作動期間を延長するには、ブレーキペダルを踏まずにスタートボタンを押します。その場合でも、エアコンは数分後に停止します。<br>エアコンスイッチを押すと、いつでもシステムを再作動できます➔ 305。 |
| | 電気系統の故障。 | メーカーにお 問い合わせください。 |

6

## ビークルプレート




**メーカープレートに刻印された情報が、あなたの注文した車両の仕様と同じであることを確認してください。**

**これらの情報の有無と設置場所は、車種によって異なります。**

**メーカープレート*A***

***1.*** メーカーの名称

***2.*** EC識別番号、またはホモロゲーション番号

***3.*** 識別番号

**車両によっては、標示 *B* 上にもこの情報があります。**

***4.*** MMAC車両総重量

***5.*** MTR（連結総重量: 積載量が満量の車両にトレーラが連結された状態での重量）。

***6.*** MMTA前アクスル(最大許容軸荷重)

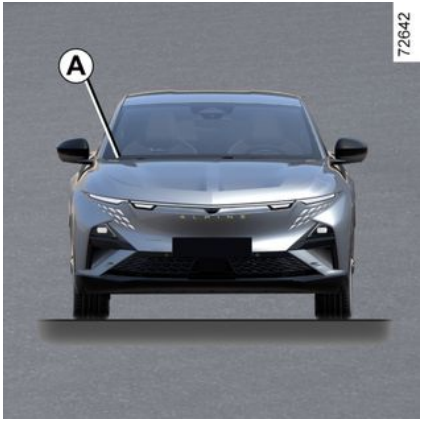
***7.*** MMTA後アクスル

***8.*** 関連する登録または追加登録のためのエリア。

***9.*** 未使用。

***10.*** カラーデータ（カラーコード）

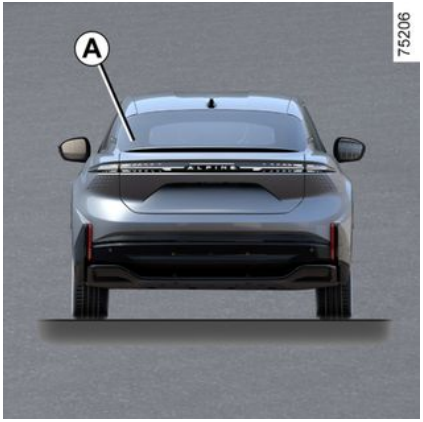
## 緊急サービスに関する技術情報




緊急時に対応する作業者は、タブレットまたはスマートフォンを使用してラベル***A***のQRコードを読み取ることにより、事故時の車両に対処するために役立つ技術情報をすぐに入手できます。

常にラベル***A***がフロントウィンドウとリアウィンドウに、見えるように貼られている必要があります。

**改変または損傷がある場合、この情報を入手できない恐れがあります。**




## エンジン識別、エンジン仕様

### エンジン識別

**お問い合わせやご注文の際は、エンジンプレートまたはラベル*A*に記載されている事項をお知らせください。**

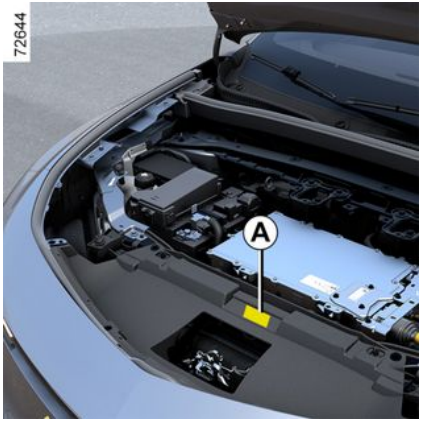
（エンジンタイプによる刻印位置）

***1.*** エンジン形式。

***2.*** エンジン番号。

***3.*** エンジンシリアル番号。

### エンジン諸元



## リフトアップに関する情報

車両には、下部に 4 つの専用リフトアップポイント ***1*** が装備されています。

**安全のため**、ホイールを交換する際は正規ディーラーに依頼することをお勧めします。**リフトアップ装置の位置が正しくない場合、車両、特に電気トラクションバッテリーに損傷を与えるリスクがあります。**

リフトアップポイントは、平板が搭載された直径 **80 mm** ～ **140 mm** のジャッキの使用に対応しています。

使用するジャッキは、ご利用の国の最新の規格と規制に準拠している必要があります。ジャッキのリフトアップ能力は、関係するアクスル ➔ **363** に対する車両の最大許容重量よりも大きくなければなりません。

ジャッキは、ホイールを交換する際に車両をリフトアップするためにのみ使用されます。これは、以下の条件を満たした状態で実行する必要があります。

– パーキングブレーキがかかっている状態
– 空車時
– 平らで滑りにくく、しっかりした地面の上にある状態

車両をリフトアップする前に、ジャッキのプレートをリフトアップポイント ***1*** に対して正しく配置する必要があります。

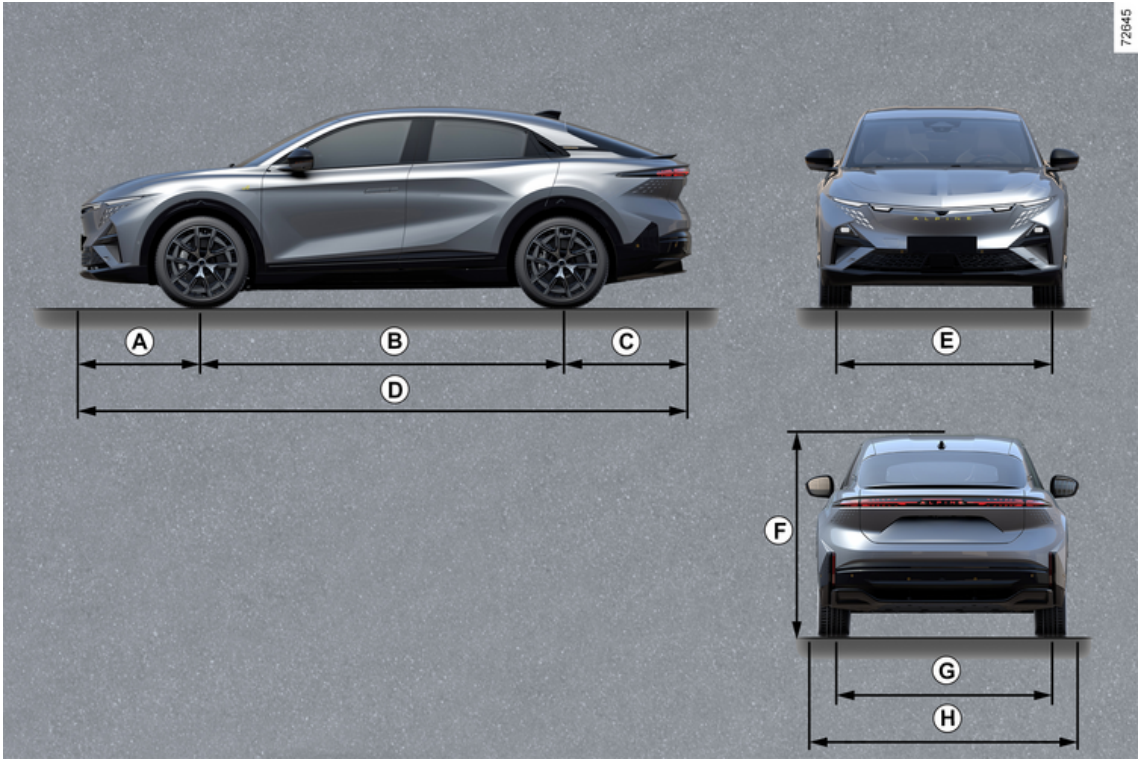
怪我や車両の損傷を避けるために、交換するホイールが地面から最大 3 センチ浮くまでジャッキアップしてください。
**場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。車両に損傷を与える危険性があります。**

安全のため、車両のリフトアップポイントはホイールを交換する際にのみ使用する必要があります。以下のような場合には絶対に使用しないでください。

– 修理に使用すること。
– ボディ下で作業するために使用すること。

**場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。車両に損傷を与える危険性があります。**

## 車両寸法（単位:m）



## 寸法表

| | 長さ |
|---|---|
| ***A*** | 0,925 |
| ***B*** | 2,708 |
| ***C*** | 0,982 |
| ***D*** | 4,615 |
| ***E*** | 1,595 |
| ***F*** | 1,530（空車時） |
| ***G*** | 1,630 |
| ***H*** | 1,885<br>2.047（ドアミラーを開いた状態）<br>1.860（ドアミラーを折りたたんだ状態） |

## 重量 (kg)

### 重量表

| | |
|---|---|
| **表示された重量はオプションの取付部品を含まないベース車両の重量です。重量は車両の装備に応じて変わります正規代理店にお問い合わせください。** | |
| **車両総重量**（MMAC）<br>**最大許容軸荷重**（MMTA）<br>**連結総重量**（MTR） | メーカープレートに記載されている重量 ➔ 363 |
| **ブレーキ装備被牽引車両の場合の牽引重量** * | 計算式：MTR - MMAC |
| **ブレーキ非装備被牽引車両の場合の牽引重量** * | 750 kg |
| **許容牽引装置荷重** * | 75 kg |
| **ルーフ最大積載重量** | ➔ 327 |

* **けん引重量（トレーラー、ボートなど）**

MTR - MMAC の計算結果がゼロの場合や、メーカー設置のプレートに表示されている MTR がゼロ（または表示されていない）の場合、牽引は禁じられています。

– それぞれの国、地方の道路交通法などの法規が定める最大けん引重量に従ってください。トレーラー連結装置の取付けは、指定サービ ス工場におまかせください。
– 連結車の場合、**連結総重量（車両+トレーラー）は絶対に超えてはいけません。**ただし以下は許容されます：
– リアアクスル MMTA における 15% 以内の超過。
– MMAC における 10% または 100 kg （いずれか少ない方）以内の超過。

いずれの場合も、車両とトレーラの最高速度は 100 km/h 以下に保ち、タイヤ空気圧を 0.2 bar（3 PSI）高めなければなりません。

# REPLACEMENT PARTS AND REPAIRS

Original parts are based on very stringent specifications and are subjected to specific tests. Therefore, they are of at least the same level of quality as the parts fitted originally.

If you always fit genuine replacement parts to your vehicle, you will ensure that it performs well. Furthermore, repairs carried out in the approved dealer network with original parts are guaranteed according to the conditions stated on the back of the repair order.

# 整備証明

***VIN:*** .....

| 日付： Km: | 請求書 No.： | 備考 |
|---|---|---|
| **作業タイプ：**<br>点検 ☐<br>.....☐<br>**防錆点検：**<br>OK ☐ OKでない* ☐ | **スタンプ** | |
| | | |
| 日付： Km: | 請求書 No.： | 備考 |
| **作業タイプ：**<br>点検 ☐<br>.....☐<br>**防錆点検：**<br>OK ☐ OKでない* ☐ | **スタンプ** | |
| | | |
| 日付： Km: | 請求書 No.： | 備考 |
| **作業タイプ：**<br>点検 ☐<br>.....☐<br>**防錆点検：**<br>OK ☐ OKでない* ☐ | **スタンプ** | |

*該当ページをご覧ください

# 整備証明

***VIN:*** .....

| 日付： Km: | 請求書 No.： | 備考 |
|---|---|---|
| **作業タイプ：**<br>点検 ☐<br>.....☐<br>**防錆点検：**<br>OK ☐ OKでない* ☐ | **スタンプ** | |

| 日付： Km: | 請求書 No.： | 備考 |
|---|---|---|
| **作業タイプ：**<br>点検 ☐<br>.....☐<br>**防錆点検：**<br>OK ☐ OKでない* ☐ | **スタンプ** | |

| 日付： Km: | 請求書 No.： | 備考 |
|---|---|---|
| **作業タイプ：**<br>点検 ☐<br>.....☐<br>**防錆点検：**<br>OK ☐ OKでない* ☐ | **スタンプ** | |

*該当ページをご覧ください

# 整備証明

***VIN:*** .....

| 日付： Km: | 請求書 No.： | 備考 |
|---|---|---|
| **作業タイプ：**<br>点検 ☐<br>.....☐<br>**防錆点検：**<br>OK ☐ OKでない* ☐ | **スタンプ** | |
| | | |
| 日付： Km: | 請求書 No.： | 備考 |
| **作業タイプ：**<br>点検 ☐<br>.....☐<br>**防錆点検：**<br>OK ☐ OKでない* ☐ | **スタンプ** | |
| | | |
| 日付： Km: | 請求書 No.： | 備考 |
| **作業タイプ：**<br>点検 ☐<br>.....☐<br>**防錆点検：**<br>OK ☐ OKでない* ☐ | **スタンプ** | |

*該当ページをご覧ください

# 整備証明

***VIN:*** .....

| 日付： Km: | 請求書 No.： | 備考 |
|---|---|---|
| **作業タイプ：**<br>点検 ☐<br>.....☐<br>**防錆点検：**<br>OK ☐ OKでない* ☐ | **スタンプ** | |
| | | |
| 日付： Km: | 請求書 No.： | 備考 |
| **作業タイプ：**<br>点検 ☐<br>.....☐<br>**防錆点検：**<br>OK ☐ OKでない* ☐ | **スタンプ** | |
| | | |
| 日付： Km: | 請求書 No.： | 備考 |
| **作業タイプ：**<br>点検 ☐<br>.....☐<br>**防錆点検：**<br>OK ☐ OKでない* ☐ | **スタンプ** | |

*該当ページをご覧ください

# 整備証明

***VIN:*** .....

| 日付： Km: | 請求書 No.： | 備考 |
|---|---|---|
| **作業タイプ：**<br>点検 ☐<br>.....☐<br>**防錆点検：**<br>OK ☐ OKでない* ☐ | **スタンプ** | |
| | | |
| 日付： Km: | 請求書 No.： | 備考 |
| **作業タイプ：**<br>点検 ☐<br>.....☐<br>**防錆点検：**<br>OK ☐ OKでない* ☐ | **スタンプ** | |
| | | |
| 日付： Km: | 請求書 No.： | 備考 |
| **作業タイプ：**<br>点検 ☐<br>.....☐<br>**防錆点検：**<br>OK ☐ OKでない* ☐ | **スタンプ** | |

*該当ページをご覧ください

# 整備証明

***VIN:*** .....

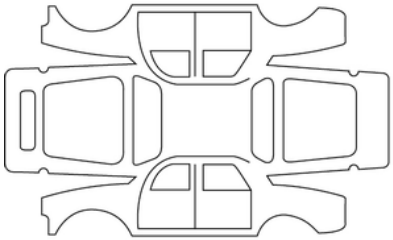
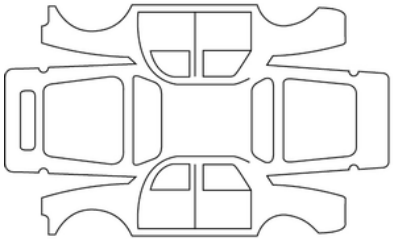
| 日付： Km: | 請求書 No.： | 備考 |
|---|---|---|
| **作業タイプ：**<br>点検 ☐<br>.....☐<br>**防錆点検：**<br>OK ☐ OKでない* ☐ | **スタンプ** | |
| | | |
| 日付： Km: | 請求書 No.： | 備考 |
| **作業タイプ：**<br>点検 ☐<br>.....☐<br>**防錆点検：**<br>OK ☐ OKでない* ☐ | **スタンプ** | |
| | | |
| 日付： Km: | 請求書 No.： | 備考 |
| **作業タイプ：**<br>点検 ☐<br>.....☐<br>**防錆点検：**<br>OK ☐ OKでない* ☐ | **スタンプ** | |

*該当ページをご覧ください

# 防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

***VIN:*** .....

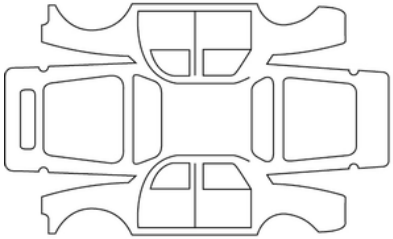
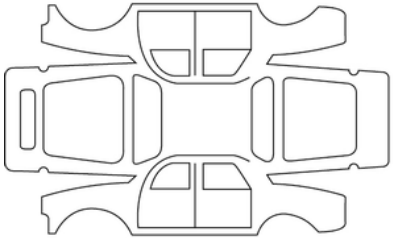
| | | |
|---|---|---|
| 修理日： |  | **スタンプ** |
| 実施した錆の修理： | | |
| | | |
| 修理日： |  | **スタンプ** |
| 実施した修理： | | |

7

# 防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

***VIN:*** .....

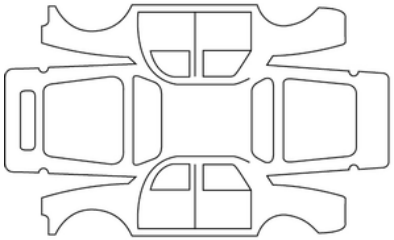
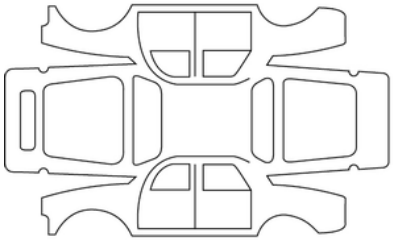
| | | |
|---|---|---|
| 修理日： |  | **スタンプ** |
| 実施した錆の修理： | | |
| | | |
| 修理日： |  | **スタンプ** |
| 実施した修理： | | |

7

# 防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

***VIN:*** .....

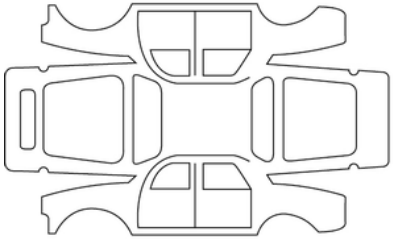
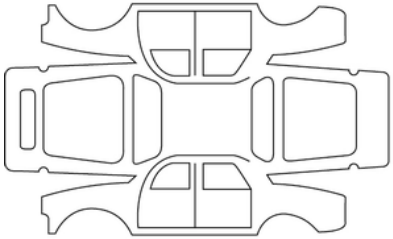
| | | |
|---|---|---|
| 修理日：<br><br>実施した錆の修理： |  | **スタンプ** |
| | | |
| 修理日：<br><br>実施した修理： |  | **スタンプ** |

7

# 防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

***VIN:*** .....

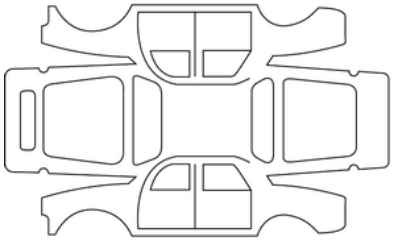
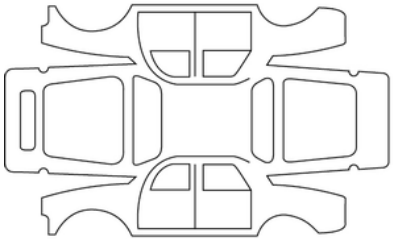
| | | |
|---|---|---|
| 修理日： |  | **スタンプ** |
| 実施した錆の修理： | | |
| | | |
| 修理日： |  | **スタンプ** |
| 実施した修理： | | |

7

# 防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

***VIN:*** .....

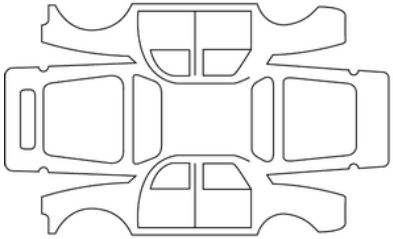
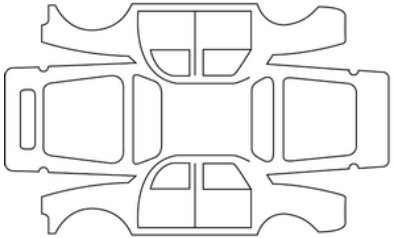
| | | |
|---|---|---|
| 修理日：<br><br>実施した錆の修理： |  | **スタンプ** |
| | | |
| 修理日：<br><br>実施した修理： |  | **スタンプ** |

7

# 防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

***VIN:*** .....

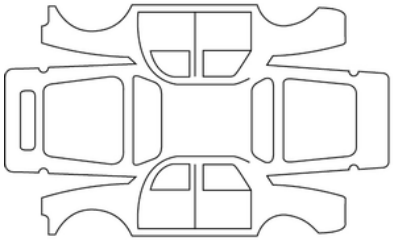
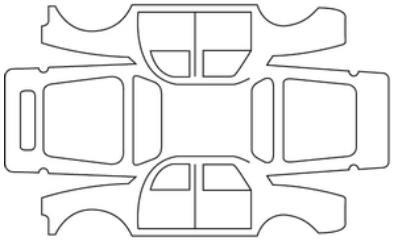
| | | |
|---|---|---|
| 修理日： |  | **スタンプ** |
| 実施した錆の修理： | | |
| | | |
| 修理日： |  | **スタンプ** |
| 実施した修理： | | |

7

# 防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

***VIN:*** .....

| | | |
|---|---|---|
| 修理日：<br><br>実施した錆の修理： |  | **スタンプ** |
| | | |
| 修理日：<br><br>実施した修理： |  | **スタンプ** |

7

# 索引

## 記号・数字

12 V バッテリ、 333
12 V バッテリ: お手入れ、 333
360° カメラ、 274
「ハンズフリー」カード: バッテリ、 54

## A

Active driver assist、 249、 249
Airbag、 80、 85
Airbag : 助手席エアバッグ無効化、 111
Airbag : 助手席エアバッグ有効化、 111
Airbags : チャイルドセーフティー、 111

## E

ECO ドライブ、 173、 173

## ア

アクセサリ電源、 318

## イ

イグニッションスイッチ、 170
インジケータ、 349
インストルメントパネル、 170
インストルメントパネル警告灯、 170
インストルメントパネル上のメッセージ、 170
インテリアトリム: お手入れ、 337

## エ

エアコン : 情報や用法アドバイス、 310
エアコンディショナー、 302、 309
エアバッグ: airbag、 80
エコドライブ、 173
エンジンの始動、 153、 153、 153
エンジンの停止、 153、 170
エンジンルームへのアクセス、 328
エンジン始動、 153
エンジン識別、 364
エンジン諸元、 364

## オ

オンボードコンピューター、 122
お子様、 89
お子様（安全確保）、 315
お子様の運搬、 89、 114
お手入れ: インテリアトリム、 337
お手入れ: 車体点検整備、 335

## カ

カード: ロック、 53
カードキー: スペアカードキー、 48
カードキー: ハンズフリー、 48
カードキー: ハンズフリーモードでエンジン始動不可、 48
カードキー: 開口部のロック／ロック解除、 48、 53
カードキー: 用法、 53

# 索引

## ク

クルーズコントロール、 234

## サ

サイドプロテクションシステム、 86

## シ

シート: ヒーター付き、 68
シート: 調整、 68
シート: 電動フロントシート、 68
シートベルト、 75、 80
シートベルトプリテンショナー、 80、 80
シートベルト補助拘束装置、 80、 85
シフトコントロール、 161

## ス

ステアリングホイール: 調整、 139
スピードリミッター、 231

## セ

セントラルドアロック、 53

## タ

タイヤ、 339、 339
タイヤ規定空気圧、 341
タイヤ空気圧モニターシステム、 178
タイヤ空気注入キット、 342、 342

## チ

チャイルドシート、 89、 96
チャイルドシートの取付け、 96
チャイルドシート拘束システム、 89、 114
チャイルドシート拘束装置、 89、 89、 114

## ツ

ツール、 346

## デ

ディスプレイ、 129
デイタイムランニングランプ、 349

## ド

ドア、 56、 60
ドア／テールゲート、 53
ドア／ルームミラー、 141
ドアをロックする、 53
ドア開放、 56
ドア閉鎖、 56
ドライバーに対する注意喚起のための警告、 219
ドライバーに対する疲労警告、 221、 264
ドライビングのヒント、 173、 173
ドライビングポジション、 118
トラクションバッテリの交換時期、 173
トランク、 61
トリップコンピューター、 208、 224、 228、 234、 249

# 索引

## ハ

ハイビーム：、 349
バッテリー：、 333
バルブ: 交換、 349、 349
バルブ交換、 349、 349
パワーウインドウ、 315
ハンズフリー駐車、 288
パーキングアシスト、 282
パーキングブレーキ故障、 167、 170

## ヒ

ヒーター、 302
ヒューズ、 354

## ブ

ブラインド、サンバイザー、 317
プレディクティブエコ運転アシスタント、 176
フロントシート、 67
フロントシート: 調整、 75
フロントシートのヘッドレスト、 67
フロントシートベルトプリテンショナー、 80
フロントシートベルト補助拘束デバイス、 80
フロントシートベルト補助拘束装置、 80
フロントワイパブレードの交換、 352

## ヘ

ヘッドランプ、 349

## ホ

ホーン／パッシングランプ／ハザードランプ／方向指示灯、 148
ボンネット、 328

## マ

マルチメディア画面、 208
マルチメディア装備、 313

## ラ

ラゲッジルーム（荷室）、 327、 327

## リ

リアシートのヘッドレスト、 73
リアシートベルト補助拘束装置、 80、 85
リバースギアでのエマージェンシーブレーキアシスト、 228

## ル

ルーフキャリア、 327
ルーフバーラック、 327
ルームランプ、 316
ルームランプ: バルブ交換、 350

## レ

レーンセンタリング、 249
レベル：、 328、 330

# 索引


## ロ

ロービーム、 349

## ワ

ワイパー、 149、 149
ワイパーブレード: 交換、 352

## 安

安全車間距離、 208

## 運

運転支援、 208、 224
運転席: 設定、 75

## 開

開口部、 56、 60
開閉部のロック、ロック解除: ドア、 53、 58

## 換

換気装置、 302

## 顔

顔認識、 65

## 緊

緊急サービス: 緊急サービスコール、 299
緊急車線離脱防止、 197
緊急停止アシスト、 264

## 警

警告: 駐車可能時間終了、 293

## 牽

牽引リング、 347

## 後

後席、 73

## 構

構成メニュー、 132

## 作

作動異常、 234
作動不良: カードキーの電池、 48

## 子

子供を乗車させるとき、 53、 89、 89、 114、 315

## 支

支援: 運転支援、 234

## 死

死角の警告、 204

# 索引


## 自

自動テールゲート、 61

## 車

車間距離、 234
車重、 368
車線離脱防止、 190
車内への乗り込み、 53
車両カスタマイズ設定、 132
車両の航続距離、 173
車両故障時の対処（けん引）、 347
車両設定カスタマイズ、 132
車両調整のパーソナリゼーションメニュー、 132

## 収

収納スペースス／取付け部品: パッセンジャコンパートメント、 319

## 充

充電ケーブル、 46
充電プログラミング、 46

## 消

消費電力、 129

## 省

省電力、 173

## 乗

乗員の安全出口、 296
乗員安全確保: 助手席airbag、 111
乗員検出システム、 114、 114

## 清

清掃: 車内、 337

## 設

設定、 132
設定: 構成メニュー、 132

## 洗

洗浄、 335

## 速

速度超過警告、 224

## 地

地球にやさしい車づくり、 172

## 適

適応クルーズコントロール、 234
適切な車間距離アラート、 208、 208

## 電

電気自動車、 20

# 索引

電動パーキングブレ ーキ、 167、 170
電力航続距離、 173

## 塗

塗装: お手入れ、 335

## 灯

灯火類、 143
灯火類: バルブ交換、 349

## 道

道路標識の検出、 224、 224

## 発

発進する、 153、 170、 208、 234

## 部

部品および修理部品、 369

## 補

補助拘束装置、 80

## 方

方向指示灯、 349、 349

## 予

予測ECO運転アシスタント、 176

SOCIÉTÉ DES AUTOMOBILES ALPINE, SA par actions simplifiée à associé unique
AVENUE DE BREAUTE, 76200 DIEPPE - SIRET 662 750 074 / SITE INTERNET : alpinecars.com

NU 1587-3 – 77 99 003 098 - 09/2026 - Edition japonaise

7799003098